

面的評価支援システム

操作マニュアル

(本編)

Ver 5.2.2

令和 6 年 3 月



環境省 水・大気環境局 モビリティ環境対策課



本書の使い方

「面的評価支援システム 操作マニュアル（本編）」は、「面的評価支援システム」の操作について記述したマニュアルです。本書はシステムの概要、導入と設定、基本、機能、その他の5つの章で構成されています。

構成

オブジェクト作成のページを例とします。

意見出し

概要
機能の概要を示しています。

見出し
システムメニューボタンに対応しています。
4つの章ごとに色分けがしてあります。

作業フロー図
各オブジェクトごとの作業の流れを示しています。
横のコメントはメニューボタンごとの機能を説明しています。

小項目見出し単位でページを探せます。

手順
作業手順を画面例を用いて説明しています。

画面例

注意
注意事項を示します。

修正
自動作成されたオブジェクトの修正手順を示します。

point
ポイントを示します。

備考
備考を示します。

参考・例
参考・例を示します。

手順
「Menu」はシステムのメニューボタンを示します。
「🔍」は検索方法を示します。
「(a), (b)…」はユーザーの操作を示します。
「⇒」はシステムの処理を示します。
「👁」は確認作業を示します。

修正
背景のデジタル地図に市町村エリアのポリゴンがない場合手動で作成します。
多角形ツール [M] を使用し市町村エリアオブジェクトを手動作成します。
修正は選択ツール [S] を使用し、頂点の移動、または頂点追加・頂点削除 [A]、オブジェクトの分割 [B]、結合 [C] で行います。

注意
飛び地や高等がある場合、エリアが離れていても同じ市町村コードを使用するため枝番を入力します。

目 次

I	システムの概要	I-1
● 1.	システムの概要	I-2
● 2.	動作環境	I-2
● 3.	システムの構成	I-4
● 4.	システムの機能	I-5
● 5.	オブジェクトの概要	I-7
● 5-1	オブジェクトの構成	I-7
● 5-2	オブジェクトの種類	I-8
● 6.	業務フロー	I-9
● 7.	システム画面例	I-11
II	システムの導入と設定	II-1
● 1.	セットアップ	II-2
1-1	セットアップの準備	II-2
1-2	セットアップの手順	II-2
1-3	GIS エンジンのセットアップ	II-3
1-4	面的評価支援システムのセットアップ	II-8
1-5	面的評価支援システムのデータ設定	II-10
1-6	地図データのセットアップ	II-11
1-7	面的評価支援システムの動作環境の設定	II-16
● 2.	データのバックアップ	II-17
● 3.	データの復旧	II-17
III	システムの基本	III-1
● 1.	システムの起動と終了	III-2
● 2.	システム画面	III-3
● 3.	ツールバーの基本	III-4
● 4.	検索機能	III-16
IV	システムの機能	IV-1
● 1.	初期設定	IV-2
1-1	都道府県・市区町村コード	IV-5
1-2	GIS 地図	IV-6
1-3	縮尺率	IV-10
1-4	画面表示	IV-11
1-5	基準年度	IV-11
1-6	評価基準	IV-14
1-7	評価対象道路	IV-16
1-8	都市計画用途地域	IV-17
1-9	環境基準類型指定地域	IV-18
1-10	道路に面する地域	IV-18
1-11	距離帯	IV-19
1-12	建物階数高さ	IV-19
1-13	建物用途	IV-20
1-14	環境基準類型指定地域毎の残留騒音設定	IV-22
1-15	背後地騒音推計式	IV-22
1-16	騒音レベル等高線図	IV-24
1-17	評価区間状況	IV-25
1-18	建物状況	IV-26
1-19	環境 GIS 設定	IV-26
1-20	騒音レベル実測値補正	IV-27
● 2.	道路設定	IV-28
2-1	道路平面線型要素	IV-28
2-2	標準断面	IV-35
2-3	道路交通センサス区間	IV-57
2-4	データチェック	IV-66

● 3.	沿道設定	IV-68
3-1	市区町村エリア	IV-69
3-2	都市計画用途地域	IV-71
3-3	環境基準類型指定地域	IV-75
3-4	評価区間	IV-78
3-5	道路端	IV-84
3-6	道路に面する地域	IV-88
3-7	距離帯	IV-92
3-8	近接空間	IV-95
3-9	建物	IV-98
3-10	印刷用メッシュ作成	IV-108
3-11	現地調査用データ作成	IV-109
● 4.	騒音設定	IV-114
4-1	騒音測定地点	IV-114
4-2	騒音測定データ	IV-117
4-3	データチェック	IV-119
● 5.	騒音推計前	IV-121
5-1	騒音基準位置	IV-121
5-2	騒音レベル	IV-124
5-3	表示用レイヤ作成	IV-128
● 6.	騒音推計	IV-129
6-1	データチェック	IV-129
6-2	沿道情報	IV-134
6-3	データ照査・諸元	IV-139
6-4	推計	IV-141
6-5	常時監視フォーマット作成	IV-144
6-6	一括表示用レイヤの作成	IV-146
● 7.	分析・活用	IV-149
7-1	騒音暴露状況の住居等別の一括表示	IV-149
7-2	環境基準達成状況の評価区間別の一括評価	IV-154
7-3	評価区間別の個別の住居等の騒音暴露状況統計処理	IV-156
7-4	騒音レベル等高線図	IV-157
7-5	騒音レベル減衰横断図	IV-159
7-6	沿道情報	IV-160
● 8.	指定出力	IV-161
8-1	常時監視フォーマット	IV-161
8-2	環境GISフォーマット	IV-169
● 9.	データ管理	IV-173
9-1	入力・出力・印刷の管理	IV-174
9-2	過年度データの移行	IV-181
9-3	データ削除	IV-182
V	その他	V-1
● 1.	用語集	V-2
● 2.	エラーメッセージ	V-3
● 3.	建物振り分けキーワード	V-13
● 4.	センサスの切り替え方法	V-14
● 5.	パソコンの入れ替え時の注意点	V-20
● 6.	システムのバージョンアップの方法	V-21



I システムの概要

1. システムの概要

「面的評価支援システム」（以下、「システム」という）は、「騒音規制法第 18 条の規定に基づく自動車騒音の状況の常時監視に係る事務の処理基準について」（平成 23 年 9 月 14 日環水大自発第 110914001 号）に示される事務処理を円滑に行うために必要な機能を備え、市販のパソコン上で動作可能な、面的評価ができるアプリケーションソフトです。

2. 動作環境

システムの動作環境を以下に示します。

表 2-1 システムの動作に必要なパソコン環境

項目	仕様
市販のパソコン	下記に示すスペックを有し、インターネット（高速通信）接続環境にあること。
CPU	Intel Pentium または完全互換のプロセッサ 2.5GHz 以上、4 コア以上 [Intel(R)Core i7 または完全互換のプロセッサ 3.4GHz 以上]
メモリ	2GB 以上 [4GB 以上]
ハードディスク	1 市区町村あたり 2GB ～ 6GB の空きスペース（電子地図のデータ容量による） [SSD]
ディスプレイ	1024 × 900 以上の 65536 色 (16bit) の解像度を有するモニタ
ドライブ	CD-ROM の機能を有すること
OS	【システム Ver.5.2.2】 ・ Windows 10 Home Edition/Professional Edition 32bit/64bit [推奨] うちいずれか
GIS エンジン	【OS: Windows10】 ・ 「面的評価支援システム（環境省）」版「ActiveMap for.NET Windows 10」（株）カーネル
電子地図	「表 2-3 使用できる電子地図」参照
その他	・ .NET Framework 2.0 SP1 又は .NET Framework 3.5 (Microsoft より無償で提供されている) をインストールすることが必要。 日本語 106/109JIS キーボード又はそれに類するものを有すると共に、マウスを有すること。

※ 表中 [] 内は、システムを円滑に操作できる推奨値です。

備考

使用するパソコンは、ネットワーク機能を有する必要はありませんが、各地方公共団体は、面的評価支援システム、基盤地図情報の使用にあたっては、ネットワークからのダウンロードが必要になります。

注意

支援システムは、複数のデータを一つのデータにまとめることはできません。このため別々のパソコンで実施した面的評価結果データを一括で表示することはできませんので、1 台のパソコンで処理をしてください。

注意

OS の Windows 11 Home Edition/Professional Edition による支援システムの動作は .NET Framework 3.5 のインストールによって動作を確認していますが、すべての動作を保証するものではありません。

面的評価支援システムバージョンについて

「GIS エンジン」・「面的評価支援システム」・「面的評価支援システム用データ」については、以下のバージョンが対応いたします。

なお、各バージョンについては、下表のバージョン No が一致している必要があります。

表 2-2 面的評価支援システムバージョン対応表

面的評価支援システム	GIS エンジン	支援システム用データ
Ver3.3.2	Ver2.27	Ver3.3.0
Ver4.0.0	Ver2.27	Ver4.0.0
Ver4.1.0	Ver2.28	Ver4.0.0
Ver5.0.0	Ver2.28 または Ver2.28 (.accdb 対応)	Ver5.0.0
Ver5.2.2	Ver2.28 または Ver2.28 (.accdb 対応)	Ver5.2.0

注 意

支援システム用データベースを「accdb データベース」で使用する場合は「Microsoft Access 再配布可能コンポーネント」のセットアップ及び mdb ファイルの accdb ファイルへの手動変換が必要になります。なお、mdb ファイルを使用する場合は、「Microsoft Access 再配布可能コンポーネント」のセットアップ及び mdb ファイルの accdb ファイルへ変換は必要ありません。

表 2-3 使用できる電子地図

電子地図の種類	形式(拡張子)	摘要
数値地図 25000(空間データ基盤) 数値地図 25000(行政界・海岸線) 数値地図 50m メッシュ 数値地図 250m メッシュ	*.xml *.mby *.mem *.sem	国土地理院
Zmap-Town II ,OA-Town II Zmap-AREA2, Zmap- AREA25	*.baf, *.bcf, *.bbf *.bdf	(株)ゼンリン
TelMap(テレマップ)	*.mif, *.shp, *.dxf のいずれか	(株)ダイケイ
MEMAP GEOSPACE	*.dxf, *.dwg, *.xml, *.shp のいずれか	(株)エヌ・ティ・ティ エムイー
Mapple2500 Mapple10000 Mapple Drawing exchange(MDX)10000	*.dat(NIF 形式)又は *.mif, *.shp *.dat(NIF 形式)又は *.mif, *.shp *.mdx 又は *.mif, *.shp	(株)昭文社
DM フォーマット	*.dm	国土交通省、その他
全国デジタル道路地図データベース標準 基盤地図情報 基本項目(1/2500 相当)	(DRM フォーマット) *.xml	(財)日本デジタル道路地図協会 国土地理院

※ 電子地図の種類により、システムで使用するには別途、変換(有料)が必要となる場合があります。

備 考

主な地図の特徴

- ・数値地図 25000(空間データ基盤) (2万5千分1地形図に相当する精度を持ち、道路、鉄道、水系、行政界、水準点の線及び点のデータです。)
 - ※広域を表示する際に便利ですが、評価には必要ありません。
- ・基盤地図情報は、地方自治体が提供している 1/2500 の白図に近いデータです。
- ・Zmap-Town II (建物情報等全て取得できます。)
- ・DM フォーマット (作成者により地図情報が異なりますが、システムで使用するには別途、変換(有料)が必要となる場合があります。)

3. システムの構成

システムの構成を図3-1 システム構成図に、詳細を表3-1 システム構成の詳細に示します。

図3-1 システム構成図

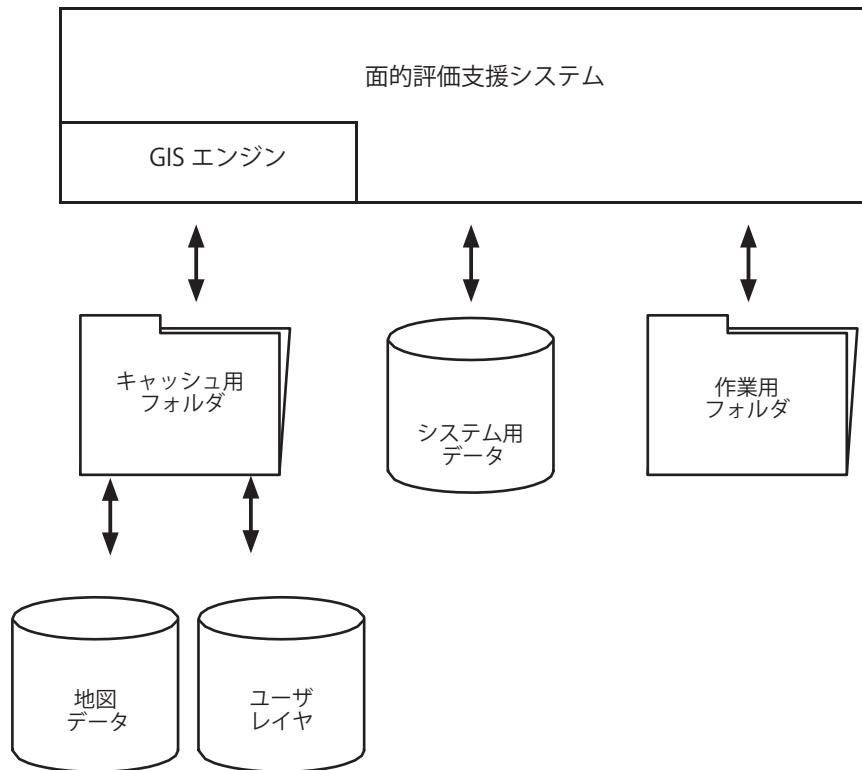


表3-1 システム構成の詳細

構成要素	場所 ^{※1}	詳細
GIS エンジン	C: ¥ Program Files	地図の描画を管理する GIS エンジンです。
キャッシュ用フォルダ	C: ¥ cache	地図表示を高速に行うために、地図データ及びユーザレイヤデータのキャッシュ情報を格納するフォルダです。
システム用データ	C: MENTEKI_DATA ¥ dorodb.mdb	システムで行った評価結果や自動車騒音常時監視報告等を管理しているデータです。
作業用フォルダ	C: ¥ work	システムが作業用に使用するフォルダです。 このフォルダ内の [GIS] フォルダには [環境 GIS ファイル]、 [Check] フォルダには [データチェックファイル] が作成されます。
地図データ	C: map_data	システムの背景図となる地図情報を管理しているデータです。
ユーザレイヤ	C: MENTEKI_DATA ¥ ulayer	地図上に新たに描き加えられたオブジェクトを管理しているデータです。

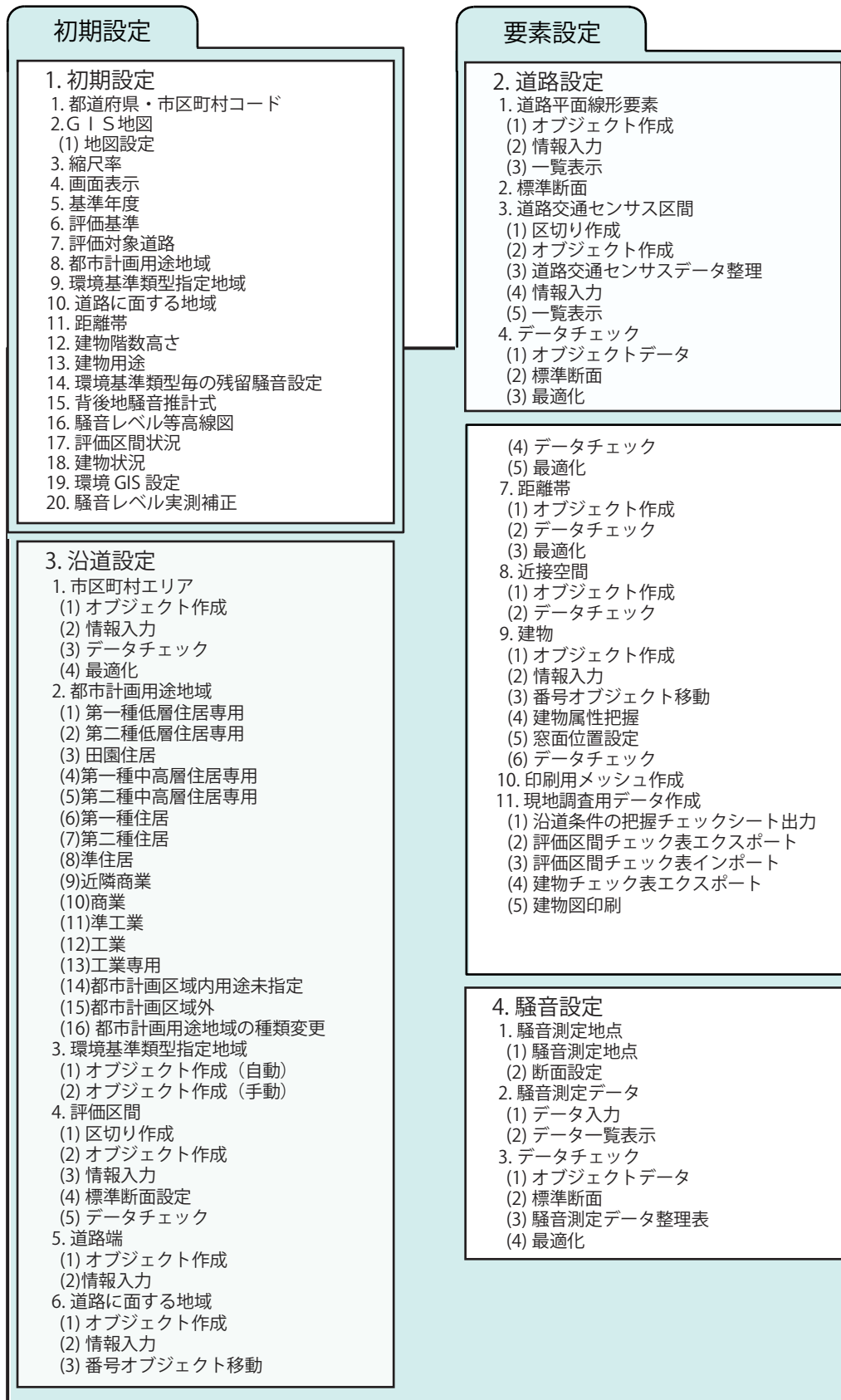
備考

※1 場所についてはセットアップ時に任意のフォルダに設定可能です。表3-1に示すフォルダはデフォルトでの設定です。

4. システムの機能

システムの機能一覧を以下に示します。

図4-1 システム機能一覧



騒音推計

5. 騒音推計前

1. 騒音基準位置
 - (1) 騒音基準位置設定
 - (2) 騒音測定データ選択
2. 騒音レベル
 - (1) 基準点騒音レベルの推計
 - (2) 基準点騒音レベルの確定
 - (3) 残留騒音レベルの確定
3. 表示用レイヤ作成
 - (1) 道路近傍騒音レベル
 - (2) 残留騒音レベル
 - (3) 騒音観測・非観測区間区分

6. 騒音推計

1. データチェック
 - (1) オブジェクトデータ
 - (2) データ項目
 - (3) 最適化
2. 沿道情報
3. データ照査・諸元
4. 推計の実施
5. 常時監視フォーマット作成
 - (1) 建物ごとの騒音レベル別住居等戸数整理表集計
 - (2) 常時監視フォーマット作成
6. 一括表示用レイヤの作成
 - (1) 騒音暴露状況の住居等別の一括表示
 - (2) 環境基準達成状況の評価区間別の一括評価
 - (3) 騒音レベル等高線図
 - (4) 騒音レベル減衰横断面図

結果活用

7. 分析・活用

1. 騒音暴露状況の住居等別の一括表示 (1) 表示 / 印刷
- (2) 集計結果一覧表示
2. 環境基準達成状況の評価区間別の一括評価
 - (1) 表示 / 印刷
 - (2) 集計結果一覧表示
3. 評価区間別の個別の住居等の騒音暴露状況統計処理
 - (1) 集計
4. 騒音レベルの等高線図
 - (1) コンタ図
 - (2) 帳票
5. 騒音レベル減衰横断面図
6. 沿道情報

8. 指定出力

1. 常時監視フォーマット
 - (1) 常時監視フォーマット
 - (2) 位置図 (騒音測定地点、評価区間)
 - (3) 詳細図 (騒音測定地点の平面図・横断面図)
2. 環境GISフォーマット
 - (1) ファイル出力
 - (2) GIS データ読み込み
 - (3) GIS データ確認
 - (4) データチェック

9. データ管理

1. 入力・出力・印刷の管理
 - (1) 道路データ整理表
 - (2) 道路交通センサスデータ整理表
 - (3) 沿道情報データ整理表
 - (4) 建物データ整理表
 - (5) 騒音測定データ整理表
 - (6) 路線別建物状況整理表
 - (7) 建物ごとの騒音レベル別住居等戸数整理表
 - (8) 常時監視フォーマット
2. 過年度データの移行
3. データ削除
 - (1) 過年度データ削除
 - (2) データ一括削除
 - (3) リンクコード削除

10. ヘルプ

1. ヘルプ
2. 操作手順フロー
 - (1) 騒音発生強度の把握の方法「1」
 - (2) 騒音発生強度の把握の方法「2」
 - (3) 騒音発生強度の把握の方法「3」
 - (4) 騒音発生強度の把握の方法「4」
 - (5) 環境GISファイル作成
3. 面的評価支援システムについて

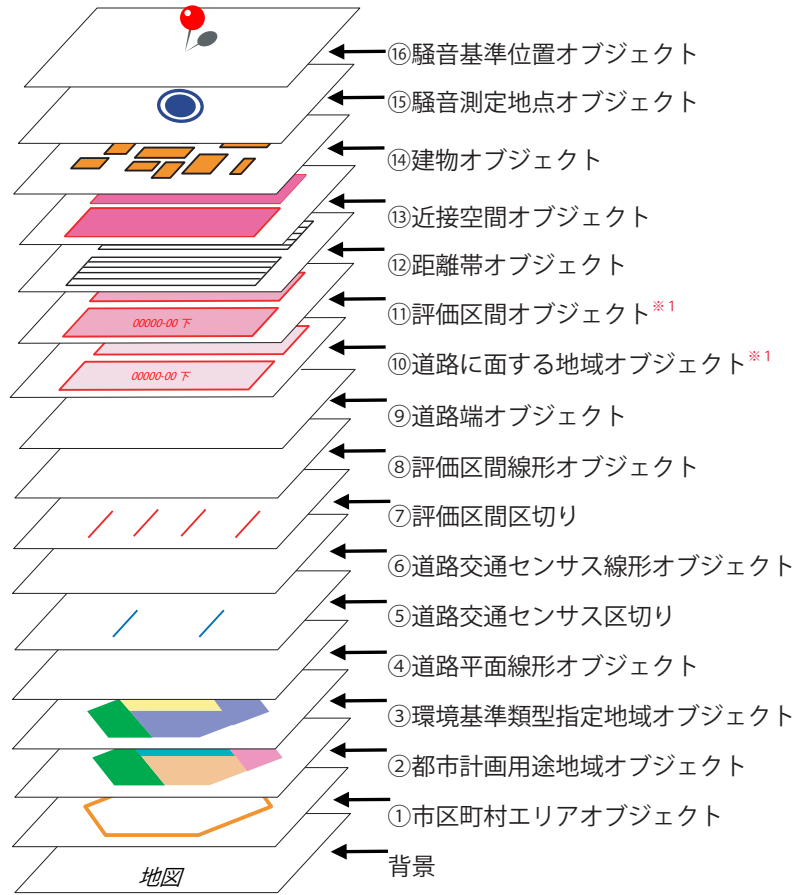
5. オブジェクトの概要

オブジェクトとは、面的評価を行うために設定する各要素を、形と色で表したものです。

5-1 オブジェクトの構成

オブジェクトの構成と画面表示例を図5-1-1に示します。

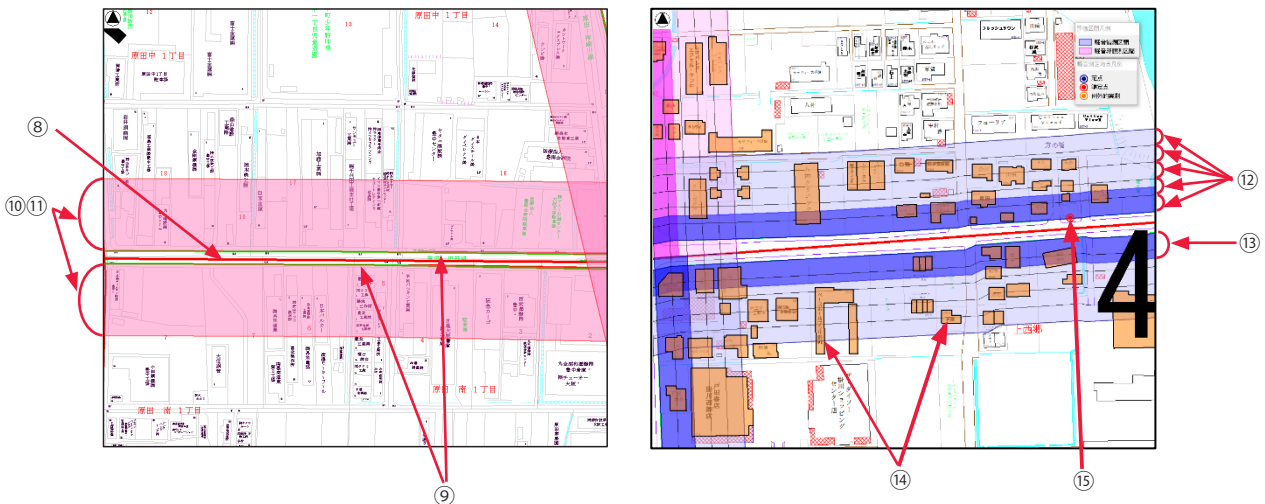
図5-1-1 オブジェクトの構成



備考

※1 評価区間番号：調査単位区間番号－区間分割番号－上下区分

□ 表示例



5-2 オブジェクトの種類

各オブジェクトについて、形状、色、種類、文字または数字による情報入力の可能性を表5-2-1に示します。

表5-2-1 オブジェクトの種類

名称	形状	色	種類	情報 入力の 必要性	備考
①市町村エリアオブジェクト	多角形			○	
②都市計画用途地域オブジェクト	多角形		15種類	×	
③環境基準類型指定地域オブジェクト	多角形		4種類	○	
④道路平面線形オブジェクト	折れ線		9種類	○	
⑤道路交通センサ区切り	折れ線			×	
⑥道路交通センサ線形オブジェクト	折れ線		9種類	○	道路交通センサ番号を表示するオブジェクトが別途作成されます。
⑦評価区間区切り	折れ線			×	
⑧評価区間線形オブジェクト	折れ線			○	
⑨道路端オブジェクト	折れ線			○	
⑩道路に面する地域オブジェクト	多角形			○	
⑪評価区間オブジェクト	多角形			○	評価区間番号を表示するオブジェクトが別途作成されます。
⑫距離帯オブジェクト	多角形			○	評価用と表示用のオブジェクトがあります。
⑬近接空間オブジェクト	多角形			○	
⑭建物オブジェクト	多角形			○	建物番号を表示するオブジェクトが別途作成されます。
⑮騒音測定地点オブジェクト	ビット マップ		3種類	○	
⑯騒音基準点オブジェクト	ビット マップ			○	

備考

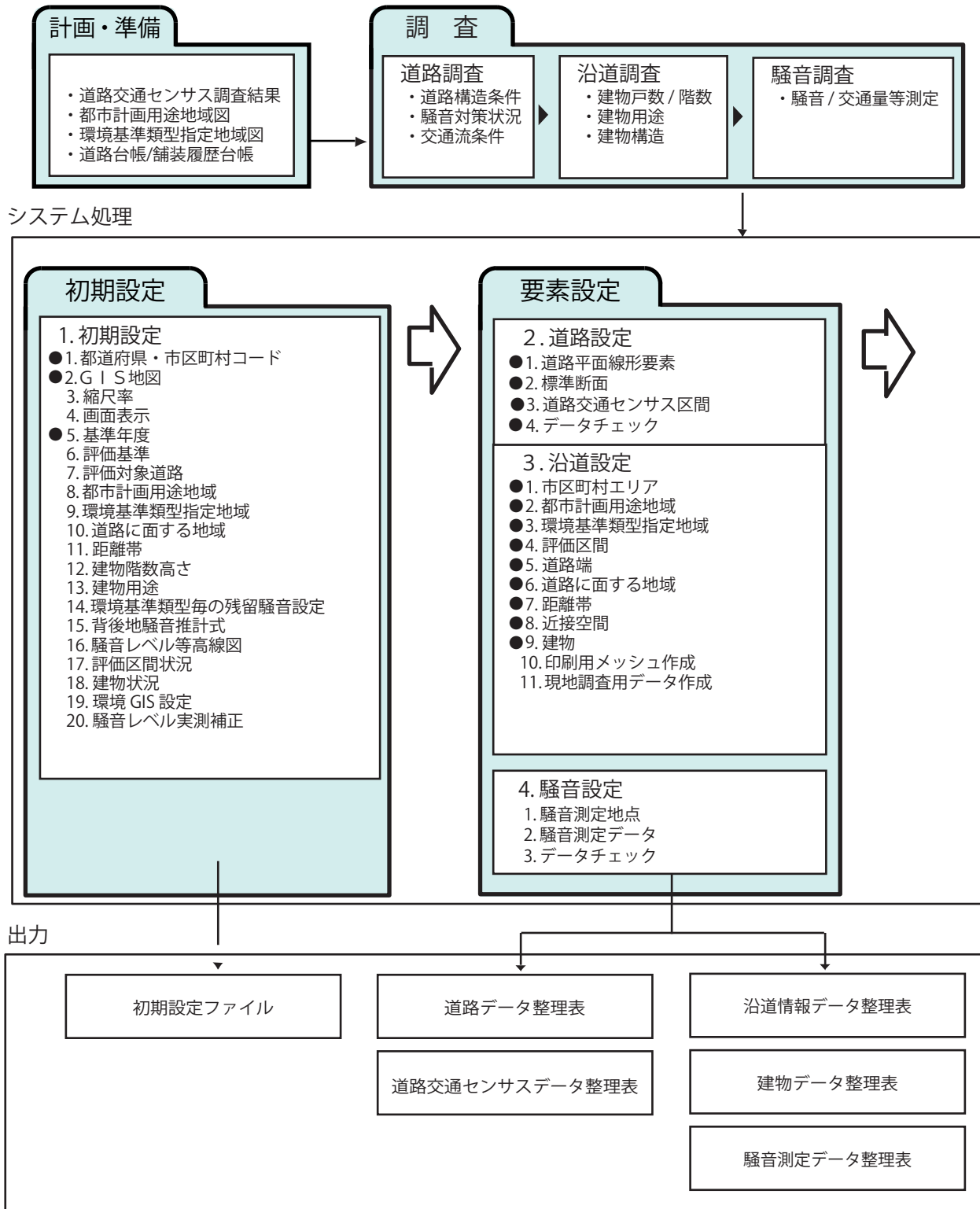
オブジェクト名称について

- ・方向性がある折れ線オブジェクトについては名称を○○線形とします。
- ・オブジェクトを区切るための一時的なオブジェクトは○○区切りとします。

6. 業務フロー

業務フローを以下に示します。

図6-1 業務フロー図



備考

- ：騒音発生強度の把握の方法 4 における工程

評価結果の活用

- ◎ 自動車騒音常時監視結果報告の作成
- ◎ 環境基準達成状況の把握
- ◎ 道路交通騒音対策の企画・立案

騒音推計

5. 騒音推計前

1. 騒音基準位置
2. 騒音レベル
3. 表示用レイヤ作成

6. 騒音推計

1. データチェック
2. 沿道情報
3. データ照査・諸元
4. 推計
5. 常時監視フォーマット作成
6. 一括表示用レイヤ作成

結果活用

7. 分析・活用

1. 騒音暴露状況の住居等別の一括表示
2. 環境基準達成状況の評価区間別の一括評価
3. 評価区間別の個別の住居等の騒音暴露状況統計処理
4. 騒音レベルの等高線図
5. 騒音レベル減衰横断面図
6. 沿道情報

8. 指定出力

1. 常時監視フォーマット
2. 環境GISフォーマット

9. データ管理

1. 入力・出力・印刷の管理
2. 過年度データの移行
3. データ削除

10. ヘルプ

1. ヘルプ
2. 操作手順フロー
- (1) 騒音発生強度の把握の方法「1」
- (2) 騒音発生強度の把握の方法「2」
- (3) 騒音発生強度の把握の方法「3」
- (4) 騒音発生強度の把握の方法「4」
- (5) 環境GISファイル作成
3. 面的評価支援システムについて

路線別建物状況整理表

建物ごとの騒音レベル別住居等戸数整理表

常時監視フォーマット

位置図（騒音測定地点、評価区間）

詳細図（騒音測定地点の平面図・横断面図）

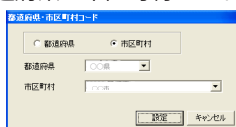
環境GISファイル

7. システム画面例

システムの操作の流れに沿った各機能ごとの代表的な画面例を示します。[] 内は本書における各機能の説明ページを示します。

(1) 初期設定

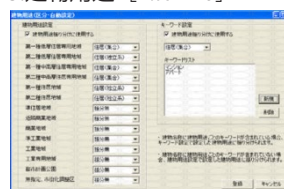
1.都道府県・市区町村コード [P.IV -5]



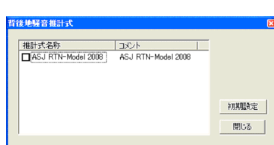
5.基準年度 [P.IV -11]



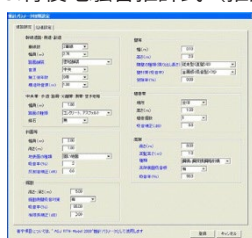
13.建物用途 [P.IV -20]



15.背後地騒音推計式 [P.IV -22]

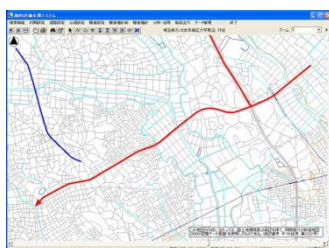


15.背後地騒音推計式 (推計パラメータ初期設定) [P.IV -23]

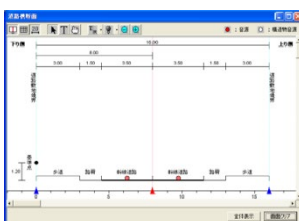


(2) 道路設定

1.道路平面線形要素 [P.IV -28]



2.標準断面 [P.IV -35]

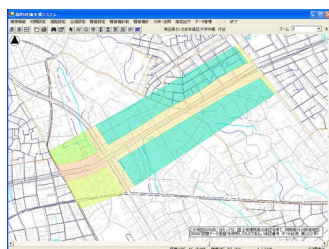


3.道路交通センサス区間 [P.IV -57]

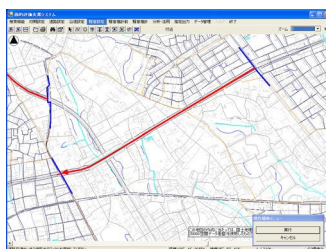


(3) 沿道設定

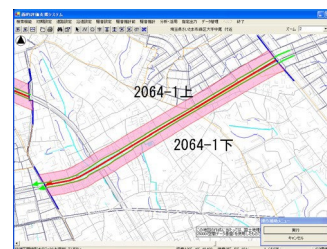
2.都市計画用途地域 [P.IV -68]



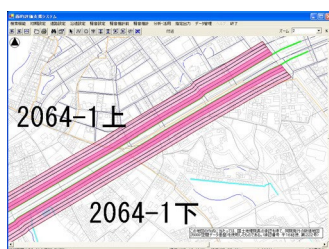
4.評価区間 [P.IV -78]



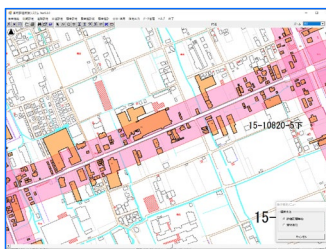
6.道路に面する地域 [P.IV -88]



8.近接空間 [P.IV -95]

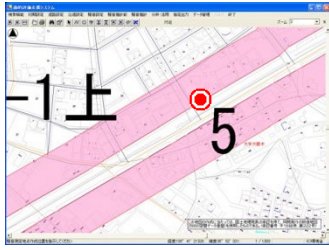


9.建物 [P.IV -104]

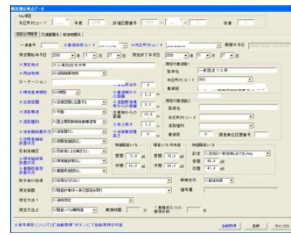


(4) 騒音設定

1.騒音測定地点 [P.IV -124]

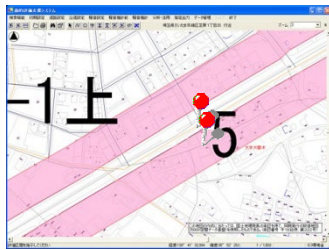


2.騒音測定データ [P.IV -127]

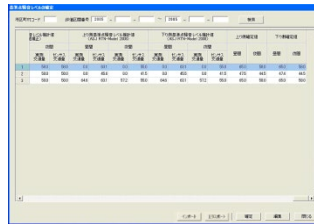


(5) 騒音推計前

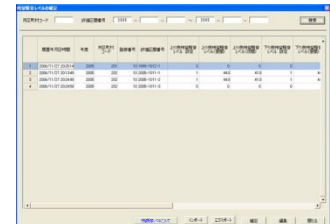
1.騒音基準位置 [P.IV -131]



2.騒音レベル（基準点騒音レベルの確定） [P.IV -135]



2.騒音レベル（残留騒音レベルの確定） [P. IV -137]



(6) 騒音推計

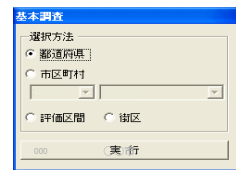
2.沿道情報（評価区間、近接空間、建物） [P.IV -144]



2.沿道情報（沿道情報データ整理表） [P.IV -136]

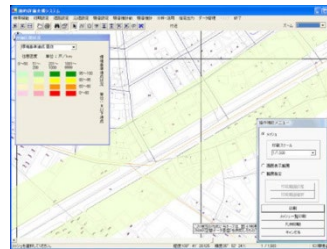
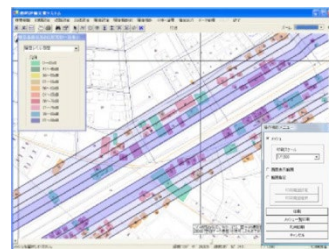


4. 推計 [P.IV -151]



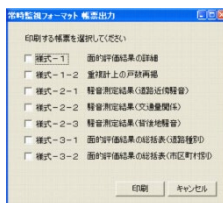
(7) 分析・活用

1.騒音暴露状況の住居等別の一括表示 [P.IV -159] 2.環境基準達成状況の評価区間別の一括評価 [P.IV -163]

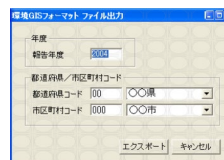


(8) 指定出力

1.常時監視フォーマット [P.IV -170]



2.環境 GIS フォーマット [P.IV -177]



II システムの導入と設定

1. セットアップ

システム・データのセットアップ準備、手順、およびデータのバックアップ・復旧について説明します。

1-1 セットアップの準備

システムをセットアップするためには、以下の表に示すファイルを用意しておく必要があります。これらのファイルは、「面的評価支援システム」のダウンロードサイトなどから入手することができます。

表 1-1-1 セットアップの準備

No	セットアップの種類	入手方法	備考
1	GIS エンジン (dotNetFrameworkX.X *1 を含む)	地方公共団体は、環境省に申請 上記以外は、使用者にて用意	ActiveMap_X_X_X.exe *1
2	面的評価支援システム	環境省に申請	MENTEKI_X_X_X.exe *1
3	面的評価支援システムのデータファイル		MENTEKI_DATA_X_X_X.exe *1
4	面的評価支援システムのデータ バージョンアップツール		MentekiDetaUP_X_X_X-X_X_X.exe *1 過年度データを用いるときに使用します。
5	地図データ 「表 2-3 使用できる電子地図」 (P1-3) 参照	使用者にて用意下さい。 ・DM フォーマット地図についての入手先は、当該地方公共団体でご確認ください。 ・数値地図 25000 (空間データ基盤) は、現在ダウンロードすることはできません。 ※「別冊 基盤地図情報変換編」参照し、国土地理院から基盤地図情報を入手して下さい。	地図データは、記載の地図のどれか 1 種類あれば評価は可能です。地図の特徴を踏まえ準備して下さい。 ・電子地図の種類により、システムで使用するには別途、変換 (有料) が必要となる場合があります。 ・数値地図 25000 (空間データ基盤) dig25000_999.exe 「999」の上位 2 桁が都道府県コード、下 1 桁が分割番号です。

注意

- ※1 「_X_X_X」、「X.X」はバージョンを示します。
- ※2 各地方公共団体は「政府共通NW/L G W A N 掲示板システム」内、「自動車騒音常時監視支援フォーラム」より申請書をダウンロードし、申請してください。
地方公共団体以外で使用者の方は、次の URL より申請書をダウンロードして、申請してください。
「https://www.env.go.jp/air/car/noise/const_mon/system.html」
- ・数値地図 25000 (空間データ基盤) は各地方公共団体に対して、原則として 1 つのパソコンのみインストールする承認を国土地理院より得ています。
- ・GIS エンジン (「面的評価支援システム (環境省)」版「ActiveMap for.NET」) は、各地方公共団体に対して、原則として 1 つのパソコンのみインストールするライセンスを、株式会社カーネルより得ています。

1-2 セットアップの手順

システムのセットアップは、表 1-1-2 に示す手順で行います。

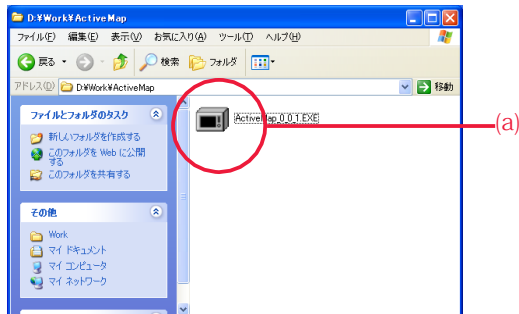
表 1-1-2 セットアップの手順

手順	内容
1	GIS エンジンのセットアップ
2	面的評価支援システムのセットアップ
3	面的評価支援システムのデータの設定
4	地図のセットアップ
5	面的評価支援システムの動作環境の設定

1-3 GIS エンジンのセットアップ

地方公共団体用の GIS エンジンのセットアップ手順について説明します。地方公共団体以外の方は、ご用意された GIS エンジンのマニュアルに従って、セットアップを行ってください。

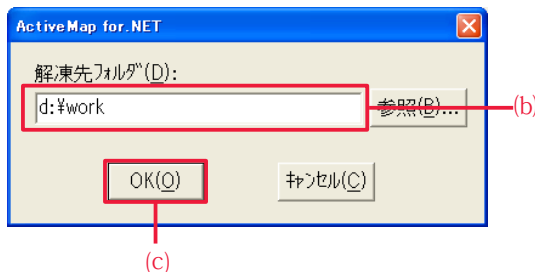
(1) GIS エンジンの解凍



- (a) [ActiveMap_X_XX.exe] をダブルクリックします。
 ⇒ [Active Map for.NET] 解凍画面が表示されます。

注意

ファイルの解凍でエラーが出る場合は、ユーザーにファイルの「実行、変更（読取、書込）」の権限がない可能性があります。パソコンの管理者に相談し、権限を与えてください。



- (b) [解凍先フォルダ] に解凍先フォルダ名を入力します。
 (c) [OK] をクリックします。
 ⇒ 下記のファイルが解凍されます。

- ・「DotNetFrameworkX.X^{※1}」
- ・「ClientPack」
- ・「AMSetup」

注意

※1 「X.X」はバージョンを示します。
 ・システム Ver.3.3.2 および Ver.4.0.0 では 2.27、Ver.4.1.0 では 2.28、Ver.5.0.0 および Ver.5.2.2 では 2.28 および 2.28 (acddb 対応) となります。

(2) .NetFramework のセットアップ

.Net Framework のセットアップ手順について説明します。

既にインストールされている場合は必要ありません。



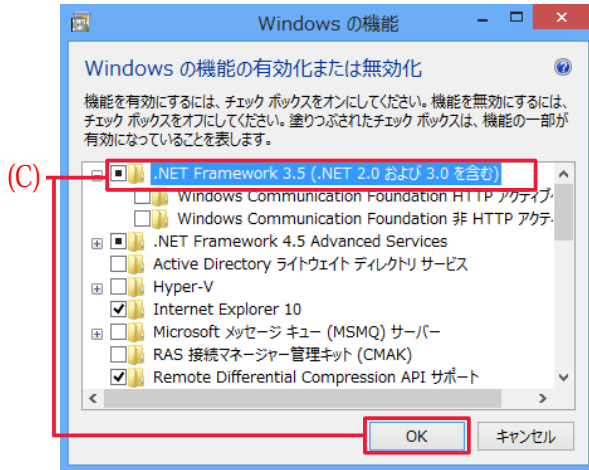
- (a) コントロールパネルを開き、[プログラム] をクリックします。

⇒ [プログラム] が表示されます。



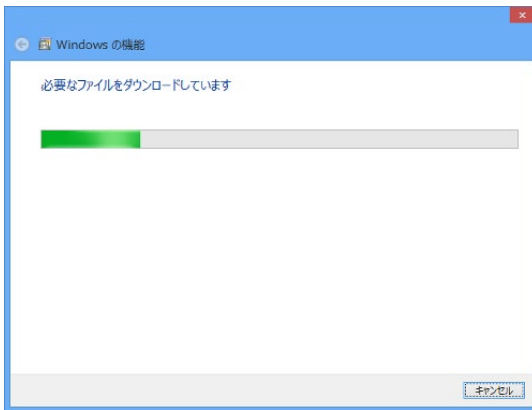
- (b) [プログラムと機能] をクリックします。

⇒ [プログラムと機能] が表示されます。



(c) [.NET Framework 3.5(.NET 2.0 および 3.0 を含む)]にチェックがない場合には、チェックを入れ、**OK** をクリックします。

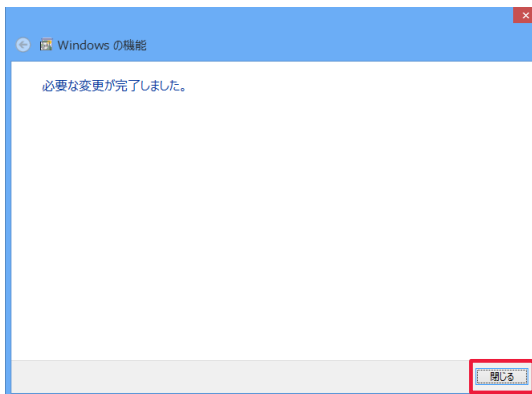
⇒「Windows の機能」の画面で、[Windows Update からファイルをダウンロードする] をクリックすると、自動的に必要なファイルのダウンロードが始まります。



(d) 必要な変更が完了したら、**閉じる** をクリックします。

注意

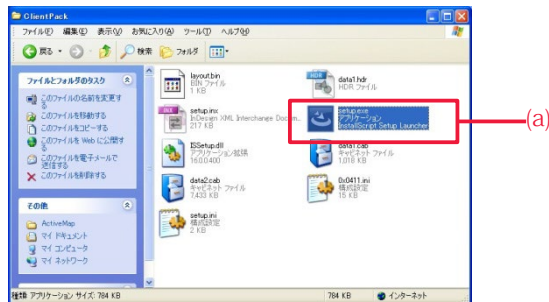
- ※1 インストールには、インターネットへの接続環境が必要です。
- ※2 インターネットに接続できない場合は、マイクロソフトの HP から再頒布可能パッケージを入手し、外部記憶媒体等からインストールを行って下さい。



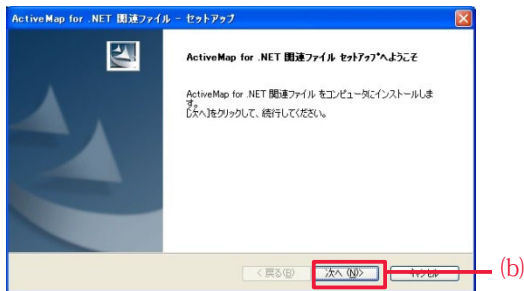
備考

すでに必要なファイルがインストールされている場合は、自動的に変更が適用されます。

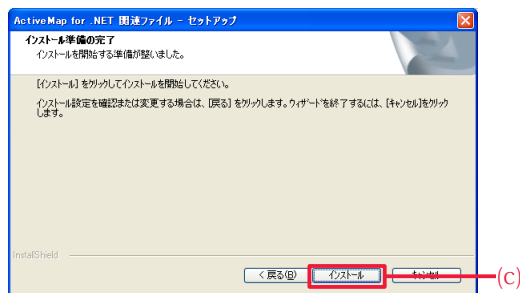
(3) ClientPack のセットアップ



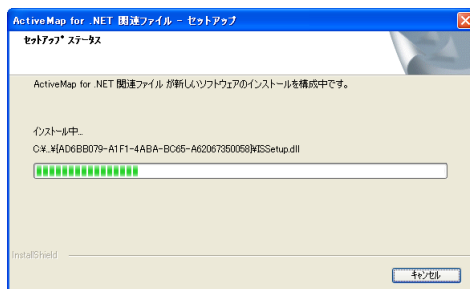
- (a) 解凍したフォルダ内から、「ClientPack」フォルダを開き、「setup.exe」をダブルクリックします。
 ➔ [ActiveMap for .NET 関連ファイル セットアップ] 画面が表示されます。



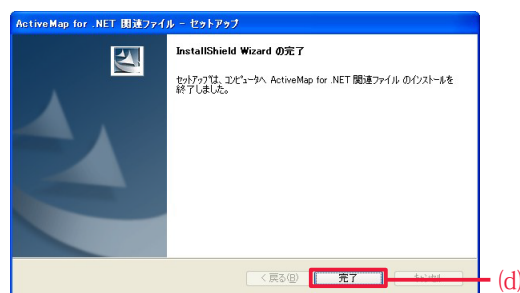
- (b) **次へ** をクリックします。
 ➔ [インストール準備の完了] 画面が表示されます。



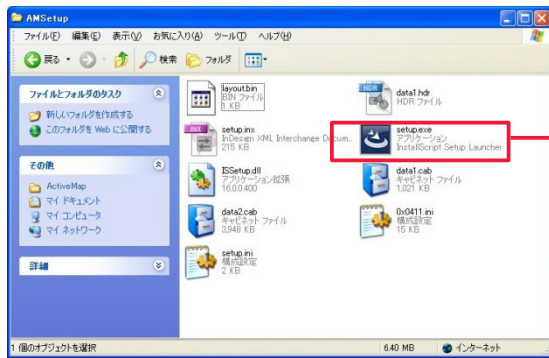
- (c) **インストール** をクリックします。
 ➔ インストールが開始されます。



- (d) **完了** をクリックします。

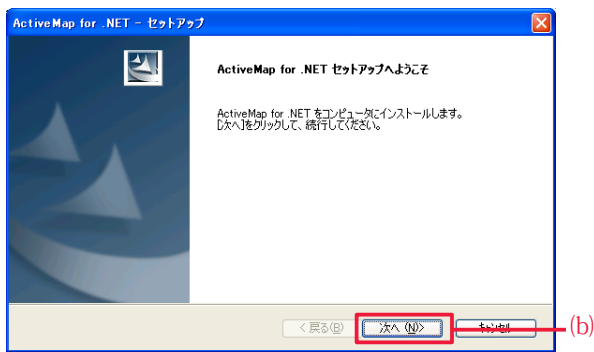


(4) AMSetup のセットアップ



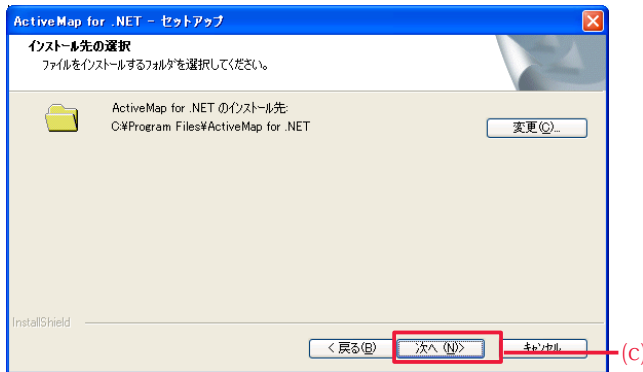
(a) 解凍したフォルダ内から、「AMSetup」フォルダを開き、「setup.exe」をダブルクリックします。

⇒ [Active Map for.NET] のセットアップウィザード画面が表示されます。



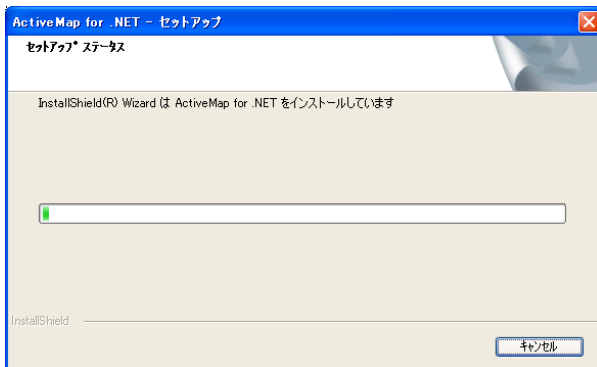
(b) [次へ] をクリックします。

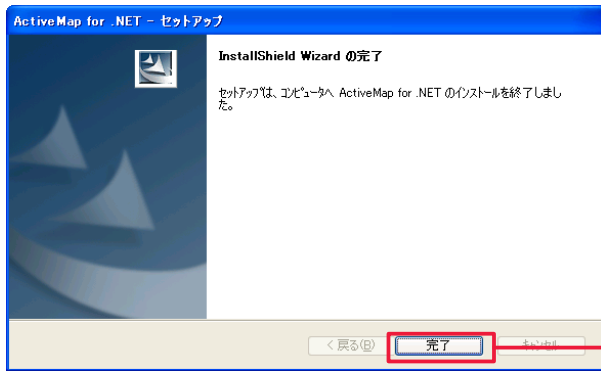
⇒ [Active Map for.NET] のインストールフォルダの選択画面が表示されます。



(c) [次へ] をクリックします。

⇒ インストールが開始されます。



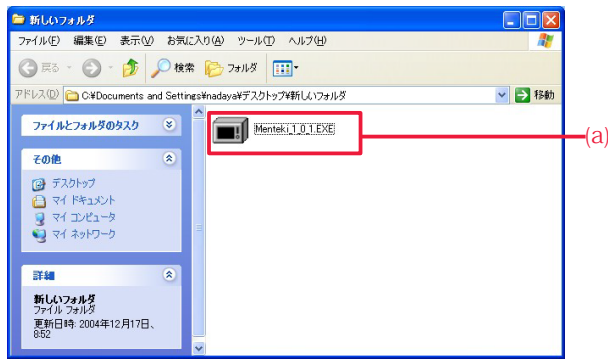


(d) **完了** をクリックします。

以上で、GIS エンジンのセットアップは完了です。

1-4 面的評価支援システムのセットアップ

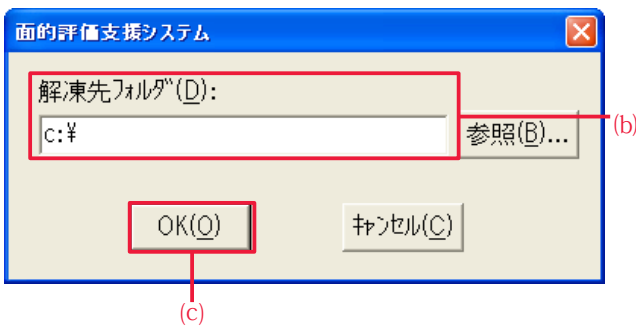
面的評価支援システムのセットアップ手順について説明します。



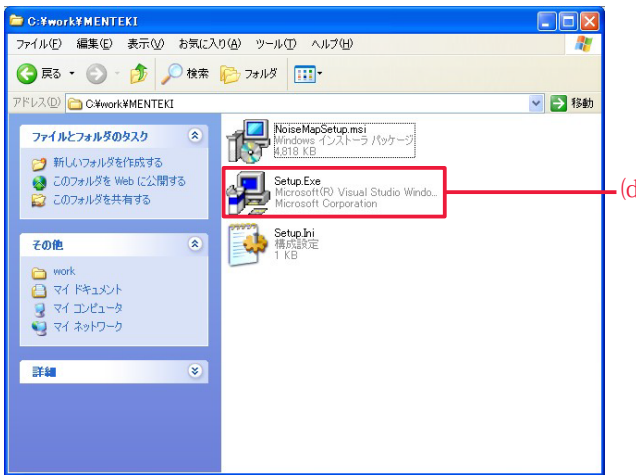
- (a) 「MENTEKI.exe」をダブルクリックします。
 → [面的評価支援システム] 解凍画面が表示されます。

注意

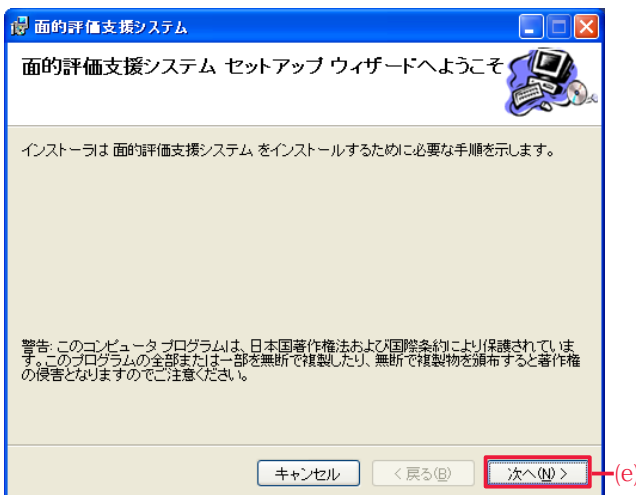
ファイルの解凍でエラーが出る場合は、ユーザーにファイルの「実行、変更（読取、書込）」の権限がない可能性があります。パソコンの管理者に相談し、権限を与えてください。



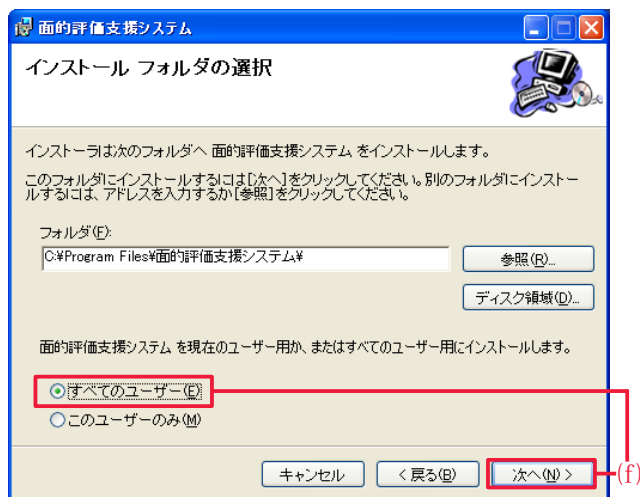
- (b) [解凍先フォルダ] に解凍先フォルダ名を入力します。
 (c) [OK] をクリックします。
 → ファイルが解凍されます。



- (d) 上記手順で解凍したフォルダ内から、「MENTEKI」フォルダを開き、「Setup.Exe」をダブルクリックします。
 → [面的評価支援システム] ウィザード画面が表示されます。

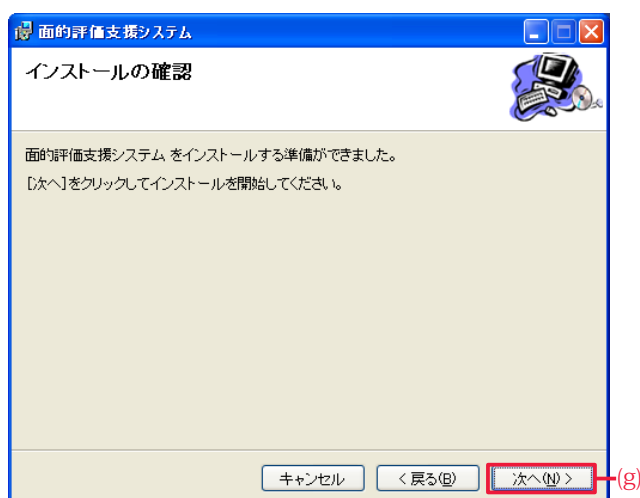


- (e) [次へ] をクリックします。



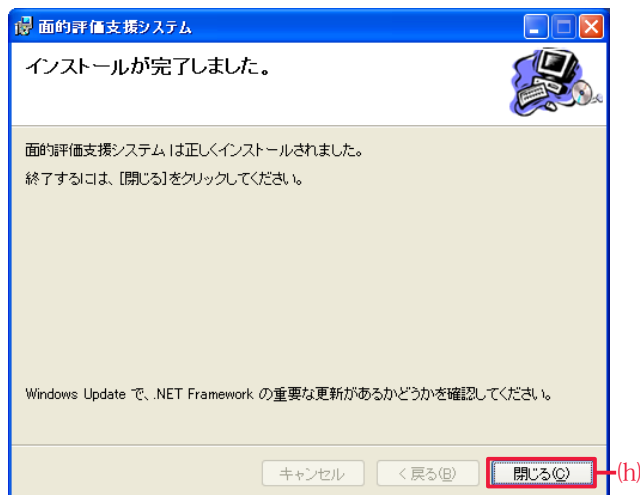
(f) 「すべてのユーザー」をチェックし、**[次へ]** をクリックします。

➡ [面的評価支援システム] のインストールの確認画面が表示されます。



(g) **[次へ]** をクリックします。

➡ [面的評価支援システム] のインストールの完了画面が表示されます。



(h) **[閉じる]** をクリックします。

以上で、面的評価支援システムのセットアップは完了です。

注意

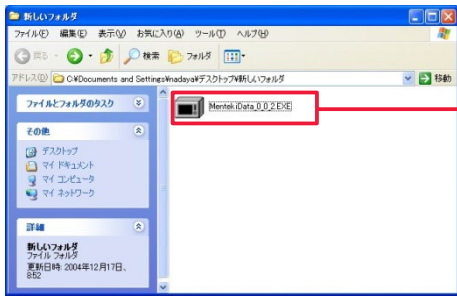
システムの更新の場合は、使用中の面的評価支援システムをアンインストールし、新バージョンの面的評価支援システムをインストール手順に従いインストールしてください。

アンインストールをしない場合、バージョンアップができません。

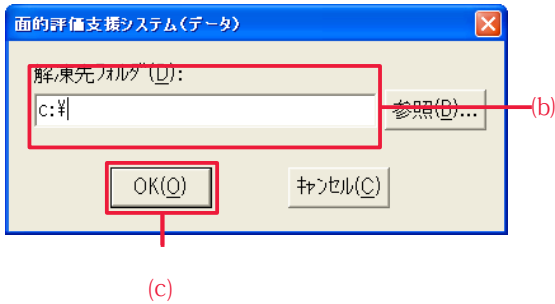
1-5 面的評価支援システムのデータ設定

面的評価支援システムのデータ設定について説明します。

(1) 新規にデータを作成する場合



(a) MENTEKI_DATA.exe をダブルクリックします。

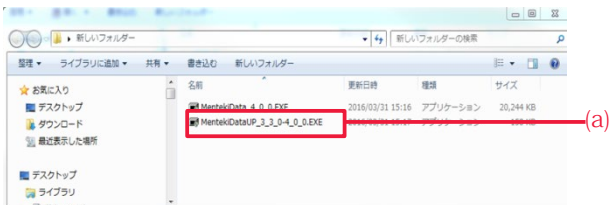


(b) [解凍先フォルダ] に解凍先フォルダ名を入力します。

(c) [OK] をクリックします。

(2) 既存データを使用する場合

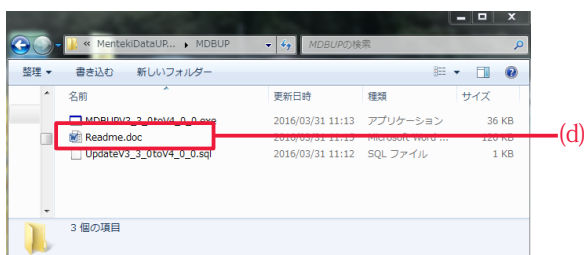
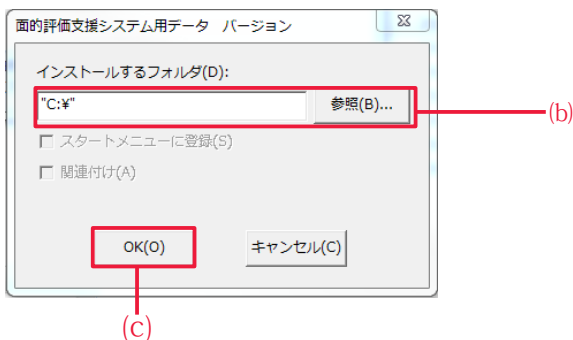
既存データを使用するにあたり、システムデータのバージョンアップが必要になることがあります。システムのバージョンとシステムデータのバージョンについては、下記 URL で関係を確認してください。
 「https://www.env.go.jp/air/car/noise/const_mon/system_upgrade.html」
 システムデータのバージョンが違う場合は、以下の手順でシステムデータのバージョンアップを行ってください。



(a) 面的評価支援システム用データバージョンアップツール (MentekiDataUP_X_X_X-X_X_X.exe) をご使用ください。MentekiDataUP_X_X_X-X_X_X.exe をダブルクリックします。

(b) [解凍先フォルダ] に解凍先フォルダ名を入力します。

(c) [OK] をクリックします。

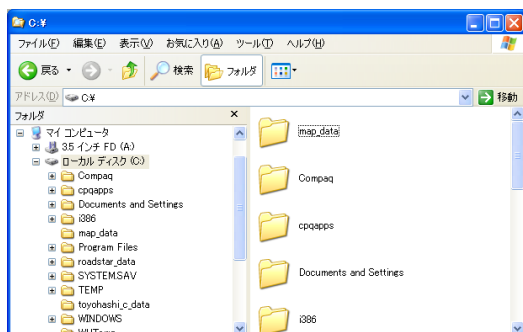


(d) [Readme.doc] を開き、詳しいバージョンアップ手順が記載されていますので、このファイルを参考にデータのバージョンアップを行ってください。

1-6 地図データのセットアップ

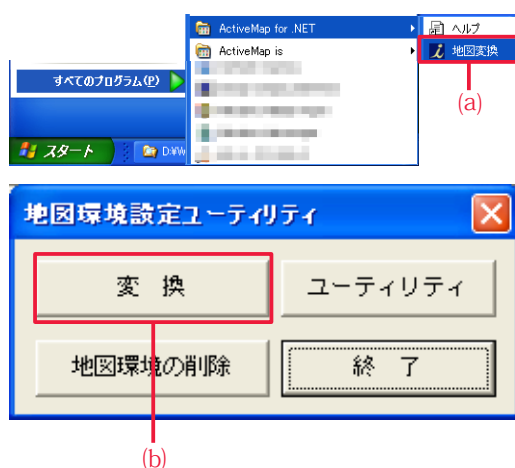
地図データのセットアップについて説明します。

(1) 地図データ用フォルダ作成



エクスプローラを起動後、地図データセットアップ用のフォルダを作成します。

(2) 住宅地図 (例 Zmap-TOWN II)



(a) [スタート] メニューの [プログラム] - [ActiveMap for .NET] - [地図変換] を起動します。

(b) [変換] をクリックします。

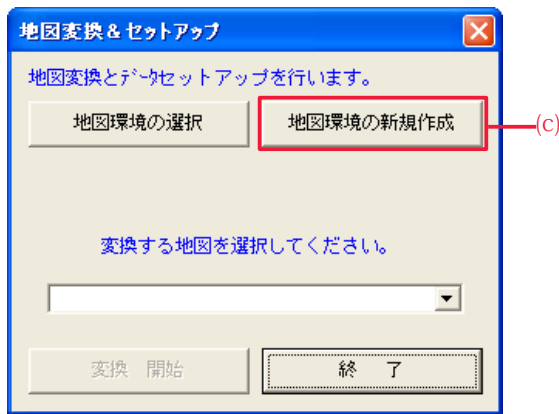
⇒ [地図変換&セットアップ] 画面が表示されます。

注意

地図変換&セットアップには、下記のライブラリーが必要になります。システムにインストールされていない場合は、使用者にてご用意ください。

"Microsoft DAO 3.6 Object Library" である "DAO360.dll"

"Microsoft DAO 3.51 ObjectLibrary" である "DAO350.dll"



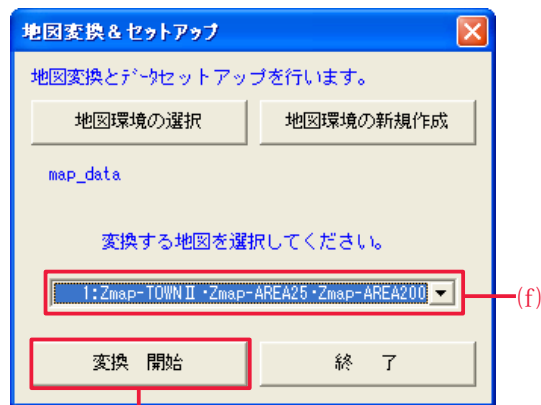
- (c) [地図環境の新規作成] をクリックします。
 ⇒ [地図環境新規作成] 画面が表示されます。

備考

住宅地図 (例 Zmap-Town II) の追加の場合は [地図環境の選択] で、追加したい環境を選択してください。
 なお、[地図環境の新規作成] の必要はありません。
 例 1) 都道府県で、複数の町村を追加する場合
 例 2) 政令指定都市で、複数の区に分かれている場合



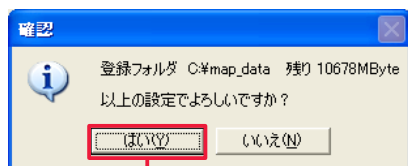
- (d) 登録名称「map_data」、変換先「c:\¥map_data」(1) [地図データ用フォルダ作成] で作成したフォルダ名を指定) を入力します。
 (e) [OK] をクリックします。
 ⇒ [地図変換 & セットアップ] 画面が表示されます。



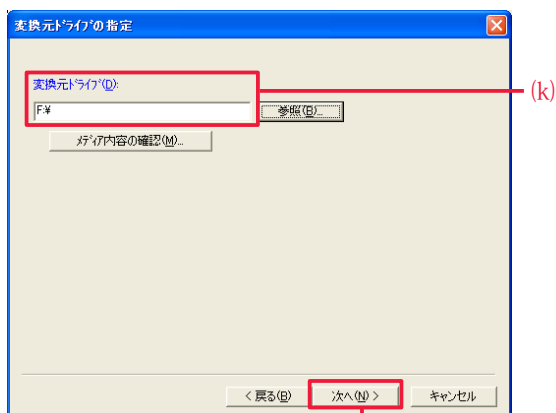
- (f) 変換する地図をプルダウンより「1: Zmap-TOWN II * Zmap-AREA25 * Zmap-AREA200」を選択します。
 (g) [変換 開始] を選択します。



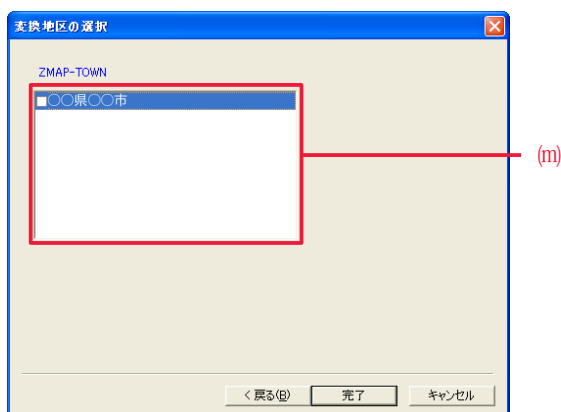
- (h) [登録フォルダ選択] 画面の変換先フォルダを確認します。
 (h) [次へ] をクリックします。
 ⇒ [確認] 画面が表示されます。



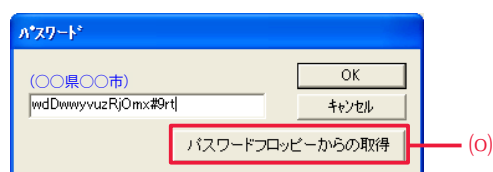
(i)



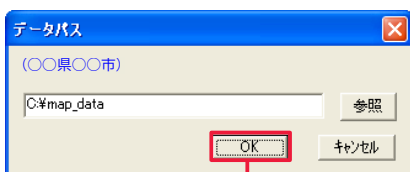
(l)



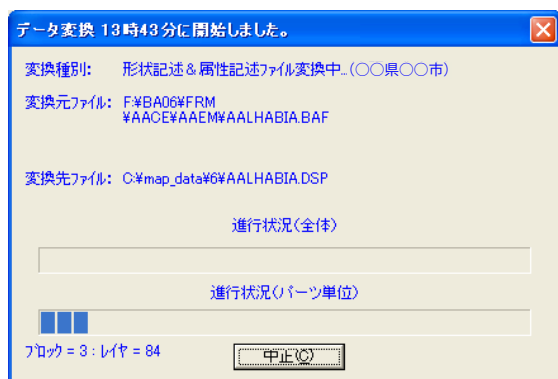
(m)



(o)



(p)



👁️ 設定を確認します。

(i) **はい** をクリックします。

(j) 地図データ (Zmap-TOWN II) の CD-ROM をパソコンにセットします。

➡ [変換元ドライブの指定] 画面が表示されます。

(k) 変換元ドライブ (CD-ROM 装置のドライブ名) を入力します。

(l) **次へ** をクリックします。

➡ [変換地区の選択] 画面が表示されます。

(m) 対象となる市区町村名のチェックボックスを選択します。

(n) 対象市区町村の Zmap-TOWN II パスワードの FD をパソコンの FD ドライブにセットします。

(o) **パスワードフロッピーからの取得** をクリックします。

➡ [データパス] 画面が表示されます。

備考

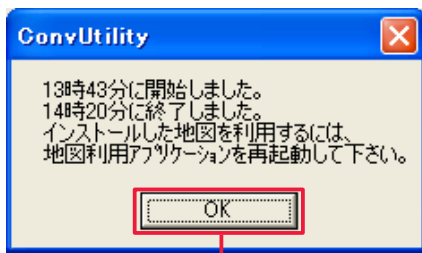
パスワードが CD-ROM に記録されている場合は、CD-ROM のパスワードファイルを読み出し、パスワードを入力してください。

👁️ 地図のインストールフォルダを確認します。

(p) **OK** をクリックします。

(q) [変換地区の選択] 画面の **完了** をクリックします。

➡ 地図の変換が開始されます。

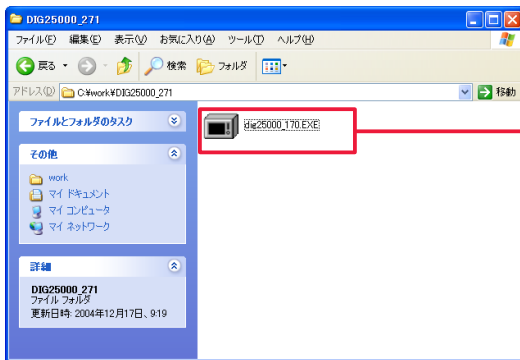


(r)

(r) **OK** をクリックします。

➡ 地図データ (Zmap-TOWN II) のセットアップを完了します。

(3) 数値地図 25000 (空間データ基盤)



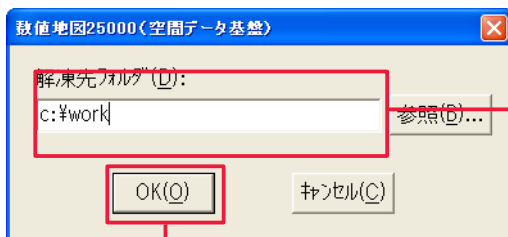
(a)

(a) 「DIG25000_999.exe」をダブルクリックします。(999の上位2桁は都道府県コード、下1桁は分割番号)

➡ 解凍画面が表示されます。

注意

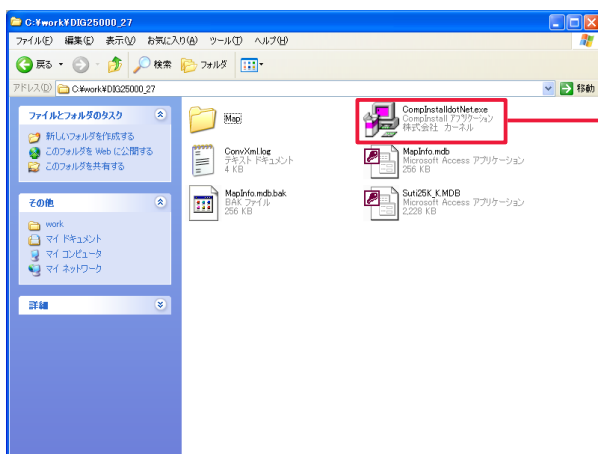
地方公共団体以外は、「基盤地図情報」が利用可能です。



(c)

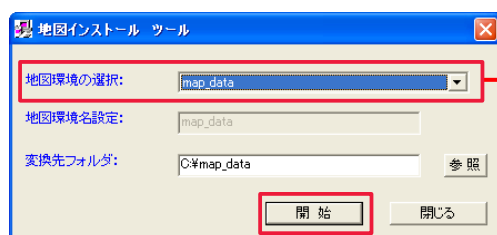
(b) 解凍先フォルダ内に解凍先フォルダ名を入力します。

(c) **OK** をクリックします。



(d)

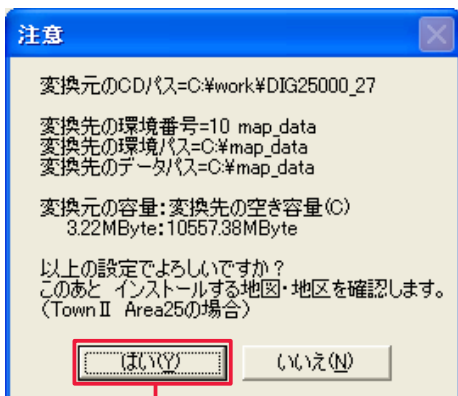
(d) 上記手順で解凍したフォルダ内から、「CompInstalldotNet.exe」をダブルクリックします。



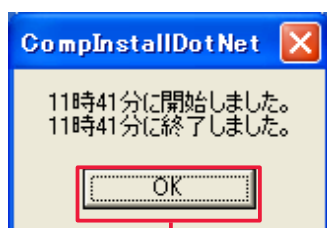
(f)

(e) [地図環境の選択] プルダウンより、[(2) 地図データ (Zmap-TOWN II)] のセットアップで作成した地図環境の名称「map_data」を選択します。

(f) **開始** をクリックします。



(g)



(h)

👁 [注意] 画面で設定内容を確認します。

(g) をクリックします。

➡ 完了確認画面が表示されます。

(h) をクリックします。

➡ 地図データ (数値地図 25000 (空間データ基盤)) のセットアップを完了します。

注意

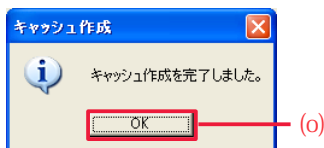
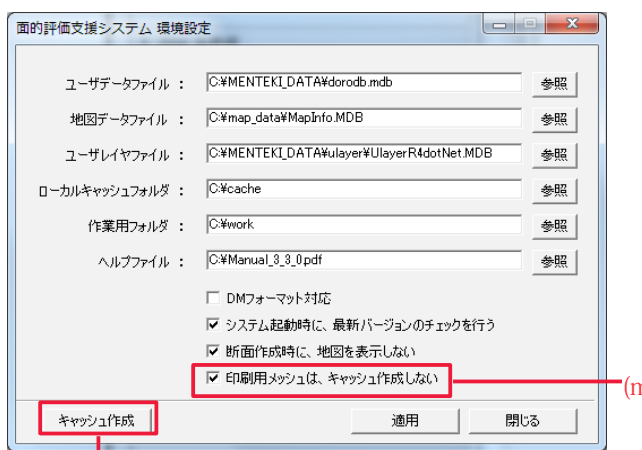
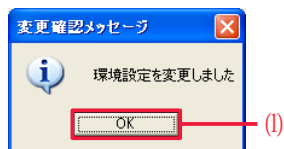
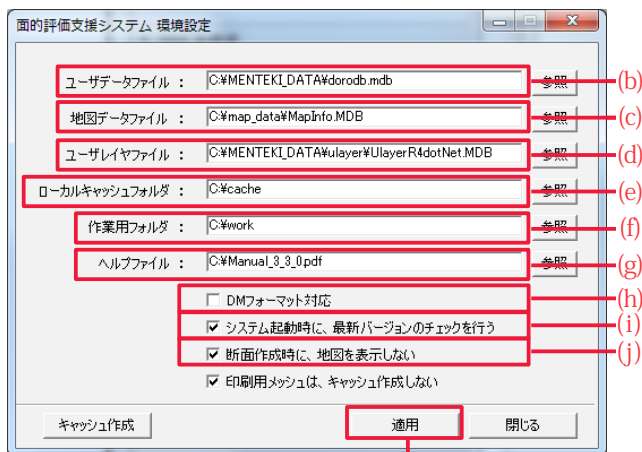
基盤地図情報を利用する場合は、「別冊 基盤地図情報 変換編」参照。

備考

数値地図 25000 (空間データ基盤) は、道路、鉄道、水系、行政区、水準点の線及び点データしかありません。このため、道路の官民境界や建物の輪郭はありません。よって、道路の官民境界や建物の輪郭を表示させる場合、他の電子地図を使用するか、使用者にて IV-2-1 からの手順に従い建物までを手動で作成する必要があります。なお、基盤地図情報は、道路の官民境界や建物の輪郭は、表示されませんが建物の情報はありません。

1-7 面的評価支援システムの動作環境の設定

面的評価支援システムの動作環境の設定について説明します。



備考

道路横断面図の作成時に地図を表示しない場合、システムの処理速度が向上します。
印刷用メッシュを再作成しない場合、キャッシュ作成時間が短縮されます。

注意

面的評価支援システム、地図、ユーザーデータファイルを入れ替えた場合は、必ずキャッシュ作成をして下さい。
DM フォーマットにチェックを入れた場合には、Zmap Town II での建物オブジェクトは作成されません。
キャッシュ作成を行うとファイルアクセスエラーが発生する場合、キャッシュフォルダを全て削除して、再度作成してください。
キャッシュ作成時に「オブジェクト参照がオブジェクトインスタンスに設定されていません。」のエラーが発生する場合、個別の原因が想定されるため、環境省へデータを送付してください。

[スタート]メニューの[プログラム] - [面的評価支援システム] - [動作環境設定] を選択します。

➡ [面的評価支援システム 環境設定] が起動されます。

(b) [ユーザーデータファイル] に [II-1-5 面的評価支援システムのデータ設定] で展開した「dorodb.mdb」ファイルを指定します。

(c) [地図データファイル] に [II-1-6 地図データのセットアップ] でセットアップした「MapInfo.mdb」ファイルを指定します。

(d) [ユーザーレイヤファイル] に [II-1-5 面的評価支援システムのデータ設定] で展開した「UlayerR4dotNet.mdb」ファイルを指定します。

(e) [ローカルキャッシュフォルダ] に地図キャッシュ用フォルダを指定します。フォルダは任意に新規作成してください。

(f) [作業用フォルダ] に作業用フォルダを指定します。フォルダは任意に新規作成してください。

(g) [ヘルプファイル] に操作マニュアルのファイルを指定します。

(h) DM フォーマットを使用する場合、チェックします。

(i) システム起動時にシステムの最新バージョンのチェックを行う場合、チェックします。

(j) 道路横断面図の作成時に地図を表示しない場合、チェックします。

(k) [適用] をクリックします。

➡ [変更確認メッセージ] 画面が表示されます。

(l) [OK] をクリックします。

➡ 環境設定が設定されます。

(m) 印刷用メッシュのキャッシュを再作成しない場合、チェックします。

(n) [キャッシュ作成] をクリックします。

➡ 地図データが初期化され、[キャッシュ作成] 完了画面が表示されます。

(o) [OK] をクリックします。

2. データのバックアップ

データのバックアップ方法について説明します。

(1) バックアップの対象

- データファイル……………C:\¥MENTEKI_data¥dorodb.mdb
- レイヤーファイル……………C:\¥MENTEKI_data¥Ulayer¥UlayerR4dotNet.MDB

(2) バックアップの時期

- 評価機能、実測値管理機能、データ管理機能を利用してデータを新規作成、更新削除した後は必ずバックアップを行ってください。
- データファイルとレイヤーファイル、画像フォルダ内のファイルは、それぞれ関連しています。整合性を保つために、必ず同時にバックアップを行ってください。

(3) バックアップの方法

バックアップ対象ファイルをそれぞれエクスプローラなどでコピーし、名前を変更して管理してください。

- (例) ・dorodb (2004.〇〇.××) .mdb
 ・UlayerR4dotNet (2004.〇〇.××) .MDB

注意

拡張子を変更しないでください。

3. データの復旧

データの復旧方法について説明します。

(1) GIS エンジン (ActiveMap for.Net) の復旧

[1-3 GIS エンジン (ActiveMap for.Net) のセットアップ] を参照し、再度セットアップして下さい。

(2) システムの復旧

[1-5 面的評価支援システムのセットアップ] を参照し、再度セットアップして下さい。

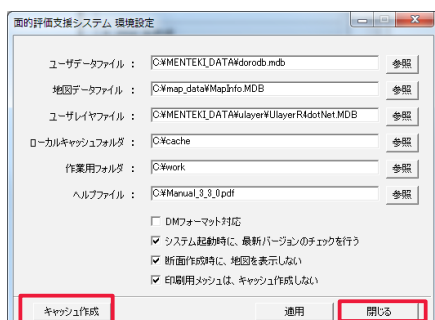
(3) データファイル、レイヤーファイル内のファイルの復旧方法

必ず同時期にバックアップしたファイルを使って復旧してください。

① バックアップしたファイルを以下のフォルダへエクスプローラなどによりコピーしてください。

- データファイル C:\¥MENTEKI_DATA¥dorodb.ldb
- レイヤーファイル C:\¥MENTEKI_DATA¥ulayer¥UlayerR4dotNet.MDB

② システムの動作環境を再設定してください。



(a) [スタート] メニューの [プログラム] - [面的評価支援システム] - [動作環境設定] を選択します。

⇒ 「面的評価支援システム 環境設定」が起動されます。

(b) **キャッシュ作成** をクリックします。

(c) **閉じる** をクリックします。

(4) 地図データ (Zmap-Town II、数値地図 25000 (空間データ基盤)、基盤地図情報)

[1-6 地図データのセットアップ] を参照し、再度セットアップして下さい。

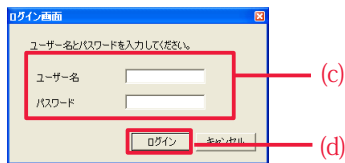
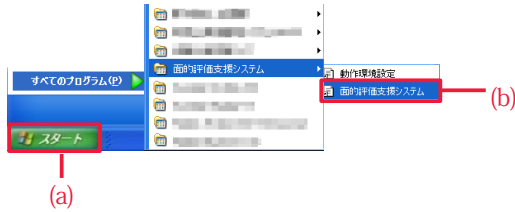


Ⅲ システムの基本

1. システムの起動と終了

システムの起動・終了方法を説明します。

1 起 動



- (a) [スタート] をクリックします。
- (b) [すべてのプログラム] – [面的評価支援システム] – [面的評価支援システム] をクリックします。
→ [ログイン画面] が表示されます。
- (c) [ユーザー名]: 「user」、[パスワード]: 「(なし)」を入力します。

備考
環境 GIS ファイルのみ作成する場合は [ユーザー名]: 「user」、[パスワード]: 「(なし)」でログインします。

- (d) [ログイン] をクリックします。
→ システムが起動されます。

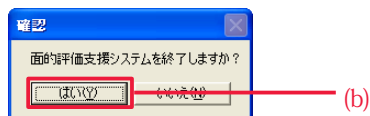
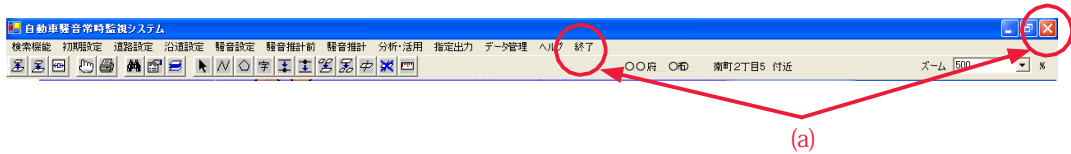
備考
初めてインストールした場合、地図表示位置が設定されていないため地図が表示されません。このため検索機能の「III-4 住所検索」で地図表示を行って下さい。

- (e) ログイン認証でのエラーは、GIS エンジンと面的評価支援システムの組み合わせの不一致によるエラーが考えられます。

注意

- ・一般用「面的評価支援システム」をセットアップした場合、販売されている GIS エンジン（「面的評価支援システム（環境省）」版「ActiveMap for.NET」）でない場合は、お問い合わせのエラーが表示されます。
- ・地方公共団体用「面的評価支援システム」の場合は、地方公共団体用 GIS エンジンをインストールしてください。

2 終 了



- (a) メニューバーの [終了] 又はタイトルバー右上の [X] をクリックします。
→ [確認] 画面が表示されます。
- (b) [はい] をクリックします。
→ システムが終了されます。

2. システム画面

システム画面の名称について説明します。

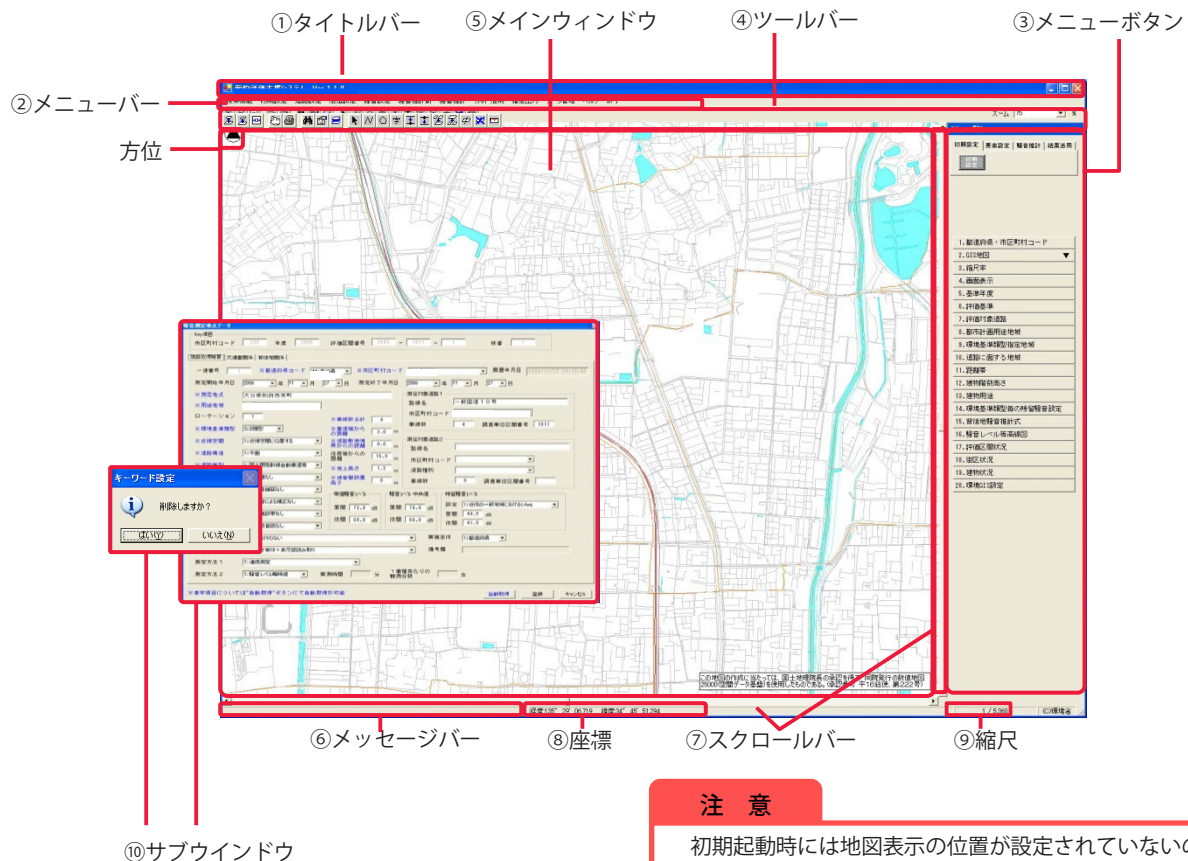





表 2-1 名称と説明

名 称		説 明	
①タイトルバー		システムの名前およびバージョンを表示します。	
②メニューバー		メニューの選択および終了をします。画面右のメニューボタンにて同様の選択が可能です。	
③メニューボタン	初期設定	初期設定	
	要素設定	道路設定	騒音推計を行うための道路データ要素の設定をします。
		沿道設定	騒音推計を行うための沿道状況要素の設定をします。
		騒音設定	騒音推計を行うための騒音測定要素の設定をします。
	騒音推計	騒音推計前	騒音推計を行うために騒音基準位置の設定、基準点騒音レベルの設定、諸元とします。
		騒音推計	設定した要素から推計を実施します。
結果活用	分析・活用	騒音推計結果を基に騒音暴露状況・環境基準達成状況を個別もしくは一括にて集計し、また騒音レベル等高線図・減衰横断図を表示し、分析をします。	
	指定出力	常時監視フォーマットの印刷・ファイル出力と環境 GIS フォーマットのファイル出力をします。	
	データ管理	各整理表においてインポート・エクスポート・検索・新規登録・修正登録・削除・印刷をするなどの管理をします。	
	ヘルプ	ヘルプを表示します。	
④ツールバー		各ツールの選択・解除をします。（各ツールの操作は「III-3 ツールバーの基本」を参照してください。）メインウィンドウに表示している地域の住所を表示します。地図のズームを選択・表示します。	
⑤メインウィンドウ		背景に住宅地図を表示し、その上に各種オブジェクトを表示します。（各種オブジェクトについては「I-5 オブジェクトの概要」を参照ください。）表示された場所は、スクロールバー、  手のひらツール、キーボードの矢印キーにより移動することができます。	
⑥メッセージバー		要素設定の手順を表示します。	
⑦スクロールバー		メインウィンドウに表示された場所を上下左右に移動します。	
⑧座標		メインウィンドウの地図表示上のカーソルの位置を座標で表示します。	
⑨縮尺		メインウィンドウの地図表示の縮尺を表示します。	
⑩サブウィンドウ		各処理の操作を行う画面です。右上の  で操作をキャンセルできますが、処理中のため使用できない場合があります。	

3. ツールバーの基本

メインウィンドウにおけるツールの操作方法を説明します。



① ズーム縮小ツール 

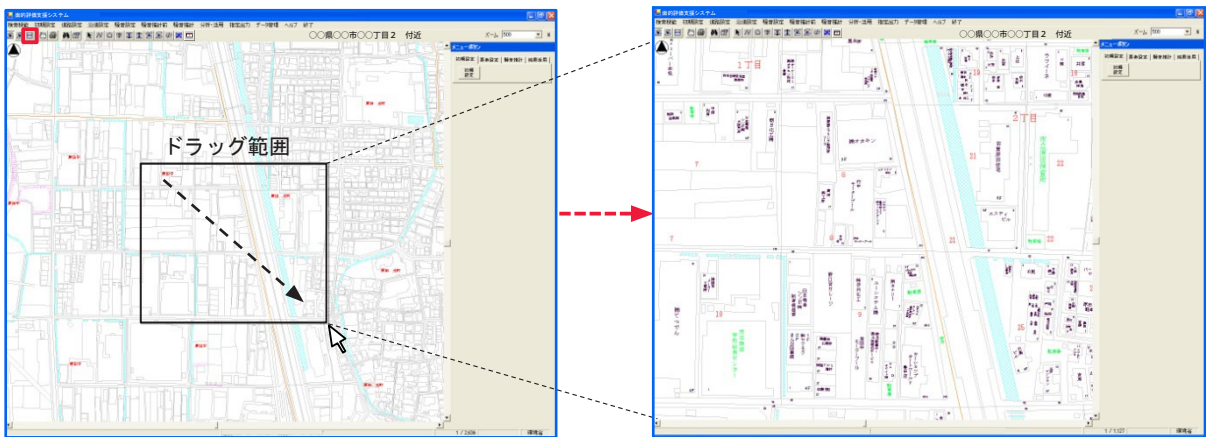
クリックした位置を中心に地図を縮小します。


② ズーム拡大ツール 

クリックした位置を中心に地図を拡大します。

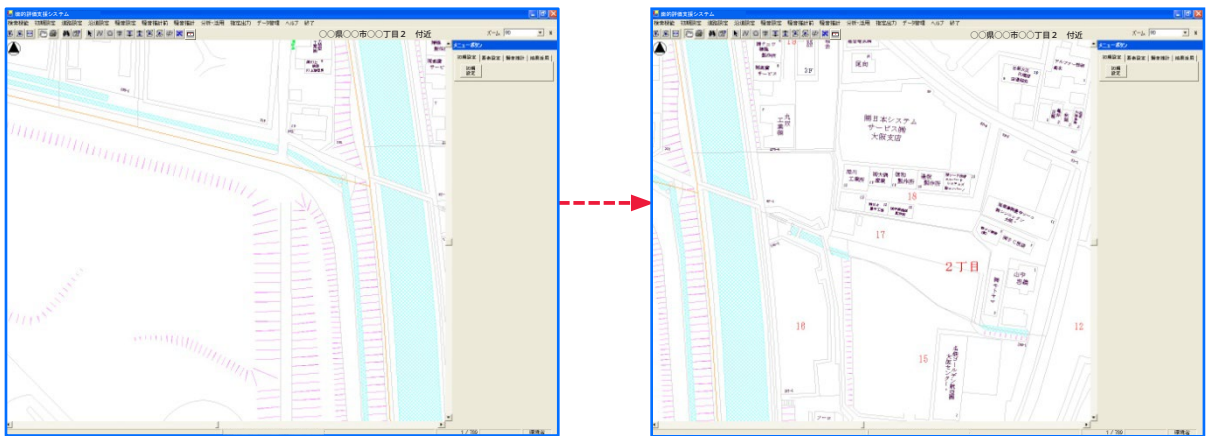
③ 指定範囲拡大ツール 


ドラッグした範囲（四角形）を拡大して表示します。




④ ドラッグスクロールツール 

ドラッグすることで地図を任意の方向に移動します。




⑤ 印刷ツール 

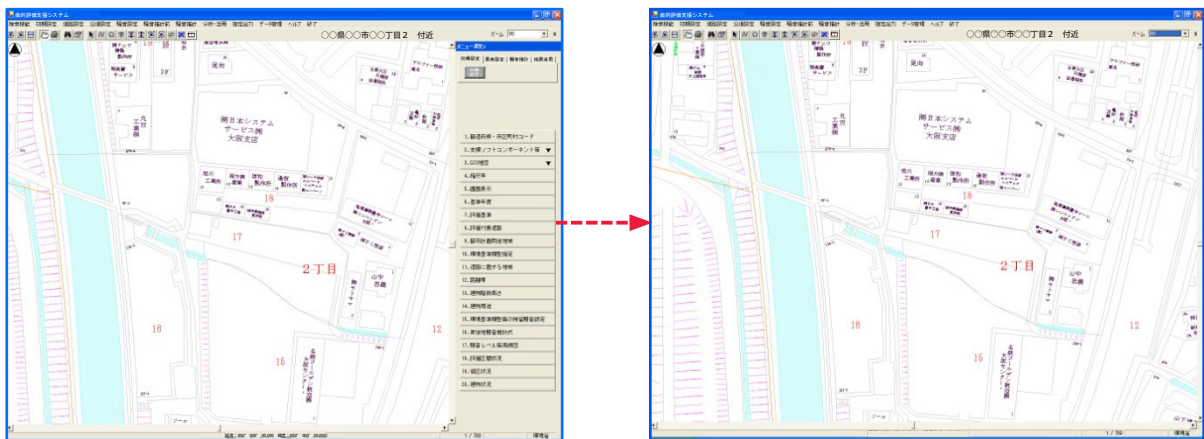
メインウィンドウに表示されている画面・凡例を印刷します。

⑥ 検索ツール 

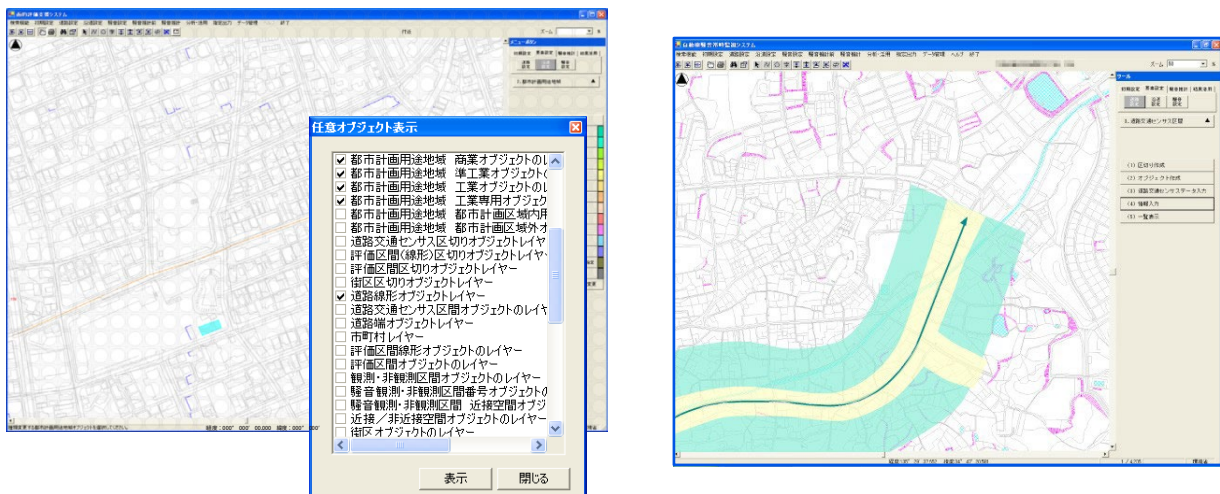
地図検索をします。地図検索は住所・目標物・宅名・地下／高架下・郵便番号による検索があります。検索手順については [Ⅲ-4 検索機能] を参照してください。

⑦ メニューボタン表示 

メニューボタンの表示・非表示を切り替えます。

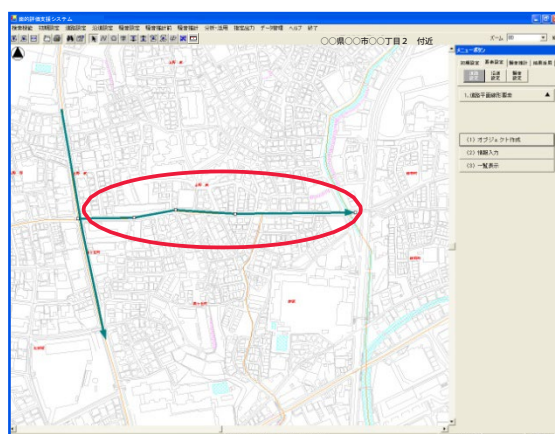
⑧ 任意レイヤ表示 


各レイヤを任意に表示します。複数のレイヤを重ねることもできます。

⑨ 選択ツール 

オブジェクトを選択します。また、選択後に右クリックを行うことでショートカットメニューを表示します。ショートカットメニューには移動・削除・リンクコード表示、起終点変更等があります。

□ オブジェクトの選択



(a) 多角形・折れ線オブジェクト上でマウスポインタの形が  になったらクリックします。

➡ 頂点 (白い四角□) が表示され、オブジェクトが選択されます。

注意

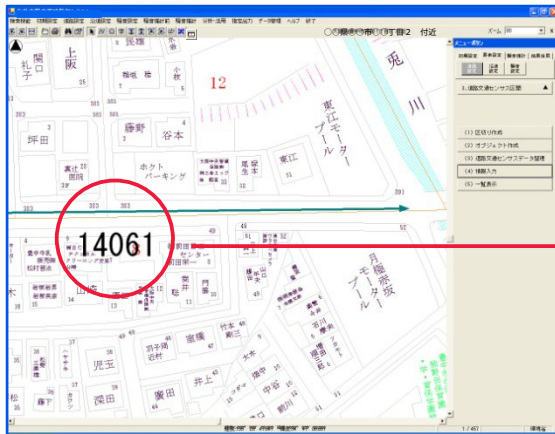
多角形オブジェクトの選択は枠をクリックします。

備考

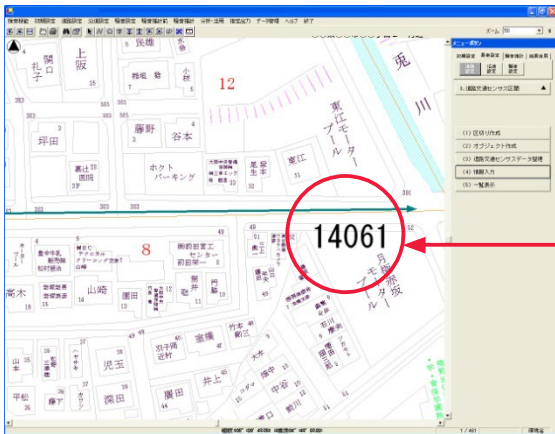
多角形・折れ線オブジェクト選択後、頂点をドラッグすることで、頂点の移動ができます。

□ ショートカットメニュー

・移動



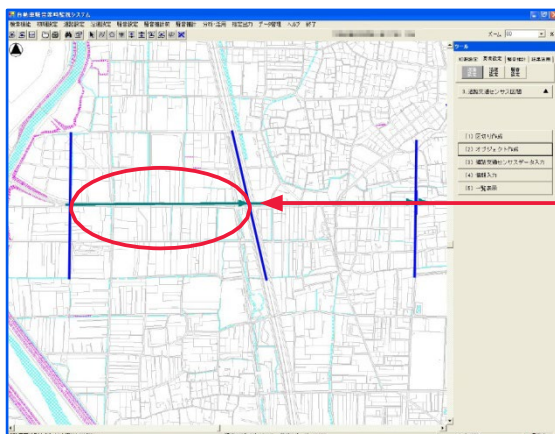
- (a) オブジェクトを選択した状態で右クリックし、ショートカットメニューの「移動」を選択します。
 ➡ オブジェクトが移動可能になります。



- (b) オブジェクトを移動したい位置でクリックします。
 ➡ オブジェクトが移動されます。

・削除

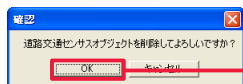
道路交通センサ線形オブジェクトの削除を例とします。



- (a) オブジェクトを選択した状態で右クリックし、ショートカットメニューの「削除」を選択します。
 ➡ 「確認」画面が表示されます。
- (b) 「OK」をクリックします。
 ➡ オブジェクトの削除が実行され、「○○オブジェクト削除」画面が表示されます。

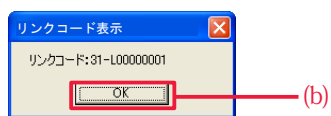
注 意

情報が入力されているオブジェクトを削除する場合、情報も同時に削除されます。
 また、下位情報を持っているオブジェクト（建物オブジェクトを含む評価区間オブジェクトなど）を削除する場合、下位情報も同時に削除されます。



(b)

・リンクコード表示



(a) オブジェクトを選択した状態で右クリックし、ショートカットメニューの「リンクコード表示」を選択します。

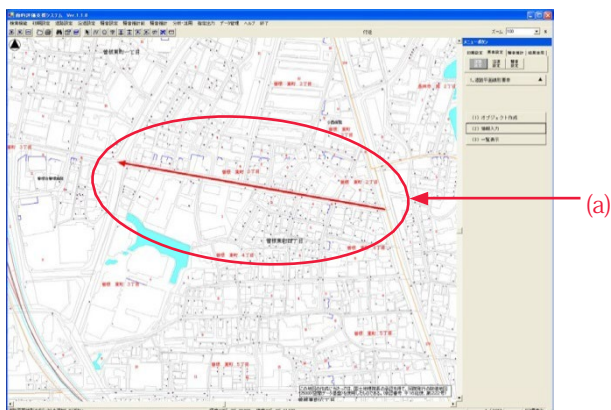
➔ 「リンクコード表示」画面が表示されます。

👁️ リンクコードを確認します。

(b) **OK** をクリックします。

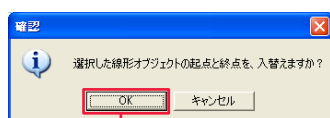
➔ 表示を終了します。

・起終点変更



(a) オブジェクトを選択した状態で右クリックし、ショートカットメニューの「起終点変更」を選択します。

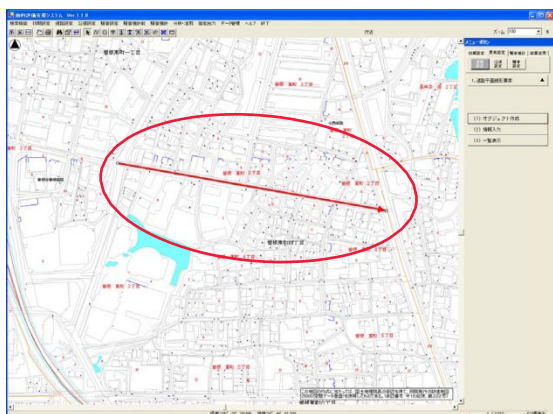
➔ 「確認」画面が表示されます。



(b)

(b) **OK** をクリックします。


➔ 起終点が変更され、矢印の方向が変わります。

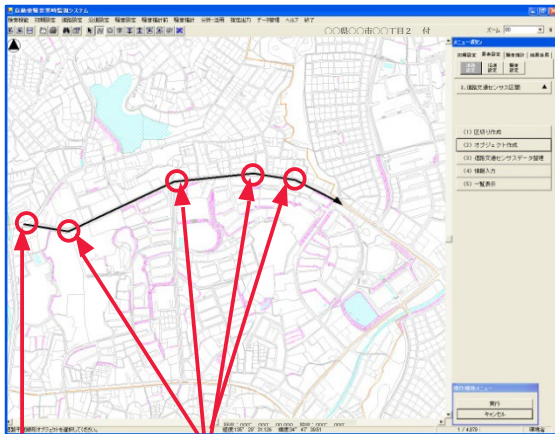


備考

起終点を変更できるオブジェクトを以下に示します。

- ・道路平面線形オブジェクト
- ・道路交通センサ線形オブジェクト
- ・評価区間線形オブジェクト
- ・道路端オブジェクト

⑩ 折れ線ツール 



(a)

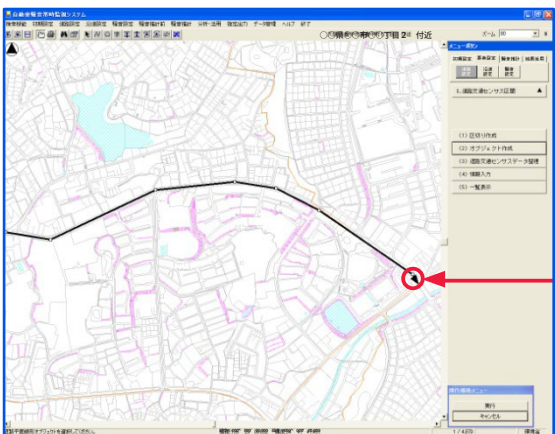
(b)

- (a) 折れ線を作成したい場所でクリックします。
➡ クリックした場所に頂点が作成されます。
- (b) 作成したい長さ、形になるよう連続してクリックします。

備考

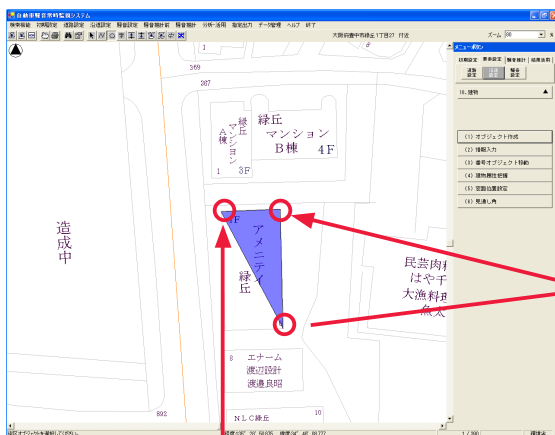
作成中に右クリックすると、右クリックの回数だけ頂点を削除します。

- (c) 作成したい長さ、形になったらダブルクリックします。
➡ 線形オブジェクトが作成されます。



(c)

⑪ 多角形ツール 



(a)

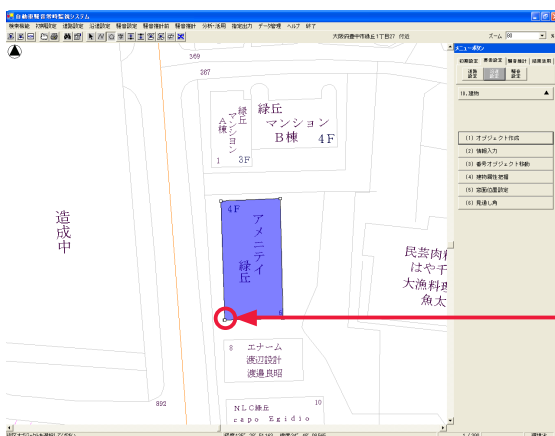
(b)

- (a) 多角形を作成したい場所でクリックします。
➡ クリックした場所に頂点が作成されます。
- (b) 作成したい形になるよう連続してクリックします。

備考

作成中に右クリックすると、右クリックの回数だけ頂点を削除します。


- (c) 作成したい形になったらダブルクリックします。
➡ 多角形オブジェクトが作成されます。



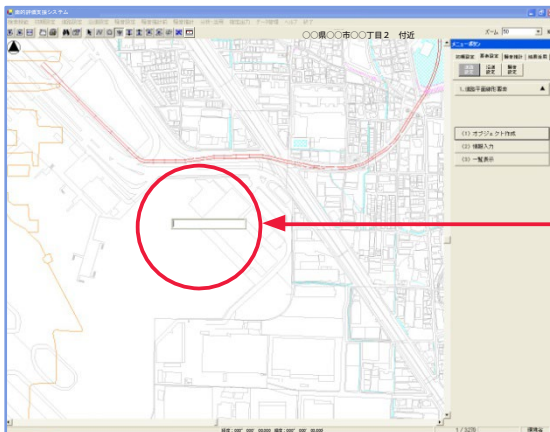
(c)

注意

⑨、⑩、⑪については、オブジェクト作成のメニューボタンをクリックすると必要に応じて使用するツールが自動で選択されます。
また、情報入力とはツールの選択を全て解除した状態で行います。

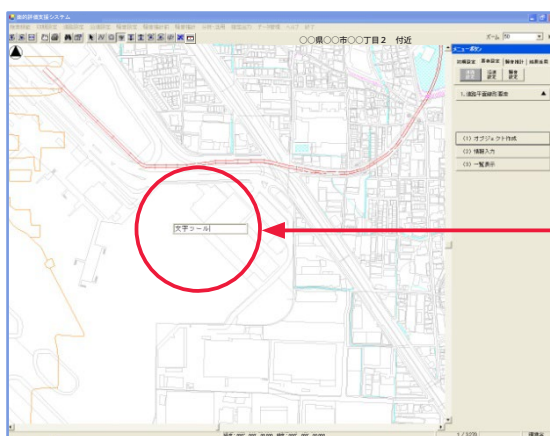
⑫ 文字ツール 

文字オブジェクトを設定します。



(a) 文字を表示したい場所をクリックします。

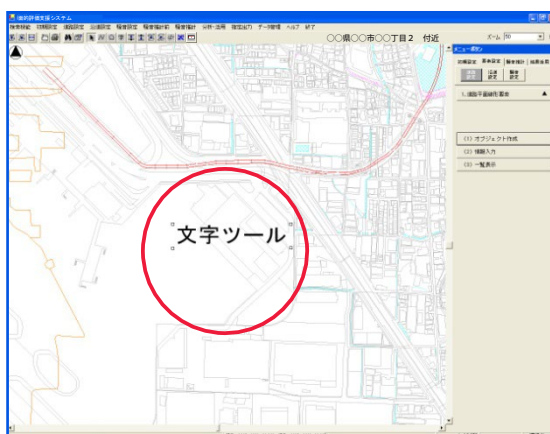
➡ テキストボックスが表示されます。



(b) 表示したい文字をテキストボックスに入力します。

(c) [Enter] キーを押します。

➡ 文字が表示されます。

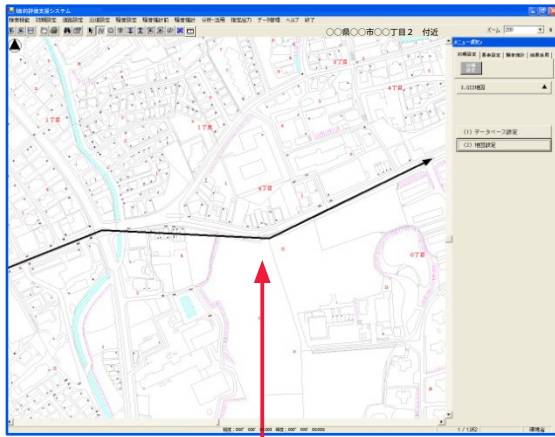


備考


文字オブジェクトを選択した状態で右クリックによるショートカットメニューで、サイズ変更・移動・削除等ができます。

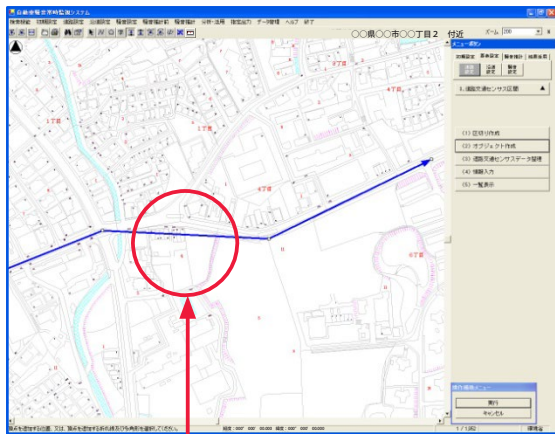
⑬ 頂点追加ツール 

オブジェクトに頂点を追加します。



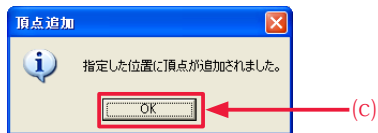
(a)

- (a) 頂点追加ツール  でオブジェクトを選択します。
 ➡ オブジェクトの色が変わり、多角形は枠のみの表示になります。



(b)

- (b) 頂点を追加する場所（枠線上）をクリックします。
 ➡ 頂点が追加され、[確認] 画面が表示されます。



- (c) をクリックします。

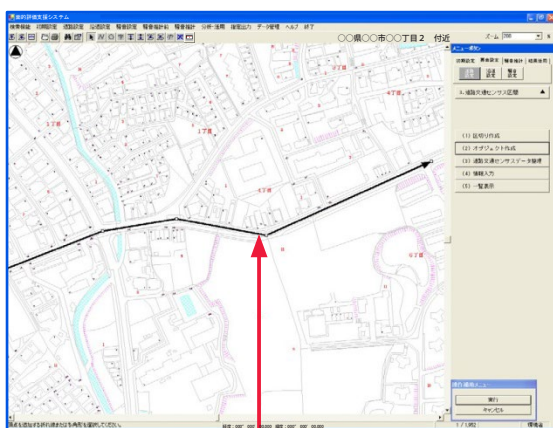
point




追加した頂点の移動は選択ツール  を使用します。

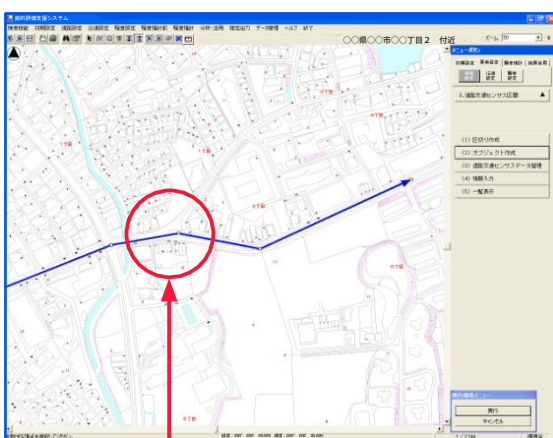
⑭ 頂点削除ツール 

オブジェクトの頂点を削除します。



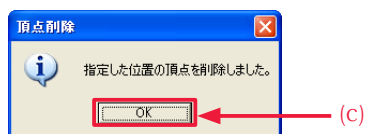
(a)

- (a) 頂点削除ツール  でオブジェクトを選択します。
 ➡ オブジェクトの色が変わり、多角形は枠のみの表示になります。




(b)

- (b) 削除する頂点をクリックします。
 ➡ 頂点が削除され、[確認] 画面が表示されます。



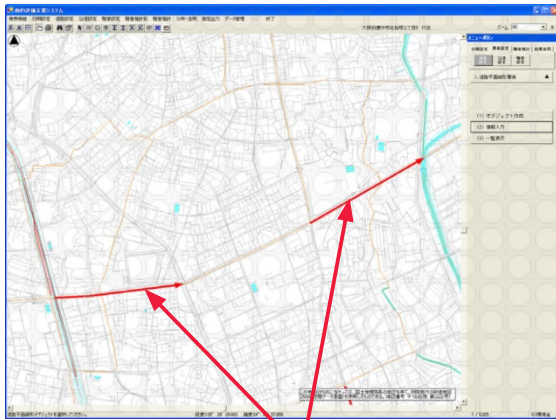
- (c) をクリックします。

⑮ 結合ツール 

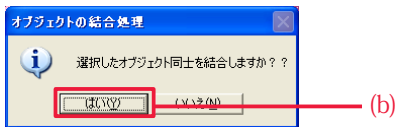
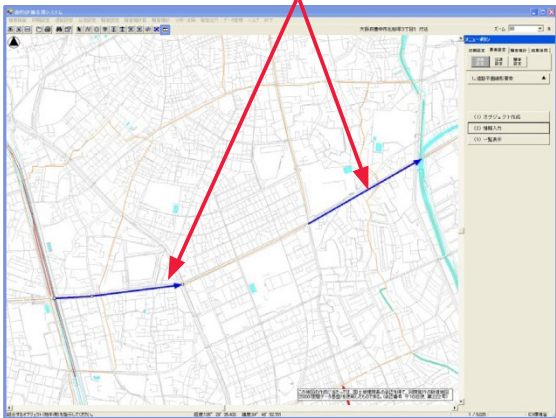
2つの線形・多角形オブジェクトを結合します。

□ 線形オブジェクトの結合

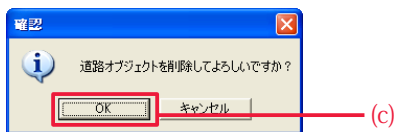
線形オブジェクトはオブジェクト同士のもっとも近い点が直線で結合されます。



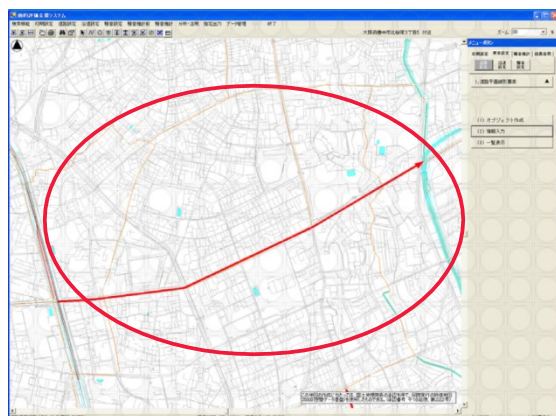
- (a) 結合する2つの線形オブジェクトをクリックします。
 → 線形オブジェクトの色が変わり、[オブジェクトの結合処理]画面が表示されます。



- (b) **はい** をクリックします。
 → [確認]画面が表示されます。



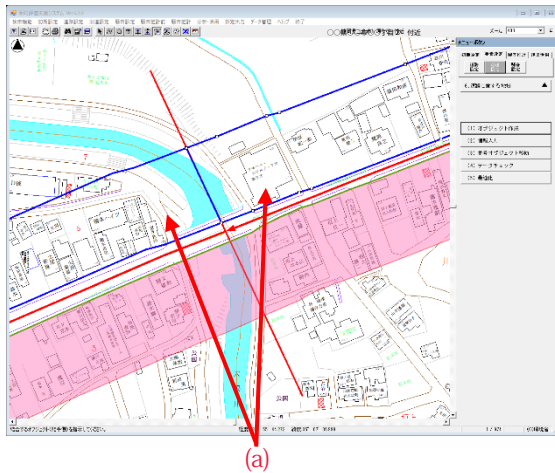
注意
 オブジェクトの結合処理をすると元のオブジェクトと関連する情報が削除されます。



- (c) **はい** をクリックします。
 → 線形オブジェクトが結合されます。

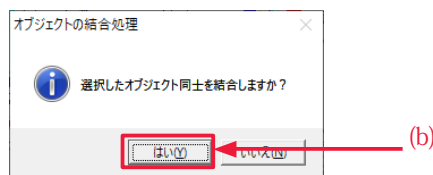
注意
 線形オブジェクトの結合後、起終点の方向が変わることがあるので、確認し、間違っていれば右クリックショートカットメニューの[起終点変更]にて修正してください。

□ 多角形オブジェクトの結合



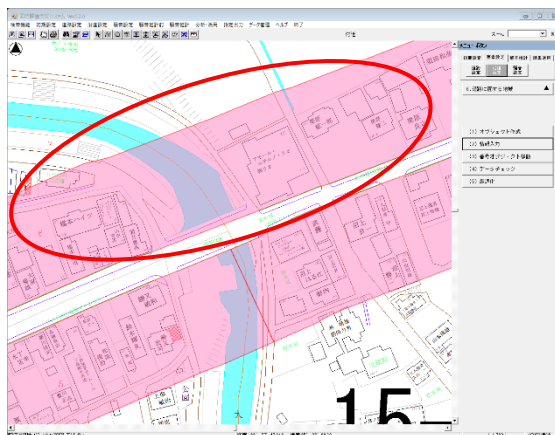
(a)

- (a) 結合する2つの多角形オブジェクトをクリックします。
- ➡ 多角形オブジェクトが枠のみの表示になり、[オブジェクトの結合処理] 画面が表示されます。



(b)

- (b) [はい] をクリックします。



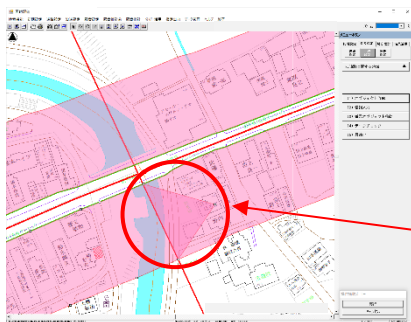
注意

オブジェクトの結合処理をすると元のオブジェクトと関連する情報が削除されます。




- ➡ 多角形オブジェクトが結合されます。


注意

2つの多角形オブジェクトは、辺が接しているか、重なっていないければ結合できません。うまく結合できない場合は頂点の移動を行い、オブジェクト同士を重ねてから再度結合処理を行います。



オブジェクトを重ねる

-  頂点追加ツールで頂点を追加し、 選択ツールで頂点を移動してオブジェクトを重ね、 で結合します。

⑯ 分割ツール 

オブジェクトを分割します。

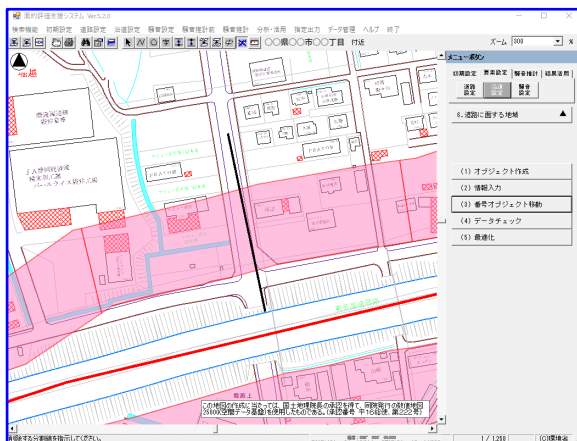
⑰ 分割線作成ツール 


オブジェクトの分割する部分に分割線を作成します。

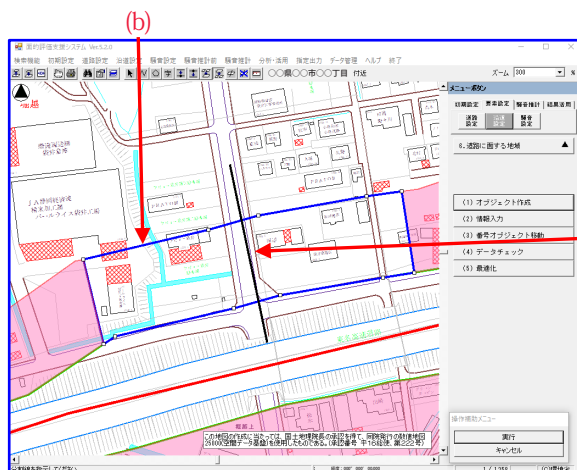
⑱ 分割線削除ツール 


分割線を削除します。

⑯、⑰、⑱のツールを使用してオブジェクトを分割します。線形、多角形とも分割できます。



(a) 分割線作成ツール  で分割する位置に分割線を作成します。



(b) 分割ツール  で分割するオブジェクトの枠をクリックします。

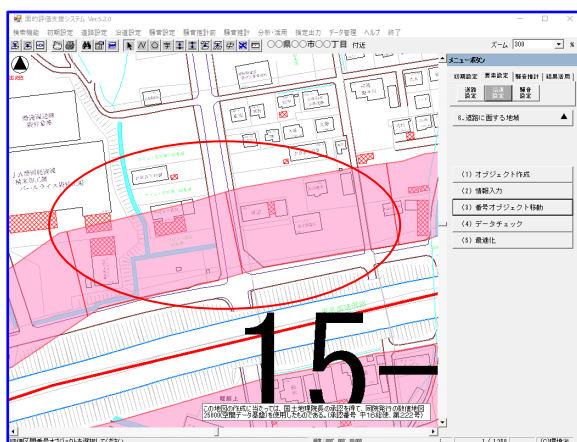
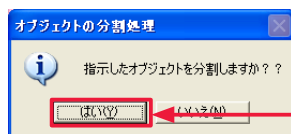
⇒ オブジェクトが枠のみの表示になります。


(c) 分割線をクリックします。

⇒ [オブジェクト分割] 画面が表示されます。


(d)  をクリックします。

⇒ オブジェクトが分割されます。

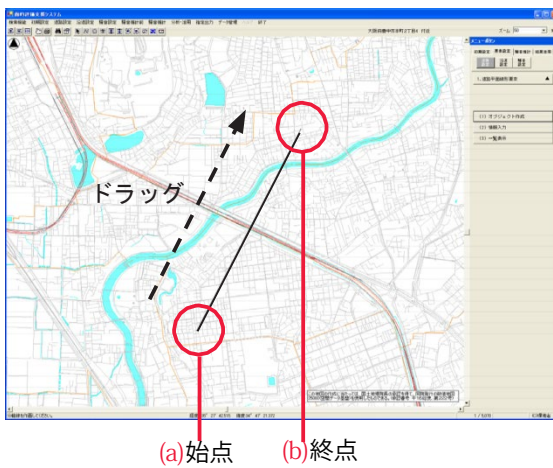


(e) 分割線削除ツール  で削除する分割線をクリックします。

⇒ 分割線が削除されます。

⑨ 距離測定ツール 

メインウインドウに表示された地図の2点間の直線距離を測定します。

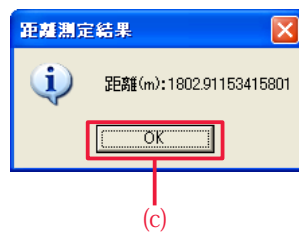



- (a) メインウインドウの地図上で、距離測定の始点となる位置をクリックします。
- (b) そのままドラッグし、距離測定の終点となる位置で放します。

➡ [距離測定結果] 画面に測定した距離が表示されます。

備考

単位は (m) です



 測定結果を確認します。


- (c) をクリックします。

4. 検索機能

検索機能には地図検索、道路交通センサス区間検索、評価区間検索、その他検索があります。検索ツールを使用します。

□ 地図検索

地図に含まれている情報（住所・目標物・宅名・地下／高架・郵便番号）を検索します。

検索ツール  を選択、またはメニューバーの [検索] から [地図検索] を選択します。

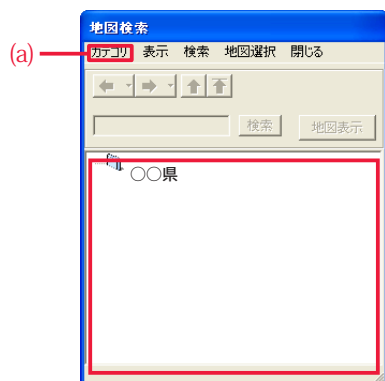
[地図検索] 画面が表示されます。



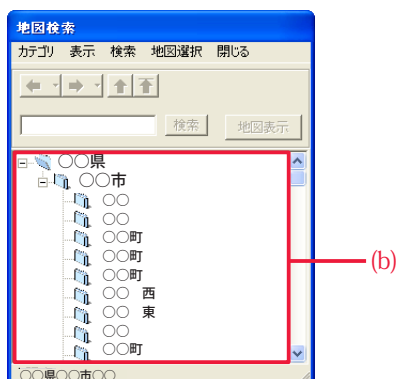
表 4-1 名称と説明

名称	説明	
①メニューバー	カテゴリ	検索の対象を選択します。住所・目標物・宅名・地下／高架下・郵便番号があります。
	表示	検索結果の地図表示の塗りつぶし・色・スタイルを選択します。
	検索	検索方法を選択します。
	地図選択	検索する地図を選択します。
	閉じる	検索を終了します。
②ツールバー	検索階層の移動、検索対象を選択します。	
③検索ウィンドウ	キーワード検索をします。	
④地図表示ボタン	検索結果を地図表示に反映させます。	
⑤操作ウィンドウ	検索項目を表示・選択します。	
⑥メッセージバー	検索状況、検索された件数などを示します。	

・住所検索



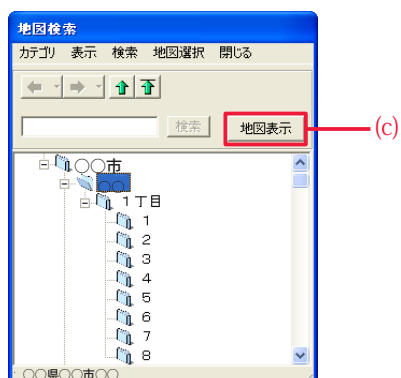
(a) メニューバー [カテゴリ] の [住所] にチェックが付いているか確認します。



(b) 操作ウインドウ内の該当の住所をクリックし、地図表示したい住所を選択します。

備考

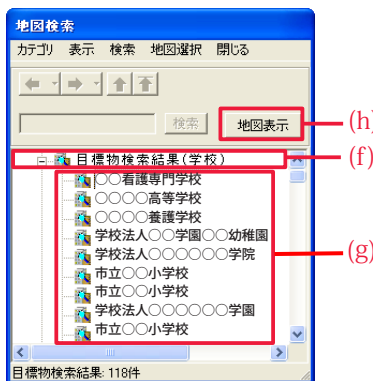
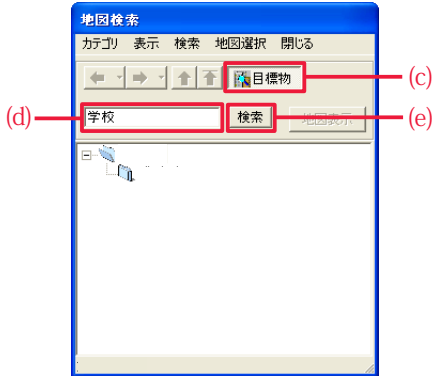
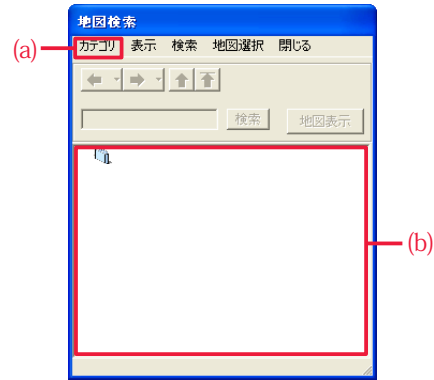
検索したい住所（村・町・大字など）を検索ウインドウに入力し、**検索**をクリックすると、操作ウインドウ内に該当の住所が表示されます。



(c) **地図表示** をクリックします。

➡メインウインドウ内に検索した住所の地域が表示されます。

・目標物検索



(a) メニューバー [カテゴリ] の [目標物] にチェックが付いているか確認します。

(b) 操作ウィンドウ内の項目をクリックします。

→ [目標物] ボタンが表示されます。

(c) [目標物] をクリックします。

(d) 検索ウインドウにキーワードを入力します。

(e) [検索] をクリックします。

→ 操作ウインドウ内に [目標物検索結果] が表示されます。

(f) 操作ウインドウ内の [目標物検索結果] をクリックします。

→ 目標物検索結果が表示されます。

備考

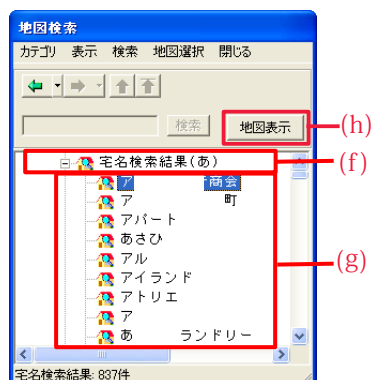
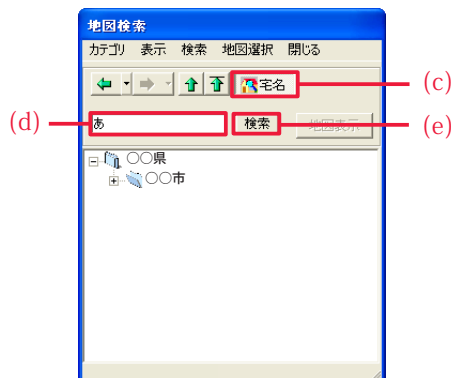
操作ウインドウ内の [目] をクリックすると下の階層が表示されます。[目標物検索結果] の文字をクリックすると検索画面右側に検索結果の住所一覧が表示されます。

(g) 表示する項目を選択します。

(h) [地図表示] をクリックします。

→ メインウインドウ内に検索した目標物が表示されます。

・宅名検索



(a) メニューバー [カテゴリ] の [宅名] にチェックが付いているか確認します。

(b) 操作ウィンドウ内の項目をクリックします。

➡ [宅名] ボタンが表示されます。

(c) [宅名] をクリックします。

(d) 検索ウィンドウにキーワードを入力します。

(e) [検索] をクリックします。

➡ 操作ウィンドウ内に検索結果が表示されます。

(f) 操作ウィンドウ内の [宅名検索結果] をクリックします。

備考

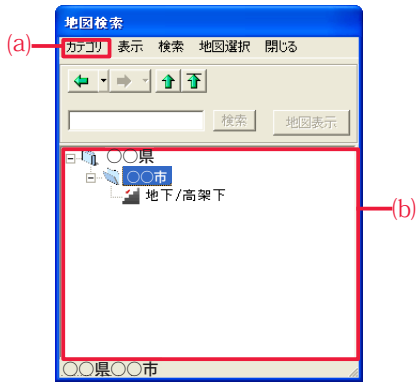
操作ウィンドウ内の ⊞ をクリックすると下の階層が表示されます。[目録物検索結果] の文字をクリックすると検索画面右側に検索結果の住所一覧が表示されます。

(g) 表示する項目を選択します。

(h) [地図表示] をクリックします。

➡ メインウィンドウ内に検索した宅名が表示されます。

・地下／高架下検索



(a) メニューバー [カテゴリ] の [地下／高架下] にチェックが付いているか確認します。

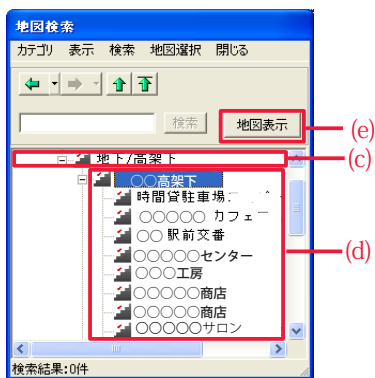
(b) 操作ウインドウ内の項目をクリックします。
 ➔ [地下／高架下] が表示されます。

(c) [地下／高架下] をクリックします。

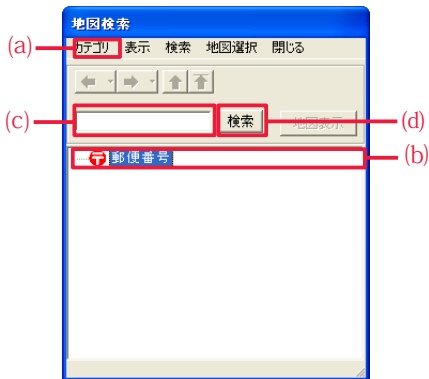
(d) 表示する項目を選択します。

(e) [地図表示] をクリックします。

➔メインウインドウ内に検索した地域が表示されます。



・郵便番号検索



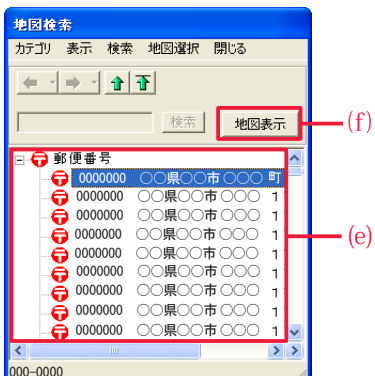
(a) メニューバー [カテゴリ] の [郵便番号] にチェックが付いているか確認します。

(b) 操作ウインドウ内の [郵便番号] をクリックします。

(c) 検索ウインドウにキーワード（番号）を入力します。

(d) [検索] をクリックします。

➔ 操作ウインドウ内に検索結果が表示されます。



(e) 表示する項目を選択します。

(f) [地図表示] をクリックします。

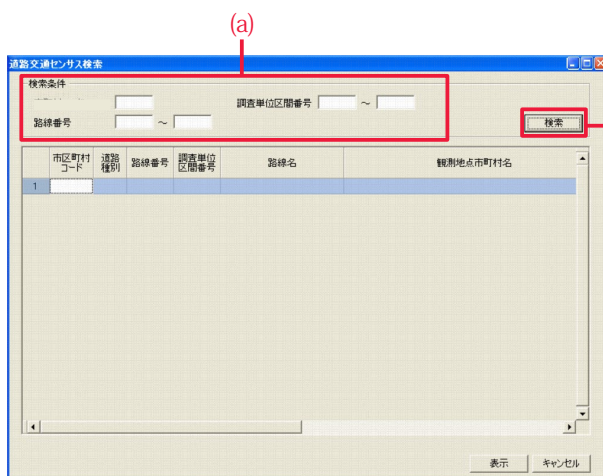
➔メインウインドウ内に検索した住所の地域が表示されます。

□ 道路交通センサス区間検索

道路交通センサス区間の検索をします。(道路交通センサス区間はIV-2-3で設定します。)

メニューバーの「検索機能」から「道路交通センサス区間検索」を選択します。

「道路交通センサス区間検索」画面が表示されます。



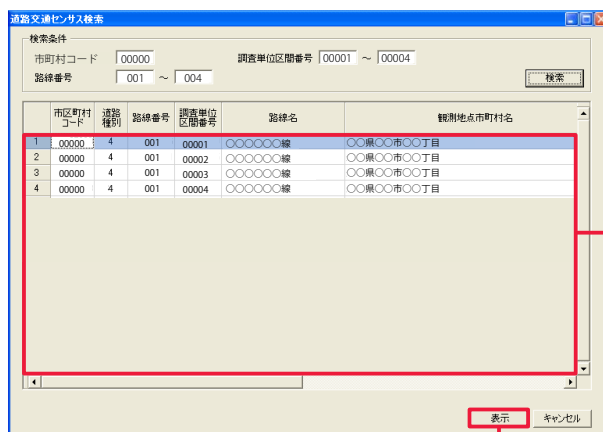
(a) 検索条件を入力します。

(b) 「検索」をクリックします。

➡条件に当てはまる道路交通センサス区間情報が一覧表示されます。

備考

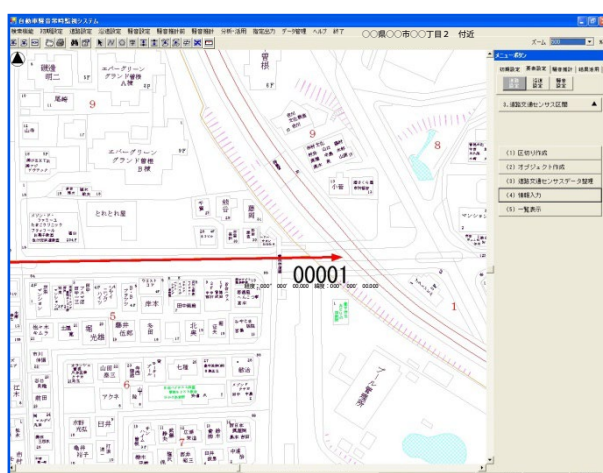
「検索条件」を未入力で「検索」をクリックすると全ての道路交通センサス区間情報を表示します。



(c) 表示する道路交通センサス区間情報を選択します。

(d) 「表示」をクリックします。

➡メインウィンドウ内に該当の道路交通センサス区間番号を中心に表示されます。



注意

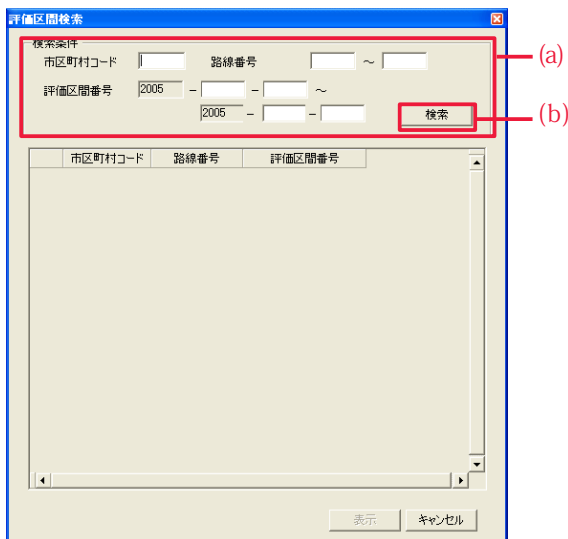
道路交通センサス線形オブジェクトを表示できるメニューボタン (Menu) 「道路設定」 - 「3. 道路交通センサス区間」など) を選択した状態でないと検索された道路交通センサス線形オブジェクトは表示されません。

□ 評価区間検索

評価区間を検索します。(評価区間はIV-3-4で設定します。)

メニューバーの「検索機能」から「評価区間検索」を選択します。

「評価区間検索」画面が表示されます。



(a) 検索条件を入力します。

(b) 「検索」をクリックします。

→ 条件に当てはまる] 評価区間情報が一覧表示されます。

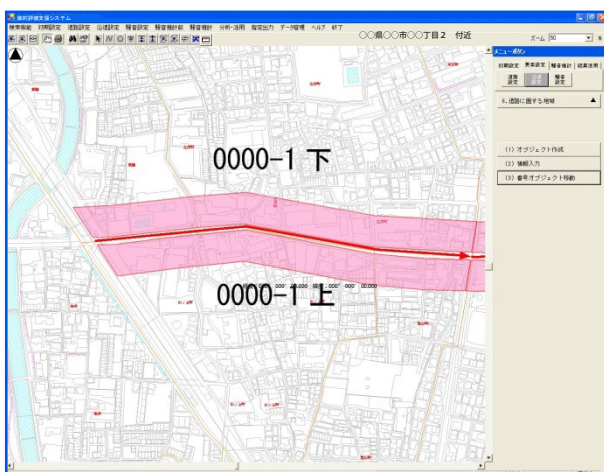
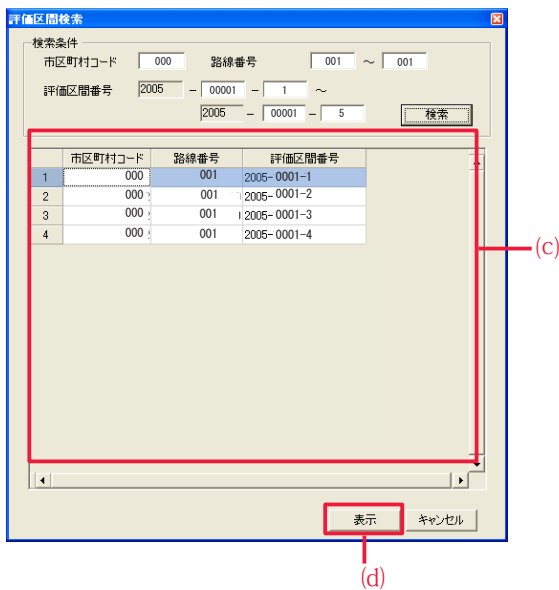
備考

「検索条件」を未入力で「検索」をクリックすると全ての評価区間情報を表示します。

(c) 該当する評価区間情報を選択します。

(d) 「表示」をクリックします。

→ 該当の評価区間番号を中心に表示されます。



注意

評価区間オブジェクトを表示できるメニューボタン (Menu「沿道設定」-「4. 評価区間」など) を選択した状態でないと検索された評価区間オブジェクトは表示されません。

□ その他検索

メニューバーの [検索機能] から [その他検索] を選択します。[その他検索] 画面が表示されます。

・リンクコード検索

The screenshot shows the 'その他検索' dialog box. The 'リンクコード検索' radio button is selected and highlighted with a red box (a). Below it, the search code '40-L0000006' is entered in the text field, also highlighted with a red box (b). At the bottom, the '表示' button is highlighted with a red box and labeled (c). The 'キャンセル' button is also visible.

(a) [リンクコード検索] を選択します。

(b) リンクコードを入力します。

(c) **表示** をクリックします。

➡ 該当するオブジェクトが表示されます。

・緯度経度検索

The screenshot shows the 'その他検索' dialog box. The '緯度経度検索' radio button is selected and highlighted with a red box (a). Below it, the search fields for latitude and longitude are filled with '000' and '000' respectively, also highlighted with a red box (b). At the bottom, the '表示' button is highlighted with a red box and labeled (c). The 'キャンセル' button is also visible.

(a) [緯度経度検索] を選択します。

(b) 緯度・経度を入力します。

(c) **表示** をクリックします。

➡ 該当する地域が表示されます。



IV システムの機能

1. 初期設定

1 概要

システムを使用するために必要な設定をします。

使用者の登録、評価のための基準、各種オブジェクトの表示色・範囲等の設定をします。

2 設定の権限

環境省（システム管理者）・地方公共団体他（使用者）ごとに初期設定における操作可能・不可能を示します。

設定不可能の項目についてはボタンをグレー表示し設定できないようにしています。

表 1-1 設定の権限

項 目	区 分	環境省（システム管理者）					地方公共団体他（使用者）					
		表示 (検索)	新規	修正	削除	選択	表示 (検索)	新規	修正	削除	選択	
1. 都道府県・市区町村コード	—	○	—	○	—	—	○	—	○	—	—	
2. GIS 地図	(1) 地図設定	表示項目	○	—	×	—	×	○	—	×	—	×
		色とスタイル	○	—	○	—	○	○	—	○	—	○
		表示する地図	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		表示範囲	○	—	○	—	○	○	—	○	—	○
		表示順	○	—	○	—	—	○	—	○	—	—
3. 縮尺率	—	○	○	○	○	—	○	○	○	○	—	
4. 画面表示	—	○	—	○	—	—	○	—	○	—	—	
5. 基準年度	—	○	○	○	○	—	○	○	○	○	—	
6. 評価基準	類型指定あり	○	○	○	○	—	○	×	×	×	—	
	類型指定なし	○	○	○	○	—	○	○	○	○	—	
7. 評価対象道路	—	○	—	○	—	—	○	—	×	—	—	
8. 都市計画用途地域	—	○	—	○	—	—	○	—	×	—	—	
9. 環境基準類型指定地域	—	○	—	○	—	—	○	—	×	—	—	
10. 道路に面する地域	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	
11. 距離帯	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	
12. 建物階数高さ	—	○	—	○	—	—	○	—	○	—	—	
13. 建物用途	—	○	—	○	—	—	○	—	○	—	—	
14. 環境基準類型指定地域毎の残留騒音レベル	—	○	—	○	—	—	○	—	○	—	—	
15. 背後地騒音推計式	(1) 背後地騒音推計式	—	○	—	—	—	○	—	—	—	—	
	(2) 推計式パラメータ	—	○	—	○	—	○	—	○	—	—	
16. 騒音レベル等高線図	—	○	—	○	—	—	○	—	○	—	—	
17. 評価区間状況	—	○	—	○	—	—	○	—	○	—	—	
18. 建物状況	—	○	—	○	—	—	○	—	○	—	—	
19. 環境 GIS 設定	—	○	—	○	—	○	○	—	○	—	○	

○：操作可能、×：操作不可能、—：無し

3 デフォルトと設定範囲

項 目		区 分	デフォルト	設定範囲	
1. 都道府県・市区町村コード		—	—	プルダウンから選択	
2. GIS 地図	(1) 地図設定	表示項目	[1-2 GIS 地図] 参照	任意設定	
		色とスタイル	[1-2 GIS 地図] 参照	任意設定	
		表示する地図	Zmap-TOWN II 数値地図 25000 (空間データ基盤) 基盤地図情報 25000	任意設定	
		表示範囲	0.02 ~ 1,000%	0.02 ~ 1,000%	
		表示順	—	—	
3. 縮尺率		—	[1-3 縮尺率] 参照	1~1,000% (整数)	
4. 画面表示		—	全て表示	任意設定	
5. 基準年度		—	—	任意設定	
6. 評価基準		類型指定あり	環境基準で定められた値	既定値	
		類型指定なし	B 類型の値	既定値	
7. 評価対象道路		—	[1-7 評価対象道路] 参照	—	
8. 都市計画用途地域		—	[1-8 都市計画用途地域] 参照	—	
9. 環境基準類型指定地域		—	[1-9 環境基準類型指定地域] 参照	—	
10. 道路に面する地域		—	50m	既定値	
11. 距離帯		—	10m	既定値	
12. 建物階数高さ		—	3.0m	2.0 ~ 10.0m (小数第 1 位)	
13. 建物用途		—	[1-13 建物用途] 参照	プルダウンから選択	
14. 環境基準類型指定地域毎の 残留騒音レベル	AA 類型	昼	50	0 ~ 99dB (整数)	
		夜	40		
	A 類型	昼	55		
		夜	45		
	B 類型	昼	55		
		夜	45		
	C 類型	昼	60		
		夜	50		
	類型指定 地域外	昼	55		
		夜	45		
15. 背後地騒音推計式 (1) 背後地騒音推計式		—	ASJ RTN-Model 2018	既定値	
(2) 推計式パラメータ	道路 構造	幹線道路 側道・副 道	車線数	2 車線	1 ~ 8 車線
			幅員 (m)	2.75	2.75、3.00、3.25、3.50 1.50 ~ 任意 (小数第 2 位)
			路面の種類	密粒舗装	密粒舗装、排水性舗装
			音源	中央	中央、右、左、無
			施工後年度数	0 年	0 年、1 年、2 年、3 年、4 年、5 年以上 (整数)
			構造物音源 (m)	1.00	無、1.00、1.50、2.00、2.50、 3.00、任意 (小数第 2 位)
		中央帯 歩道 路肩 空き地等	幅員 (m)	1.00	0.10 ~ 任意 (小数第 2 位)
			路面の種類	コンクリート・アスファルト	コンクリート・アスファルト 固い地面 草地 柔らかい畑地
			縁石	無	有、無
			斜面等	幅員 (m)	2.00
	斜面等	高さ (m)	1.00	0.20 ~ 任意 (小数第 2 位)	
		地表面の種類	固い地面	コンクリート・アスファルト 固い地面 草地 柔らかい畑地	
		吸音率 (%)	2.0	路面種類により決定 (小数第 1 位)	
		反射音補正 (dB)	0.0	任意 (小数第 1 位)	

項目	区分	デフォルト	設定範囲	
(2) 推計式パラメータ	掘割	高さ・深さ (m)	5.00	0.10 ~ 任意 (小数第 2 位)
		掘割側壁吸音対策	無	有、無
		吸音率 (%)	「掘割側壁吸音対策」が「有」の場合 85.0、「無」の場合 2.0 (固定)	掘割側壁吸音対策が「無」の場合 2.0 で固定。その他 0.0 ~ 100.0 (小数第 1 位)
		有限長補正 (dB)	0.0	任意 (小数第 1 位)
	壁等	幅 (m)	0.10	0.10 ~ 任意 (小数第 2 位)
		高さ (m)	2.00	0.50 ~ 任意 (小数第 2 位)
		障壁の種類	従来型直壁	従来型直壁 ノイズリデューサー 大型分岐 土工部用分岐 橋梁部用分岐 張り出し 3m 張り出し 5m
		張り出し長さ (m)	障壁の種類による。下記 () 内 がデフォルト値 従来型直壁 (0.0) ノイズリデューサー (1.5) 大型分岐 (1.5) 土工部用分岐 (1.0) 橋梁部用分岐 (0.0) 張り出し 3m (3.0) 張り出し 5m (5.0)	直壁、ノイズリデューサーの場合、 入力不可とする。(小数第 1 位)
		壁材質 (吸音率)	金属板 (統一型遮音壁) (75.0)	金属板 (統一型遮音壁) (75.0) 金属板 (0.0) アクリル板 (0.0) その他 (0.0)
		空隙率 (%)	0.0	任意 (小数第 1 位)
		植樹帯	場所	全体
	幅 (m)			
	高さ (m)		土台となるパーツの幅員の値	0.20 ~ 任意 (小数第 2 位)
	植栽個数		1	1 ~ 6
	吸音補正 (dB)		0.0	任意 (小数第 1 位)
	高架	高さ (m)	8.00	0.50 ~ 任意 (小数第 2 位)
		高欄高さ (m)	0.50	0.10 ~ 任意 (小数第 2 位)
		種類	鋼橋：鋼床版鋼箱桁橋	鋼橋：鋼床版鋼箱桁橋 鋼橋：コンクリート床版鋼箱桁橋 鋼橋：コンクリート床版鋼板桁橋 コンクリート橋：I 桁 コンクリート橋：I 桁以外
		高架裏面吸音板	有	無、有
		吸音率 (%)	90.0	0 ~ 100.0 (小数第 1 位)
	沿道設定	街区地表面種類	固い地面	コンクリート・アスファルト 固い地面 草地 柔らかい畑地
		建物構造	未調査	未調査、コンクリート造、その他
	16. 騒音レベル等高線図		1 dB	1、2、3、5dB
	17. 評価区間状況		[1-17 評価区間状況] 参照 レンジは「環境 GIS」に合わせて あります。	住居密度：4 段階 環境基準達成状況：1 ~ 11 段階
	18. 建物状況		[1-19 建物状況] 参照	1 ~ 11 段階
	19. 環境 GIS 設定		シェープファイル	シェープファイル、MapInfo (MID/MIF)、G-XML2.0
	20. 騒音レベル実測補正		3dB	

備考

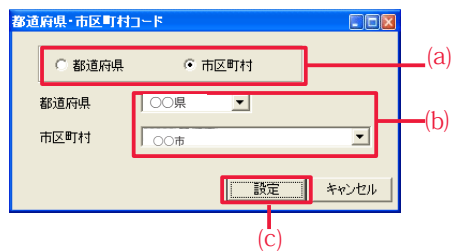
青字項目については "ASJ RTN-Model 2018" 推計式のパラメータとして使用します。

1 - 1 都道府県・市区町村コード

1 概要

使用者の設定を行います。「統計に用いる標準地域コード（環境省の報告要領）」に基づいて、使用者（地方公共団体等）の都道府県、市区町村を登録します。

2 手順



[Menu] [初期設定] - [1. 都道府県・市区町村コード]

➡ [都道府県・市区町村コード] 設定画面が表示されます。

(a) [都道府県] または [市区町村] を選択します。

(b) 該当の項目をプルダウンから選択します。

(c) [設定] をクリックします。

➡ 都道府県・市区町村コードが設定されます。

1-2 GIS 地図

1 概要

地図データの表示等について設定します。

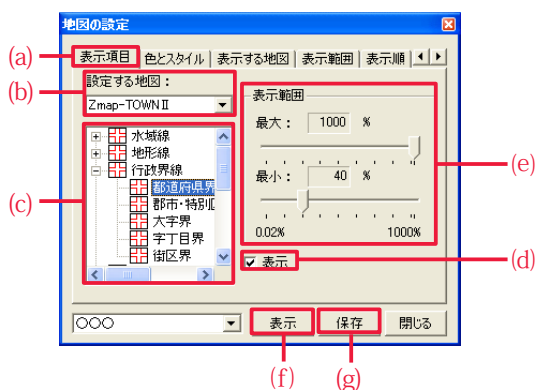
2 手順

(1) 地図設定

地図データの表示等について設定します。

□ 表示項目

項目ごとの表示・非表示および表示ズーム範囲を設定します。



[Menu] [初期設定] - [2. GIS地図] - [(1) 地図設定]

⇒ [地図の設定] 画面が表示されます。

(a) [表示項目] のタブをクリックします。

⇒ [表示項目] 画面が表示されます。

(b) [設定する地図] を選択します。

(c) 項目を選択します。

(d) [表示] チェックボックスで表示・非表示を切り替えます。

(e) [表示範囲] の [最大] [最小] を、スライダーを移動して設定します。

(f) [表示] をクリックします。

⇒ 設定が地図に表示されます。

👁️ 地図表示を確認します。

(g) [保存] をクリックします。

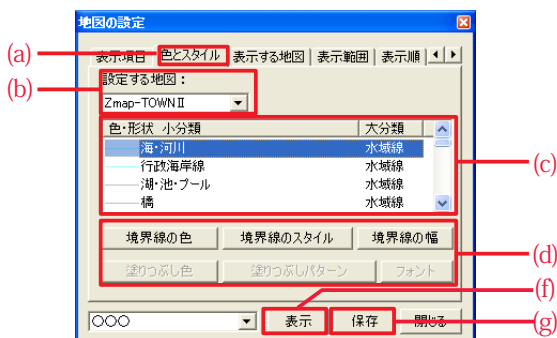
⇒ 表示項目が設定されます。

注意

[保存] をクリックしないと設定が地図に反映されません。

□ 色とスタイル

表示する地図項目の色とスタイルを設定します。



(a) [色とスタイル] のタブをクリックします。

⇒ [色とスタイル] 画面が表示されます。

(b) [設定する地図] を選択します。

(c) 項目を選択します。

(d) スタイル項目を選択します。

(e) 色・線・パターンを各画面で設定します。

(f) [表示] をクリックします。

⇒ 設定が地図に表示されます。

👁️ 地図表示を確認します。

(g) [保存] をクリックします。

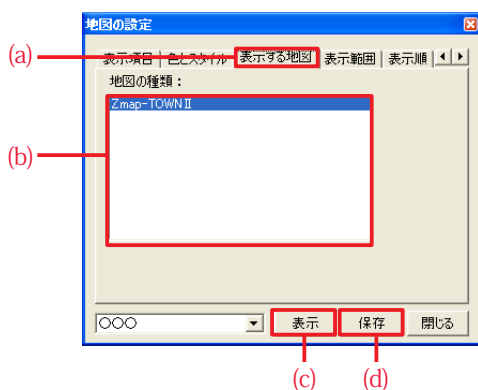
⇒ 色とスタイルが設定されます。

注意

[保存] をクリックしないと設定が地図に反映されません。

□ 表示する地図

表示する地図を設定します。



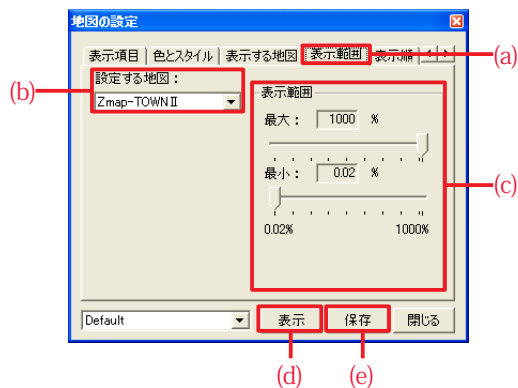
- (a) [表示する地図] のタブをクリックします。
 - ➔ [表示する地図] 画面が表示されます。
- (b) [地図の種類] を選択します。
- (c) [表示] をクリックします。
 - ➔ 設定が地図表示に反映されます。
- 👁️ 地図表示を確認します。
- (d) [保存] をクリックします。
 - ➔ 表示する地図が設定されます。

注意

[保存] をクリックしないと設定が地図に反映されません。

□ 表示範囲

表示する地図の表示ズーム範囲を設定します。



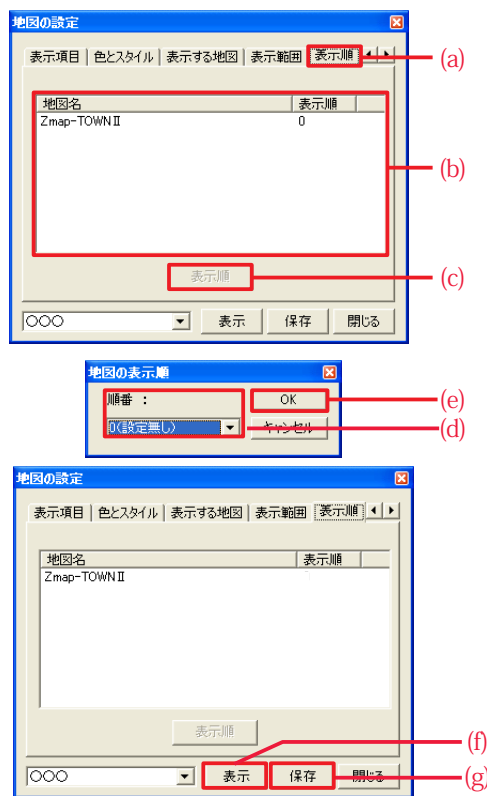
- (a) [表示範囲] のタブをクリックします。
 - ➔ [表示範囲] 画面が表示されます。
- (b) [設定する地図] を選択します。
- (c) [表示範囲] の [最大] [最小] を、スライダーを移動して設定します。
- (d) [表示] をクリックします。
 - ➔ 設定が地図表示に反映されます。
- 👁️ 地図表示を確認します。
- (e) [保存] をクリックします。
 - ➔ 表示範囲が設定されます。

注意

[保存] をクリックしないと設定が地図に反映されません。

□ 表示順

2種類の地図を使用する場合、表示する優先順を設定します。



(a) [表示順] のタブをクリックします。

⇒ [表示順] 画面が表示されます。

(b) [地図名] を選択します。

(c) [表示順] をクリックします。

⇒ [地図の表示順] 画面が表示されます。

(d) [順番] を選択します。

(e) [OK]をクリックします。

(f) [表示]をクリックします。

⇒ 設定が地図表示に反映されます。

👁️ 地図表示を確認します。

(g) [保存]をクリックします。

⇒ 表示順が設定されます。

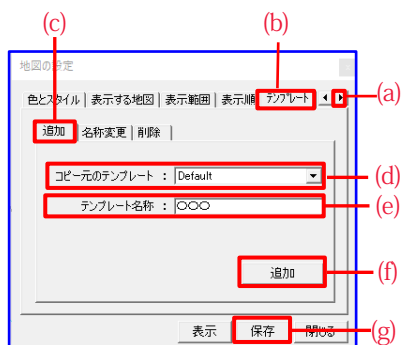
注意

[保存]をクリックしないと設定が地図に反映されません。

□ テンプレート

設定内容をテンプレートとして保存します。

・テンプレートの追加

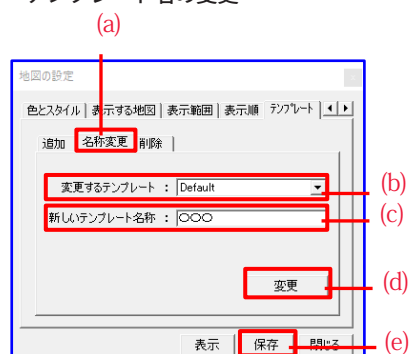


- (a) をクリックします。
➡ [テンプレート] のタブが表示されます。
- (b) [テンプレート] のタブをクリックします。
➡ [テンプレート] 画面が表示されます。
- (c) [追加] のタブをクリックします。
- (d) [コピー元のテンプレート名] を選択します。
- (e) [テンプレート名称] を入力します。
- (f) [追加] をクリックします。
➡ テンプレートが追加されます。
- (g) [保存] をクリックします。

point

設定をテンプレートに保存する場合は左下の欄にテンプレート名を表示させ、地図を設定し、[保存] をクリックします。

・テンプレート名の変更

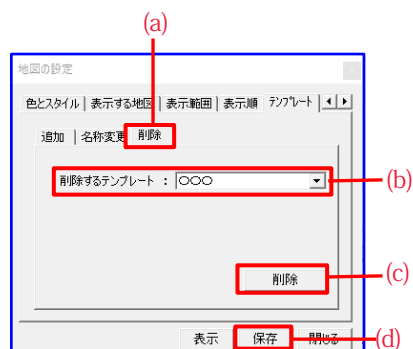


- (a) [名称変更] のタブをクリックします。
- (b) [変更するテンプレート名] を選択します。
- (c) [新しいテンプレート名称] を入力します。
- (d) [変更] をクリックします。
➡ テンプレート名が変更されます。
- (e) [保存] をクリックします。

注意

[保存] をクリックしないと設定が地図に反映されません。

・テンプレート名の削除



- (a) [削除] のタブをクリックします。
- (b) [削除するテンプレート名] を選択します。
- (c) [削除] をクリックします。
- (d) [保存] をクリックします。

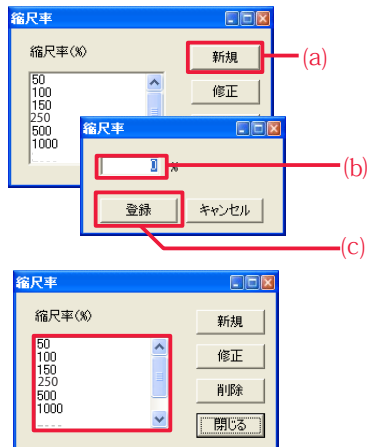
1-3 縮尺率

1 概要

地図表示の縮尺率を設定します。

2 手順

□ 新規



[Menu] [初期設定] - [3. 縮尺率]

→ [縮尺率] 設定画面が表示されます。

(a) [新規] をクリックします。

→ [縮尺率-新規] 画面が表示されます。

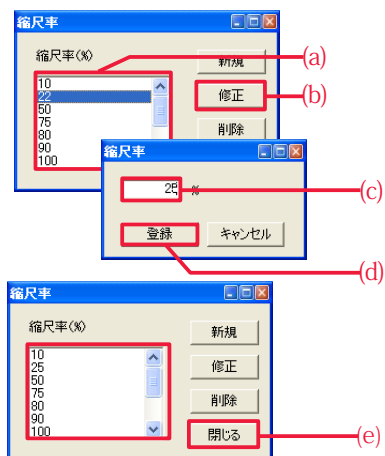
(b) 縮尺率を入力します。

(c) [登録] をクリックします。

👁️ 縮尺率が新規に登録され、一覧に表示されたのを確認します。

(d) [閉じる] をクリックします。

□ 修正



(a) 修正する縮尺率を選択します。

(b) [修正] をクリックします。

→ [縮尺率-修正] 画面が表示されます。

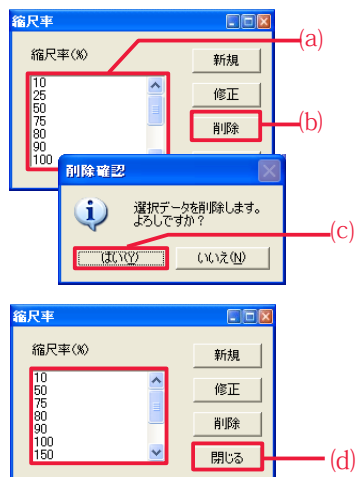
(c) 縮尺率を修正します。

(d) [登録] をクリックします。

👁️ 縮尺率が修正され、一覧に表示されたのを確認します。

(e) [閉じる] をクリックします。

□ 削除



(a) 削除する縮尺率を選択します。

(b) [削除] をクリックします。

→ [削除確認] 画面が表示されます。

(c) [はい] をクリックします。

👁️ 一覧から削除されたのを確認します。

(d) [閉じる] をクリックします。

備考

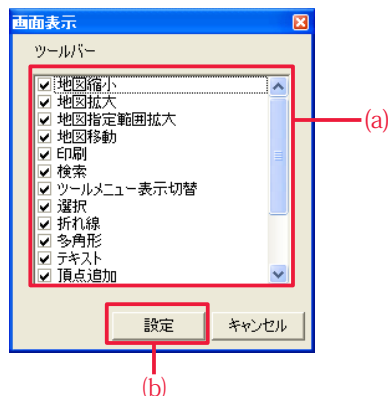
デフォルトは5、10、20、50、100、150、250、500、700、1,000です。追加する場合に行ってください。

1-4 画面表示

1 概要

ツールバーのツールの表示、非表示の設定を行います。

2 手順



[Menu] [初期設定] - [4. 画面表示]

→ [画面表示] 設定画面が表示されます。

(a) チェックボックスをクリックし、表示するものにはチェックを入れ (☑)、非表示のものははずします (☐)。

(b) [設定] をクリックします。

→ 画面表示が設定されます。

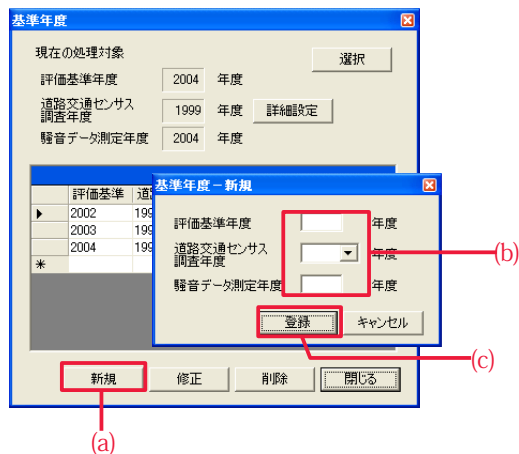
1-5 基準年度

1 概要

評価基準年度、道路交通センサス調査年度、騒音データ測定年度を設定します。

2 手順

□ 新規



[Menu] [初期設定] - [5. 基準年度]

→ [基準年度] 設定画面が表示されます。

(a) [新規] をクリックします。

→ [基準年度-新規] 画面が表示されます。

(b) 該当する項目を入力します。

(c) [登録] をクリックします。

→ 一覧に追加されます。

(d) 一覧から新規登録した年度を選択します。([評価基準年度] [道路交通センサス調査年度] [騒音データ測定年度] は連動しています。)

(e) [選択] をクリックします。

→ 基準年度が設定されます。

👁️ [現在の処理対象] の表示を確認します。

(f) [閉じる] をクリックします。

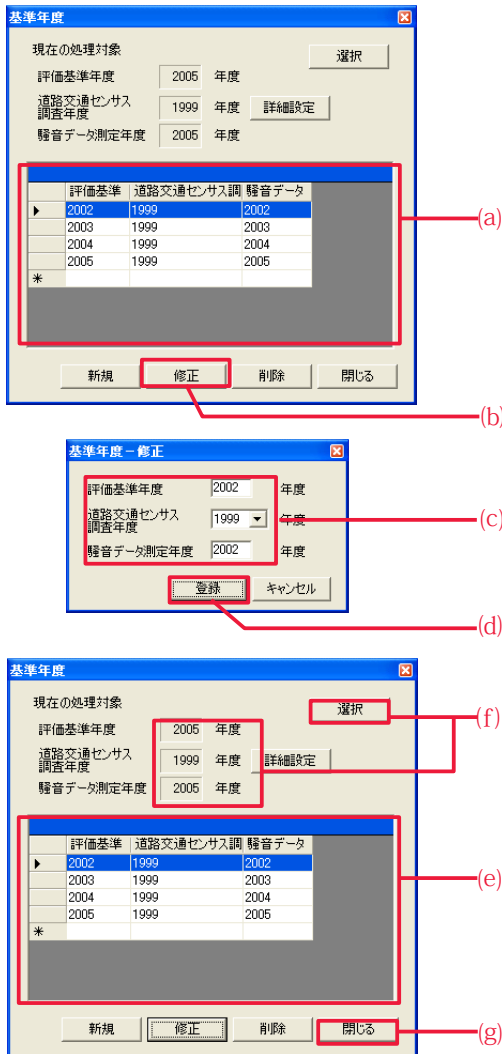
注意

評価基準年度：面的評価を行う年度とします。
 道路交通センサス調査年度：道路交通センサスの調査年度とします。
 騒音データ測定年度：自動車騒音調査報告の年度とします。

備考

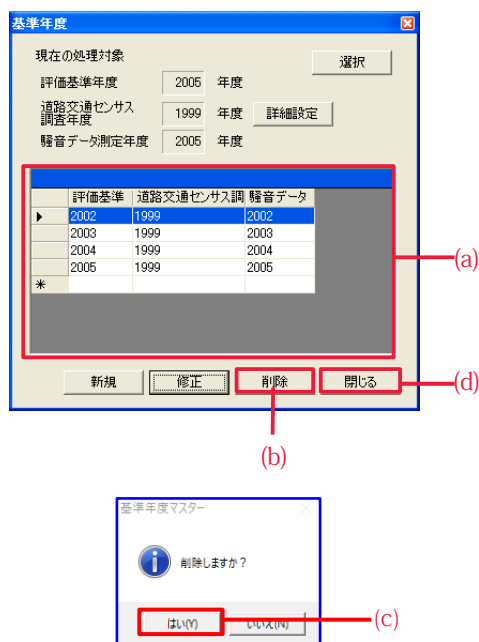
過年度のデータを利用して新規年度の評価を行う場合は、「別冊過年度データの活用方法」を参照して下さい。

□ 修正



- (a) 修正する項目を選択します。
- (b) **修正**をクリックします。
→ [基準年度一修正] 画面が表示されます。
- (c) 該当する項目を修正します。
- (d) **登録**をクリックします。
→ 一覧に追加されたのを確認します。
- (e) 一覧から修正した年度を選択します。([評価基準年度] [道路交通センサ調査年度] [騒音データ測定年度] は連動しています。)
- (f) **選択**をクリックします。
→ 基準年度が設定されます。
- (g) **閉じる**をクリックします。

□ 削除



- (a) 一覧から削除する年度を選択します。([評価基準年度] [道路交通センサ調査年度] [騒音データ測定年度] は連動しています。)
- (b) **削除**をクリックします。
→ [削除確認] 画面が表示されます。
- (c) **はい**をクリックします。
→ 基準年度が削除されます。
- (d) **閉じる**をクリックします。

□ 道路交通センサ調査年度設定

(a) [詳細設定] をクリックします。

⇒ [道路交通センサ調査年度] 画面が表示されます。

(b) [検索条件] の項目を入力します。

(c) [検索] をクリックします。

⇒ 該当の市区町村、道路交通センサ調査年度が表示されます。

備考

[検索条件] を空白で検索すると、初期設定の都道府県・市区町村コードを都道府県単位で設定した場合、該当する全ての市区町村が表示され、市区町村単位で設定した場合、設定された市区町村のみ表示されます。

(d) 修正する項目を選択します。

(e) [修正] をクリックします。

⇒ [道路交通センサ調査年度 詳細] 画面が表示されます。

備考

センサデータをインポートしてから行ってください。

(f) 該当する項目を入力します。

(g) [登録] をクリックします。

⇒ 一覧に表示されます。

(h) [閉じる] をクリックします。

(i) [閉じる] をクリックします。

備考

道路交通センサ調査年度を設定していない市区町村には、基準年度画面で設定された道路交通センサ調査年度が設定されます。

1-6 評価基準

1 概要

評価対象道路の評価基準値を設定します。

環境基準類型指定のない地域を通る道路を評価するための基準値を設定します。

デフォルトでは B 類型の基準を用いて評価します。必要に応じて設定してください。

2 手順

□ 新規

[Menu] [初期設定] - [6. 評価基準]

→ [評価基準] 設定画面が表示されます。

(a) [新規] をクリックします。

→ [評価基準-新規] 画面が表示されます。

(b) 該当する項目を入力します。

(c) [登録] をクリックします。

→ 登録した評価基準が一覧に追加されます。

(d) [閉じる] をクリックします。

□ 修正

履歴年月日	環境基準類	車線数	環境基準(昼)	環境基準(夜)	環境基準(昼)
2007/12/29	1	1	50	40	50
2007/12/29	1	2	50	40	50
2007/12/29	2	1	70	65	55
2007/12/29	2	2	70	65	60
2007/12/29	3	1	70	65	55
2007/12/29	3	2	70	65	65
2007/12/29	4	1	70	65	65
2007/12/29	4	2	70	65	65
2007/02/02	0	1	70	65	65

(a) [検索条件設定] の項目を入力します。

(b) [検索] をクリックします。

→ 該当の評価基準が表示されます。

備考

[検索条件設定] を空白で検索すると全ての評価基準が表示されます。

備考

環境基準類型指定番号
 指定無し：0 AA 類型：1 A 類型：2
 B 類型：3 C 類型：4

(c) 修正する評価基準を選択します。

(d) [修正] をクリックします。

→ [評価基準-修正] 画面が表示されます。

(e) 該当する項目を修正します。

(f) [登録] をクリックします。

→ 評価基準が修正されます。

(g) [閉じる] をクリックします。

備考

環境基準類型指定地域を通過する評価対象道路には環境基準で定められた基準を適用するので設定値の変更はできません。環境省（システム管理者）のみ設定可能です。

□ 削除

履歴年月日	環境基準種類	車線数	環境基準GE	環境基準GE	環境基準GE
2007/12/29	1	1	50	40	50
2007/12/29	1	2	50	40	50
2007/12/29	2	1	70	65	55
2007/12/29	2	2	70	65	60
2007/12/29	3	1	70	65	55
2007/12/29	3	2	70	65	65
2007/12/29	4	1	70	65	65
2007/12/29	4	2	70	65	65
2023/02/02	0	1	70	65	65

(a) [検索条件設定] の項目を入力します。

(b) **検索** をクリックします。

➡ 該当の評価基準が表示されます。

備考

[検索条件設定] を空白で検索すると全ての評価基準が表示されます。

(c) 削除する評価基準を選択します。

(d) **削除** をクリックします。

➡ 削除確認が表示されます。

(e) **はい** をクリックします。

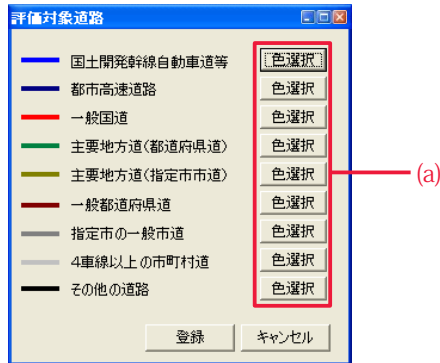
➡ 評価基準が削除されます。

1-7 評価対象道路

1 概要

評価対象道路における道路平面線形オブジェクト・道路交通センサ線形オブジェクトの色を設定します。
環境省（システム管理者）のみ設定可能です。

2 手順

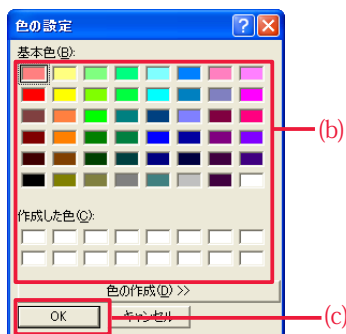


Menu [初期設定] - [7. 評価対象道路]

⇒ [評価対象道路] 設定画面が表示されます。

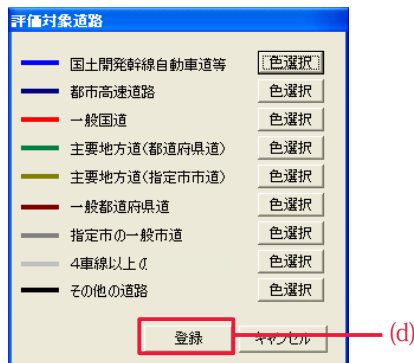
(a) [色選択] をクリックします。

⇒ [色選択] 画面が表示されます。



(b) 該当する色を選択します。*1

(c) [OK] をクリックします。



(d) 全ての項目の色を決定したら [登録] をクリックします。

⇒ 道路平面線形オブジェクト・道路交通センサ線形オブジェクトの色が設定されます。

備考

*1 基本色以外の色を作成し、使用することもできます。



(a) [色の設定] 画面で [色の作成] をクリックします。

⇒ カラーパレットが表示されます。

(b) カラーパレット上で作成したい色の部分をクリックします。右のカラーバーでは明度の調整をします。

👁️ カラーボックスに表示された色が作成される色です。

(c) [色の追加] をクリックします。

⇒ [作成した色] に追加されます。

(d) [OK] をクリックします。

1 - 8 都市計画用途地域

1 概要

都市計画用途地域オブジェクトの色を設定します。環境省（システム管理者）のみ設定可能です。

2 手順



Menu [初期設定] - [8. 都市計画用途地域]

➔ [都市計画用途地域] 設定画面が表示されます。

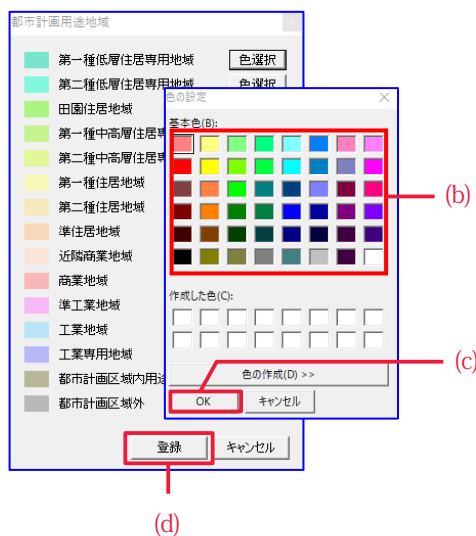
(a) [色選択] をクリックします。

➔ [色選択] 画面が表示されます。

(b) 該当する色を選択します。

参考・例

[色の作成] の手順は [IV - 1 - 7 評価対象道路] の備考を参照してください。



(c) [OK] をクリックします。

(d) 全ての項目の色を決定したら [登録] をクリックします。

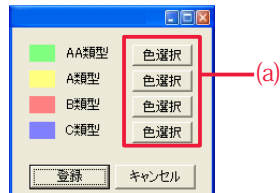
➔ 都市計画用途地域オブジェクトの色が設定されます。

1-9 環境基準類型指定地域

1 概要

環境基準類型指定地域オブジェクトの色を設定します。環境省（システム管理者）のみ設定可能です。

2 手順



[Menu] [初期設定] - [9. 環境基準類型指定地域]

→ [環境基準類型指定地域] 設定画面が表示されます

(a) [色選択] をクリックします。

→ [色選択] 画面が表示されます。

(b) 該当する色を選択します。



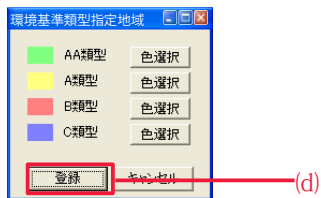
(c) [OK] をクリックします。

(d) 全ての項目の色を決定したら [登録] をクリックします。

参考・例

[色の作成] の手順は [IV-1-7 評価対象道路] の備考を参照してください。

→ 環境基準類型指定地域オブジェクトの色が設定されます。

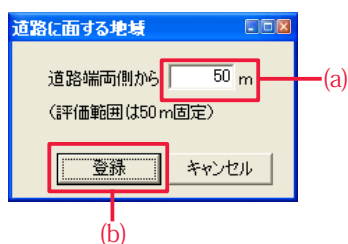


1-10 道路に面する地域

1 概要

道路に面する地域(表示用)の道路端からの奥行きを設定します。50m～200mの範囲で任意に設定します。ただし、常時監視(面的評価)の範囲は50mで固定です。

2 手順



[Menu] [初期設定] - [10. 道路に面する地域]

→ [道路に面する地域] 設定画面が表示されます。

(a) [道路端両側から] の距離を入力します。

(b) [登録] をクリックします。

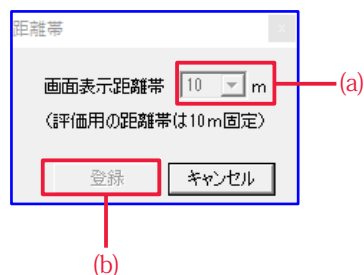
→ 道路に面する地域の範囲が設定されます。

1 - 1 1 距離帯

1 概要

距離帯（表示用）の幅を、無、5、10、25、50mから設定します。
ただし、距離帯（面的評価）は10mで固定です。

2 手順



Menu [初期設定] - [1 1. 距離帯]

→ [距離帯] 設定画面が表示されます。

(a) 画面表示距離帯の幅を入力します。

(b) **登録** をクリックします。

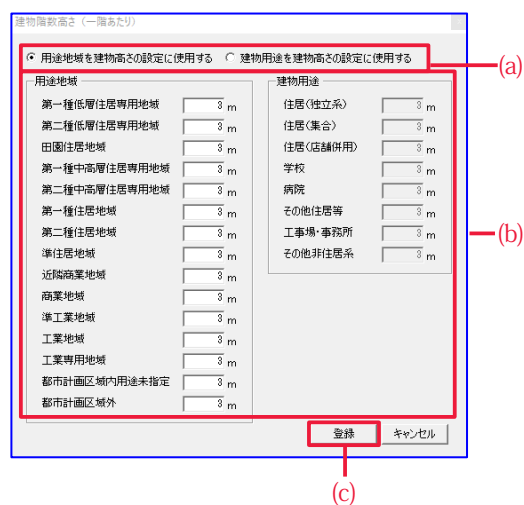
→ 距離帯の幅が設定されます。

1 - 1 2 建物階数高さ

1 概要

都市計画用途地域別または建物用途別に建物の高さ（一階あたり）を設定します。2～10mの範囲で設定します。

2 手順



Menu [初期設定] - [1 2. 建物階数高さ]

→ [建物階数高さ（一階あたり）] 設定画面が表示されます。

(a) 都市計画用途地域別の設定を使用するか、建物用途別の設定を使用するかを選択します。

(b) 建物階数高さを入力します。

(c) **登録** をクリックします。

→ 建物階数高さが設定されます。

1-13 建物用途

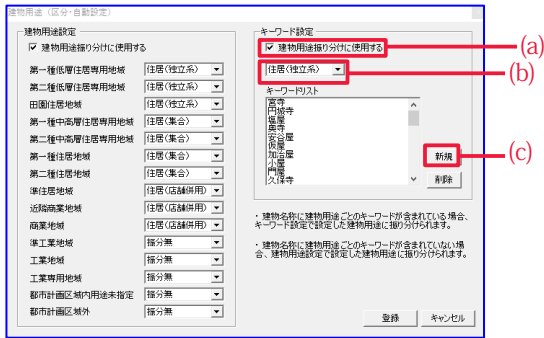
1 概要

建物用途自動設定のための建物用途振り分けキーワード・用途地域別振り分けを設定します。

キーワードによる振り分けを優先とし、名称にキーワードが含まれていないものには、都市計画用途地域ごとの建物用途設定により振り分けれます。

2 手順

□ キーワード設定 (新規)



[Menu] [初期設定] - [13. 建物用途]

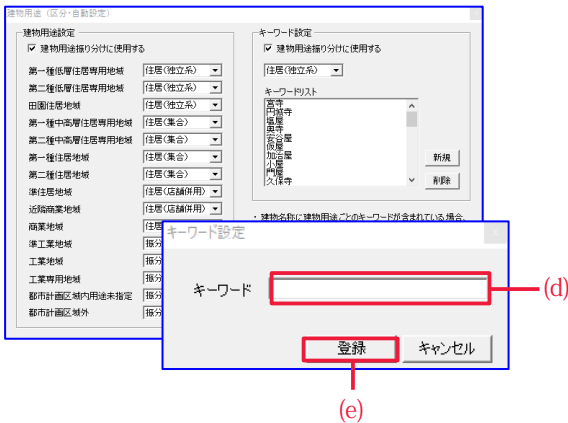
⇒ [建物用途 (区分・自動設定)] 設定画面が表示されます。

(a) [キーワード設定] [建物用途振り分けに使用する] にチェック (☑) を入れます。

(b) キーワードによって当てはめる建物用途をプルダウンから選択します。

(c) [新規] をクリックします。

⇒ [キーワード設定] 画面が表示されます。



(d) キーワードを入力します。

(e) [登録] をクリックします。

⇒ キーワードリストに追加されます。

(f) [登録] をクリックします。

⇒ 建物用途振り分けキーワードが設定されます。

備考

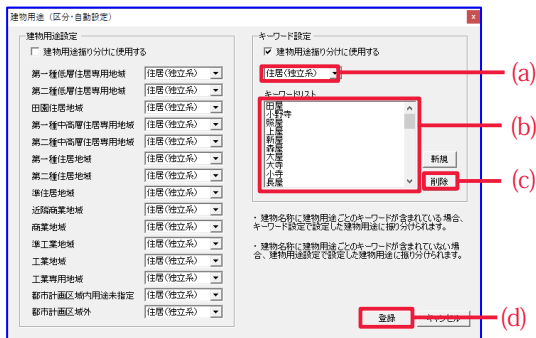
「寺」、「屋」をキーワードに設定することはできません。
キーワードの参考例は、「V その他」参照

備考

建物用途種類

コード番号	建物用途	備考
1	住居 (独立系)	
2	住居 (集合)	一階が店舗などの併用集合住宅を含む
3	住居 (店舗併用)	
4	学校	
5	病院	
6	その他住居等	
7	工事場・事務所	
8	その他非住居系	

□ キーワード設定 (削除)



(a) 削除するキーワードを含む用途を選択します。

➡ キーワードが表示されます。

(b) 削除するキーワードを選択します。

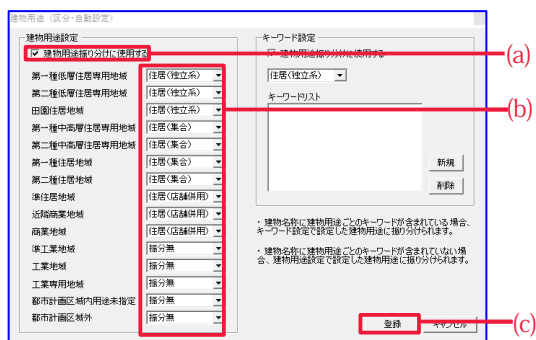
(c) **削除** をクリックします。

➡ キーワードが削除されます。

(d) **登録** をクリックします。

➡ 建物用途振り分けキーワードが設定されます。

□ 建物要素設定



(a) [建物用途設定] [建物用途振り分けに使用する] にチェック (☑) を入れます。

(b) 都市計画用途地域ごとの建物用途をプルダウンから選択します。

(c) **登録** をクリックします。

➡ 建物用途設定が設定されます。

1-14 環境基準類型指定地域毎の残留騒音設定

1 概要

環境基準類型指定地域毎の残留騒音レベルを設定します。0～99dBの範囲で設定します。
適切な値を設定してください。

手順

	昼間	夜間
AA類型	50 dB	40 dB
A類型	55 dB	45 dB
B類型	55 dB	45 dB
C類型	60 dB	50 dB
類型指定地域外	55 dB	45 dB

Menu [初期設定] - [14. 残留騒音]

→ [環境基準類型指定地域毎の残留騒音設定] 画面が表示されます。

(a) [市区町村コード][市区町村名]をプルダウンから選択します。

(b) 環境基準類型指定地域ごとの残留騒音を入力します。

(c) [登録]をクリックします。

→ 環境基準類型指定地域ごとの残留騒音が設定されます。

注意

ここで設定する値は面的評価に使用します。詳細は [IV-5-2 (3) 残留騒音レベルの確定] を参照してください。

1-15 背後地騒音推計式

1 概要

背後地騒音推計式を設定します。
背後地騒音の推計を行うための推計式パラメータのデフォルト値を設定します。

2 手順

(1) 背後地騒音推計式

□ 選択

Menu [初期設定] - [15. 背後地騒音推計式]

→ [背後地騒音推計式] 設定画面が表示されます。

備考

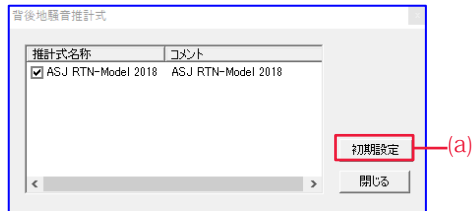
背後地騒音推計式は、「別冊 背後地騒音推計方法の概要編」参照

👁️ 推計式名称を確認します。

(a) [閉じる]をクリックします。

(2) 推計式パラメータ

推計式を用いた推計を行うための共通パラメータを設定します。推計式のパラメータは「道路設定」と「沿道設定」の2種類があり、各々のタブを切り替えて設定します。ここで設定する値は「要素設定」のデフォルト値となります。

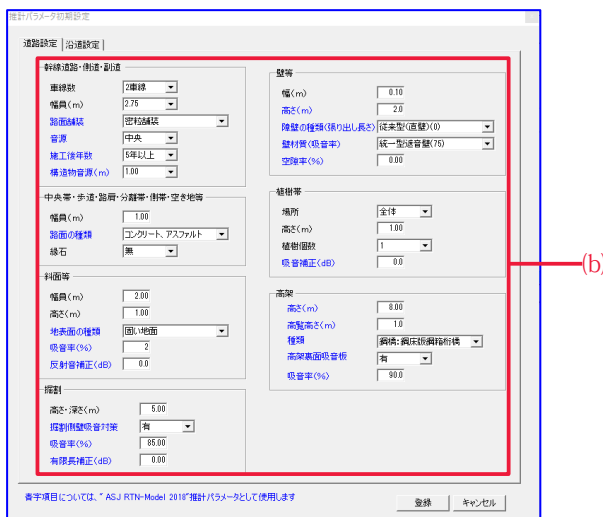


[Menu] [初期設定] - [1 5. 背後地騒音推計式]

⇒ 「背後地騒音推計式」画面が表示されます。

(a) [初期設定]をクリックします。

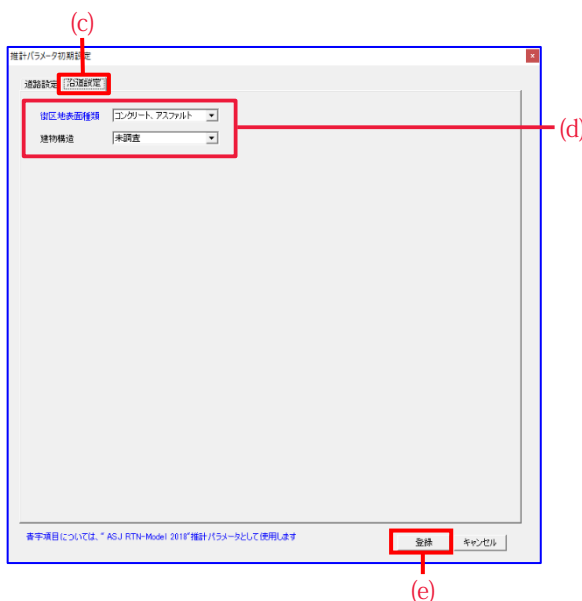
⇒ 「推計パラメータ初期設定」画面が表示されます。



(b) 「道路設定」の各項目を入力します。

注意

青字項目については"ASJ RTN-Model 2018"推計式のパラメータとして使用します。



(c) 「沿道設定」のタブをクリックします。

⇒ 画面が切り替わります。

(d) 各項目を入力します。

(e) [登録]をクリックします。

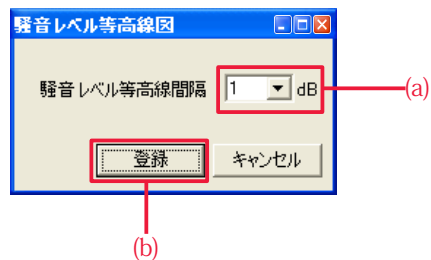
⇒ 推計式のパラメータが設定されます。

1-16 騒音レベル等高線図

1 概要

騒音レベル等高線図のレベル幅を設定します。1、2、3、5 dB から設定することができます。

2 手順



Menu [初期設定] - [16. 騒音レベル等高線図]

→ [騒音レベル等高線図] 設定画面が表示されます。

(a) 騒音レベル等高線のレベル幅を入力します。

(b) [登録]をクリックします。

→ 騒音レベル等高線図のレベル幅が設定されます。

備考

ここで設定したレベル幅は、[IV-6-6 一括表示用レイヤの作成]、[IV-7 分析・活用]で使用されます。

1-17 評価区間状況

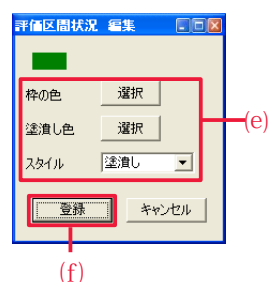
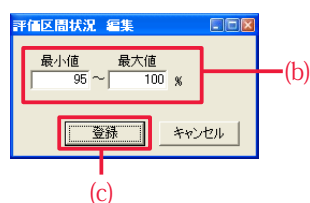
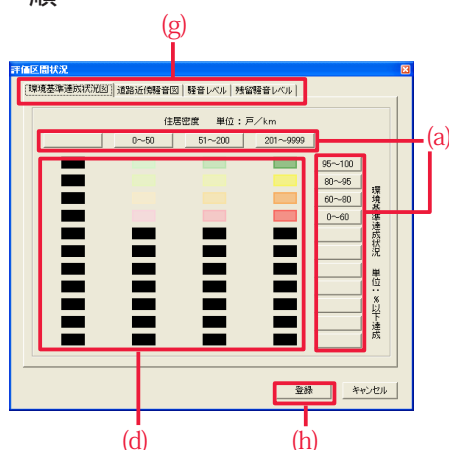
1 概要

評価区間状況のレンジと各レンジごとの評価区間オブジェクトの表示色を設定します。レンジは、住居密度：、環境基準達成状況：1～11段階で任意に設定します。

評価区間状況には、環境基準達成状況図、道路近傍騒音図、騒音レベル、残留騒音レベルの4つの要素があります。

各評価区間状況はタブで切り替えて設定します。

2 手順



Menu [初期設定] - [17. 評価区間状況]

➡ [評価区間状況] 設定画面が表示されます。

(a) レンジボタンをクリックします。

➡ [評価区間状況 編集] 画面が表示されます。

(b) 最大値、最小値を入力します。

(c) [登録] をクリックします。

➡ 数値が登録されます。

(d) カラーボックスをクリックします。

➡ [評価区間状況 編集] 画面が表示されます。

(e) 枠の色、塗潰し色、スタイルを選択します。

参考・例

枠の色、塗潰し色の選択方法は [IV-1-7 評価対象道路] を参照してください。

(f) [登録] をクリックします。

(g) タグを切り替えてそれぞれ設定します。

(h) [登録] をクリックします。

➡ 評価区間状況図のレンジと各レンジの表示色が設定されます。

備考

ここで設定したレンジおよび色は [IV-6-6 一括表示用レイヤの作成]、[IV-7 分析・活用] で使用されます。

備考

デフォルトでは「環境GIS」のレンジに合わせてあります。

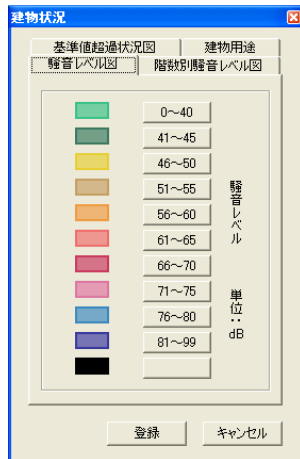
1-18 建物状況

1 概要

建物状況のレンジと各レンジ・項目ごとの建物オブジェクトの表示色を設定します。レンジは1～11段階で任意に設定します。

建物状況図には、騒音レベル図、階数別騒音レベル図、基準値超過状況図、建物用途の4つの要素があります。各建物状況はタブで切り替えて設定します。

2 手順



Menu [初期設定] - [18. 建物状況]

⇒ [建物状況] 設定画面が表示されます。

参考・例

手順は[IV-1-17 評価区間状況]を参照してください。

備考

ここで設定したレンジおよび色は[IV-6-6 一括表示用レイヤの作成]、[IV-7 分析・活用]で使用されます。

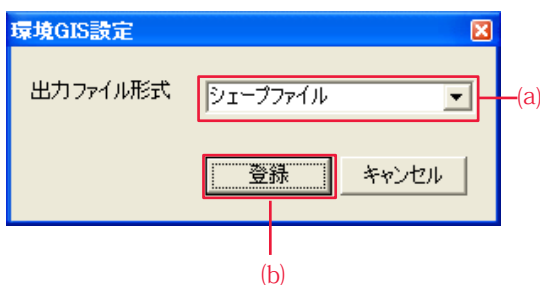
1-19 環境 GIS 設定

1 概要

環境 GIS ファイルを出力する形式を設定します。

シェープファイル、MapInfo (MID/MIF)、G-XML2.0の中から選択します。デフォルトはシェープファイルです。

2 手順



Menu [初期設定] - [19. 環境 GIS 設定]

⇒ [環境 GIS 設定] 設定画面が表示されます。

(a) [出力ファイル形式] をプルダウンから選択します。

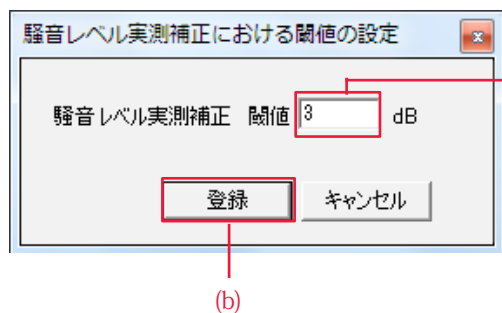
(b) [登録] をクリックします。

⇒ 環境 GIS の出力形式が登録されます。

1-20 騒音レベル実測値補正

1 概要

基準点騒音レベル実測補正值のしきい値を設定します。



Menu [初期設定] - [20. 騒音レベル実測値補正]

➡ [騒音レベル実測値補正] 設定画面が表示されます。

(a) しきい値を入力します。

(b) [登録] をクリックします。

➡ 騒音レベル実測値補正值のしきい値が登録されます。

備考

ここで設定した閾値は [IV-5-2 騒音レベル(2) 基準点騒音レベルの確定] で使用されます。実測地点における騒音レベル実測値と実測地点における騒音レベル推計値の差が閾値を超えると確定値を赤字表示します。

2. 道路設定

騒音推計を行うための道路データ要素の設定をします。

評価対象道路の道路平面線形要素、道路構造の標準断面、道路交通センサス区間を設定します。

1 要素設定と推奨画面ズーム

表 2-1 要素設定と推奨画面ズーム

項 目			ズーム (%)
2-1	道路平面線形要素	(1) オブジェクト作成	150
		(2) 情報入力	150
2-2	標準断面	—	—
2-3	道路交通センサス区間	(1) 区切り作成	150
		(2) オブジェクト作成	150
		(3) 道路交通センサスデータ整理	—
		(4) 情報入力	150

画面の解像度を 1024 × 768 (XGA) と想定しています。

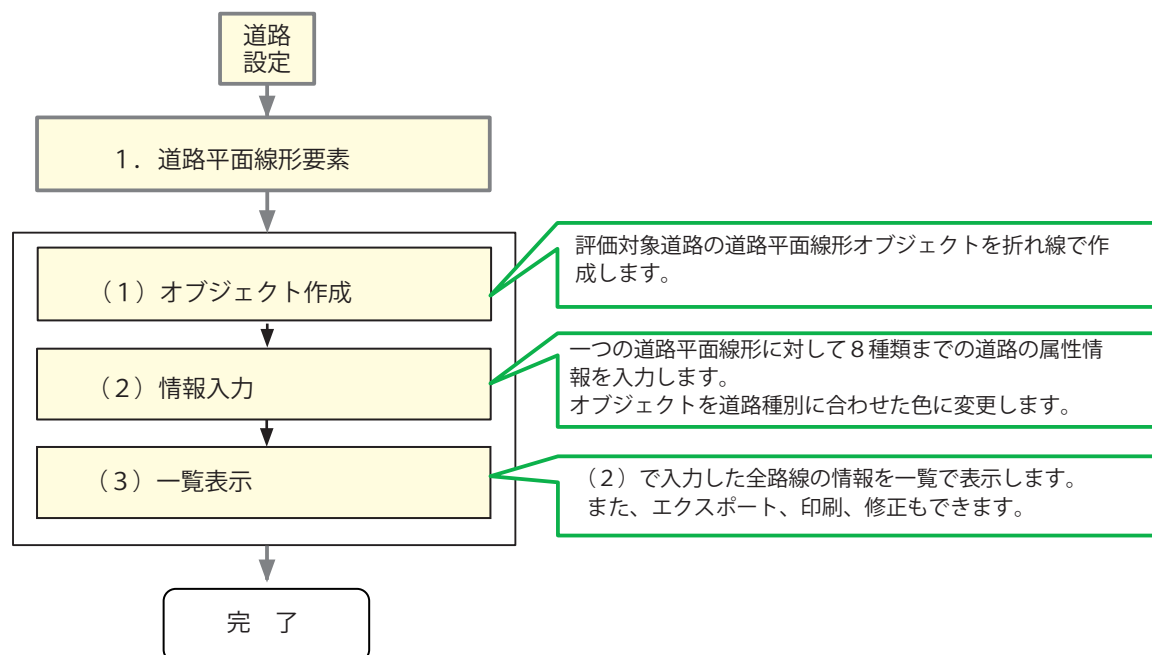
2-1 道路平面線形要素

1 概 要

評価対象道路を道路平面線形要素として設定します。道路平面線形オブジェクトを折れ線で作成し、一つの道路平面線形に対して 8 種類までの道路の属性情報を設定します。

情報入力後、一覧表示で参照できます。

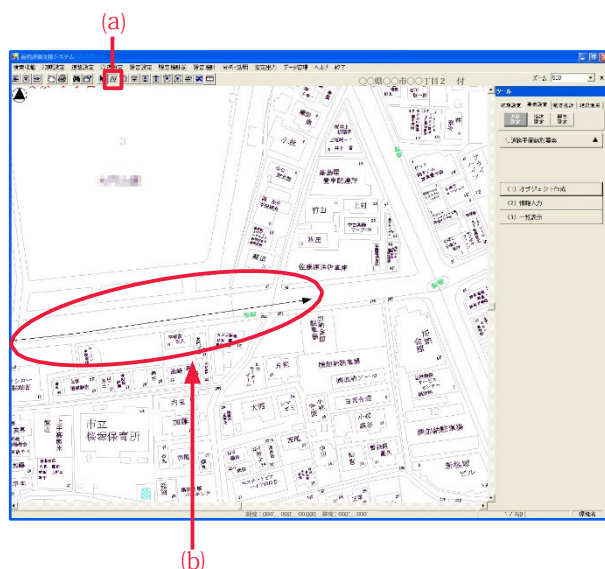
2 作業フロー



3 手順

(1) オブジェクト作成

道路平面線形オブジェクトを折れ線で評価対象道路中央に作成します。



[Menu] [道路設定] - [1. 道路平面線形要素] - [(1) オブジェクト作成]

[地図検索]

(a) を選択します。

(b) 対象道路の起点から終点に向かい、道路中央に折れ線を作成します。

(c) 終点でダブルクリックします。

➡道路平面線形オブジェクトが作成されます。

point

起点から終点へ向いて、右側が上り、左側が下りになります。

注意

- ① 道路平面線形オブジェクトは、市区町村単位で作成してください。
- ② 道路平面線形オブジェクトは、長めに設定してください。最大、路線の市境界から市境界まで1本で作成してください。

備考

- ① 作成したオブジェクトは 使用し、移動・削除ができます。手順については [III-3. ツールバーの基本] を参照してください。
- ② 作成したオブジェクトは 選択し、右クリックショートカットメニューの [起終点変更] により起終点の情報を入れ替えることができます。

修正

道路平面線形オブジェクトの修正は選択ツール を使用し、頂点の移動、または頂点追加 、頂点削除 、オブジェクトの分割 ・結合 で行います。

備考

- ① 道路平面線形オブジェクトを基準年度毎に分ける必要はありません。
- ② 道路平面線形オブジェクトを評価対象道路の中央に厳密に作成できない場合でも、推計結果には影響しません。ただし、道路端オブジェクト[3-5 道路端]については推計結果に影響するため、厳密に作成する必要があります。
- ③ 騒音調査した区間がセンサス調査対象区間ではない場合、情報入力において「交通センサス対象フラグ」のチェックをはずしても特に問題はありません。
- ④ 情報入力のために道路平面線形オブジェクトを選択した際に、「表示した位置に、評価区間オブジェクトが2つ以上存在します」というエラーメッセージが表示される場合は、同じ位置に評価区間オブジェクトが重複しているため、不要なオブジェクトを選択して削除してください。

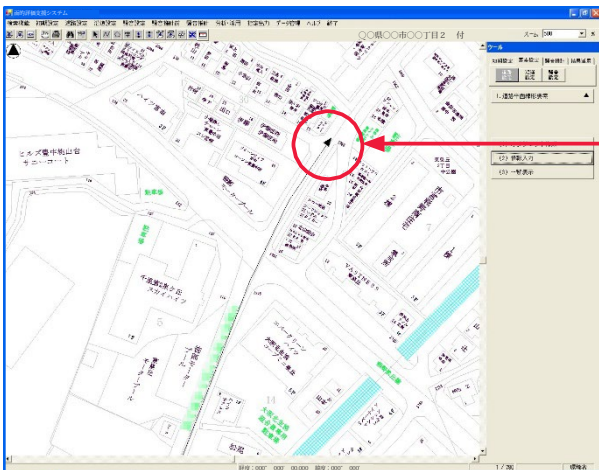
(2) 情報入力

一つの道路平面線形オブジェクトに対して8路線までの道路の属性情報が入力できます。

属性情報は市区町村コード、道路種別、路線番号、路線名、車線数、道路種級、主併区分、道路交通センサス対象・非対象区分を入力します。

オブジェクトを道路種別に合わせた色（〔IV-1-7 評価対象道路〕参照）に変更します。

□ 新規



Menu [道路設定] - [1. 道路平面線形要素] - [(2) 情報入力]

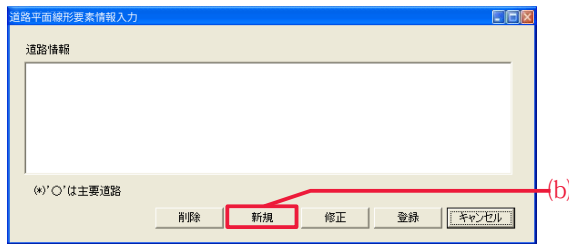
[地図検索]

(a) 該当する道路平面線形オブジェクトの終点（矢印）側をクリックします。

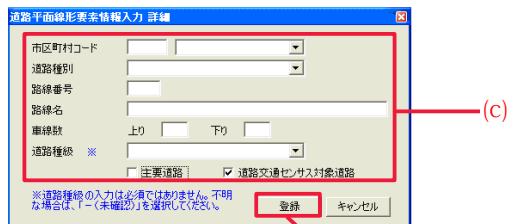
→ [道路平面線形要素情報入力] 画面が表示されます。

(b) [新規] をクリックします。

→ [道路平面線形要素情報入力] 新規登録画面が表示されます。



(c) 該当する項目を入力または選択します。



備考

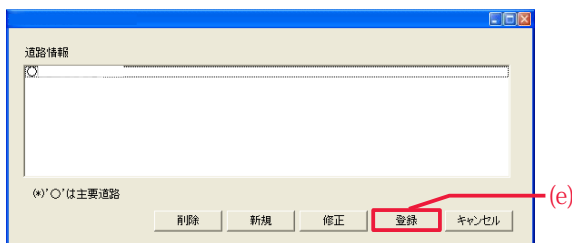
一方通行の道路の場合、[車線数] は [上り] [下り] のうち該当する方向に入力し、もう一方は空欄のまま登録してください。

備考

主要道路は、必ずチェックを入れてください。しかし、併設道路がある場合は、主要となる道路にチェックを入れ、併設となる道路はチェックをはずしてください。

備考

道路種級の入力は必須ではありません。不明な場合は、「- (未確認)」を選択してください。

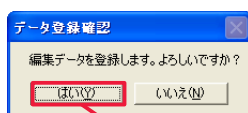


(d) [登録] をクリックします。

→ [道路情報] に路線名が表示されます。

(e) [登録] をクリックします。

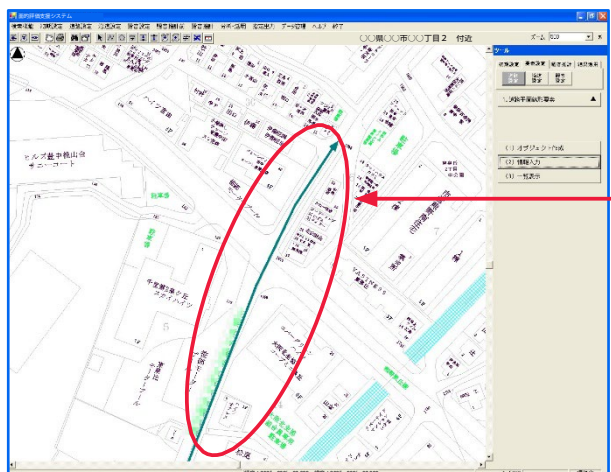
→ [データ登録確認] 画面が表示されます。



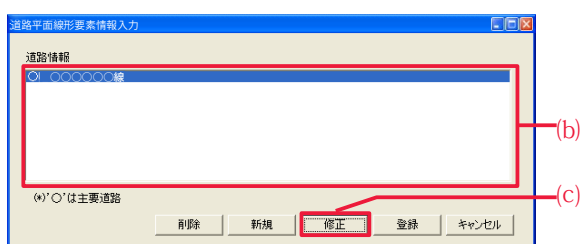
(f) [はい] をクリックします。

→ 道路情報が登録され、オブジェクトの色が道路種別の色に変わります。

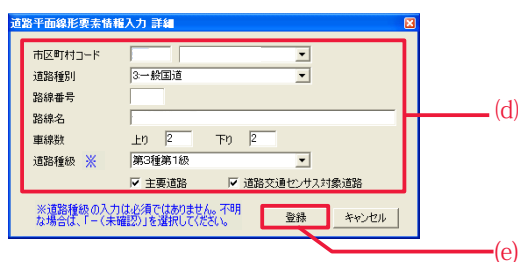
□ 修正



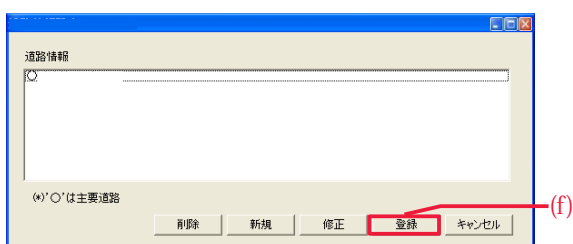
- (a) 該当する道路平面線形オブジェクトをクリックします。
 ➔ [道路平面線形要素情報入力] 画面が表示されます。



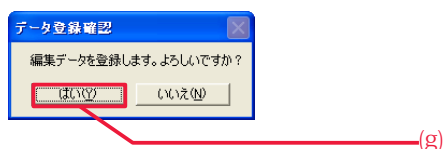
- (b) 修正する道路を選択します。
 (c) **修正** をクリックします。
 ➔ [道路平面線形要素情報入力] 修正画面が表示されます。



- (d) 該当する項目を修正します。
 (e) **登録** をクリックします。
 ➔ 道路情報が修正されます。



- (f) **登録** をクリックします。
 ➔ [データ登録確認] 画面が表示されます。

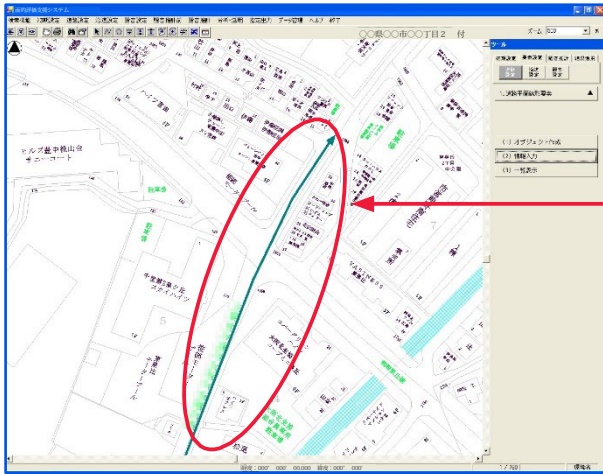


- (g) **はい** をクリックします。
 ➔ 道路情報が登録されます。

備考

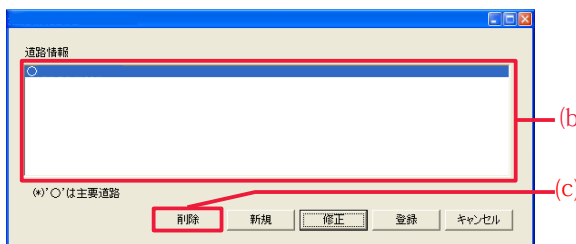
道路情報を変更すると、道路交通センサ情報、評価区間情報などの関連する情報も同時に変更されます。

□ 削除



- (a) 該当する道路平面線形オブジェクトをクリックします。
 ➔ [道路平面線形要素情報入力] 画面が表示されます。

- (b) 削除する路線名を選択します。

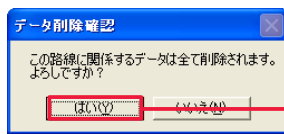


- (c) 削除 をクリックします。

➔ [データ削除確認] 画面が表示されます。

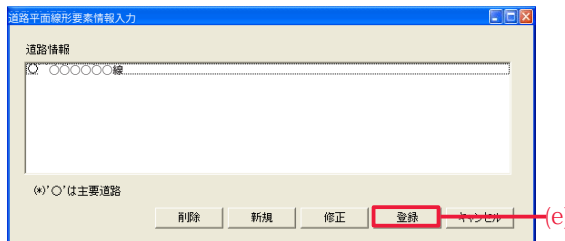
- (d) はい をクリックします。

➔ 道路情報が削除されます。



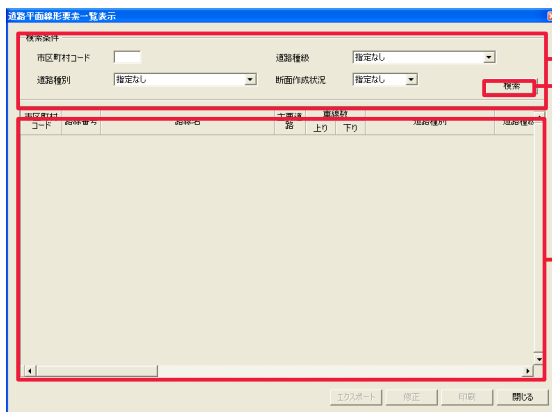
- (e) 登録 をクリックします。

➔ 道路情報が登録されます。



(3) 一覧表示

道路情報を一覧表示させ、確認します。エクスポート、印刷、修正ができます。



Menu [道路設定] - [1. 道路平面線形要素] - [(3) 一覧表示]

⇒ [道路平面線形要素一覧表示] 画面が表示されます。

(a) 一覧表示させるデータの条件を入力します。

(b) **検索** をクリックします。

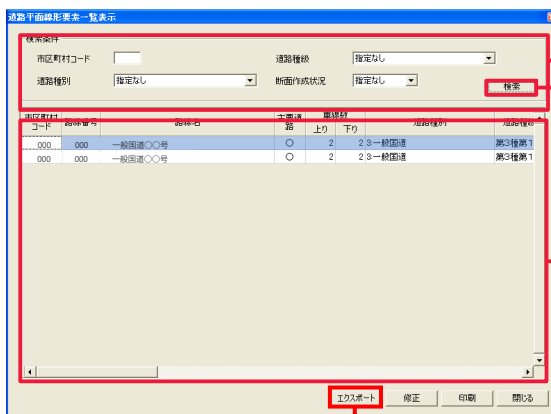
⇒ 検索されたデータの一覧が表示されます。

👁 登録したデータを確認します。

point

全件のデータを表示する場合は、条件入力せずに検索をクリックします。

□ エクスポート



(a) エクスポートするデータの条件を入力します。

(b) **検索** をクリックします。

⇒ 検索されたデータの一覧が表示されます。

(c) **エクスポート** をクリックします。

⇒ [名前を付けて保存] 画面が表示されます。

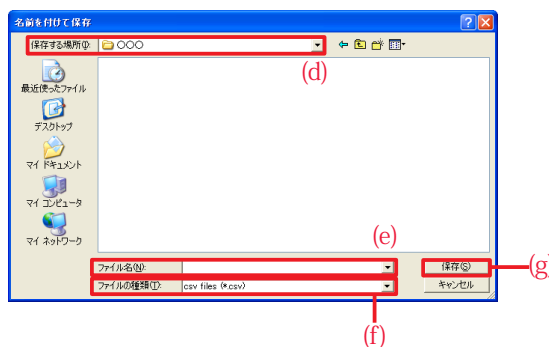
(d) 保存する場所を選択します。

(e) ファイル名を入力します。

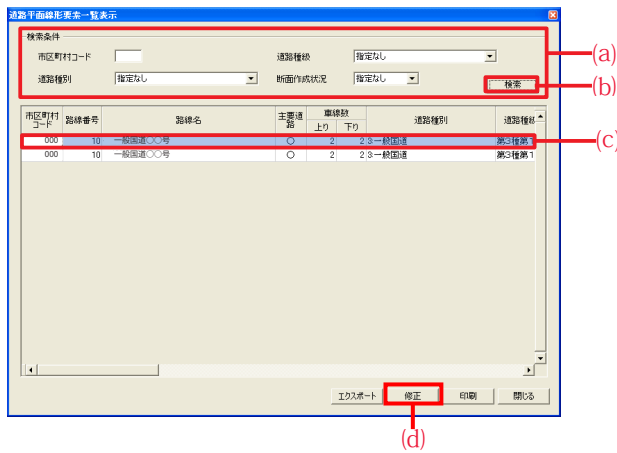
(f) ファイルの種類を選択します。

(g) **保存** をクリックします。

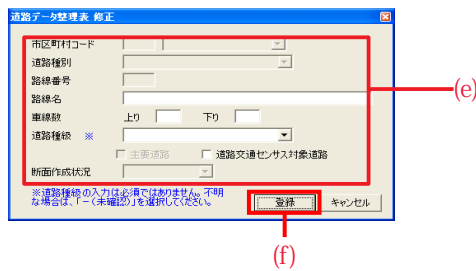
⇒ データがエクスポートされます。



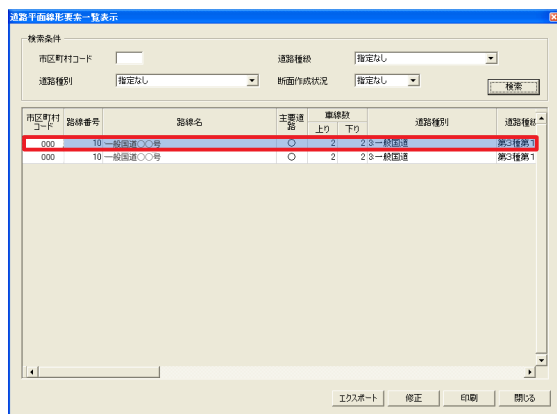
□ 修正



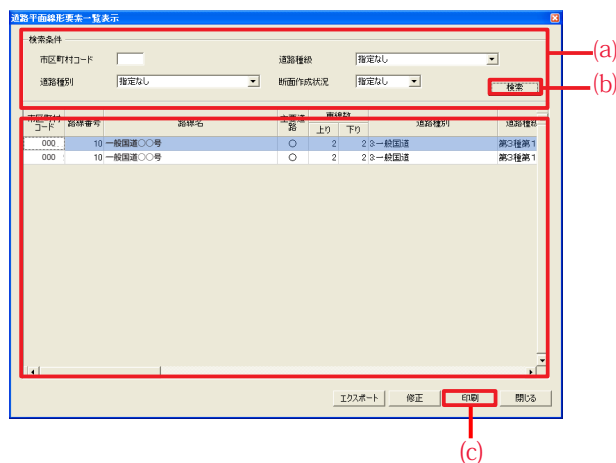
- (a) 修正するデータの条件を入力します。
- (b) **検索**をクリックします。
→ 検索されたデータの一覧が表示されます。
- (c) 修正するデータを選択します。
- (d) **修正**をクリックします。



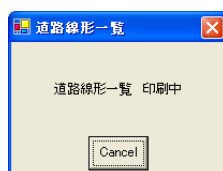
- [道路平面線形要素情報入力] 画面が表示されます。
- (e) 該当する項目を修正します。
- (f) **登録**をクリックします。
→ [道路平面線形要素一覧表示] 画面が表示され、修正したデータが一覧表示されます。
- 👁️ 登録したデータを確認します。



□ 印刷



- (a) 印刷するデータの条件を入力します。
- (b) **検索**をクリックします。
→ 検索されたデータの一覧が表示されます。
- (c) **印刷**をクリックします。
→ [道路線形一覧] 印刷中画面が表示され、一覧が印刷されます。



注意

cancel をクリックすると印刷が中止されます。

2-2 標準断面

1 概要

道路平面線形要素ごとに、道路の標準断面を1つ設定します。

1つの横断面に最大8路線までの道路を登録できます。

標準断面を構成する要素となるパーツを組み合わせ、各パーツの特性を設定し横断面を作成します。

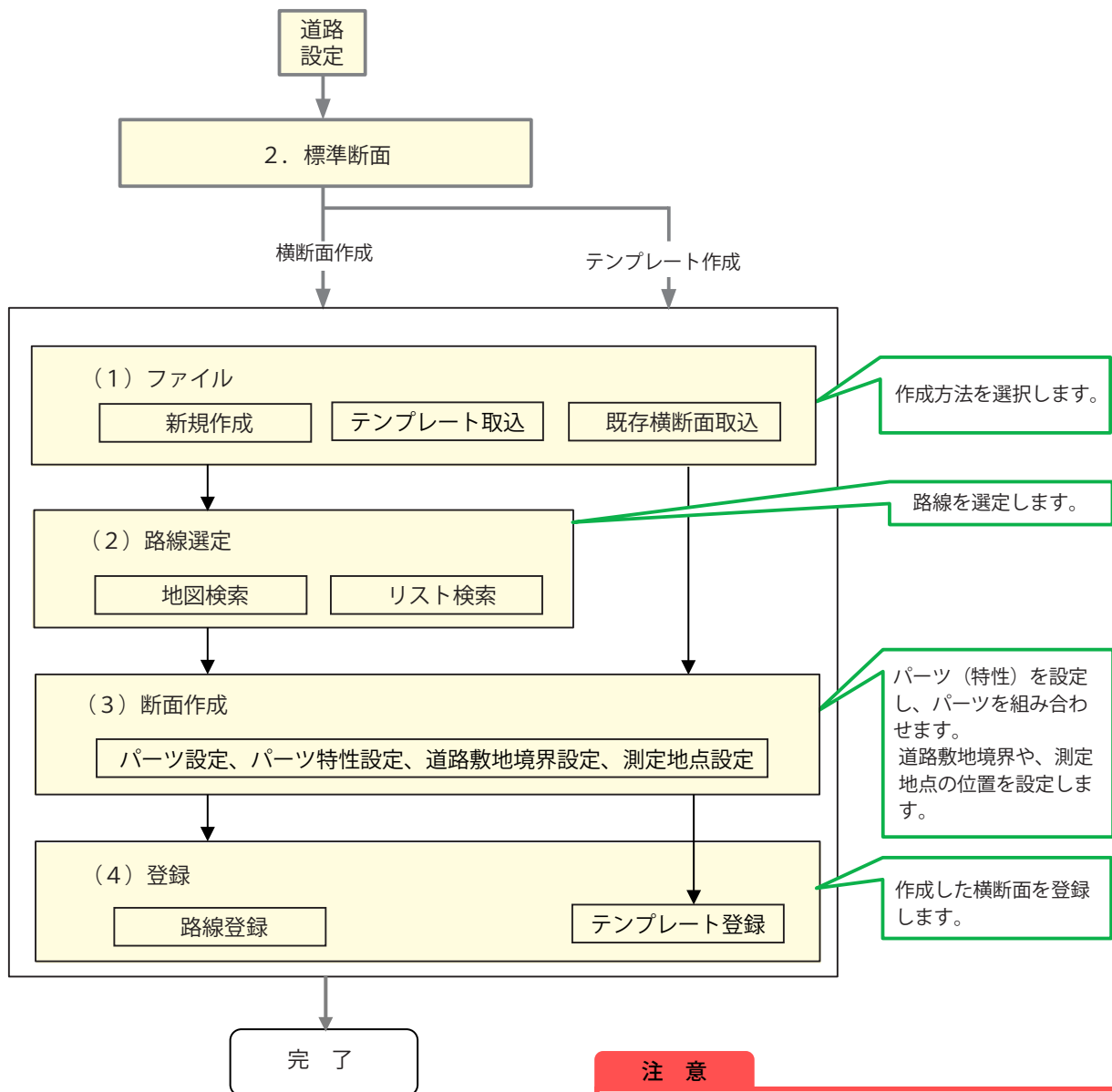
備考

道路平面線形の標準断面、評価区間の標準断面と測定地点の断面を正しく作成してください。

参考・例

道路横断面図の作成例については「面的評価支援システム操作マニュアル（別冊）道路横断面作成例」を参照してください。

2 作業フロー



3 横断面作成画面

□ 画面名称

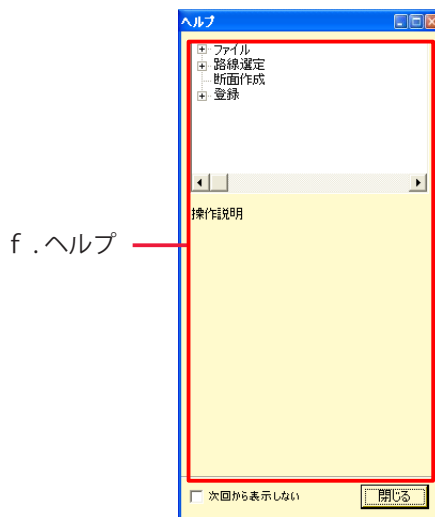
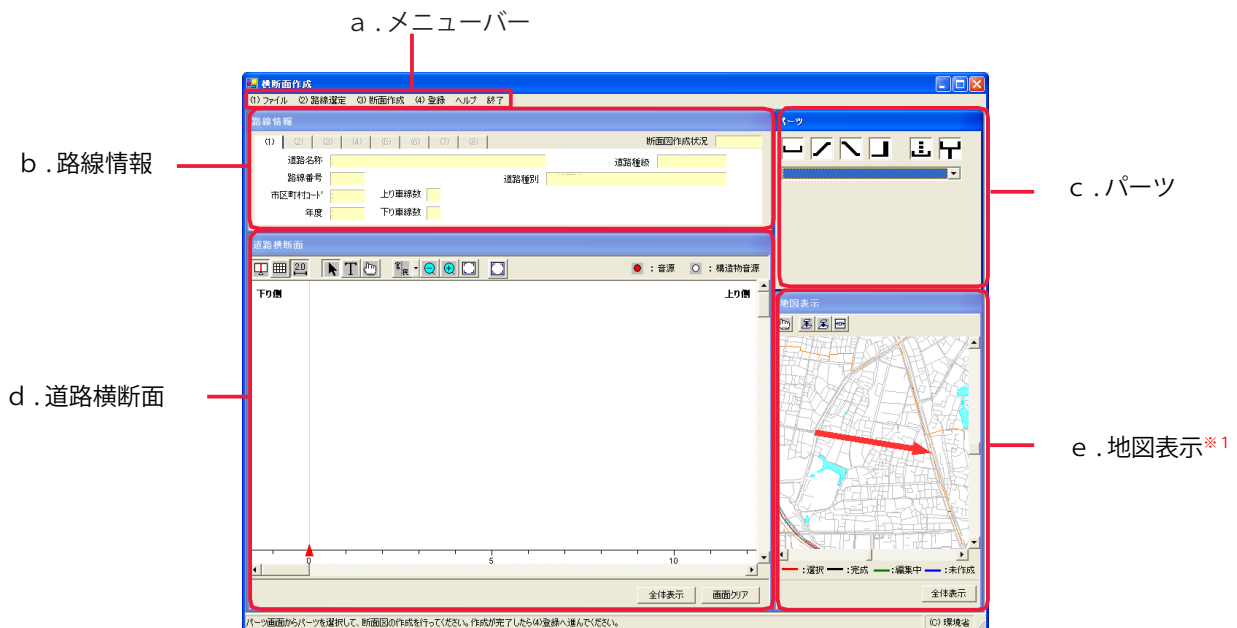


表 2-2-1 名称と説明

名 称	説 明
a .メニューバー	メニューの選択および断面作成の終了をします。
b .路線情報	選択した路線の情報を表示します。
c .パーツ	パーツの種類を選択します。
d .道路横断面	横断面作成の作業エリアです。
e .地図表示※1	路線等線形オブジェクトを表示し横断面の作成状況と位置の確認をします。 また線形オブジェクトを直接選択し、横断面の作成・編集をします。
f . ヘルプ	道路横断面作成に関する手順や説明を表示します。 上段で項目を選択し、下段に操作説明を表示します。

備 考

※1 動作環境設定にて地図を表示しない設定ができます。
地図を表示しなければシステムの処理速度が向上します。

a. メニューバー

□ メニュー項目

表2-2-2 メニューバー

名 称	説 明
(1) ファイル	新規作成・テンプレート取込・既存横断面取込から横断面作成方法を選択します。また、作成した断面のパラメータをエクスポートします。
(2) 路線選定	地図検索・リスト検索より路線を選定します。
(3) 断面作成	パーツ（特性）等を設定し、断面図を作成します。
(4) 登録	作成した横断面を路線登録・テンプレート登録します。
ヘルプ	道路横断面作成に関する手順や説明を表示します。
終了	[横断面作成]を終了します。

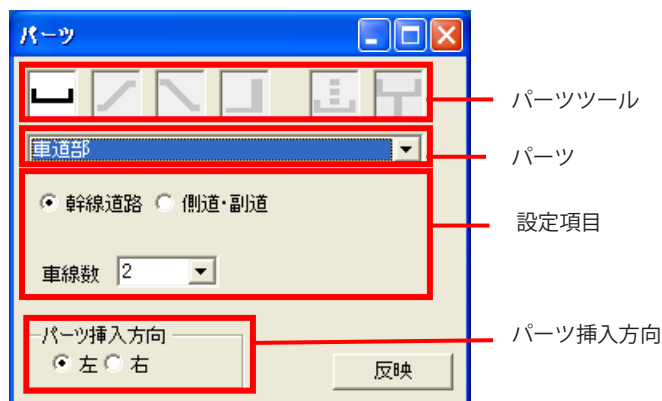
b. 路線情報

□ ウィンドウの表示



c. パーツ

□ ウィンドウの表示



備 考

[パーツ挿入方向] はパーツを組み合わせる際、[道路横断面] 画面内で選択されているパーツを基準として、新しいパーツの挿入方向を示しています。

□ パーツ種類

パーツの種類を表 2-2-3 に示します。

表 2-2-3 パーツ一覧

パーツ	設定項目	パーツ特性	備考
①車道部 	幹線道路 側道 副道	車線数	1つの車道部の車線数を設定します。
		幅員 (m)	車線ごとの幅員を設定します。
		路面の種類	路面の種類を設定します。
		車線の上下区分	上り車線・下り車線を設定します。側道・副道などで上下区分を持たない(中央線の無い)場合、[その他]を設定します。
		音源	道路の音源を設定します。[音源位置について]参照
		施工後年度数	道路の施工後年度数を設定します。
		構造物音源 (m)	高架の車道部設定の場合、構造物音源の高さを設定します。[音源位置について]参照
②平坦部 	中央帯 歩道 路肩 分離帯 側帯 空き地等	幅員 (m)	平坦部の幅員を設定します。
		路面の種類	表面の種類を設定します。
		縁石	縁石の有無を設定します。 [有]の場合のみ、高架パーツの挿入が可能です。
③斜面等 	斜面等	幅員 (m)	斜面の幅員を設定します。
		高さ (m)	斜面の高さを設定します。
		地表面の種類	斜面の表面の種類を設定します。
		吸音率 (%)	斜面の吸音率を設定します。
		反射音補正 (dB)	反射音の補正値を設定します。
④コンクリート壁・ ブロック積み (掘割) 	コンクリート壁・ ブロック積み (掘割)	高さ・深さ (m)	コンクリート壁・ブロック積み(掘割)の高さを設定します。
		掘割側壁吸音対策	掘割側壁吸音対策の有無を設定します。
		吸音率 (%)	コンクリート壁・ブロック積み(掘割)の吸音率を設定します。
		有限長補正 (dB)	有限長補正値を設定します。
⑤壁等 	壁等	幅 (m)	壁等の幅を設定します。
		高さ (m)	壁等の高さを設定します。
		張り出し長さ (m)	壁の張り出し長さを設定します。
		障壁の種類	遮音壁の種類を設定します。
		壁材/吸音率 (%)	壁材の種類及び壁等の吸音率を設定します。
		空隙率 (%)	空隙補正値を設定します。
⑥植樹帯 ([平坦部] のみ挿入可能) 	植樹帯	場所	基となるパーツのどこに植樹帯を配置するか設定します。
		幅 (m)	植樹帯の幅を設定します。 上記にて[全体]の配置の場合、基となるパーツの幅員の値を当てはめます。また[全体]以外の配置で設定した場合、幅の値を変更できます。
		高さ (m)	植樹帯高さを設定します。
		植栽個数	植栽の個数を設定します。設定した数に合わせて植栽の表示が変わります。
		吸音補正 (dB)	植樹帯吸音率を設定します。
⑦高架 ([平坦部]の 縁石:[有] のみ挿入可能) 	高架	高さ (m)	高架の高さを設定します。
		種類	高架の橋梁の種類を設定します。
		右側 高覧高さ (m)	右側の高覧の高さを設定します。
		左側 高覧高さ (m)	左側の高覧の高さを設定します。
		高架裏面吸音板	高架裏面吸音板の有無を設定します。
		吸音率 (%)	高架裏面吸音板の吸音率を設定します。

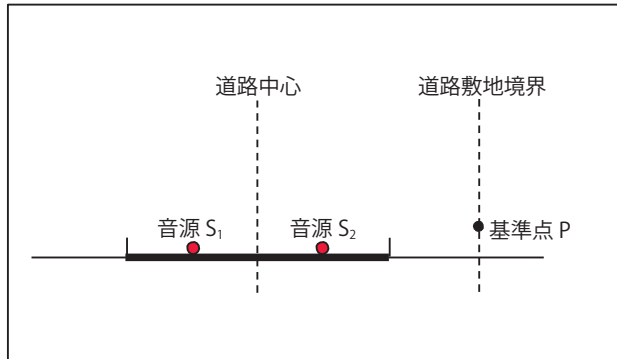
□ 音源位置について

自動車騒音の道路構造別（平面、高架、盛土、掘割・切土）音源位置を図2-2-1～4に示します。

音源は上下線それぞれの中央に路面と同じ高さに配置します。

図2-2-1 平面構造

平面構造



- : 音源 S_1 (遠車線)、音源 S_2 (近車線)
- : 構造物音源 S_1' (遠車線)、構造物音源 S_2' (近車線)
- : 基準点 (予測点) P

高架構造

図2-2-2 高架構造

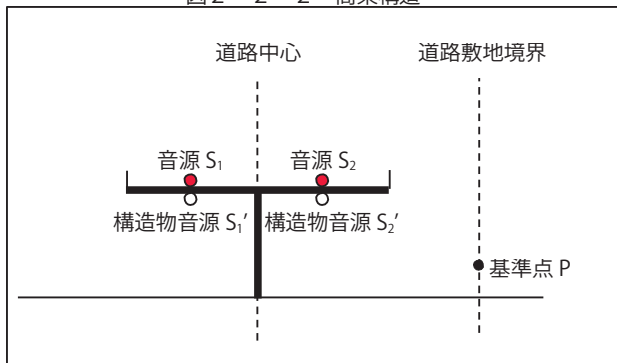


図2-2-3 盛土構造

盛土構造

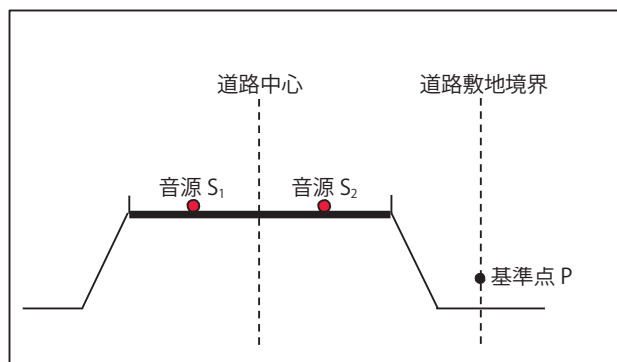
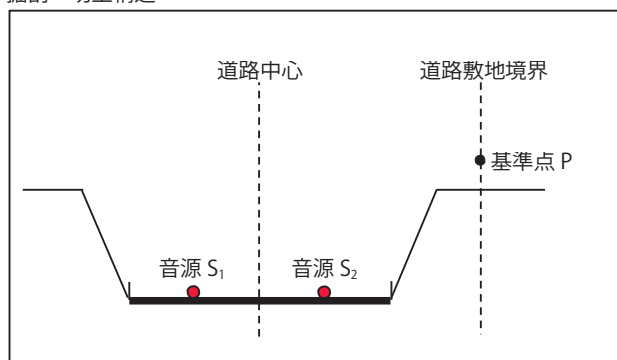


図2-2-4 掘割・切土構造

掘割・切土構造



d. 道路横断面

□ ウィンドウの表示

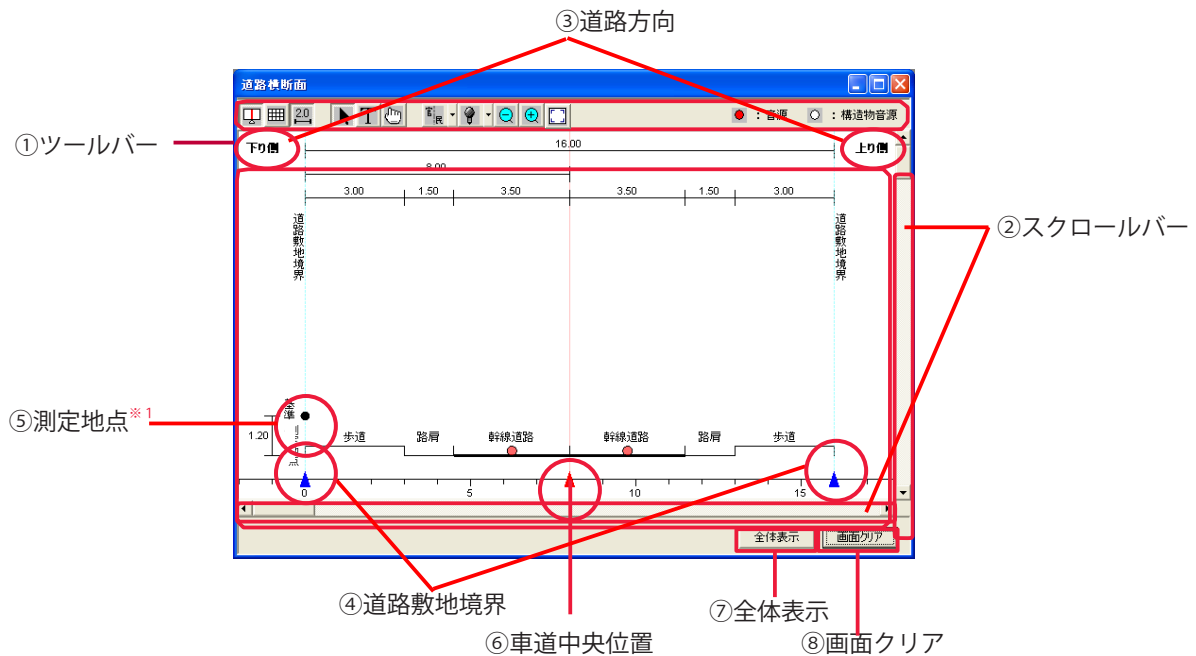


表 2-2-4 ウィンドウの表示

名称	説明
①ツールバー	道路横断面作成に使用するツールです。各ツールの選択・解除をします。
②スクロールバー	横断面図を上下左右に移動します。
③道路方向	横断面図に対する道路の方向を示します。
④道路敷地境界	道路敷地境界の位置を表します。
⑤測定地点	測定地点（マイクロホン）の位置を表します。 ^{※1}
⑥横断面中央位置	車道の中央位置を表します。
⑦全体表示	別ウィンドウにて横断面を全体表示します。印刷もできます。
⑧画面クリア	画面に表示中の断面図を全てクリアします。

注意

※1 「測定地点は騒音測定時のマイクロホン位置を示します。騒音測定地点の断面（[IV-4-1(2)断面設定]）にのみ設定します。

注意

断面設定のマイク作成は、騒音測定地点断面設定時のみ可能となっています。

□ ツールバー

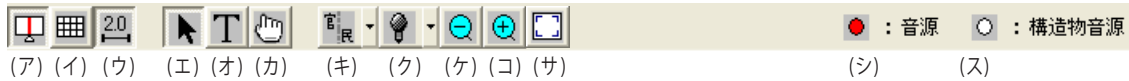


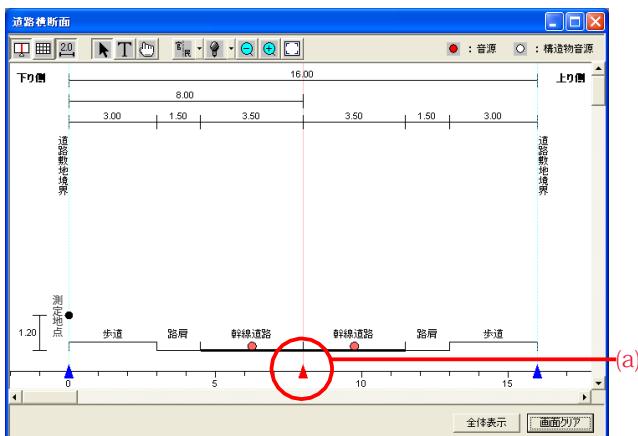
表2-2-5 ツールバー

名 称	ツール	説 明
(ア) 中央点ツール		車道の中央位置を設定します。
(イ) グリッドツール		グリッドの表示・非表示を切替えます。
(ウ) 寸法ツール		寸法線の表示・非表示を切替えます。
(エ) 選択ツール		パーツ等を選択します。
(オ) テキストツール		テキストの入力をします。
(カ) ドラッグスクロールツール		ドラッグスクロールします。
(キ) 道路敷地境界ツール		道路敷地境界の位置を設定します。 ドロップダウンメニュー [▼] より断面に対して右側・左側を選択して設定をします。
(ク) 測定地点ツール		測定地点（マイクロホン）の位置を設定します。 ドロップダウンメニュー [▼] より断面に対して右側・左側を選択して設定をします。 [IV-4-1 (1) 断面設定] でのみ設定します。
(ケ) 縮小ツール		図面を縮小します。
(コ) 拡大ツール		図面を拡大します。
(サ) フィットツール		断面図を道路横断面画面内に全体表示します。
(シ) 音源の凡例		道路の音源の凡例表示です。
(ス) 構造物音源の凡例		構造物音源の凡例表示です。

(ア) 中心点ツール

車道の中心点を設定します。

ツールのクリックによりルーラーの表示・非表示を切替えます。



(a) をクリックします。

➡ ルーラーが表示されます。

(b) マーカーをドラッグして中心点とする位置に移動します。

➡ 中心点の位置が設定されます。

(イ) グリッドツール

ツールのクリックによりグリッドの表示・非表示を切替えます。

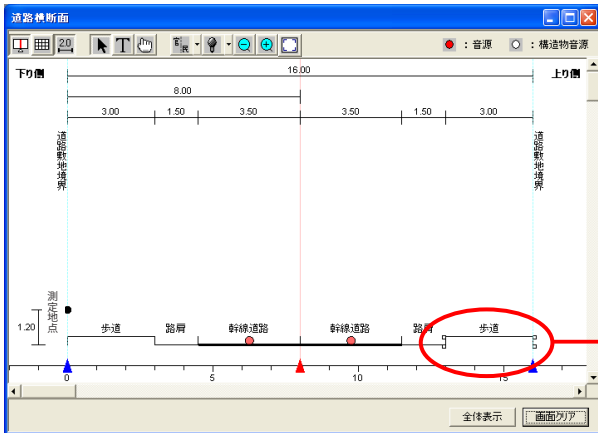
(ウ) 寸法ツール

ツールのクリックにより寸法の表示・非表示を切替えます。

(エ) 選択ツール 

パーツ・テキストの選択をします。

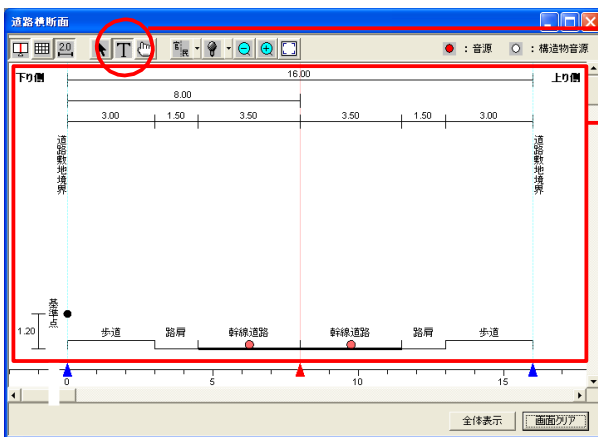
選択されたパーツ・テキストには頂点 (□) が表示されます。




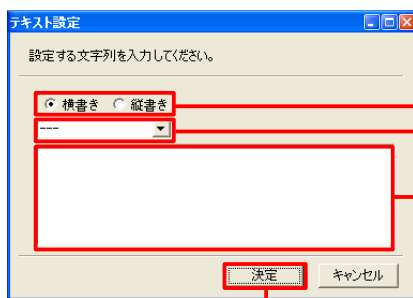
- (a) パーツ・テキストをクリックします。
→ 頂点 (□) が表示されます。

(オ) テキストツール 

テキストを挿入します。




- (a) ツールをクリックします。
→ マウスポインタが  に変わります。
- (b) 図面上のテキストを挿入する箇所をクリックします。



- [テキスト設定] 画面が表示されます。
- (c) [横書き]・[縦書き] を選択します。
- (d) テキストをプルダウンまたは入力にて設定します。
- (e) [決定] をクリックします。
→ テキストが挿入されます。

修正

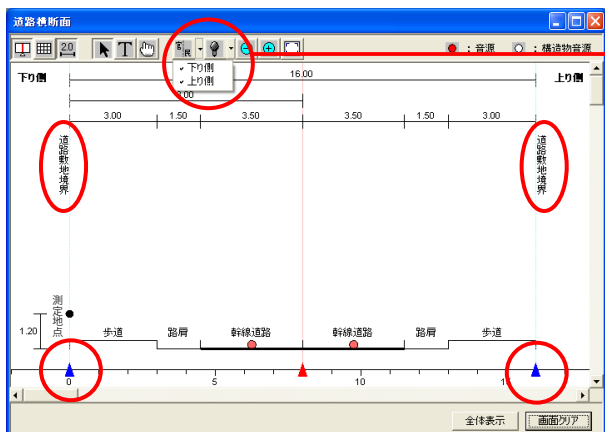
選択ツール  でテキストを選択後、右クリックでショートカットメニューを表示し、編集・移動・削除・複製ができます。

(カ) ドラッグスクロールツール 

画面内にてドラッグすることで図面を任意の方向に移動します。

(キ) 道路敷地境界ツール 

道路敷地境界の位置を設定します。



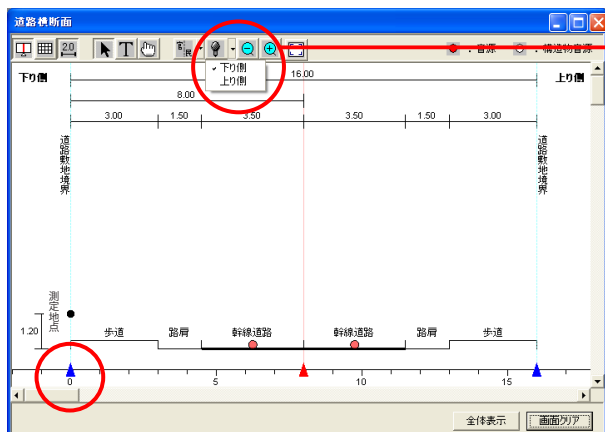
- (a) ツールの [▼] をクリックし、プルダウンメニューにて [下り側]・[上り側] をクリックします。
 ➡ 青のマーカと「道路敷地境界」のテキストが表示されます。

修正

道路敷地境界の位置を変更するには、マーカをドラッグして移動します。

(ク) 測定地点ツール 

騒音測定地点の断面において測定地点（マイクロホン）の位置を設定します。



- (a) ツールの [▼] をクリックし、プルダウンメニューにて [下り側]・[上り側] をクリックします。
 ➡ 横断面の端に測定地点が表示されます。

修正


測定地点の位置を取消す場合は、プルダウンメニューの [下り側]・[上り側] のチェックマークをはずします。
 測定地点の位置を移動する場合は、道路敷地境界のマーカを移動します。
 パーツ特性を変更する場合は、右クリックでショートカットメニューを表示しプロパティで変更します。

(ケ) 縮小ツール 

ツールのクリックにより断面図の表示を縮小します。

(コ) 拡大ツール 

ツールのクリックにより断面図の表示を拡大します。

(サ) フィットツール 

ツールのクリックにより断面図を道路横断面画面内に全体表示します。

(シ) 音源の凡例 

道路の音源を表します。

(ス) 構造物音源の凡例 

構造物音源を表します。

e. 地図表示

□ ウィンドウの表示



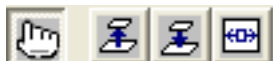
表 2-2-4 ウィンドウの表示

名 称	説 明
①ツールバー	地図表示に使用するツールです。各ツールの選択・解除をします。
②地図表示	地図上に対象の線形オブジェクトを表示します。 路線の横断面作成時は道路平面線形オブジェクトを表示、評価区間・騒音測定地点の横断面作成時は評価区間線形オブジェクトを表示します。
③スクロールバー	地図表示を上下左右に移動します。
④横断面作成状況の凡例	横断面作成状況を示します。
⑤全体表示	別ウィンドウにて地図を大きく表示します。

備 考

動作環境設定にて地図を表示しない設定ができます。地図を表示しなければシステムの処理速度が向上します。

□ ツールバー



(ア) (イ) (ウ) (エ)

表 2-2-5 ツールバー

名 称	ツール	説 明
(ア) ドラッグスクロールツール		ドラッグスクロールします。
(イ) 縮小ツール		表示を縮小します。
(ウ) 拡大ツール		表示を拡大します。
(エ) 指定範囲拡大ツール		作図ウインドウ内でドラッグ&ドロップ（四角形で表示される）した範囲を拡大します。

(ア) ドラッグスクロールツール

画面上をドラッグして表示された場所を任意の方向に移動します。

(イ) 縮小ツール

画面上でクリックした位置を中心に縮小表示します。

(ウ) 拡大ツール

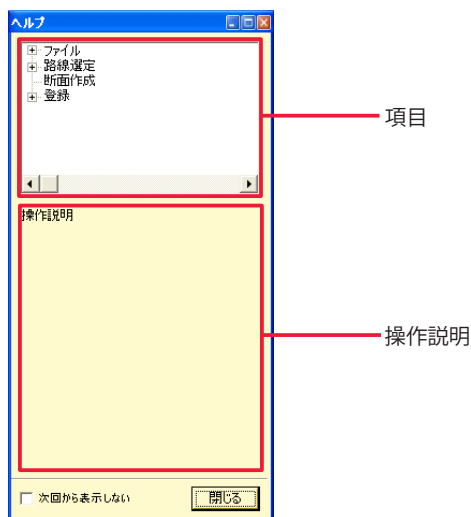
画面上でクリックした位置を中心に拡大表示します。

(エ) 指定範囲拡大ツール

画面上でドラッグ&ドロップした範囲（四角形）を拡大表示します。

f. ヘルプ

上段で項目を選択し、下段に操作説明を表示します。



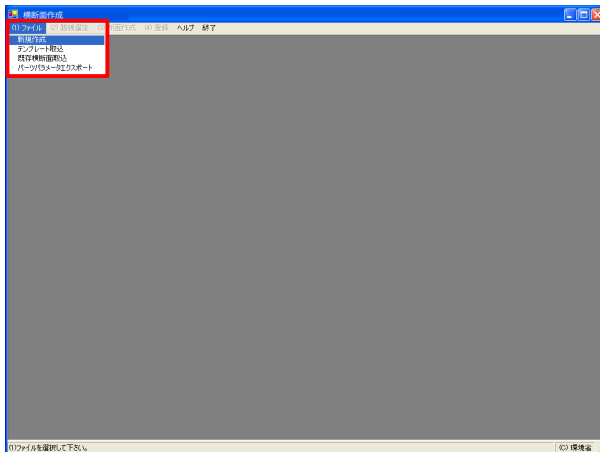
4 手順

(1) ファイル

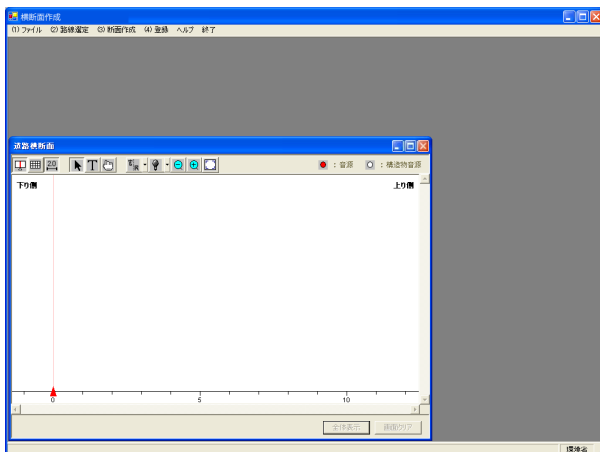
横断面の作成方法を [新規作成]・[テンプレート取込]・[既存横断面取込]・[パーツパラメータエクスポート] から選択します。

新規作成

横断面を新規で作成します。



Menu [道路設定] - [2. 標準断面] - [(1) ファイル]
- [新規作成]

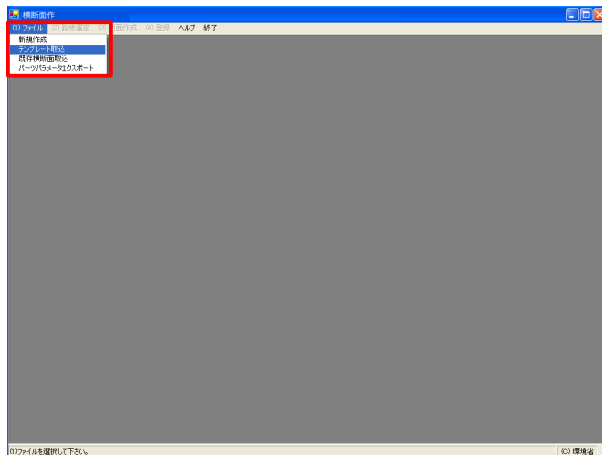


→ [道路横断面] ウィンドウが表示されます。

□ テンプレート取込

横断面のテンプレートを取込みます。

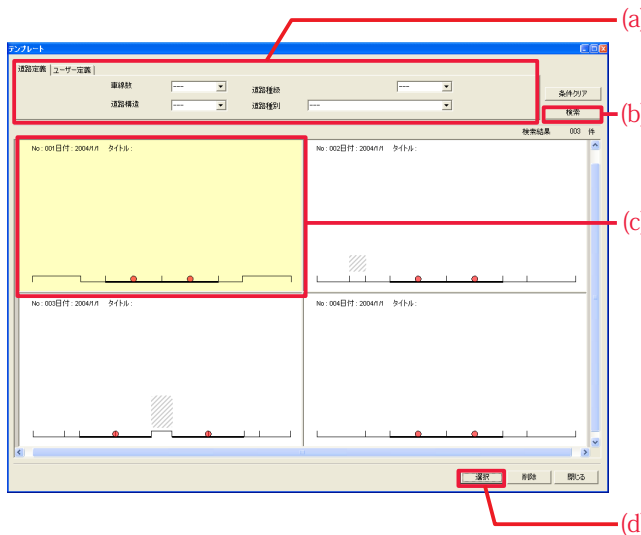
道路種別別の標準横断面図のテンプレートが登録してあります。



Menu [道路設定] - [2. 標準断面] - [(1) ファイル]
- [テンプレート取込]

⇒ [テンプレート] 画面が表示されます。

(a) [道路定義] または [ユーザー定義] のタブを選択し、
検索の条件を入力します。



備考

道路定義 : 車線数・道路構造・道路種別・道路種別

ユーザー定義 : 作成日・タイトル・作成者

(b) [検索] をクリックします。

⇒ 検索されたデータの一覧が表示されます。

(c) 取込む横断面をクリックします。

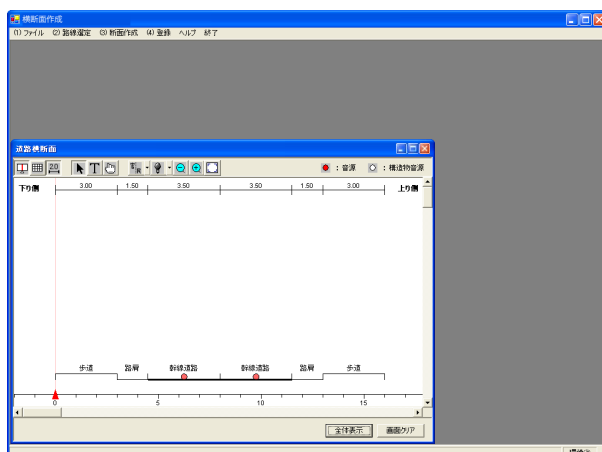
⇒ クリックすると背景色が変わります。

備考

取込む横断面を画面上でダブルクリックすると選択した
横断面が [道路横断面] ウィンドウに表示されます。

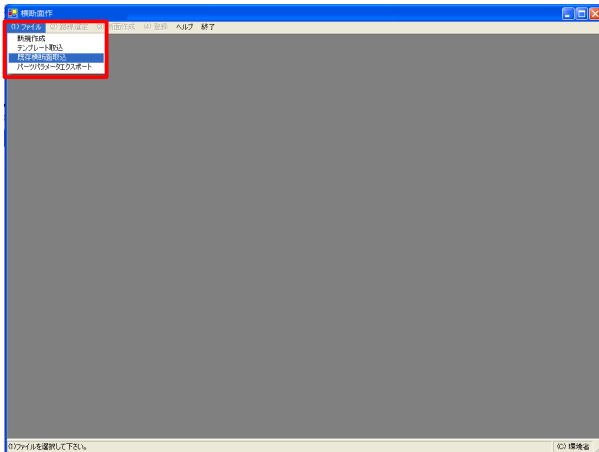
(d) [選択] をクリックします。

⇒ [道路横断面] ウィンドウに選択した図面が表示
されます。



□ 既存横断面取込

路線に登録済みの図面を取込みます。



Menu [道路設定] - [2. 標準断面] - [(1) ファイル]
- [既存横断面取込]

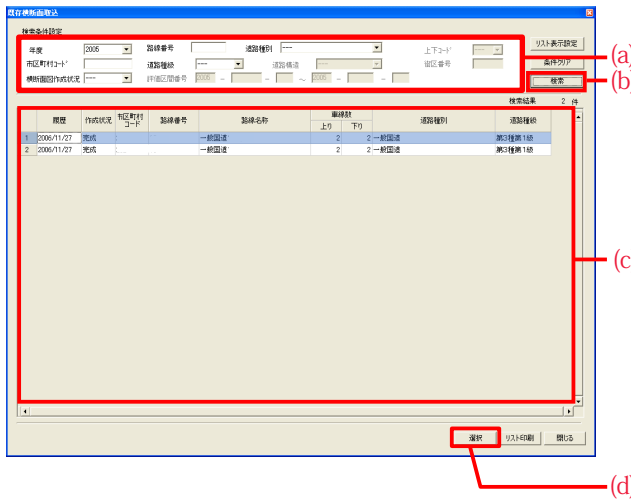
➔ [既存横断面取込] 画面が表示されます。

(a) 検索条件を設定します。

(b) [検索] をクリックします。

➔ 検索されたデータの一覧が表示されます。

(c) 取込む路線を選択します。

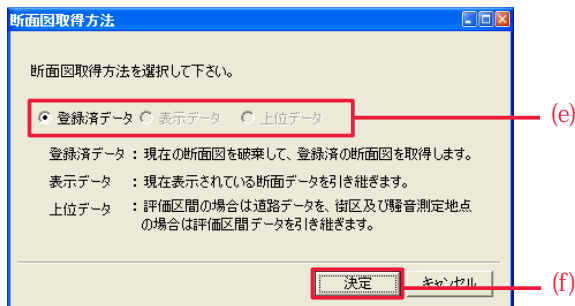


(d) [選択] をクリックします。

➔ [断面図取得方法] 画面が表示されます。

➔ [路線情報] ウィンドウに選択した路線の情報が表示されます。

(e) 断面図取得方法を選択します。



(e)

(f)

備考

断面図取得方法について

新規作成 : 新規作成を行います。[道路横断面] ウィンドウに表示されている断面図がある場合は破棄されます。

登録済データ : 選定した路線に登録または編集中の断面図を取得します。

表示データ : 現在 [道路横断面] ウィンドウに表示されている断面図を引き継ぎます。

上位データ : 評価区間の場合は選定した評価区間の属する路線の断面図を、騒音測定地点の場合はそれぞれの属する評価区間の断面図を引き継ぎます。

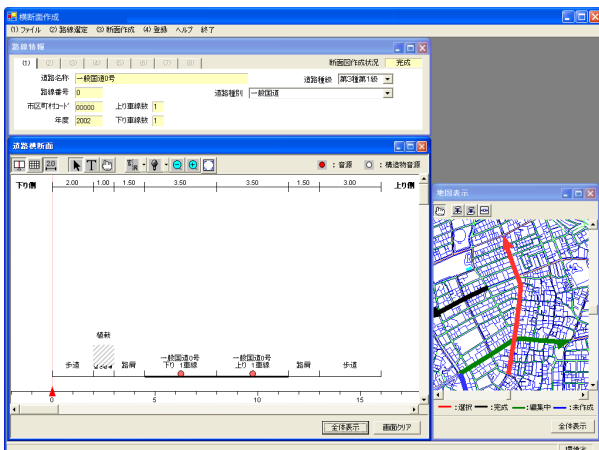
(f) [決定] をクリックします。

➔ [道路横断面] ウィンドウに選択した路線の図面が表示されます。

➔ [地図表示] ウィンドウに選択した路線が表示されます。

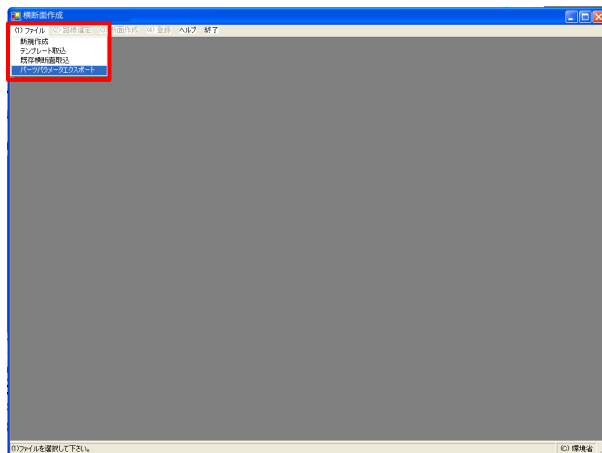
備考

[既存断面取込] で取り込んだ断面には既に路線情報が設定されているので、編集して書き直す場合は [(3) 断面作成] を行い、路線情報を変更する場合は、[(2) 路線選定] で変更します。



□ パーツパラメータエクスポート

既存横断面のパーツパラメータをファイルにエクスポートします。



Menu [道路設定] - [2. 標準断面] - [(1) ファイル]
- [パーツパラメータエクスポート]

⇒ [パーツパラメータエクスポート] 画面が表示されます。

(a) 検索条件を設定します。

(b) [検索] をクリックします。

⇒ 検索されたデータの一覧が表示されます。

(c) [エクスポート] をクリックします。

⇒ [名前を付けて保存] 画面が表示されます。

(d) 保存する場所を選択します。

(e) ファイル名を入力します。

(f) ファイルの種類を選択します。

(g) [保存] をクリックします。

⇒ データがエクスポートされます。

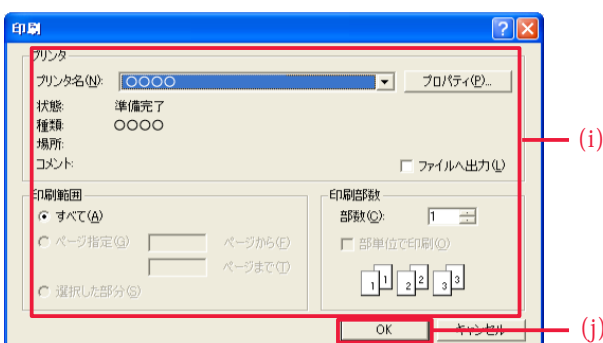
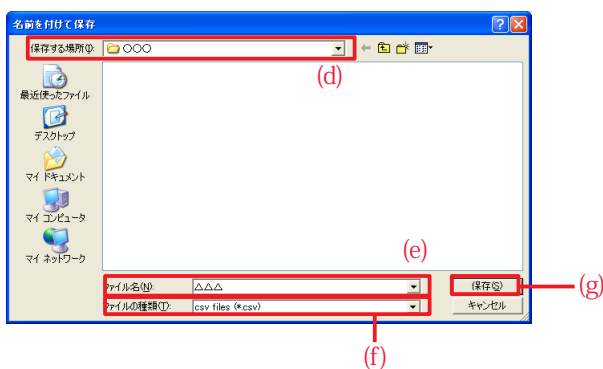
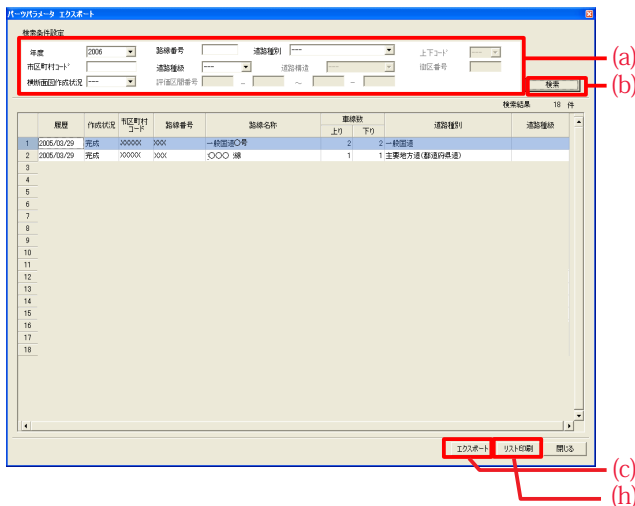
(h) [印刷] をクリックします。

⇒ [印刷] 画面が表示されます。

(i) 項目を設定します。

(j) [OK] をクリックします。

⇒ 一覧が印刷されます。



(2) 路線選定

横断面を作成する路線（主要道路）を選定します。

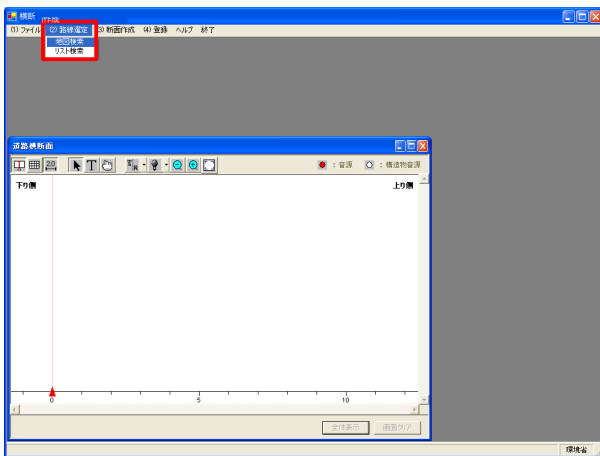
[新規作成]・[テンプレート取込] の場合、今後作成する横断面に路線の設定をします。

[既存横断面取込] の場合は既に路線情報が設定されています。変更する場合は新たに路線選定を行ってください。

選定方法として [地図検索]・[リスト検索] の2通りの方法があります。

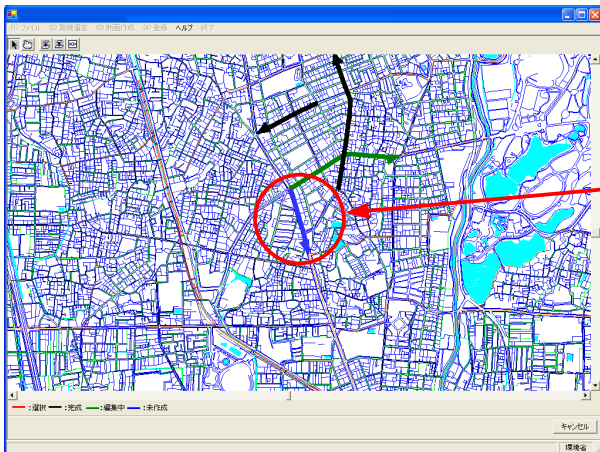
□ 地図検索

地図上で路線を選定します。



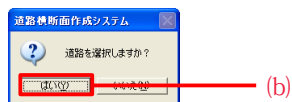
Menu [道路設定] - [2. 標準断面] - [(2) 路線選定]
- [地図検索]

→ 画面が地図表示になります。



(a) 該当の道路平面線形オブジェクトをクリックします。

→ 選択確認画面が表示されます。



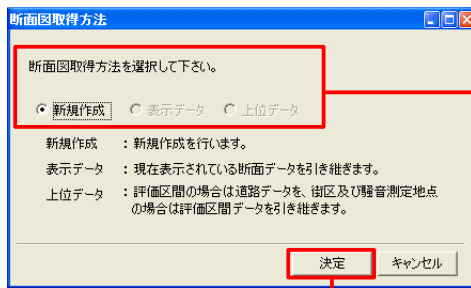
(b) はいをクリックします。

→ [断面図取得方法] 画面が表示されます。

備考

評価対象道路の表示色（横断面作成状況）

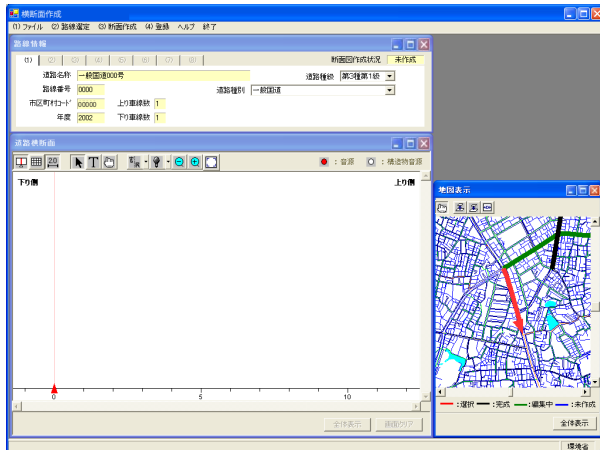
- 赤 — : 選 択（選択中）
- 黒 — : 完 成（完成）
- 緑 — : 編 集 中（作成途中で登録済み）
- 青 — : 未 作 成（未作成）



(c) 断面図取得方法を選択します。

備考

[新規作成]・[テンプレート取込]の場合、今後作成する横断面に路線の設定をします。



(d) **決定** をクリックします。

⇒ [路線情報] ウィンドウに選択した路線の情報が表示されます。

⇒ [地図表示] ウィンドウに選択した路線が表示されます。

備考

断面図取得方法について

新規作成 : 新規作成を行います。[道路横断面] ウィンドウに表示されている断面図がある場合は破棄されます。

登録済データ : 選定した路線に登録または編集中の断面図を取得します。

表示データ : 現在 [道路横断面] ウィンドウに表示されている断面図を引継ぎます。

上位データ : 評価区間の場合は選定した評価区間の属する路線の断面図を、騒音測定地点の場合はそれぞれの属する評価区間の断面図を引継ぎます。

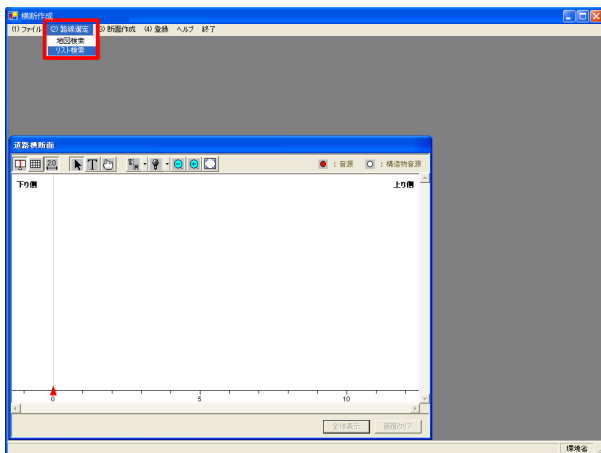
また、選択した路線の断面図作成状況によって断面図取得方法が異なります。

備考

- ① 断面作成時に路線選定ができない場合、センサスと評価区間の調査単位区間番号等の整合性が取れていないため、調査単位区間番号と評価区間番号を正しく設定してください。
- ② 断面作成途中の路線選定でエラーが表示される場合、別の路線で同じセンサス情報を利用しているため、以下の手順で変更及び再登録を行ってください。
 - ① センサスデータ整理で、仮のデータを作成する。
 - ② センサス情報入力において、一方を仮のデータで登録する。
 - ③ 評価区間情報入力において、再登録。
 - ④ 評価区間断面作成。
 - ⑤ センサス情報入力において、仮のデータを元のデータで再登録。
- ③ 騒音測定地点の断面作成時に路線登録ができない場合、断面作成前に路線選定が行われていないため、まずは路線選定を行ってから断面を作成してください。

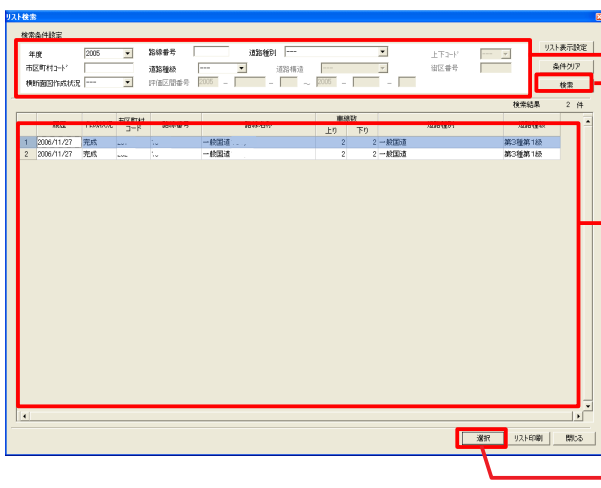
□ リスト検索

リストから路線を選定します。



Menu [道路設定] - [2. 標準断面] - [(2) 路線選定] - [リスト検索]

⇒ [路線選定画面] が表示されます。



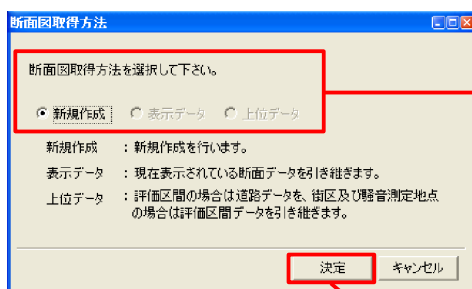
- (a) 検索条件を入力します。
- (b) [検索] をクリックします。

⇒ 検索されたデータの一覧が表示されます。

- (c) 路線を選択します。

- (d) [選択] をクリックします。

⇒ [断面図取得方法] 画面が表示されます。



- (e) 断面図取得方法を選択します。

- (f) [決定] をクリックします。

⇒ [路線情報]・[地図表示] ウィンドウが表示されます。

(3) 断面作成

パーツを選択し、パーツの特性を設定します。([図3] 横断面作成画面) - [(3) パーツ] 参照)

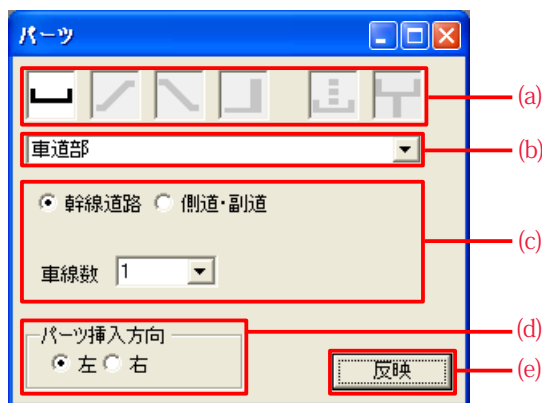
パーツを組み合わせて道路構造に応じた横断面を構成し、道路敷地境界と測定地点の位置を設定します。

備考

断面作成ができない場合、路線番号が正しく設定されていないため、路線番号を修正してください

□ パーツ設定

パーツの設定項目を入力・選択し、パーツを作成します。

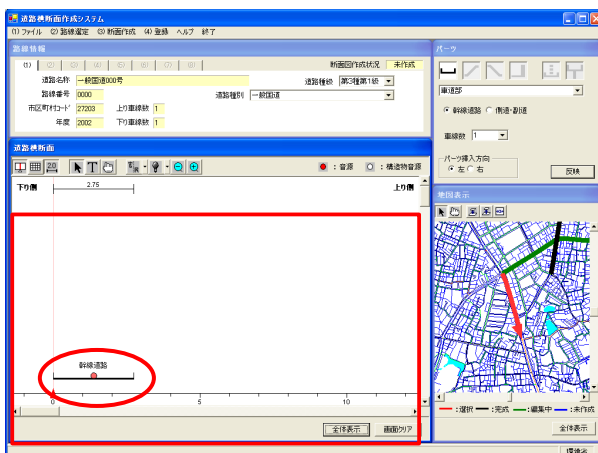


Menu [道路設定] - [2. 標準断面] - [(3) 断面作成]

- (a) [パーツツール] をクリックします。
- (b) [パーツ] を選択します。
- (c) 設定項目を入力・選択します。
- (d) [パーツ挿入方向] を選択します。

備考

[パーツ挿入方向] はパーツを組み合わせる際、[道路横断面] 画面内で選択されているパーツを基準として、新しいパーツの挿入方向を示しています。1つ目のパーツは左右どちらでもかまいません。



- (e) [反映] をクリックします。

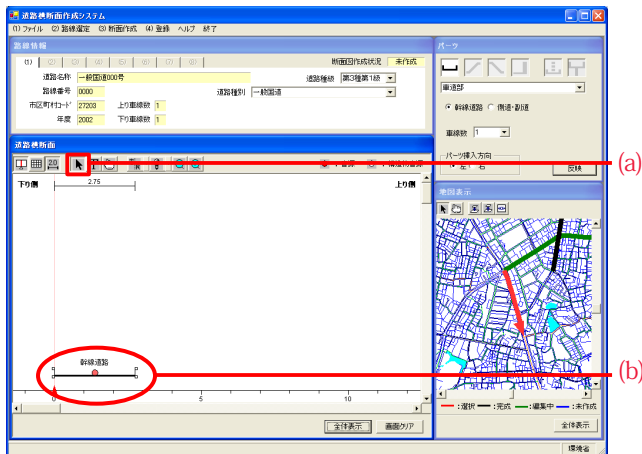
➡ [道路横断面] ウィンドウにパーツが表示されます。


備考

複数のパーツを組み合わせる場合は、先に反映されているパーツを選択し、基準として、次のパーツを挿入します。

□ パーツ特性

パーツの特性を設定します。



- (a)  をクリックします。

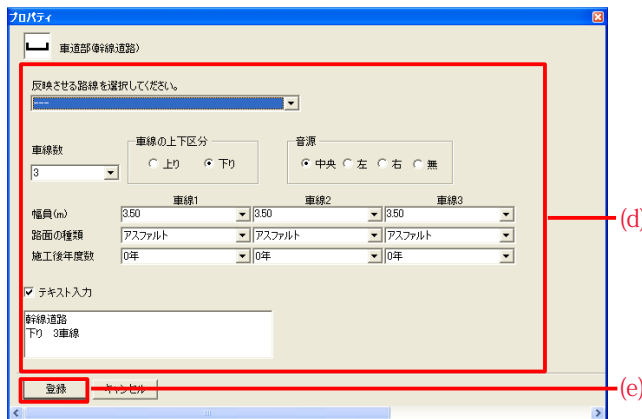
- (b) パーツをクリックします。

⇒ 頂点 (白い四角□) が表示されます。

- (c) 右クリックでショートカットメニューを表示し、[プロパティ] を選択します。

⇒ [プロパティ] 画面が表示されます。

- (d) 特性を入力・選択します。




参考・例

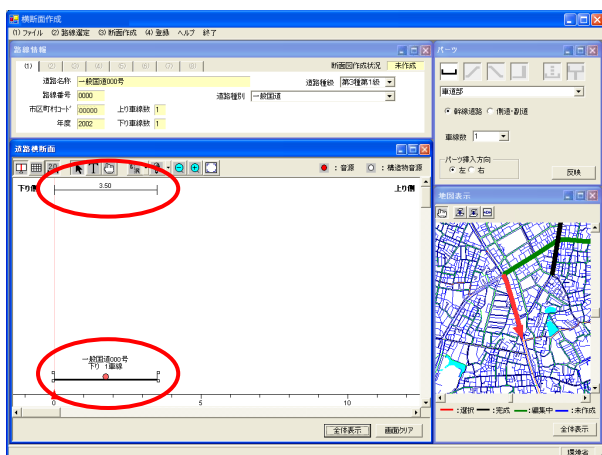
特性の設定については [1. 初期設定] - [3] デフォルトと設定範囲] および [2-2 標準断面] - [3] 断面作成画面] - [表 2-2-3 パーツ一覧] を参照してください。

備考

排水性舗装等の施行後年数が分からない場合は、舗装の状態等に応じて想定される施工後年数を入力するか、中間値である3年を入力してください。

- (e)  をクリックします。

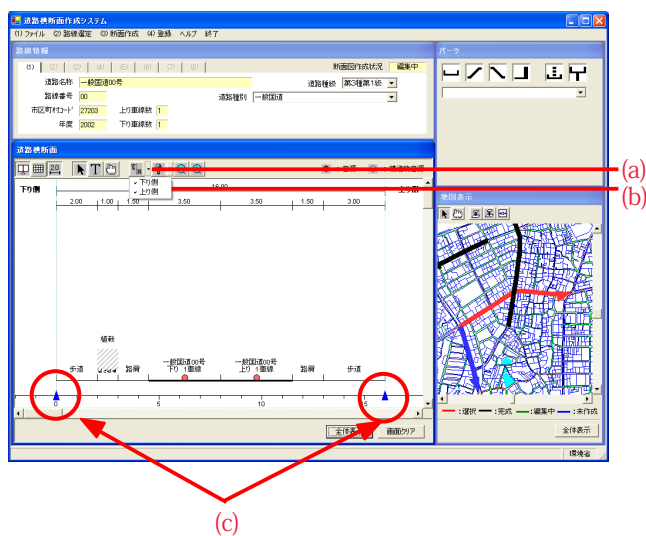
⇒ パーツの特性が設定されます。



□ 道路敷地境界

道路敷地境界を設定します。

道路敷地境界は連続するパーツの両端に設定します。



(a) (▼) をクリックします。

➡ プルダウンメニューが表示されます。

(b) 設定位置を選択します。(チェックを付けます。)

➡ 青のマーカと「道路敷地境界」のテキストが表示されます。

➡ 道路の全体寸法が表示されます。

(c) 道路敷地境界の位置を正しい位置に変更します。

- ・変更する場合、マーカをドラッグスクロールして移動します。

- ・削除する場合、プルダウンメニューのチェックをはずします。

注意

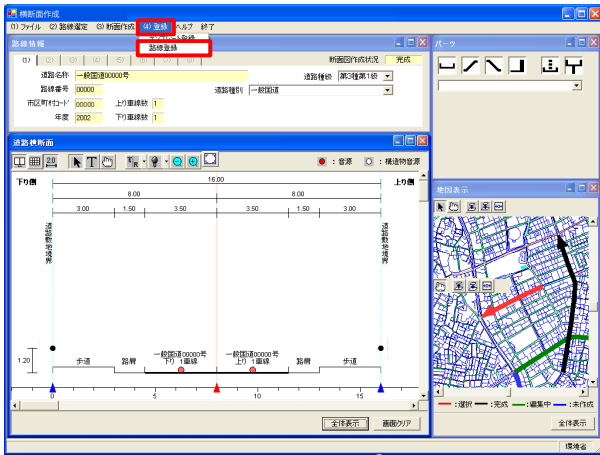
道路敷地境界位置設定後、パーツの幅員などを変更した場合は必ずマーカをドラッグスクロールして正しい道路敷地境界の位置に変更してください。

(4) 登録

作成した横断面を登録します。

登録方法として [路線登録]・[テンプレート登録] の2通りの方法があります。

□ 路線登録

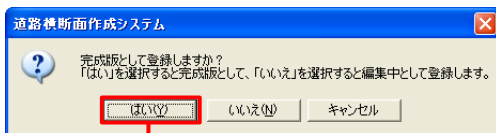


Menu [道路設定] - [2. 標準断面] - [(4) 登録] - [路線登録]

➡ 確認画面が表示されます。

(a) 横断面の作成状況に応じて登録します。

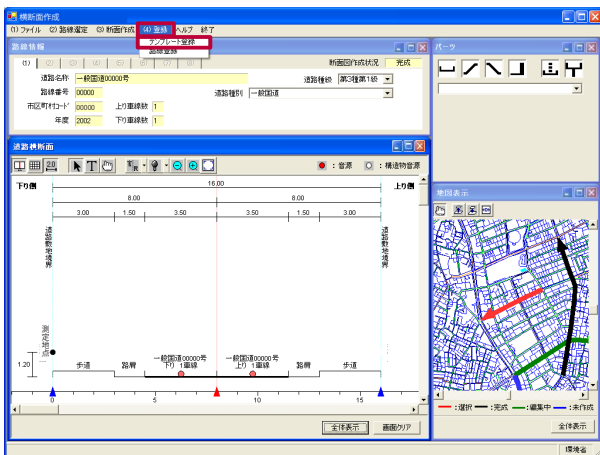
- ・[はい]：完成版として登録します。
- ・[いいえ]：編集中として登録します。



備考

利用頻度の高い標準的な断面図は [路線登録] と合わせて [テンプレート登録] もすると便利です。

□ テンプレート登録

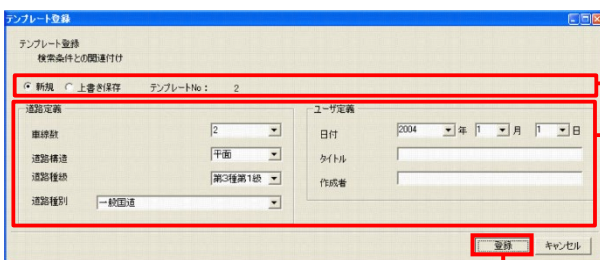


Menu [道路設定] - [2. 標準断面] - [(4) 登録] - [テンプレート登録]

➡ [テンプレート登録] 画面が表示されます。

(a) 保存方法を選択します。

(b) テンプレート情報を設定します。



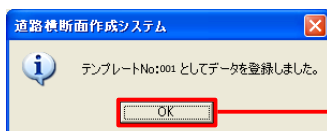
備考

設定した情報に合わせて検索が可能です。

(c) [登録] をクリックします。

➡ 確認画面が表示されます。

(d) [OK] をクリックします。



2-3 道路交通センサ区間

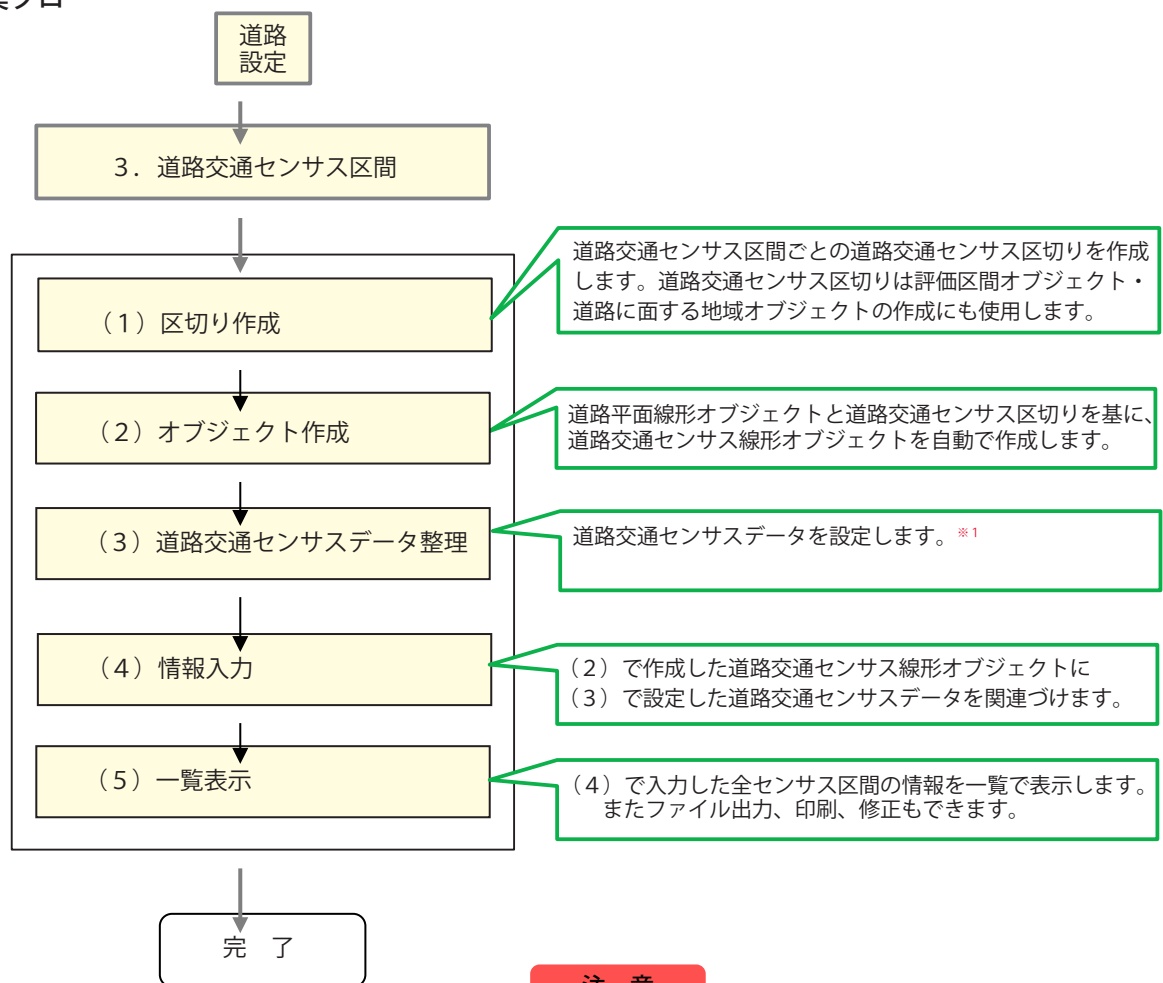
1 概要

道路交通センサ区間を設定します。

道路交通センサ線形オブジェクトは、道路平面線形オブジェクトを区切って作成します。道路交通センサデータをインポートし、作成した道路交通センサ線形オブジェクトと関連づけます。

道路交通センサ区間以外の評価対象道路についても、道路交通センサ区間と同様に道路交通センサ線形オブジェクトの作成、道路交通センサデータと同様の情報の設定、作成した道路交通センサ線形オブジェクトとの関連づけが必要です。

2 作業フロー



注意

※1 道路交通センサ区間以外の道路についても、道路交通センサ区間と同様の情報を設定します。

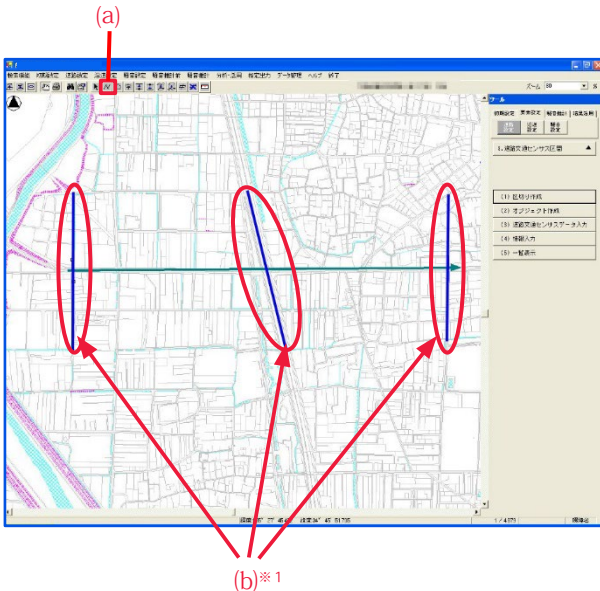
なお、その際の調査単位区間番号については道路交通センサ区間で使用していない100001以降の番号を設定します。

3 手順

(1) 区切り作成

道路交通センサス区間の起終点に道路交通センサス区切りを作成します。道路交通センサス区切りは道路平面線形オブジェクトと交差させます。

道路交通センサス区切りは評価区間オブジェクト・道路に面する地域オブジェクトの作成に使用するため、道路に面する地域（評価区間）として設定した幅よりも長い区切り線を作成します。



Menu [道路設定] - [3. 道路交通センサス区間] - [(1) 区切り作成]

[地図検索]

(a) を選択します。

(b) 道路平面線形オブジェクトと交差するように線を引き、ダブルクリックします。

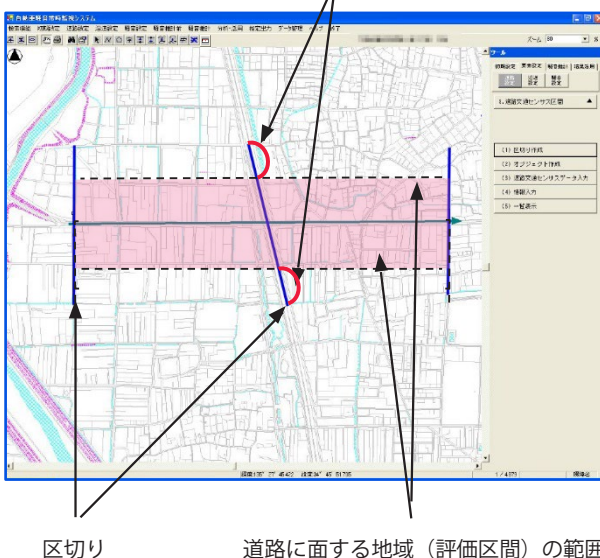
備考

道路交通センサス区切りは評価区間線形オブジェクトの作成にも使用します。

注意

※1 道路交通センサス区切りの長さが足りないと評価区間オブジェクト・道路に面する地域オブジェクトが正しく作成されません。

道路に面する地域（評価区間）より長く



区切り

道路に面する地域（評価区間）の範囲

⇒ 道路交通センサス区間区切りが作成されます。

備考

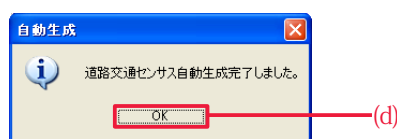
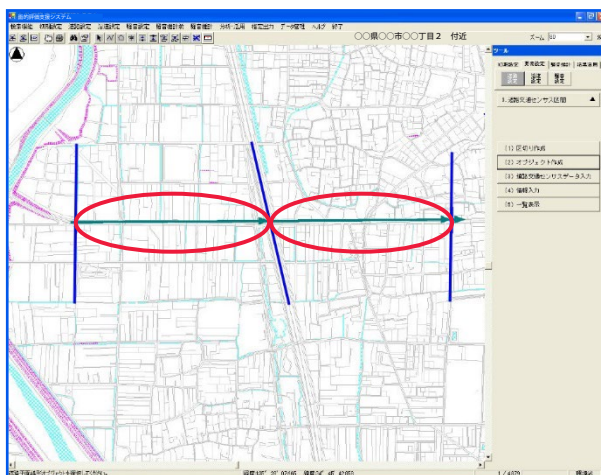
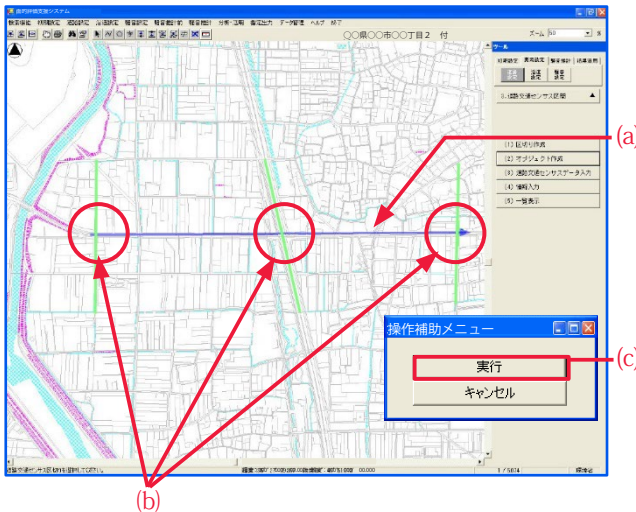
道路交通センサス区切りは青色です。

修正

道路交通センサス区間区切りの修正は選択ツール を使用し、頂点の移動、または頂点追加 ・頂点削除 、オブジェクトの分割 ・結合 で行います。

(2) オブジェクト作成

道路交通センサス線形オブジェクトを道路平面線形オブジェクトと道路交通センサス区切りを基に自動作成します。また、手動でも作成できます。



注意

複数の市をまたぐ道路交通センサス区間の場合は、市境界において道路交通センサス線形オブジェクトを区切り、情報入力の際に該当する道路交通センサスデータを参照する設定を行ってください。

[Menu] [道路設定] - [3. 道路交通センサス区間]
- [(2) オブジェクト作成]

[地図検索]

⇒ [操作補助メニュー] が表示されます。

(a) 道路平面線形オブジェクトをクリックします。

⇒ 道路平面線形オブジェクトの色が変わります。

(b) 該当する道路交通センサス区切りを全てクリックします。

⇒ 道路交通センサス区切りの色が変わります。



(c) [実行] をクリックします。

⇒ 道路交通センサス線形オブジェクトが自動で作成され、[自動生成] 確認画面が表示されます。






(d) [OK] をクリックします。

👁️ 道路交通センサス線形オブジェクトの矢印を確認します。表示されていない場合は拡大し、端の頂点を移動します。

備考

- ① 手動で作成する場合は  を使用します。使用方法については [III-3. ツールバーの基本] を参照してください。
- ② 作成したオブジェクトは  を選択し、右クリックショートカットメニューの [起終点変更] により起終点の情報を入れ替えることができます。

修正

道路交通センサス線形オブジェクトの修正は選択ツール  を使用し、頂点の移動、または頂点追加 ・頂点削除 、オブジェクトの分割 ・結合  で行います。

修正

道路平面線形オブジェクトを区切り、センサスオブジェクトの自動作成を行うとアプリケーションエラーが発生する場合、道路平面線形オブジェクトの頂点座標が同位置に複数あるため、道路線形オブジェクトの重複している座標の削除を行ってください。

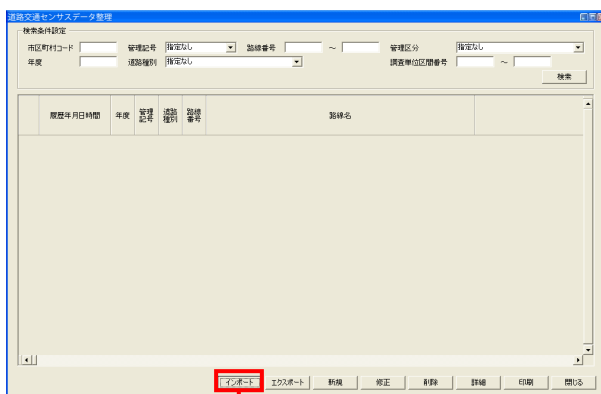
(3) 道路交通センサデータ整理

道路交通センサデータ整理表を設定します。

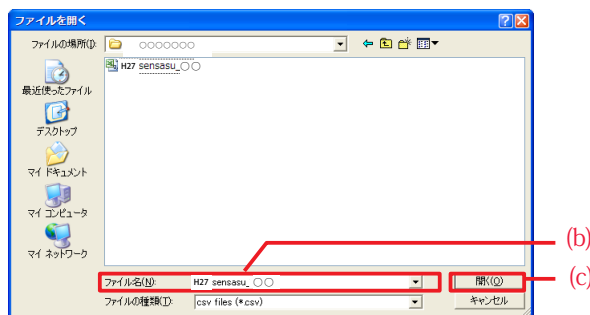
設定方法は、「自動車騒音常時監視事務支援サイト」からダウンロードした、道路センサデータをインポートする方法と、新規に入力する方法があります。通常は、作業効率性などにより道路センサデータをインポートする方法を使用します。

また、道路交通センサ区間以外の道路については、新規に道路交通センサ区間と同様の情報を設定します。

□ 平成 27 年度道路交通センサデータのインポート

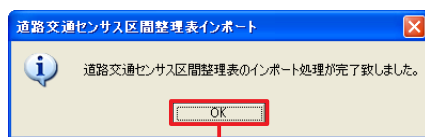


(a)



(b)

(c)



(d)

Menu [道路設定] - [3. 道路交通センサ区間]

- [(3) 道路交通センサデータ整理]

⇒ [道路交通センサ区間データ整理] 画面が表示されます。

(a) [インポート] をクリックします。

⇒ [ファイルを開く] 画面が表示されます。

(b) インポートするファイルを選択します。

(c) [開く] をクリックします。

⇒ ファイルがインポートされます。

⇒ [道路交通センサ区間整理表インポート] 確認画面が表示されます。

(d) [OK] をクリックします。

⇒ インポートしたデータが一覧に表示されます。

注意

インポートをすると既存のデータにキー項目が同じデータがある場合は削除されます。

□ 新規入力による設定

道路交通センサス区間データを入力します。

道路交通センサス区間以外の道路についても、道路交通センサス区間と同様の情報を設定します。

[Menu] [道路設定] — [3. 道路交通センサス区間]

— [(3) 道路交通センサスデータ整理]

➡ [道路交通センサス区間データ整理] 画面が表示されます。

(a) **新規** をクリックします。

(b) タブを切り替えて該当する項目を入力します。

注意

道路交通センサス区間以外の道路については、調査単位区間番号を道路交通センサス区間で使用していない 100001 以降の番号に設定します。

注意

路線名と青字項目は、推計パラメータとして使用するので、必ず入力してください。

(c) **登録** をクリックします。

➡ 道路交通センサス区間データが設定されます。

注意

道路交通センサス区間データ整理の市区町村コードと他で入力するコードを合わせる必要があります。

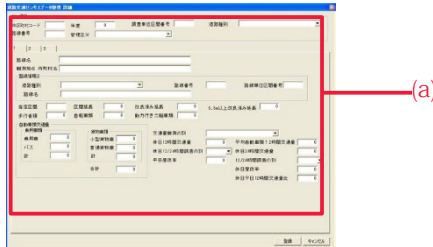
騒音推計時にセンサスデータを検索するのに必要となります。

point

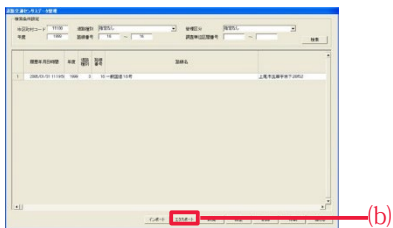
新規設定する道路交通センサス区間データが多い場合には、フォーマットをエクスポートし、表計算ソフトで編集する方法があります。ここでは例として Excel での編集方法を記します。

注意

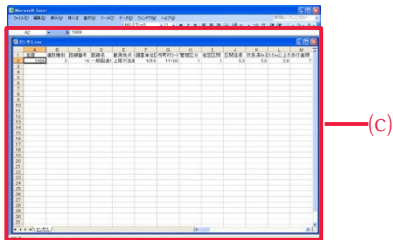
インポートをすると既存のデータにキー項目が同じデータがある場合は削除されます。



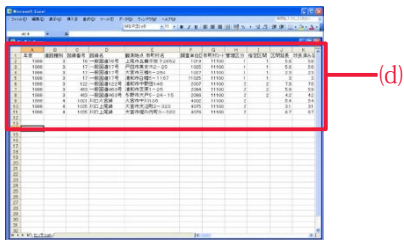
(a) 新規に道路交通センサスデータを一つ作成します。



(b) 作成した道路交通センサスデータを CSV 形式でエクスポートします。

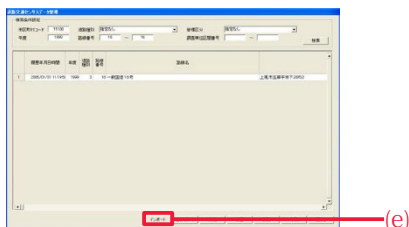


(c) エクスポートしたファイルを表計算ソフトで開きます。



(d) フォーマットに合わせ、道路交通センサスデータを入力します。

(e) ファイルを CSV 形式で保存します。



(f) 道路交通センサスデータを入力したファイルをシステムにインポートします。

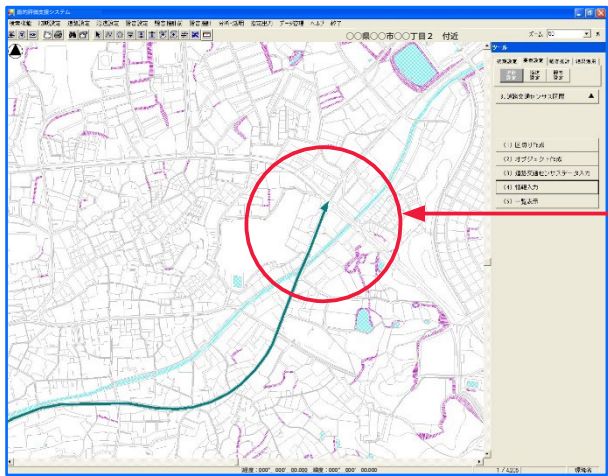
➡ 道路交通センサス区間データが設定されます。

参考・例

インポートについては[2-3(3) 道路交通センサスデータ整理]を参照してください。

(4) 情報入力

□ 主要道路の情報入力



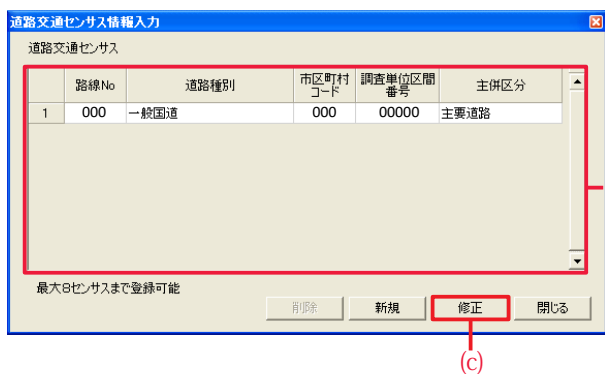
Menu [道路設定] - [3. 道路交通センサス区間]

- [(4) 情報入力]

[地図検索]

- (a) 該当する道路交通センサス線形オブジェクトの終点
(矢印) 側をクリックします。

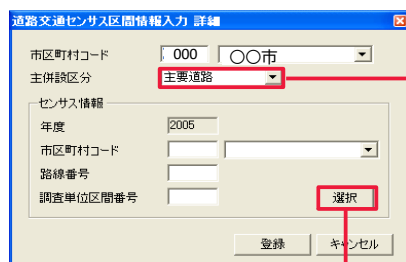
⇒ [道路交通センサス情報入力] 画面が表示されます。



- (b) 該当する路線情報を選択します。

- (c) [修正] をクリックします。

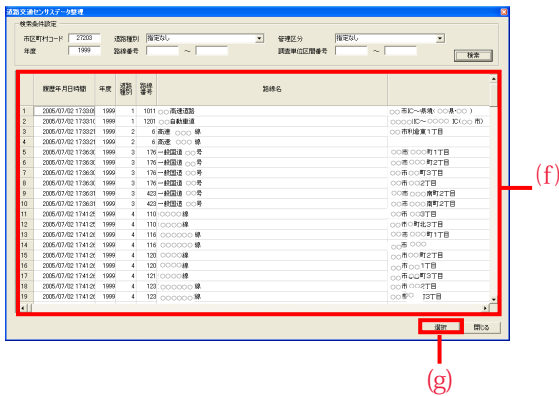
⇒ [道路交通センサス情報入力 詳細] 画面が表示されます。



- (d) 主併区分を [主要道路] にします。

- (e) [選択] をクリックします。

⇒ [道路交通センサスデータ整理] 画面が表示されます。



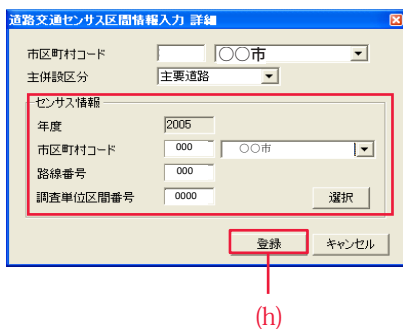
(f) 該当するデータを選択します。

(g) **選択** をクリックします。

➡ [道路交通センサス区間情報入力 詳細] 画面の表示に戻ります。

備考

[初期設定] - [5. 基準年度] の道路交通センサス調査年度設定で設定された、市区町村ごとの道路交通センサス調査年度と一致するセンサス情報のみ選択可能です。



👁️ [センサス情報] が入力されていることを確認します。

(h) **登録** をクリックします。

👁️ 道路交通センサス区間情報 (調査単位区間番号) が終点側に表示されたことを確認します。

備考

[センサス情報] は直接入力することもできます。

point

道路交通センサス区間検索を行った場合にはセンサス番号オブジェクトをメインウィンドウの中央に表示します。

修正

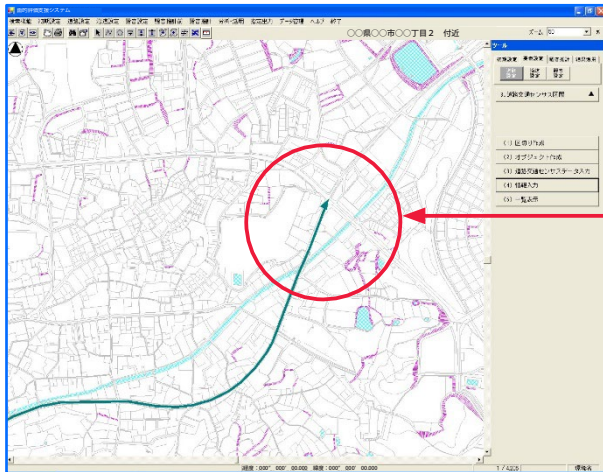
情報を修正する場合は該当の道路交通センサス線形オブジェクトを選択すると [情報入力] 画面が表示され情報の変更ができます。
また一覧から選択し、変更することもできます。

修正

センサス情報を選択し、「道路交通センサス区間情報入力 詳細」にて登録をクリックした時に、「センサス情報がない」というエラーが出る場合、路線番号を確認し、道路平面線形要素の情報を修正してください。

(平成 22 年度道路交通センサスデータと平成 27 年度道路交通センサスデータでは、路線番号が変更になっている場合がありますので、再確認してください。)

□ 併設道路の情報入力



Menu [道路設定] - [3. 道路交通センサ区間] -
[(4) 情報入力]

[地図検索]

(a) 該当する道路交通センサ区間線形オブジェクトを
クリックします。

➡ [道路交通センサ情報入力] 画面が表示されま
す。

(b) [新規] をクリックします。

➡ [道路交通センサ情報入力 詳細] 画面が表示さ
れます。

路線No	道路種別	市区町村コード	調査単位区間番号	主併区分	
1	000	一般国道	000	0000	主要道路

備考

一つの道路交通センサ線形オブジェクトに対して最大
8つの情報を入力することができます。

(c) 該当する項目を入力し、[主併区分] を「併設道路」
にします。

(d) [選択] をクリックします。

➡ [道路交通センサデータ整理] 画面が表示されま
す。

(e) 該当するデータを選択します。

(f) [選択] をクリックします。

➡ [道路交通センサ区間情報入力 詳細] 画面の表
示に戻ります。

備考

[初期設定] - [5. 基準年度]の道路交通センサ調査年
度設定で設定された、市区町村ごとの道路交通センサ
調査年度と一致するセンサ情報のみ選択可能です

👁️ [センサ情報] が入力されていることを確認しま
す。

(g) [登録] をクリックします。

👁️ 道路交通センサ区間情報 (調査単位区間番号)
が 終点側に表示されたことを確認します。

備考

[センサ情報] は直接入力することもできます。

調査年月日開始	年度	道路種別	路線番号	調査単位区間番号	名称
2005/07/02 113808	1999	1	1011	香取線	〇〇市-〇〇市(〇〇市)
2005/07/02 113810	1999	1	1001	香取線	〇〇市-〇〇市(〇〇市)
2005/07/02 113821	1999	2	6	東条線	〇〇市-〇〇市
2005/07/02 113828	1999	2	6	東条線	〇〇市-〇〇市
2005/07/02 113836	1999	3	176	一般国道	〇〇市-〇〇市
2005/07/02 113838	1999	3	176	一般国道	〇〇市-〇〇市
2005/07/02 113838	1999	3	176	一般国道	〇〇市-〇〇市
2005/07/02 113838	1999	3	423	一般国道	〇〇市-〇〇市
2005/07/02 113839	1999	3	423	一般国道	〇〇市-〇〇市
2005/07/02 114128	1999	4	1101	線	〇〇市-〇〇市
2005/07/02 114128	1999	4	1101	線	〇〇市-〇〇市
2005/07/02 114128	1999	4	116	線	〇〇市-〇〇市
2005/07/02 114128	1999	4	116	線	〇〇市-〇〇市
2005/07/02 114128	1999	4	120	線	〇〇市-〇〇市
2005/07/02 114128	1999	4	120	線	〇〇市-〇〇市
2005/07/02 114128	1999	4	121	線	〇〇市-〇〇市
2005/07/02 114128	1999	4	123	線	〇〇市-〇〇市
2005/07/02 114128	1999	4	123	線	〇〇市-〇〇市

(5) 一覧表示

道路交通センサス区間情報を一覧表示し、エクスポート、印刷をします。

	履歴年月日時間	路線番号	道路種別	年度	調査単位区間番号	市区町村コード	リンクコード情報		
							道路交通センサス番号	道路平面図	
1	2006/11/27 18:48:54	00	3	2005	00001	000	31-L00000001	31-T00000002	30-L00000000
2	2006/11/27 18:48:20	0	3	2005	00002	000	31-L00000002	31-T00000001	30-L00000000

Menu [道路設定] - [3. 道路交通センサス区間] - [(5) 一覧表示]

⇒ [道路交通センサス区間一覧表示] 画面が表示されます。

参考・例

エクスポート、印刷の手順は[IV 2-1 (3) 一覧表示]を参照してください。

2-4 データチェック

1 概要

道路平面線形データ、道路交通センサスデータのチェックを行います。

詳細は、[IV-6-1 データチェック]を参照してください。



3. 沿道設定

騒音推計を行うための沿道状況要素の設定を行います。

環境基準類型指定地域、道路に面する地域、評価区間、建物等の沿道状況を設定します。

1 要素設定と推奨画面ズーム

表 3-1 要素設定と推奨画面ズーム

項 目			ズーム (%)	
3-1	市区町村エリア	(1)	オブジェクト作成	20
		(2)	情報入力	—
3-2	都市計画用途地域	(1)~(16)	(オブジェクト作成)	150
3-3	環境基準類型指定地域	(1)	オブジェクト作成 (自動)	—
		(2)	オブジェクト作成 (手動)	150
3-4	評価区間	(1)	区切り作成	100
		(2)	オブジェクト作成	100
		(3)	情報入力	100
		(4)	標準断面設定	—
3-5	道路端	(1)	オブジェクト作成	700
		(2)	情報入力	150
3-6	道路に面する地域	(1)	オブジェクト作成	700
		(2)	情報入力	500
		(3)	番号オブジェクト移動	50
3-7	距離帯	(1)	オブジェクト作成	150
3-8	近接空間	(1)	オブジェクト作成	150
3-9	建物オブジェクト作成	(1)	オブジェクト作成	500
		(2)	情報入力	1,000
		(3)	番号オブジェクト移動	1,000
		(4)	建物属性把握	500
		(5)	窓面位置設定	500
		(6)	見通し角	500

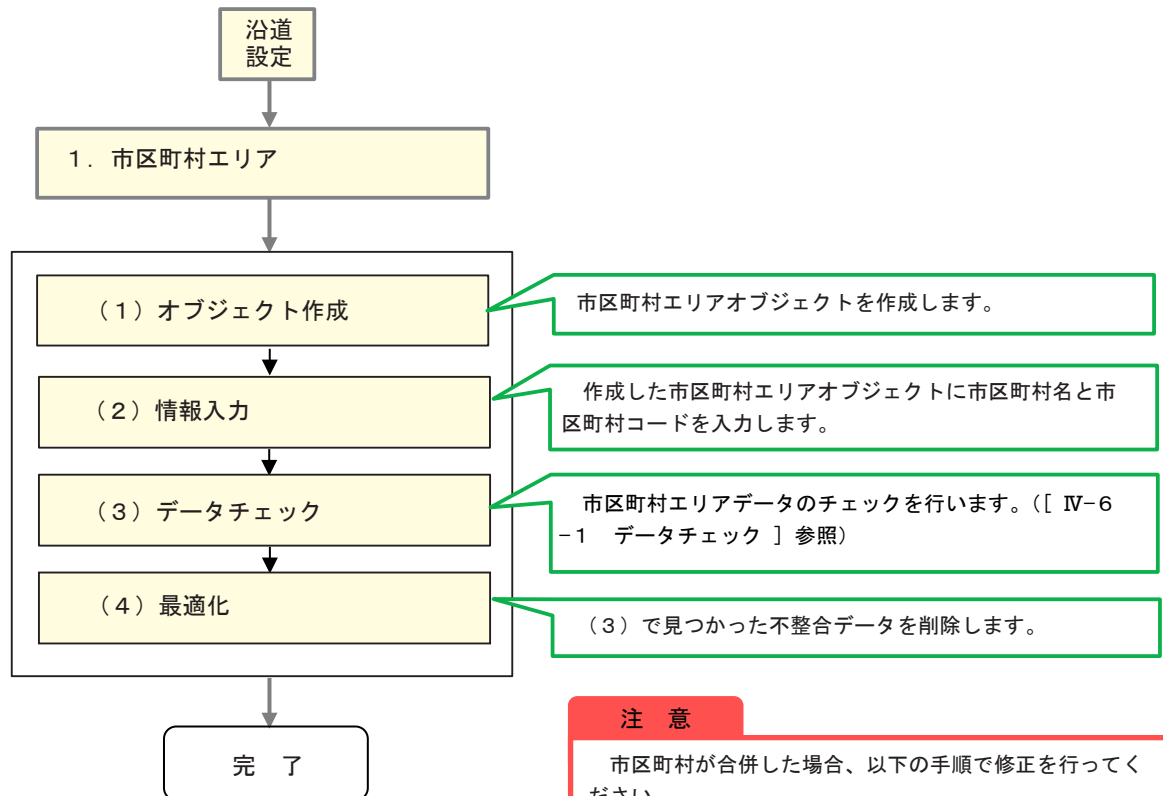
画面の解像度を 1024 × 768 (XGA) と想定しています。

3-1 市区町村エリア

1 概要

市区町村オブジェクトを設定します。市区町村エリアオブジェクトは背景の地図データにポリゴンデータがある場合（地方公共団体用）、自動作成します。ポリゴンデータがない場合（地方公共団体用以外）は手動作成します。

2 作業フロー



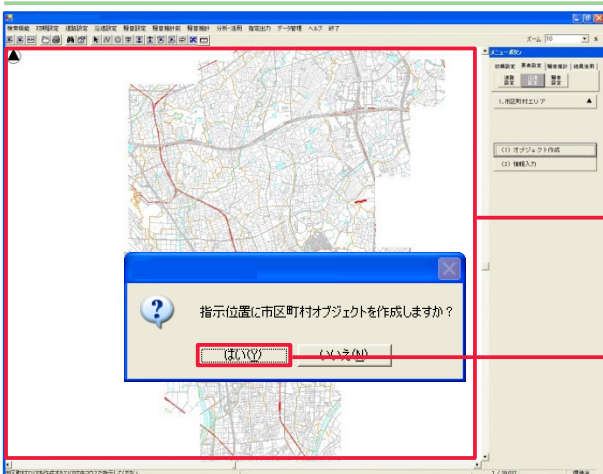
注意

市区町村が合併した場合、以下の手順で修正を行ってください。

1. 市区町村オブジェクト修正
2. センサスデータ整理
3. センサス情報修正
4. 評価区間情報修正
5. 騒音測定地点情報修正

3 手順

(1) オブジェクト作成




Menu [沿道設定] - [1. 市区町村エリア] - [(1) オブジェクト作成]






[地図検索]

- (a) 市区町村のエリア内をクリックします。
⇒ [市区町村エリア作成] 画面が表示されます。
- (b) **はい** をクリックします。
⇒ 市区町村エリアオブジェクトが作成されます。


修正

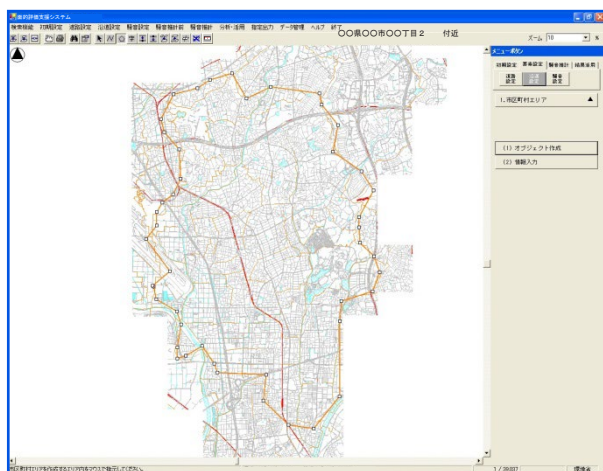
背景のデジタル地図に市区町村のエリアのポリゴンがない場合、または合併などによりエリアが違う場合、手動で作成します。

多角形ツール  を使用し市区町村エリアオブジェクトを手動作成します。

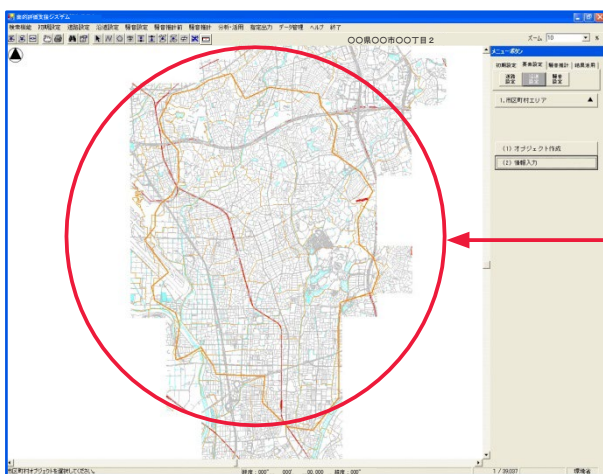
修正は選択ツール  を使用し、頂点の移動、または頂点追加  ・頂点削除  、オブジェクトの分割  ・結合  で行います。

注意

自動作成された市区町村オブジェクトが分割されている場合、結合ツール  により結合してください。結合方法については [Ⅲ-3. ツールバーの基本] - [⑩結合ツール] を参照してください。



(2) 情報入力



Menu [沿道設定] - [1. 市区町村エリア] - [(2) 情報入力]

[住所検索]

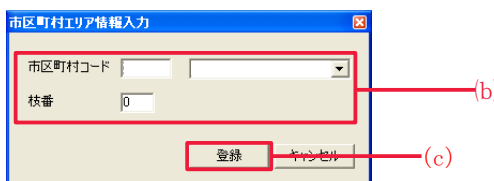
- (a) 市区町村エリアオブジェクトをクリックします。
⇒ [市区町村エリア情報入力] 画面が表示されます。
- (b) 該当する項目を入力します。
- (c) **登録** をクリックします。
⇒ 市区町村情報が入力され、市町村名が表示されます。

注意

飛び地や島等がある場合、エリアが離れていても同じ市区町村コードを使用するため [枝番] を入力します。[枝番] は0から登録できます。

備考

ここで設定した市区町村が、[Ⅳ-9-2 過年度データの移行] で使用されます。

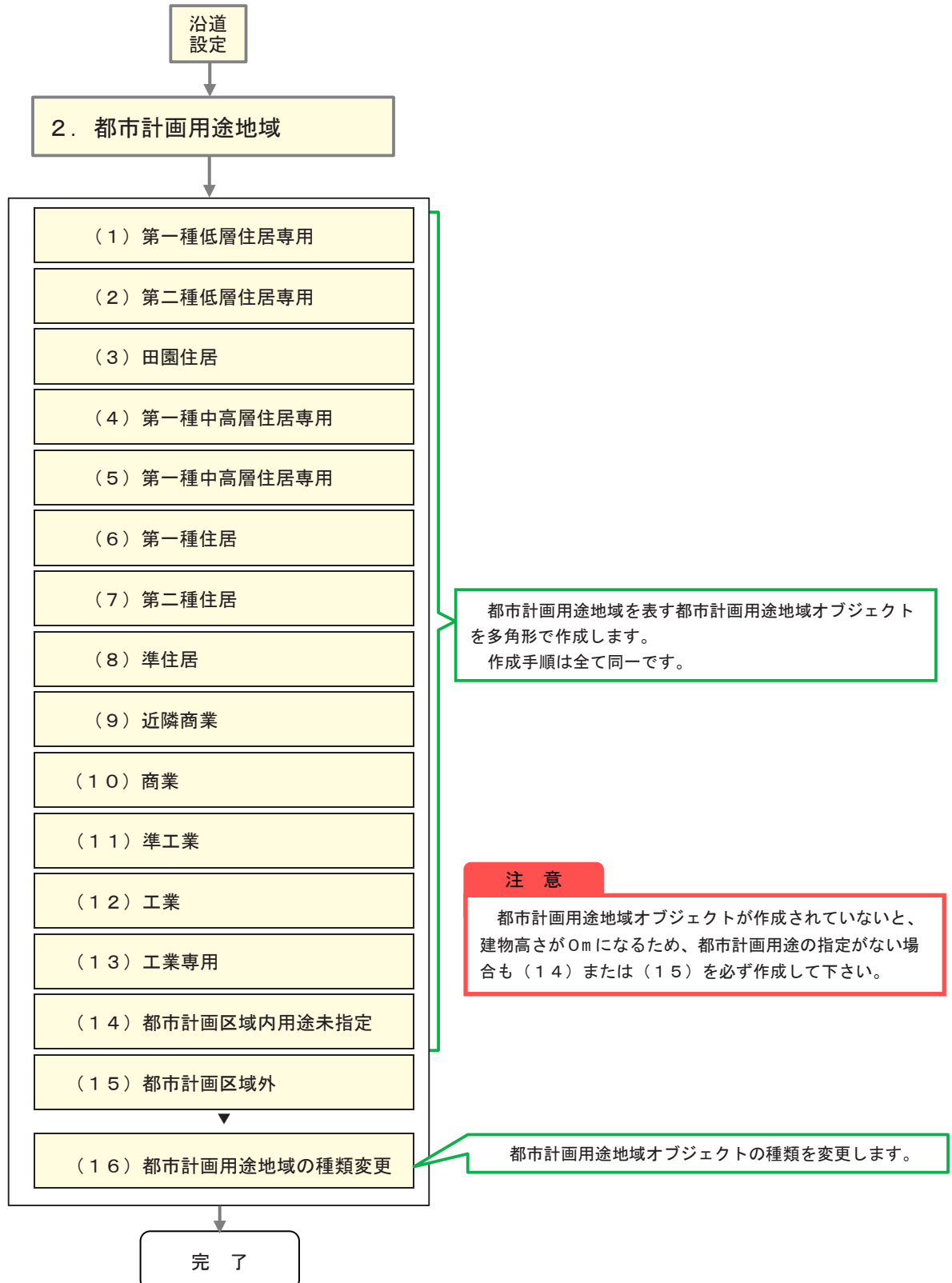


3-2 都市計画用途地域

1 概要

都市計画用途地域図に合わせて該当の都市計画用途地域オブジェクトを作成します。

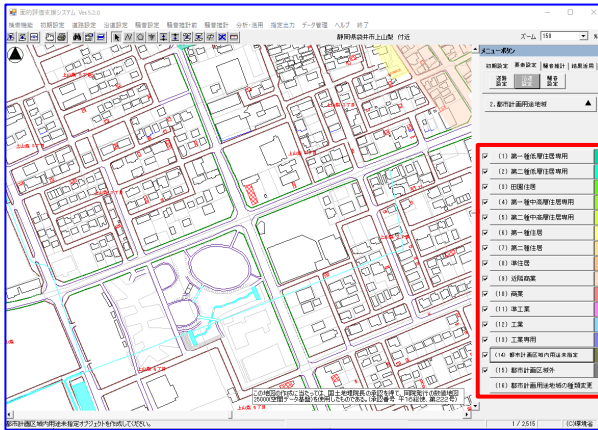
2 作業フロー



3 手順

(1) 第一種低層住居専用～(16) 都市計画用途地域の種類変更

都市計画用途地域オブジェクトは、道路に面する地域を含むように大まかに一塊のオブジェクトを作成し、種類ごとに分割し、[(16) 都市計画用途地域の種類変更] で変更して作成します。



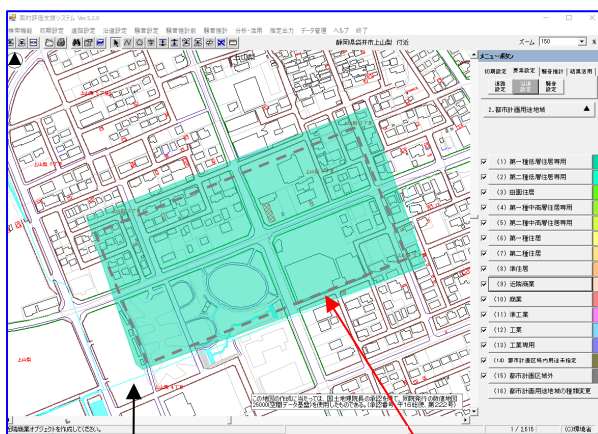
Menu [沿道設定] - [2. 都市計画用途地域] - [(1) 第一種低層住居専用] ~ [(16) 都市計画用途地域の種類変更]

[地図検索]

(a) (1) 第一種低層住居専用 から [(16) 都市計画区域外] のうちから作成する種類を選択します。

備考

作成した都市計画用途地域の種類は [(16) 都市計画用途地域の種類変更] で変更できます。

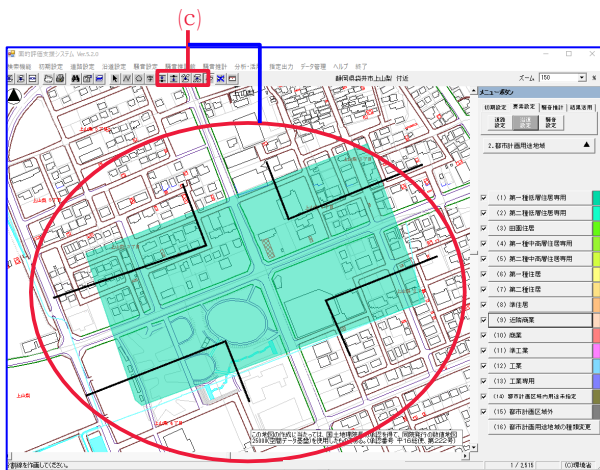





備考

オブジェクトの表示・非表示はメニューボタン左のチェックボックスを切り替えます。

(b) 道路に面する地域を含むように一塊のオブジェクトを作成します。

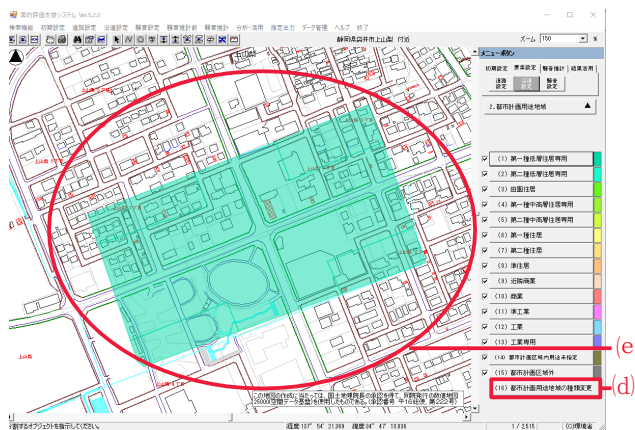
道路に面する地域 (評価区間) の範囲 (表示はされません)



(c)  分割線ツール、 分割ツール、 分割線削除ツールを使用し、都市計画用途地域の種類ごとに分割します。

参考・例

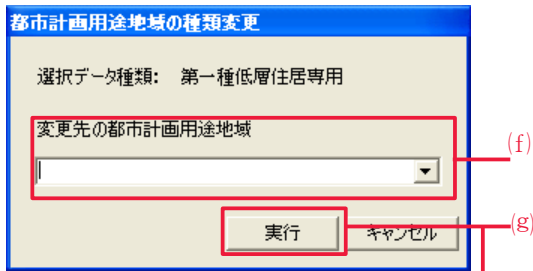
分割の手順については [Ⅲ-3 ツールバーの基本] を参照してください。



(d) [(16) 都市計画用途地域の種類変更] を選択します。

(e) 種類を変更するオブジェクトを選択します。

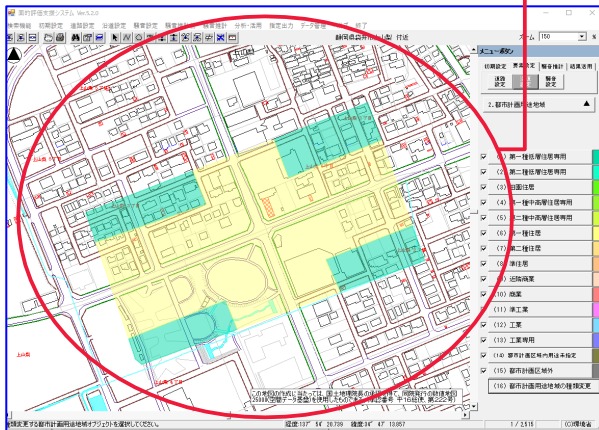
⇒都市計画用途地域の種類変更画面が表示されます。



(f) [変更先の都市計画用途地域] を選択します。

(g) 実行をクリックします。






➡ 都市計画用途地域の種類が変更されます。



注意

☐ 多角形ツールで作成することもできますが、オブジェクトの間に隙間や重なりが無いように作成して下さい。

修正

都市計画用途地域オブジェクトの修正は選択ツール  を使用し、頂点の移動、または頂点追加  ・頂点削除  、オブジェクトの分割  ・結合  で行います。

備考

- ① いずれの都市計画用途地域も非表示にしているにもかかわらず、常時表示されているオブジェクトがある場合、キャッシュに不整合なデータが残っています。キャッシュ作成を実行して、システムを再起動してください。
- ② 都市計画用途地域オブジェクトの修正によって、属する都市計画用途地域が変わる建物があれば、建物データを修正し、集計、常時監視フォーマット作成を再度実行してください。なお、都市計画用途地域の変更に伴い環境基準類型指定の変更が生じた場合には合わせて変更してください。
- ③ 都市計画用途地域のデータチェックにおいて、重複していないはずのオブジェクトについて重複エラーのメッセージが表示される場合、都市計画用途地域オブジェクトの再確認を行い、問題が無ければエラーを無視してください。
- ④ 都市計画用途地域オブジェクトが重なっている場合、住居系の用途属性が優先されます。

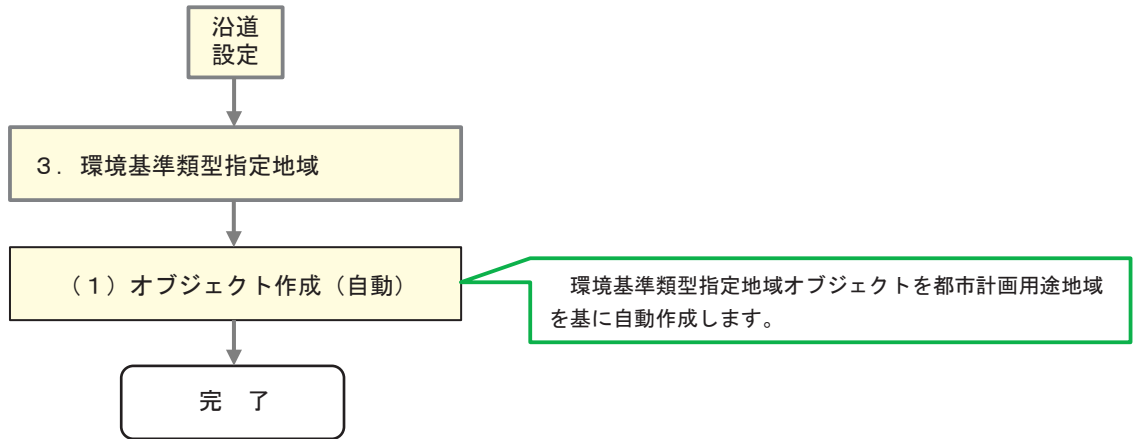
3-3 環境基準類型指定地域

1 概要

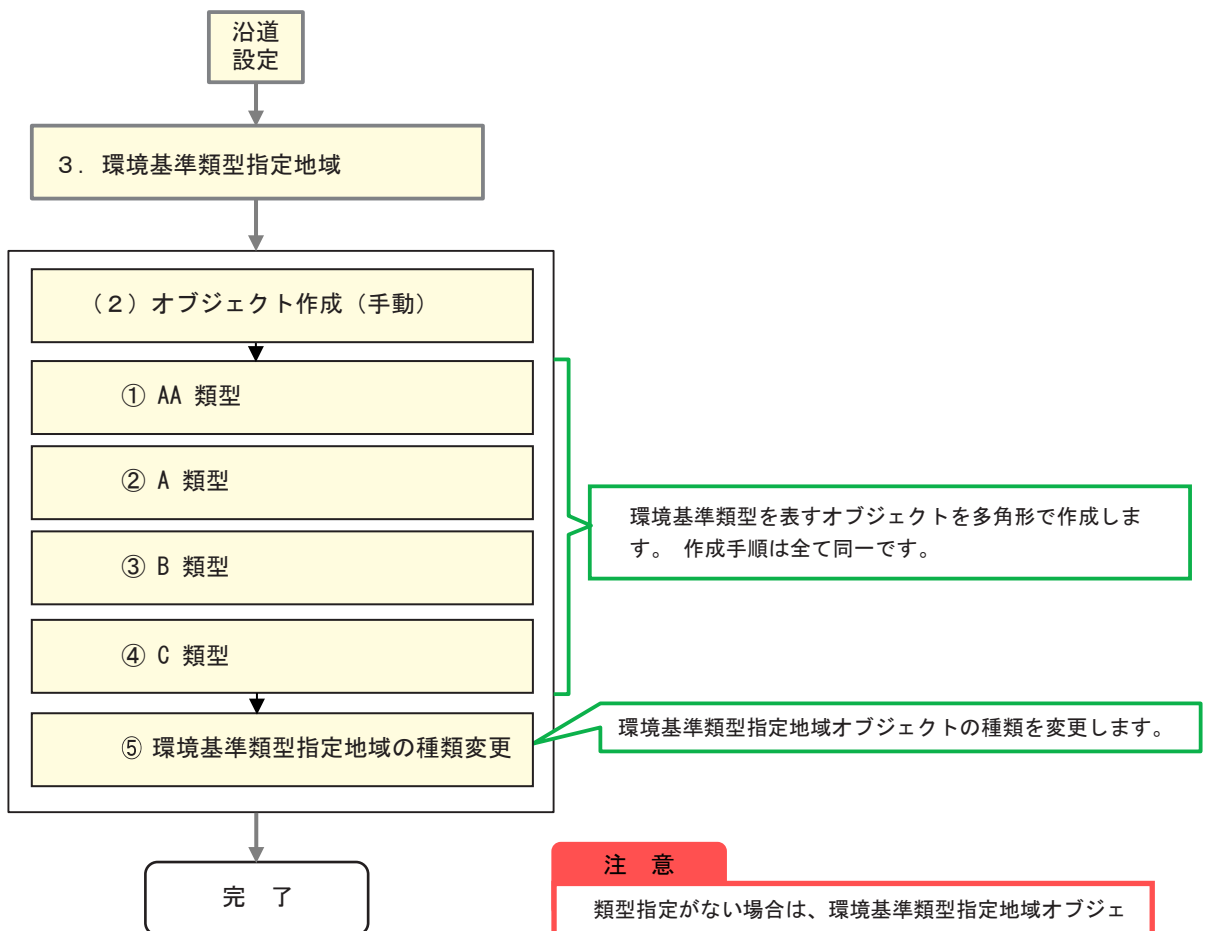
環境基準類型指定地域オブジェクトは都市計画用途地域を基に自動作成、または手動作成します。

2 作業フロー

□ 自動作成（通常）



□ 手動作成

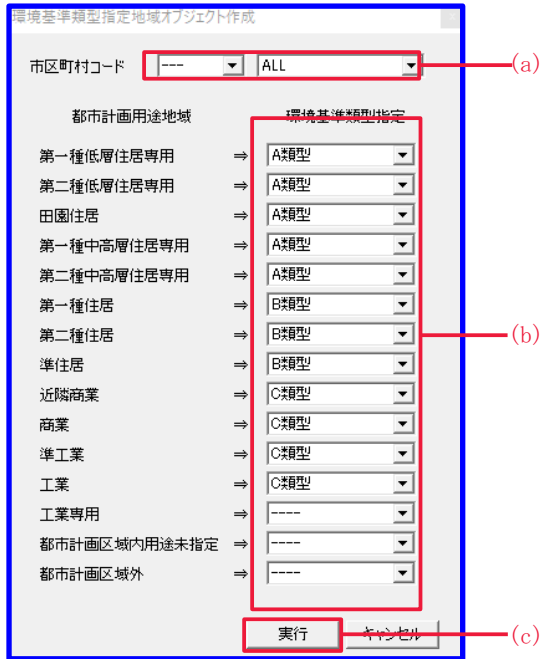


3 手順

(1) オブジェクト作成 (自動)

都市計画用途地域オブジェクトから自動作成します。

□ 自動作成 (通常)



Menu [沿道設定] - [3. 環境基準類型指定] - [(1) オブジェクト作成 (自動)]

⇒ [環境基準類型指定地域オブジェクト作成画面] が表示されます。

(a) [市区町村コード] をプルダウンから選択します。

(ALL は全ての市区町村が対象です。)

(b) [都市計画用途地域] ごとの [環境基準類型指定地域] をプルダウンから選択します。

(c) [実行] をクリックします。

⇒ 都市計画用途地域オブジェクトを基に環境基準類型地域オブジェクトが自動で作成されます。






注意

都市計画用途地域からの変換対象がない場合、「---」を選択します。

point

都道府県単位の作成で [市区町村コード] (市区町村名) を選択し、実行することで該当の市区町村内にオブジェクトを自動作成します。

修正

環境基準類型指定地域オブジェクトの修正は選択ツール  を使用し、頂点の移動、または頂点追加 ・頂点削除 、オブジェクトの分割 ・結合 で行います。

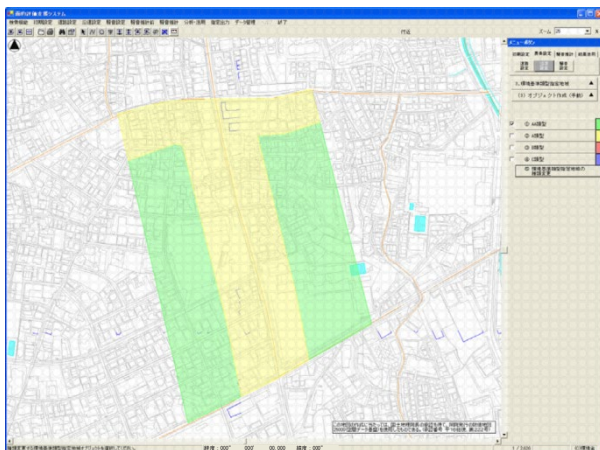
(2) オブジェクト作成 (手動)

部分的にオブジェクトを作成する場合には手動で作成します。

□手動作成

① AA 類型～⑤ 環境基準類型指定地域の種類変更

環境基準類型指定地域オブジェクトは、道路に面する地域を含むように大まかに一塊のオブジェクトを作成し、種類ごとに分割し、[⑤ 環境基準類型指定地域の種類変更] で変更して作成します。



Menu [沿道設定] - [3. 環境基準類型指定地域] -
[(3)オブジェクト作成(手動)]-[① AA 類型]
～ [⑤環境基準類型指定地域の種類変更]

 [地図検索]

参考・例

オブジェクト作成手順については [3-2 (1) 一種低層住居専用～(16) 都市計画用途地域の種類変更] を参照してください。

3-4 評価区間

1 概要

評価区間を設定します。評価区間線形オブジェクトは、道路交通センサ線形オブジェクトを区切って自動作成し、情報を入力します。

評価区間ごとの標準断面を一つ作成します。評価区間は、道路構造、遮音対策の状況に応じて設定してください。

備考

評価区間内で道路構造や環境対策が異なる区間が存在する場合には、「騒音の発生強度の把握の方法」がほぼ同一と思われる評価区間に分割してください。

推計は、「騒音の発生強度の把握の方法」がほぼ同一と思われる評価区間単位で行います。従って、基準点騒音レベルの確定値も評価区間単位で上下別に1つ設定されます。

注意

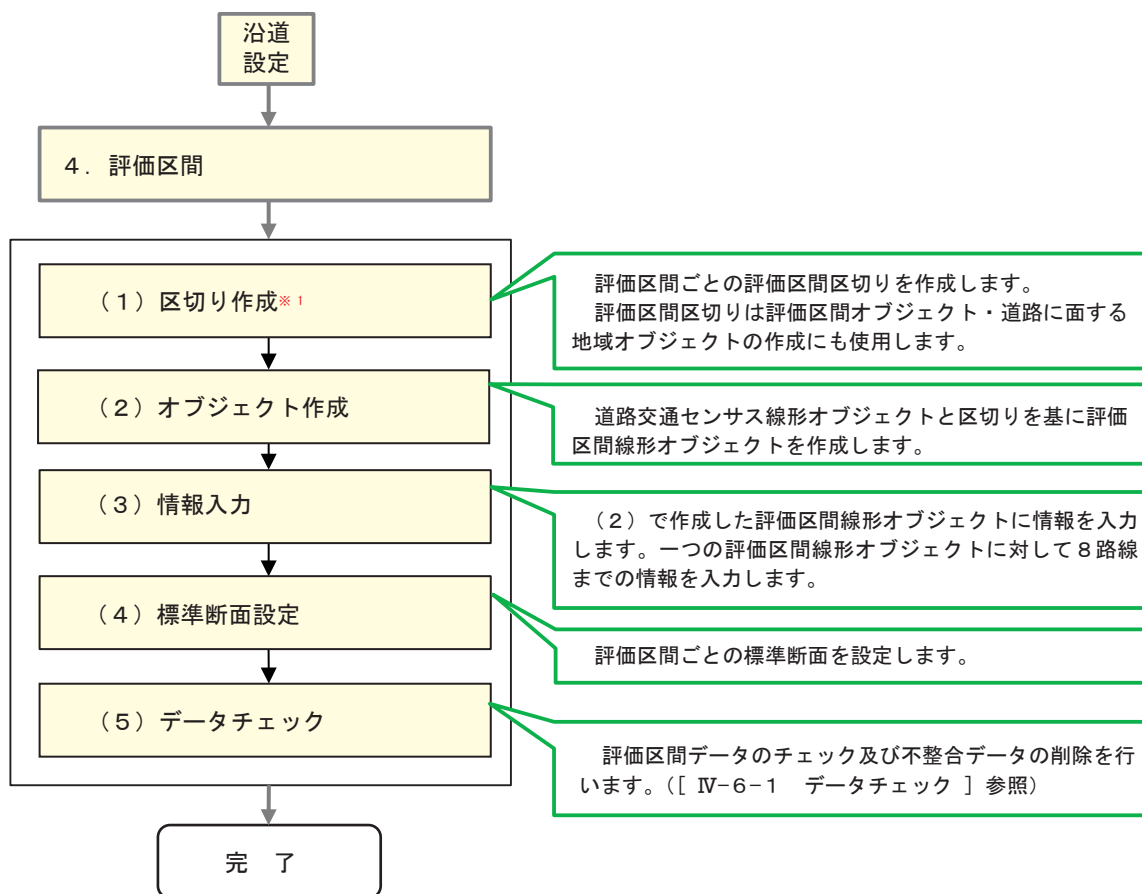
過年度の設定区間についてのデータチェックエラーは修正してください。

過年度のデータが移行されていない場合、データの年度移行が必要になります。以下の手順で年度移行を行ってください。

1. 基準年度設定（本年度に設定）
2. 評価区間情報入力（「評価区間情報入力 詳細画面」において「登録」ボタンを選択）
3. 建物属性把握
4. 騒音推計前からの一連の作業

なお、過年度データを本年度データとして報告しない場合には、該当区間に関するエラーは無視してください。

2 作業フロー



注意

※1 市境を跨いでいる道路交通センサ区間上に評価区間を設定する場合は、必ず市境で区切ります。

修正

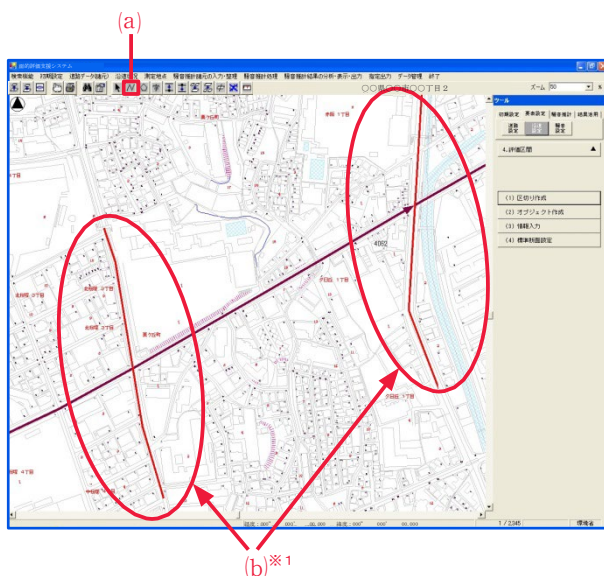
下位情報を持った評価区間線形オブジェクトの修正については〔面的評価支援システム 操作マニュアル（別冊）オブジェクト修正編〕を参照してください。

3 手順

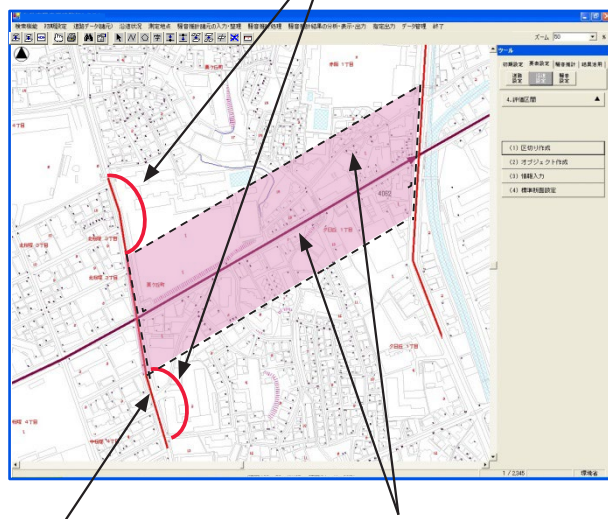
(1) 区切り作成

評価区間の起終点に評価区間区切りを作成します。評価区間区切りは道路交通センサス線形オブジェクトと交差させます。

評価区間区切りは評価区間オブジェクト・道路に面する地域オブジェクトの作成に使用するため、道路に面する地域（評価区間）として設定した幅よりも長い区切り線を作成します。



道路に面する地域（評価区間）より長く



区切り

道路に面する地域（評価区間）の範囲

Menu [沿道設定] - [4. 評価区間] - [(1) 区切り作成]

[道路交通センサス区間検索]

(a) を選択します。

(b) 道路交通センサス線形オブジェクトと交差するように線を引き、ダブルクリックします。

注意






※1 評価区間区切りの長さが足りないと評価区間オブジェクト・道路に面する地域オブジェクトが正しく作成されません。

⇒評価区間区切りが作成されます。

備考

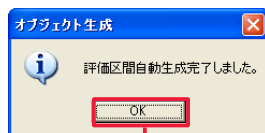
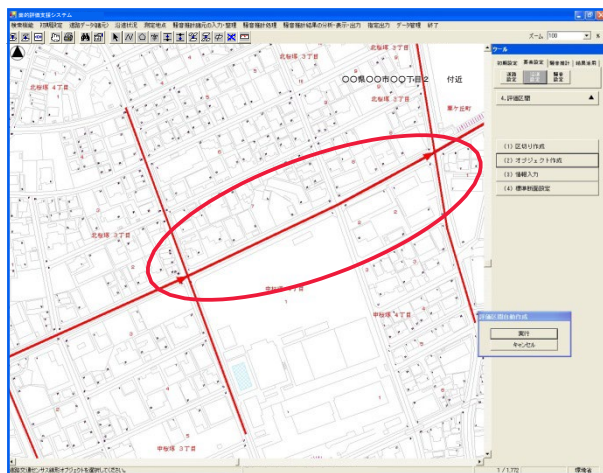
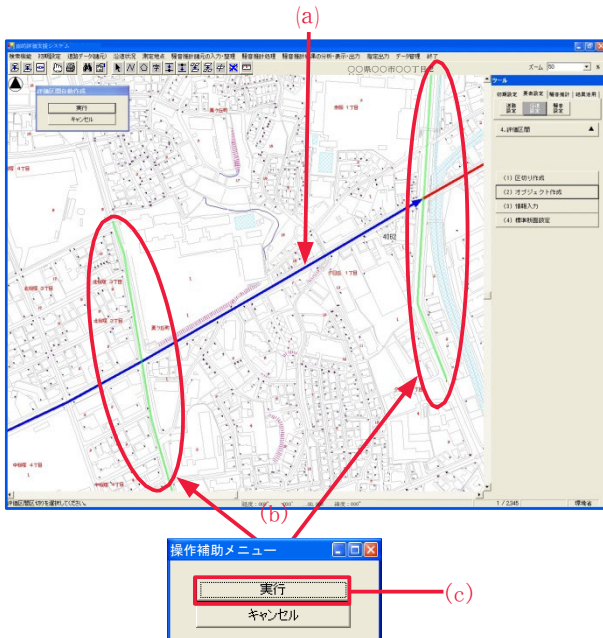
評価区間区切りは赤色です。

修正

評価区間区切りの修正は選択ツール  を使用し、頂点の移動、または頂点追加  ・頂点削除  、オブジェクトの分割  ・結合  で行います。

(2) オブジェクト作成

道路交通センサス線形オブジェクトと道路交通センサス区切り・評価区間区切りを基に評価区間線形オブジェクトを自動作成します。



Menu [沿道設定] - [4. 評価区間] - [(2) オブジェクト作成]

[道路交通センサス区間検索]

⇒ [操作補助メニュー] が表示されます。

(a) 道路交通センサス線形オブジェクトをクリックします。

⇒ 道路交通センサス線形オブジェクトの色が変わります。

(b) 該当の道路交通センサス区切り・評価区間区切りを全てクリックします。

⇒ 道路交通センサス区切り・評価区間区切りの色が変わります。

(c) [実行] をクリックします。

⇒ 評価区間線形オブジェクトが作成され、[評価区間自動作成] 画面が表示されます。

(d) [OK] をクリックします。

修正

折れ線ツール を使用し手動作成もできます。

修正は選択ツール を使用し、頂点の移動、または頂点追加 ・頂点削除 、オブジェクトの分割 ・結合 で行います。

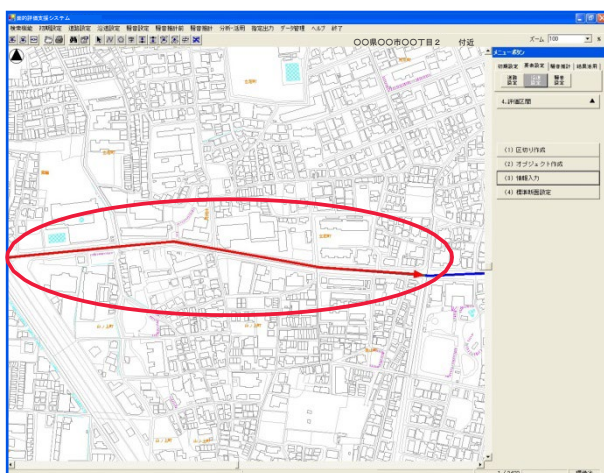
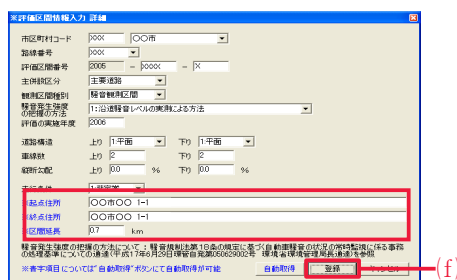
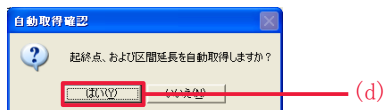
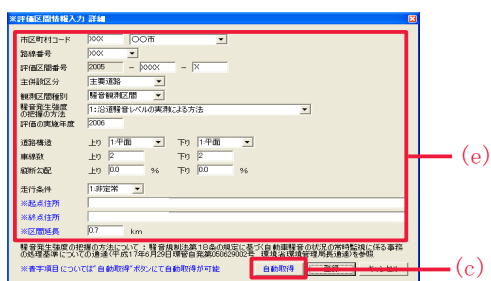
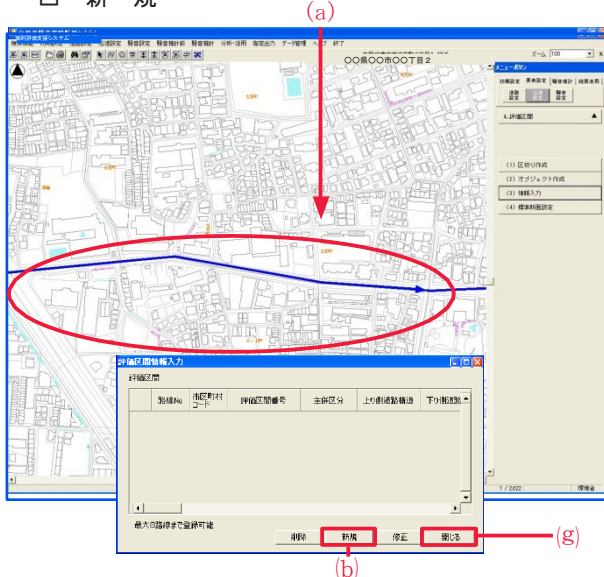
備考

作成したオブジェクトは を選択し、右クリックショートカットメニューの [起終点変更] により起終点の情報を入れ替えることができます。

重複しているオブジェクトは を選択し、右クリックショートカットメニューの [削除] により削除できます。

(3) 情報入力

□ 新規



Menu [沿道設定]-[4. 評価区間]-[(3) 情報入力]

道路センサス区間検索

(a) 評価区間線形オブジェクトをクリックします。
 → [評価区間情報入力] 画面が表示されます。

(b) 「新規」をクリックします。
 → [評価区間情報入力 詳細] 画面が表示されます。

参考・例

【騒音発生強度の把握の方法】

1. 沿道騒音レベルの実測による方法
2. 他の評価区間における騒音測定結果を準用する方法
3. 自動車の交通量及び速度の実測結果により推計する方法
4. 交通量が僅少の事由により、環境基準値以下と決定する方法

(c) 「自動取得」をクリックします。
 → [自動取得確認] 画面が表示されます。

(d) 「はい」をクリックします。
 → 起・終点の住所と区間延長(青字)が取得されます。

注意

自動取得できない場合は手動で入力してください。

注意

起・終点の住所の市が違う(評価区間線形オブジェクトが市境を跨いでいる)場合、エラーメッセージが表示されますので、[沿道設定]-[4. 評価区間]-[(1) オブジェクト作成]に戻り、市境を跨がないように区切ってください。

警告

評価区間線形オブジェクトが、市区町村境をまたいでいると思われます。このまま、登録してもよろしいですか?

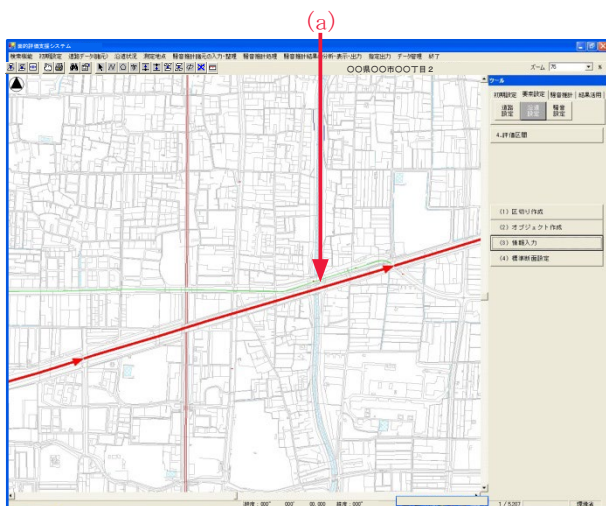
注意

騒音発生強度の把握の方法を4(交通量が僅少の事由により、環境基準値以下と決定する方法)に設定する評価区間は、他の評価区間と交差しないものとします。

(e) 該当する項目を入力します。
 (f) 「登録」をクリックします。
 → 評価区間情報が登録され、色が変わります。

(g) 「閉じる」をクリックします。

□ 修正

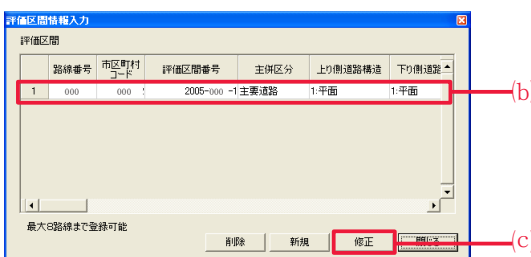


Menu [沿道設定] - [4. 評価区間] - [(3) 情報入力]

[道路交通センサス区間検索]

(a) 評価区間線形オブジェクトをクリックします。

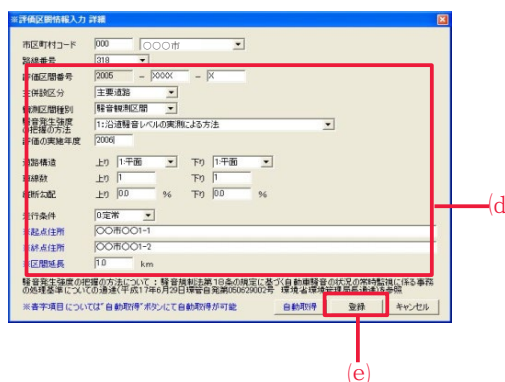
⇒ [評価区間情報入力] 画面が表示されます。



(b) 修正する評価区間情報を選択します。

(c) **修正**をクリックします。

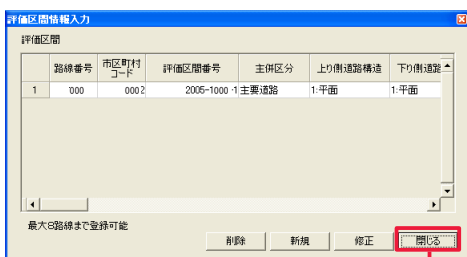
⇒ [評価区間情報入力 詳細] 画面が表示されます。



(d) 該当する項目を修正します。

(e) **登録**をクリックします。

⇒ 評価区間情報が修正されます。



(f) **閉じる**をクリックします。

備考

- ① システムの評価区間番号は「調査単位区間番号」（6桁） - 「区間分割番号」（2桁）としているため、報告データをエクスポートし、ファイルのデータ修正を行ってください。
- ② 評価区間情報入力で、オブジェクトが2つ以上存在する場合、不要な評価区間線形オブジェクトは削除してください。
- ③ 評価対象道路は、騒音測定の実施の有無に関わらず環境基準評価（面的評価）を行う区間です。従って、騒音測定を実施していない区間でも指定可能です。
- ④ 縦断勾配の設定は、上り坂は正の値、下り坂は負の値を入力してください。なお、上り側と下り側で上下対称となりますのでご注意ください。
- ⑤ 主併区分の情報変更は以下の手順で行ってください。
 1. 評価区間情報入力
 2. 道路に面する地域情報入力
 3. 距離帯オブジェクト作成

(4) 標準断面設定

評価区間ごとに道路の標準断面を1つ設定します。

横断面の作成手順は [IV-2-2 標準断面] と同様ですが [(2) 路線選定] の際、評価区間の属する評価対象道路の標準断面（上位データ）を取込むことができます。

Menu [沿道設定] - [4. 評価区間] - [(4) 標準断面設定]

参考・例

[IV-2-2 標準断面] を参照してください。

備考

評価対象道路の標準断面（上位データ）を取り込むことができない場合、正しい路線番号を設定してください。

路線番号にセンサスの調査単位区間番号が設定されていたため、上位データの継承が正しく行われていないことがあります。

point

評価対象外フラグについて

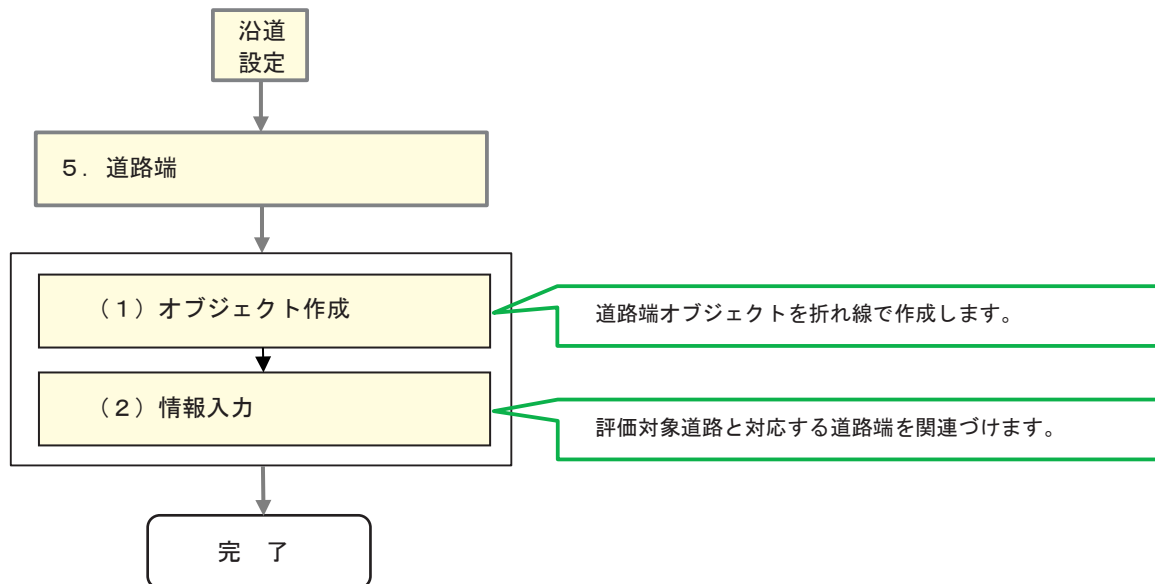
- ① システムに登録されている評価区間情報を評価結果から外すには、[データ管理] - [沿道情報データ整理表] の評価対象外フラグを“1”に設定してください。
- ② 評価対象外の評価区間情報は登録する必要はありません。
- ③ 評価を行う区間と GIS 出力のみを行う区間がある場合、評価対象外フラグの切り替えを行ってください。

3-5 道路端

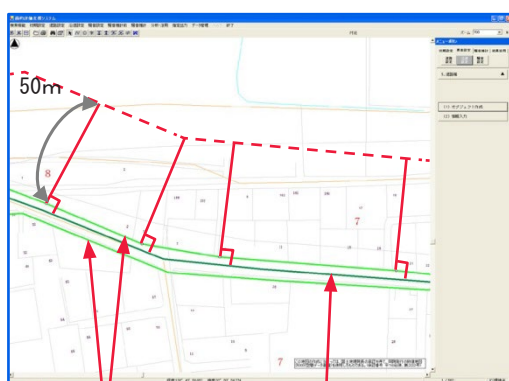
1 概要

道路端（道路敷地境界）を設定します。道路端オブジェクトを折れ線で作成し、評価区間線形オブジェクトと関連づけます。

2 作業フロー

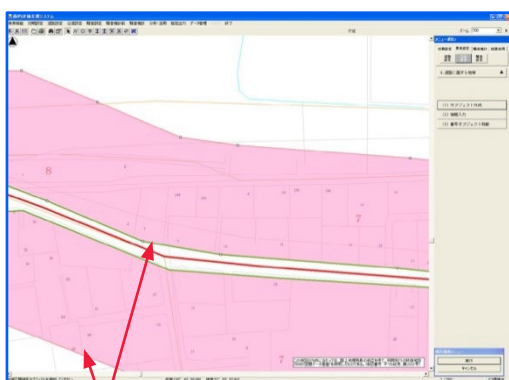


参考・例



道路端オブジェクト

評価区間線形オブジェクト



道路に面する地域（評価区間）オブジェクト

道路端オブジェクトは道路に面する地域（評価区間）オブジェクト、距離帯オブジェクト、近接空間オブジェクトの作成に使用されます。

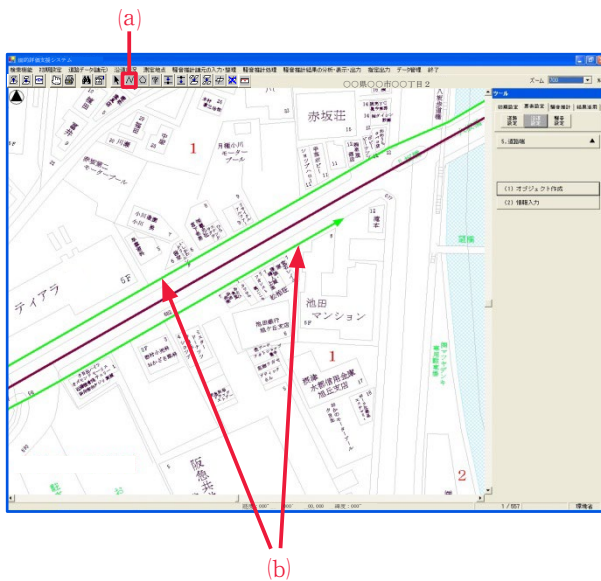
例として、面する地域オブジェクトの作成ロジックを示します。

評価区間線形オブジェクトと道路端の頂点を垂直で通る線の50mの位置に頂点を置き、その頂点同士を結んで作成されます。


3 手順

(1) オブジェクト作成

道路端オブジェクトは道路平面線形オブジェクトより長めに作成します。



Menu [沿道設定] - [5. 道路端] - [(1) オブジェクト作成]

 [道路交通センサス区間検索]

(a) を選択します。






(b) 対象道路の起点から終点に向かい、地図上の道路敷地境界に重ねて折れ線を作成し、ダブルクリックします。

➔ 道路端オブジェクトが作成されます。

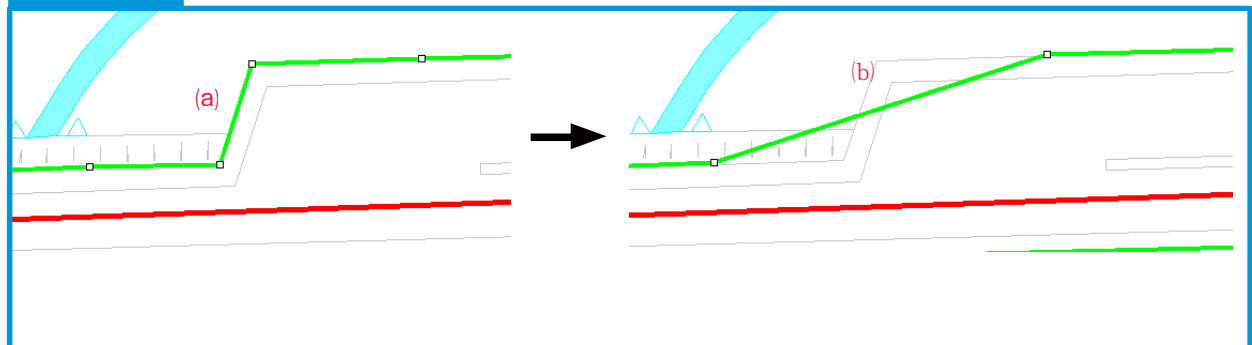
point

道路交通センサスオブジェクトの進行方向（起点から終点に向いたとき）の右側が上り、左側が下りとなります。

修正

評価区間区切りの修正は選択ツール  を使用し、頂点の移動、または頂点追加  ・頂点削除 、オブジェクトの分割  ・結合  で行います。

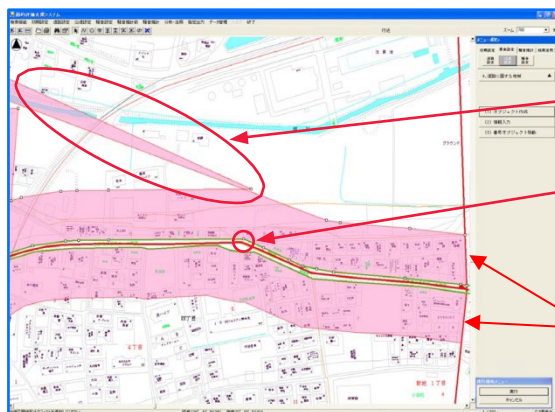
point



(a) のような道路端の場合、この後の道路に面する地域（評価区間）オブジェクトや距離帯オブジェクトが、上手く作成できないことがあります。その場合は、(b) のように道路端を作成すると、上手くいく場合があります。

注意

道路端オブジェクトを作成するとき同じ場所で何度もクリックをすると、以降のオブジェクトが正しく作成されません。頂点が重なっている場合は不要な頂点を頂点削除ツールで削除します。



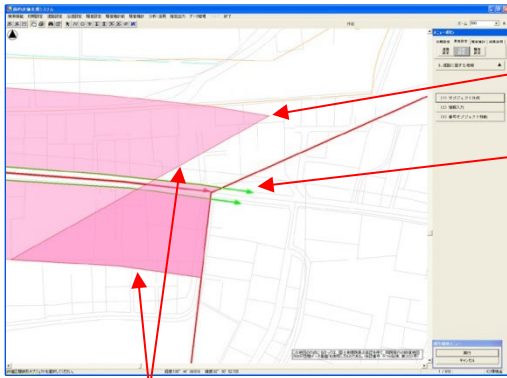
正しく作成されない

頂点が重なっている

道路に面する地域（評価区間）オブジェクト

注意

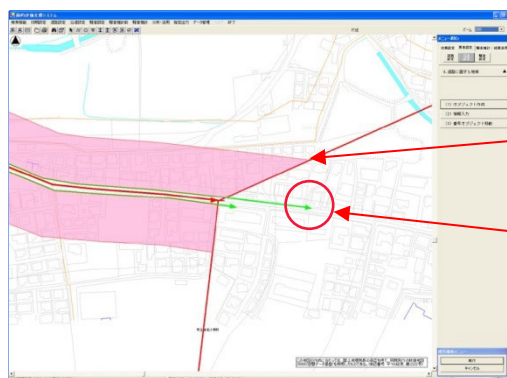
道路端の長さが足りないと道路に面する地域オブジェクトが正しく作成されません。正しく作成されない場合は起点終点付近の頂点の位置を修正します。



正しく作成されない

道路端オブジェクトの長さが足りない

道路に面する地域（評価区間）オブジェクト

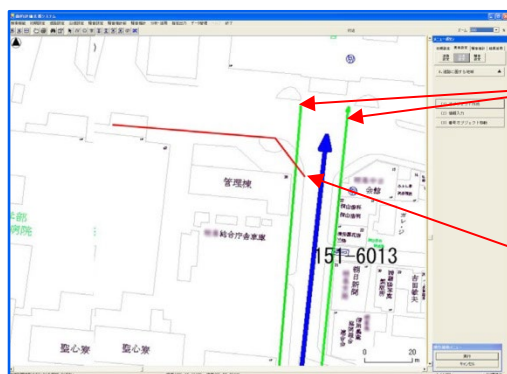


正しく作成された

道路端オブジェクトの頂点位置を修正した

備考

交差点で評価区間が終わる場合、直線で道路端オブジェクトを作成します。角きりに合わせて道路に面する地域を作成する場合は、評価区間区切りを角きりに合わせて作成します。



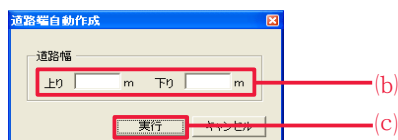
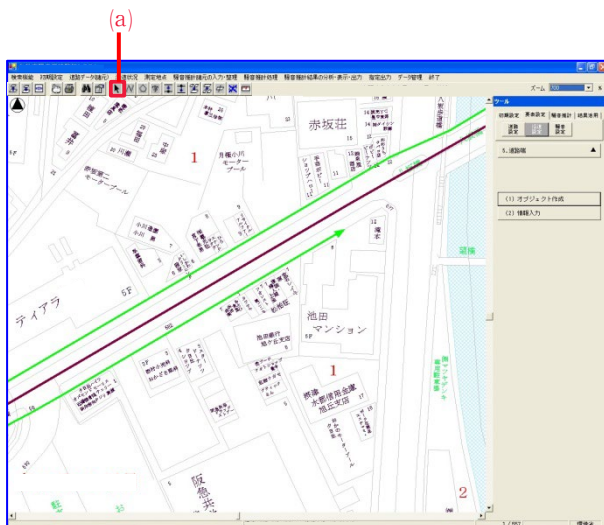
直線で作成する


評価区間区切り



□ 自動作成

評価区間情報の騒音発生強度の把握の方法を4（交通量が僅少の事由により、環境基準値以下と決定する方法）に設定した路線については、道路端オブジェクトを自動で作成することができます。



(a)  を選択します。

道路平面線形オブジェクト上で右クリックショートカットメニューの [自動作成] を選択します。

⇒ 道路端自動作成画面が表示されます。

(b) 該当する項目を入力します。

(c)  をクリックします。

⇒ 道路端オブジェクトが自動作成されます。

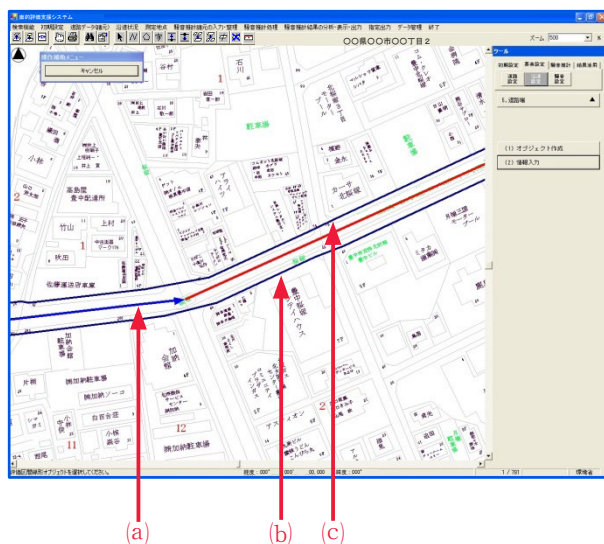
備考

道路平面線形オブジェクトを基準に作成されます。

注意

道路平面線形オブジェクトが複雑な形状をしていると、正しく作成されない場合があります。

(2) 情報入力



Menu [沿道設定] - [5. 道路端] - [(2) 情報入力]

 [道路交通センサス区間検索]

(a) 評価区間線形オブジェクトをクリックします。

⇒ 評価区間線形オブジェクトの色が変わります。

(b) 上り側の道路端オブジェクトをクリックします。

⇒ 道路端の色が変わります。

(c) 下り側の道路端オブジェクトをクリックします。

⇒ 道路端の色が変わります。

⇒ 両オブジェクトの色が元に戻り、評価区間線形オブジェクトと道路端オブジェクトが関連づけられます。

注意

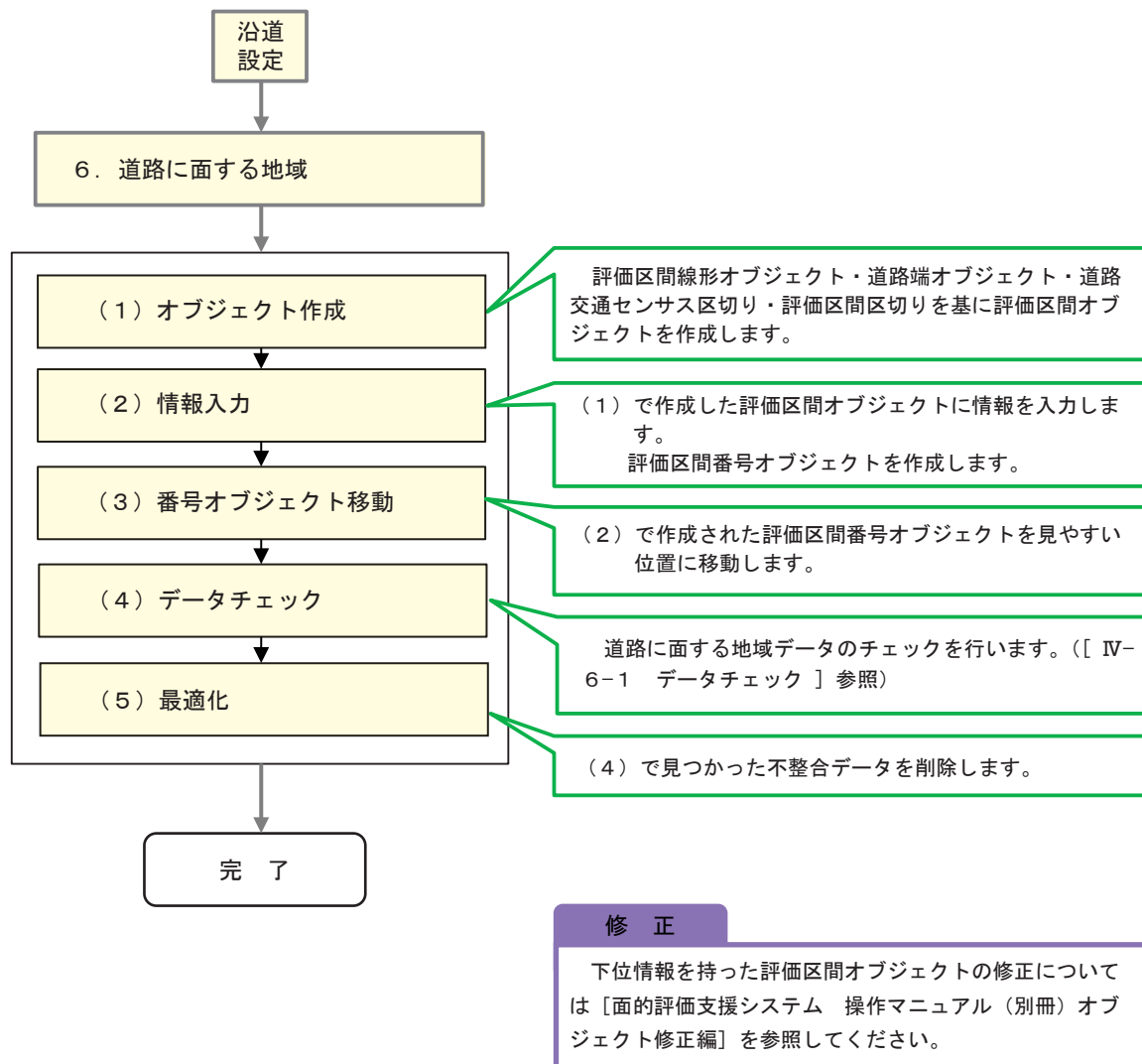
必ず上り側の道路端を先に指示してください。

3-6 道路に面する地域

1 概要

道路に面する地域を設定します。
道路端オブジェクト・道路交通センサ区切り・評価区間区切りを基に評価区間オブジェクトを自動作成します。作成した評価区間オブジェクトに情報を入力します。

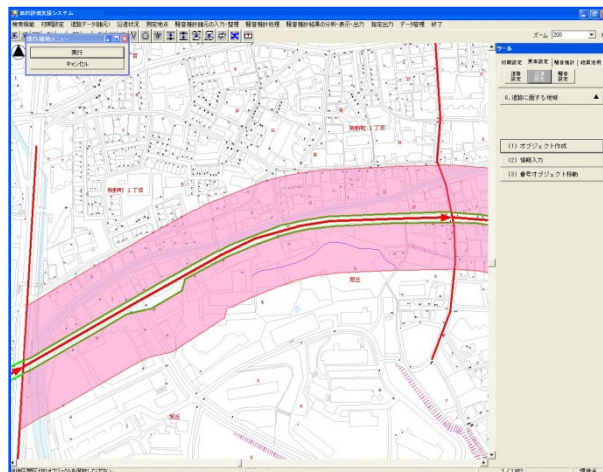
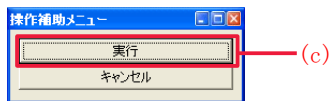
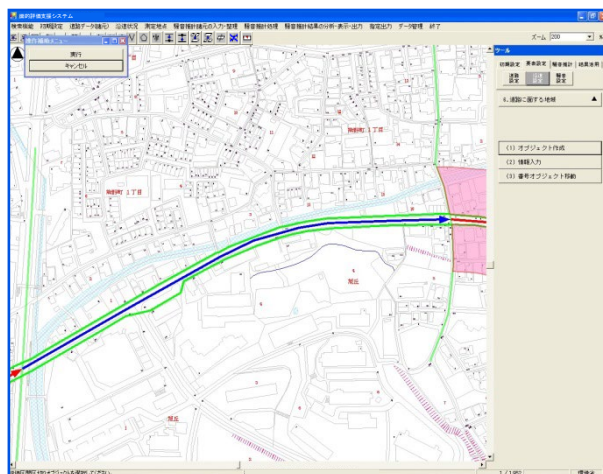
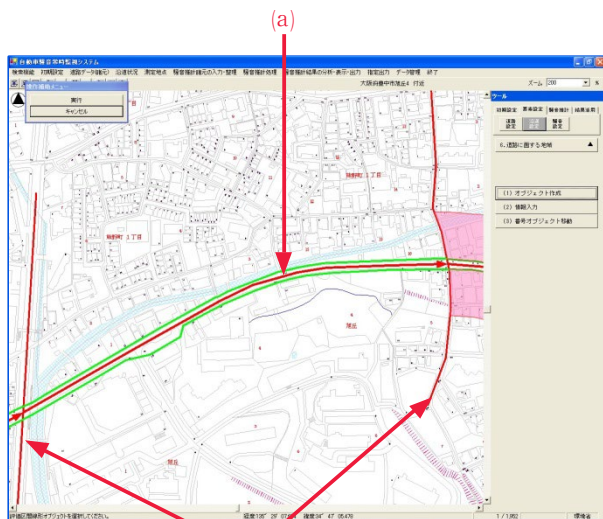
2 作業フロー



3 手順

(1) オブジェクト作成

評価区間線形オブジェクト・道路端オブジェクト・道路交通センサス区切り・評価区間区切りを基に評価区間オブジェクトを作成します。



Menu [沿道設定] - [6. 道路に面する地域] - [(1) オブジェクト作成]

[評価区間検索]

⇒ [操作補助メニュー] が表示されます。

(a) 評価区間線形オブジェクトをクリックします。

⇒ 道路平面線形オブジェクトの色が変わります。

(b) 該当の道路交通センサス区切り・評価区間区切りをクリックします。

⇒ 道路交通センサス区切り・評価区間区切りの色が変わります。

(c) **実行** をクリックします。

⇒ 評価区間オブジェクトが自動作成されます。

注意

評価区間オブジェクトは上り側・下り側同時に作成されます。

「指示した位置に評価区間線形オブジェクトが2つ以上存在します」のようなエラーが出る場合は、評価区間線形オブジェクトが重複しているため、評価区間線形オブジェクトを削除し、再作成してください。

注意

評価区間オブジェクトが自動作成されない場合は、道路端オブジェクトと評価区間区切り（道路交通センサス区切り）が交差しているか確認し、交差していなければ道路端オブジェクトまたは評価区間区切り（道路交通センサス区切り）を交差するように修正してください。

また、評価区間区切り（道路交通センサス区切り）が短すぎる場合も自動作成されません。十分な長さになるよう修正してください。

注意

評価区間オブジェクトを削除した場合は、評価区間内の近接空間・距離帯・建物などの全てのオブジェクトおよびデータは同時に削除されます。

注意

評価区間オブジェクトが市境を跨いで作成された場合は、[沿道設定]-[4. 評価区間]に戻り、評価区間線形オブジェクトを市境で分割してください。分割方法は [Ⅲ-3 ツールバーの基本] を参照してください。

(2) 情報入力

作成した評価区間オブジェクトに情報を入力します。上り側・下り側別に登録します。



Menu [沿道設定] - [6. 道路に面する地域] - [(2) 情報入力]

[評価区間検索]

(a) 道路に面する地域 (評価区間) オブジェクトをクリックします。

備考

交差点などで評価区間オブジェクトが2つ以上重なっている場合は [評価区間線形選択画面] が表示され、対象となる評価区間を選択します。

(b) [道路に面する地域情報入力] 画面が表示されます。

(b)道路に面する地域 (評価区間) 情報が自動入力されているので確認します。

備考

[地表面種類] は [IV-1-15 背後地騒音推計式] の [推計式パラメータ] - [沿道情報] - [街区地表面種類] で設定した値が自動入力されます。状況に応じて変更してください。

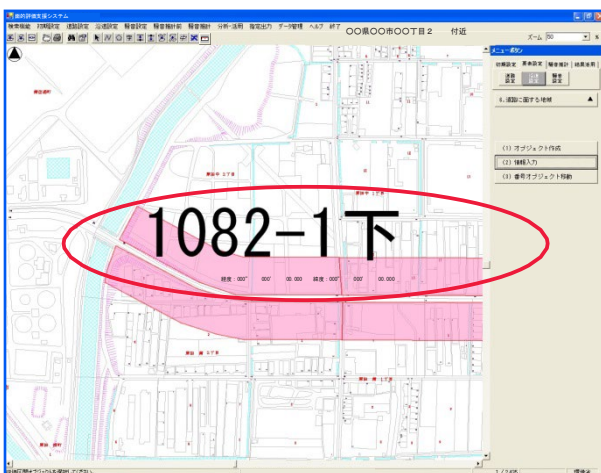
(c) [登録] をクリックします。

⇒ 道路に面する地域 (評価区間) 情報が登録され評価区間番号が表示されます。

👁️ 評価区間番号の表示を確認します。

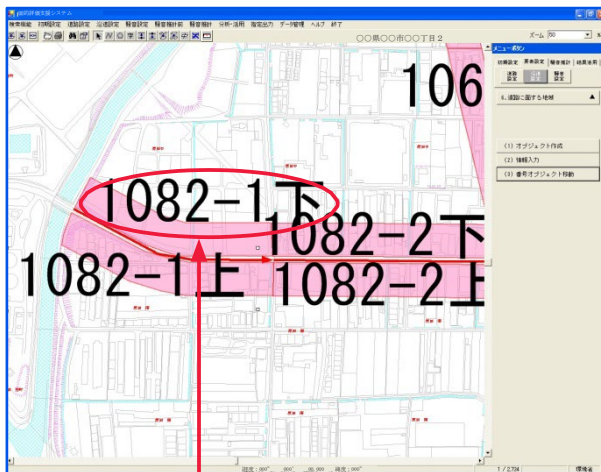
point

評価区間オブジェクト上で右クリックによるショートカットメニューを表示し、[評価区間関係データ] で評価区間関係データを表示することができます。




(3) 番号オブジェクト移動

評価区間番号オブジェクトを見やすい位置に移動します。

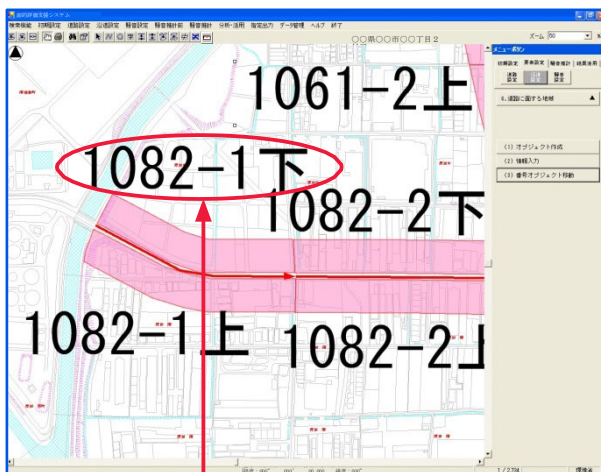


(a)


[Menu] [沿道設定] - [6. 道路に面する地域] - [(3) 番号オブジェクト移動]

 [評価区間検索]

- (a) 移動させる評価区間番号オブジェクトを選択します。
- (b) 右クリックでショートカットメニューを表示し、[移動] を選択します。
- ➡ 評価区間番号オブジェクトが移動可能になります。



(c)

- (c) 移動させる位置でクリックします。
- ➡ 評価区間番号オブジェクトが移動されます。
-  評価区間番号オブジェクトが見やすい位置にあるか確認します。

point

評価区間検索を行ったときに、評価区間番号オブジェクトがメインウィンドウ中央に表示されます。

注意

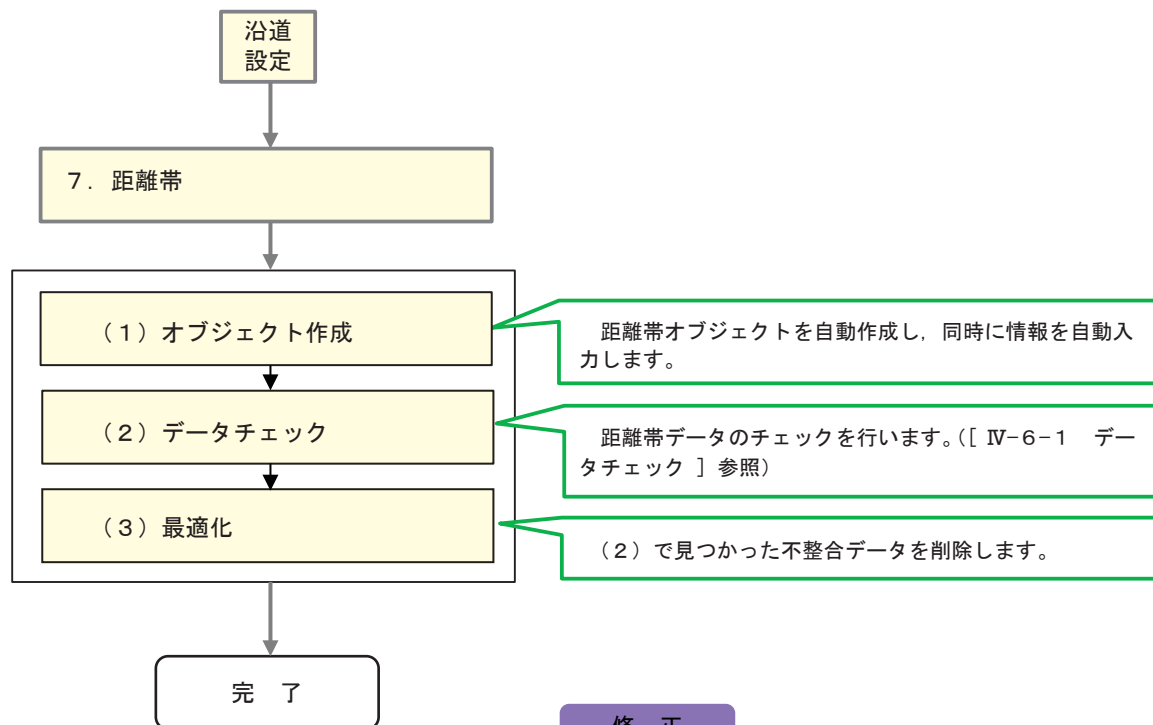
番号オブジェクトを削除すると評価区間オブジェクト・評価区間情報も削除されます。

3-7 距離帯

1 概要

距離帯を設定します。
距離帯オブジェクトを作成し、情報を入力します。

2 作業フロー



修正

下位情報を持った距離帯オブジェクトの修正については
[面的評価支援システム 操作マニュアル(別冊)オブジェクト修正編]を参照してください。

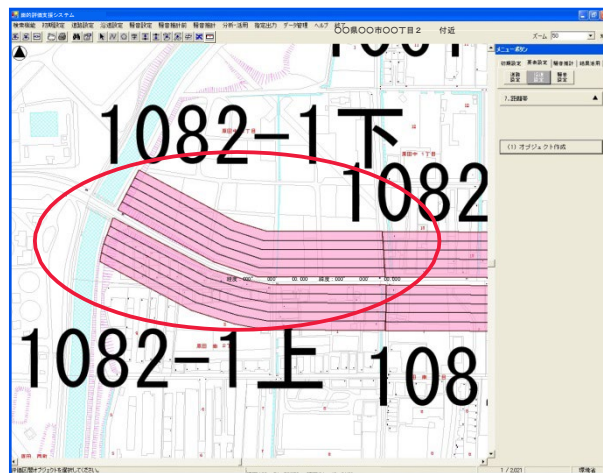
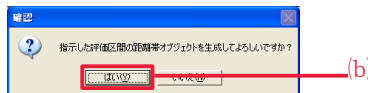
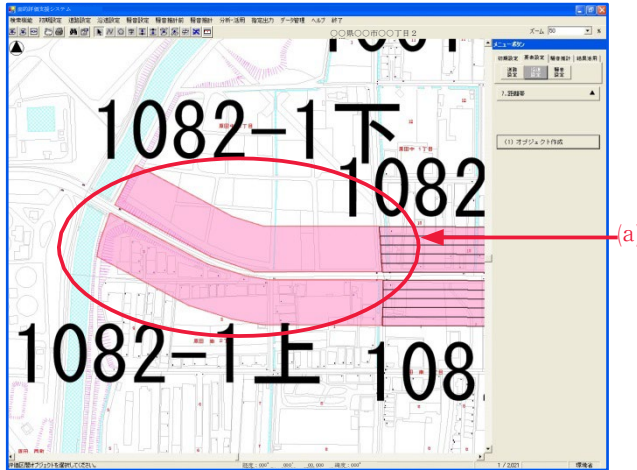
3 手順

(1) オブジェクト作成

距離帯オブジェクトを自動作成します。自動作成と同時に情報が自動入力されます。上り側・下り側同時に作成されます。

自動作成できない場合は手動で作成します。

□ 自動作成



Menu [沿道設定] - [7. 距離帯] - [(1) オブジェクト作成]

[評価区間検索]

(a) 評価区間オブジェクトをクリックします。

→ [確認] 画面が表示されます。

(b) [はい] をクリックします。






→ 距離帯オブジェクトが自動作成され、情報が自動入力されます。

注意

距離帯オブジェクトは上り側・下り側同時に作成されます。

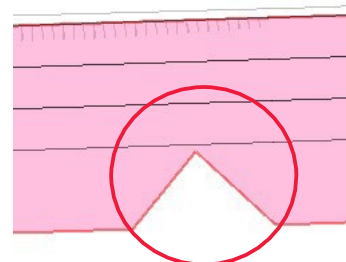
修正

距離帯オブジェクトが正しく作成されない場合は近くの道路端や区切りの頂点を少し移動して再作成します。

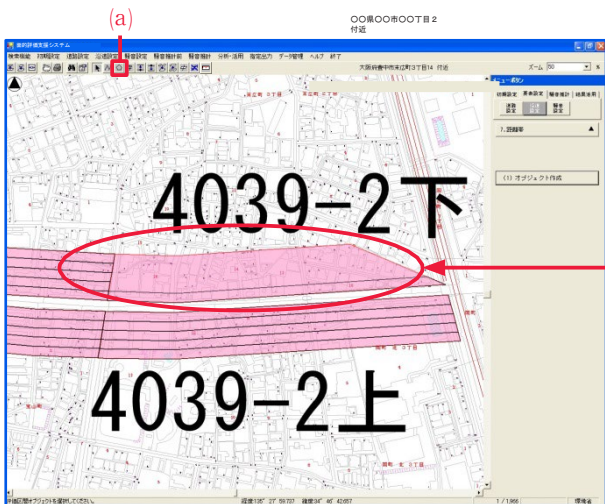
また選択ツール  を使用し、頂点の移動、または頂点追加  ・頂点削除  、オブジェクトの分割  ・結合  で修正します。


注意

評価区間オブジェクトを作成した後、距離帯オブジェクトに掛かるように修正を行うと、距離帯オブジェクトが正常に作成されません。

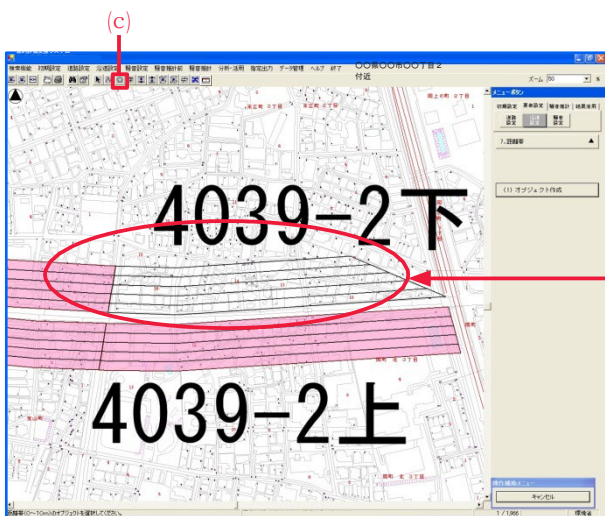



□ 手動作成



(a)  を選択します。

(b) 距離帯オブジェクトを一つずつ作成します。

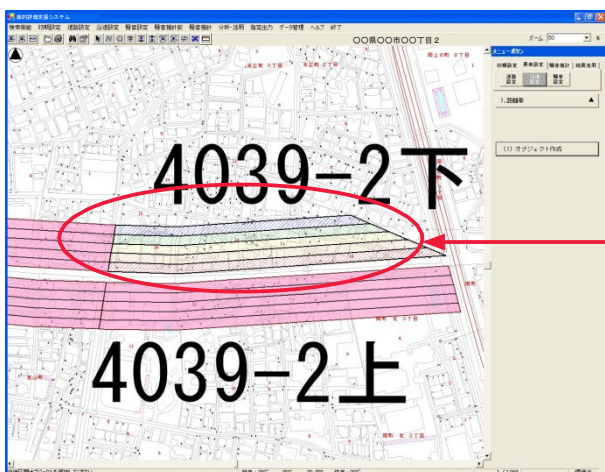


(c)  をクリックします。

➡ ツールの選択が解除されます。

(d) 距離帯オブジェクトの上にカーソルを置き、右クリックによるショートカットメニューの [情報入力] を選択します。


➡ 該当の評価区間オブジェクトが選択され、中抜き表示になります。



(e) 道路端に近い方の距離帯オブジェクトから順に選択します。

➡ 距離帯オブジェクトが斜線塗り表示されます。

➡ 表示が戻り、情報が入力されます。

 距離帯オブジェクトを選択し、右クリックによるショートカットメニューの [リンクコード表示] でリンクコードを確認します。

備考

情報入力時の距離帯の色分け (m)

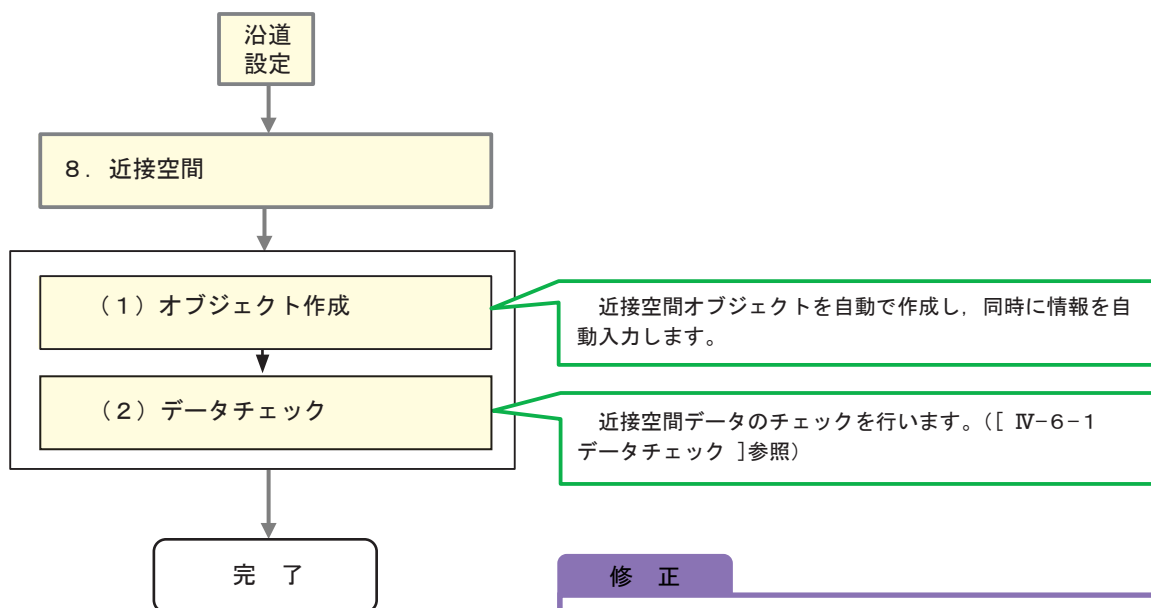
0 ~ 10 : 赤	10 ~ 20 : 橙	20 ~ 30 : 黄
30 ~ 40 : 緑	40 ~ 50 : 青	

3-8 近接空間

1 概要

近接空間を設定します。近接空間オブジェクトを作成し、情報を入力します。

2 作業フロー



修正

下位情報を持った近接空間オブジェクトの修正については [面的評価支援システム 操作マニュアル (別冊) オブジェクト修正編] を参照してください。

注意

幹線交通を担う道路の場合は近接空間を作成して下さい。2車線の市道など、幹線交通を担う道路でない場合は、作成する必要はありません。(環境基準を参照下さい)

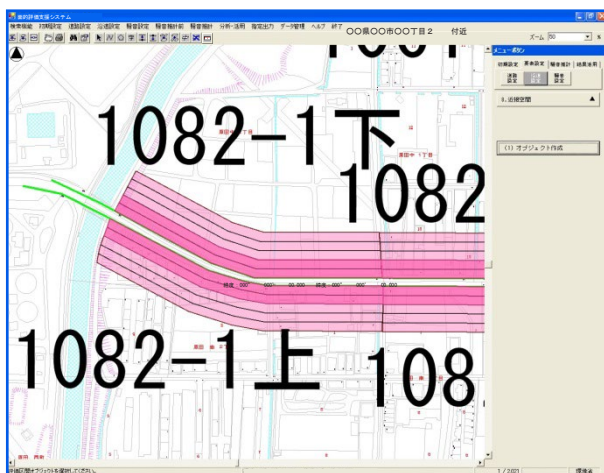
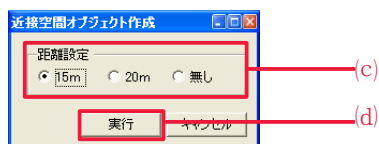
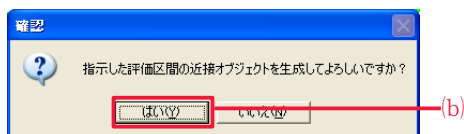
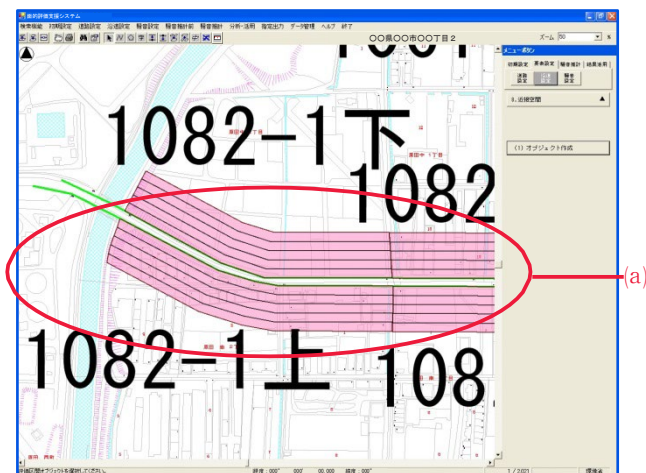
手 順

(1) オブジェクト作成

近接空間オブジェクトを自動作成し、情報が自動入力されます。上り側・下り側同時に作成されます。

自動作成できない場合は手動で作成します。

□ 自動作成



Menu [沿道設定] - [8. 近接空間] - [(1) オブジェクト作成]

[評価区間検索]

(a) 評価区間オブジェクトをクリックします。

⇒ [確認] 画面が表示されます。

(b) [はい] をクリックします。

⇒ [近接空間オブジェクト作成] 画面が表示されます。

(c) [距離設定] を選択します。

備 考

近接空間は道路種別、車線数、併設道路の状況により、距離を設定する必要があります。システムでは車線数からのみの判断で自動設定します。必要に応じて修正してください。

(d) [実行] をクリックします。






⇒ 近接空間オブジェクトが自動作成され、情報が自動入力されます。

注 意

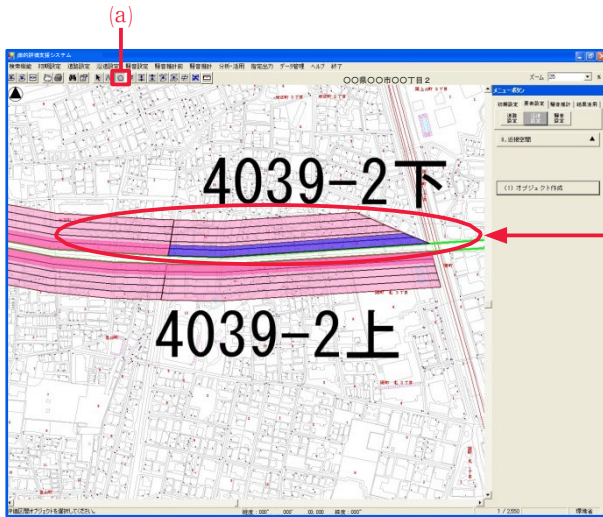
近接空間オブジェクトは上り側・下り側同時に作成されます。


修 正

近接空間オブジェクトが正しく作成されない場合は近くの道路端や区切りの頂点を少し移動して面する地域から再作成します。

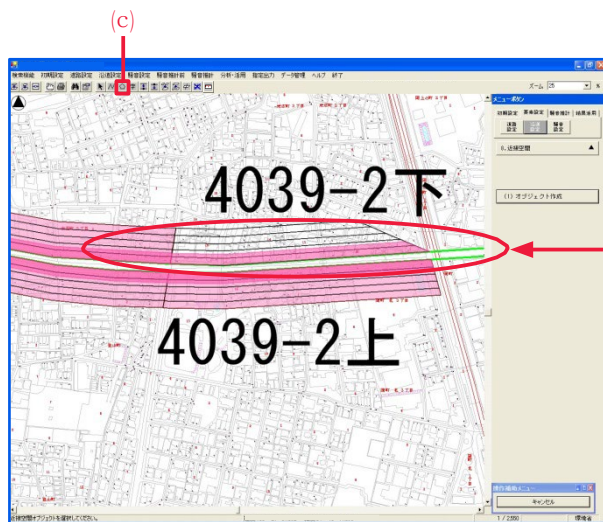
また選択ツール  を使用し、頂点の移動、または頂点追加 ・頂点削除 、オブジェクトの分割 ・結合  で修正します。


□ 手動作成



(a)  を選択します。

(b) 近接空間オブジェクトを作成します。

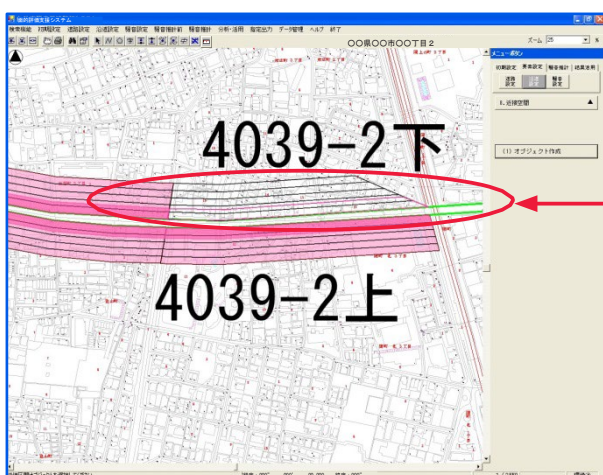


(c)  をクリックします。

➡ ツールの選択が解除されます。

(d) 近接空間オブジェクトの上にカーソルを置き、右クリックによるショートカットメニューの [情報入力] を選択します。


➡ 該当の評価区間オブジェクトが選択され、中抜き表示になります。



(e) 該当する近接空間オブジェクトを選択します。

➡ 近接空間オブジェクトが中抜き表示されます。

➡ 表示が戻り、情報が入力されます。

 近接空間オブジェクトを選択し、右クリックによるショートカットメニューの [リンクコード表示] でリンクコードを確認します。

3-9 建物

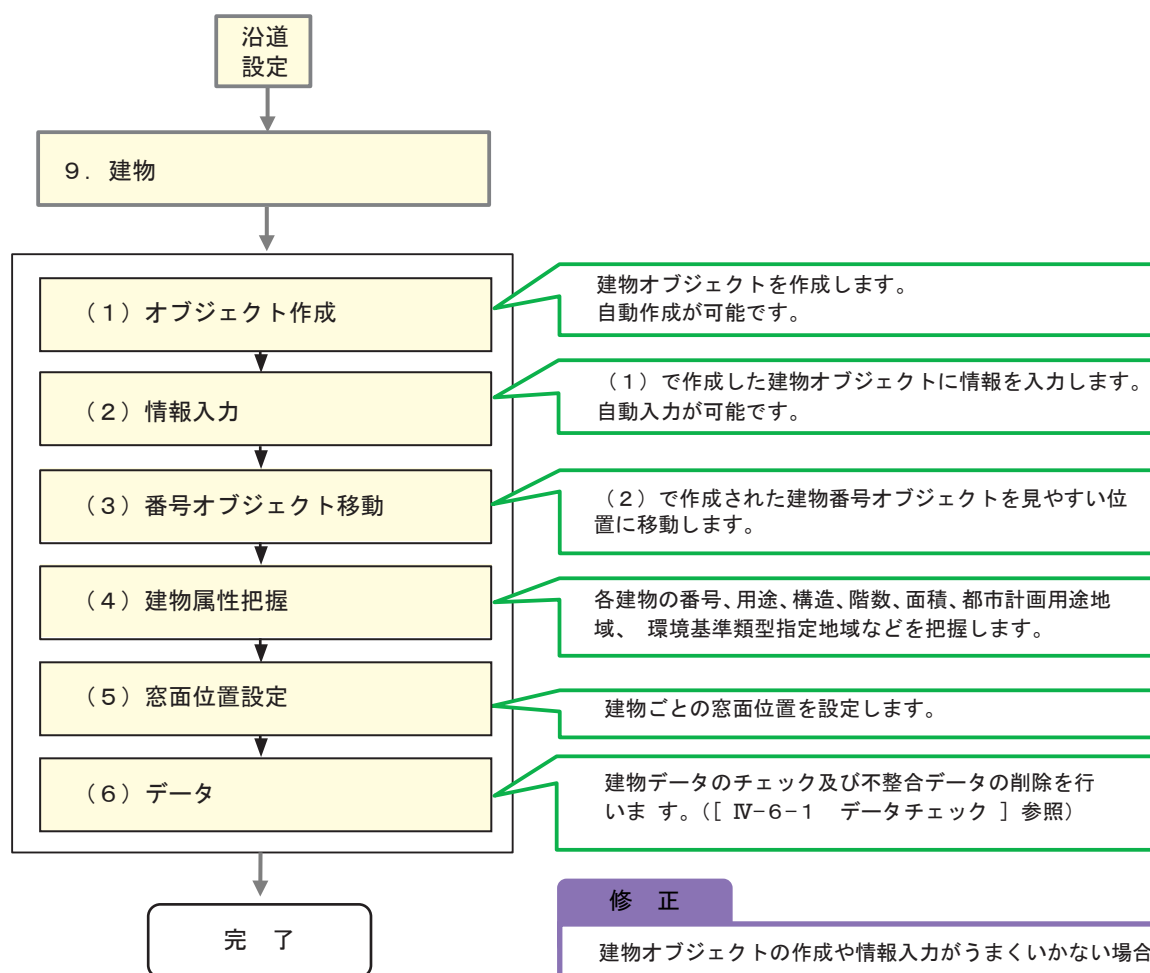
1 概要

建物を設定します。建物の番号、構造、階数、面積、都市計画用途地域、環境基準類型指定地域などの属性情報と見通し角を設定します。また、建物ごとの窓面の位置、階数高さなども設定可能です。

参考・例

数値地図 25000（空間データ基盤）を使用する場合は
 [面的評価支援システム 操作マニュアル（別冊）数値地図
 25000（空間データ基盤）を用いた評価編]を参照してくだ
 さい。

2 作業フロー



修正

建物オブジェクトの作成や情報入力がうまくいかない場合は、評価区間等の関係データの見直しや、オブジェクトを全て削除してから再度オブジェクト作成し直してください。それでも解決しない場合は、環境省へ送付してください。

注意

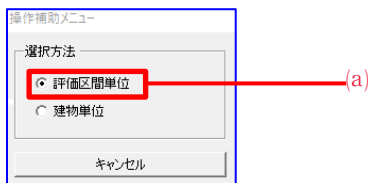
属性把握処理は時間がかかることがあります。CPU性能が不足していると思われる場合は、評価区間単位単位など一度に処理する量を少なくして、属性把握を行ってください。

3 手順

(1) オブジェクト作成

建物オブジェクトを作成します。背景の地図に建物の情報がある場合は、範囲を指定し、自動作成をします。背景の地図に建物の情報がない場合や新たに建設された場合などは手動作成をします。また、建物オブジェクトの削除もできます。

□ 自動作成 (評価区間単位)

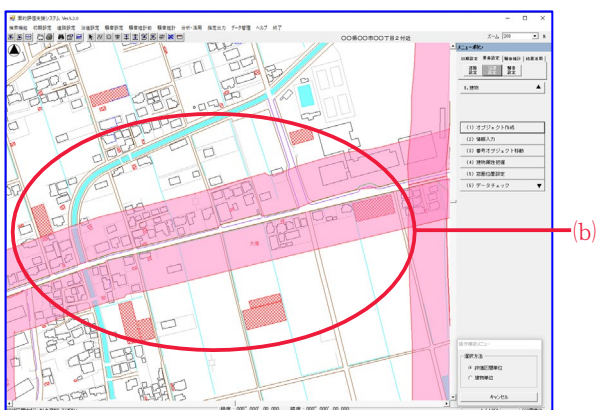


[Menu] [沿道設定] - [9. 建物] - [(1) オブジェクト作成]

 [評価区間検索]

⇒ [操作補助メニュー] が表示されます。

(a) [評価区間単位] を選択します。

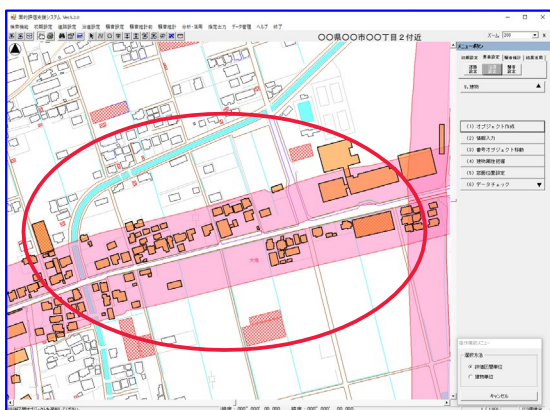


(b) 道路に面する地域オブジェクトをクリックします。

⇒ 建物オブジェクトが自動作成され、確認画面が表示されます。

注意

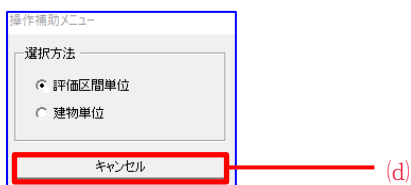
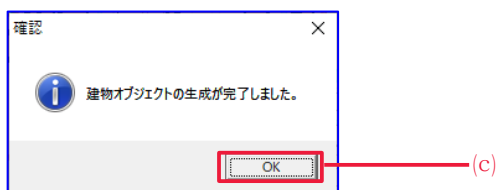
建物オブジェクトは上り側・下り側同時に作成されます。



(c) **OK** をクリックします。

(d) [操作補助メニュー] の **キャンセル** をクリックします。

(e) 次の評価区間に移動し、(a)~(d)を繰り返します。



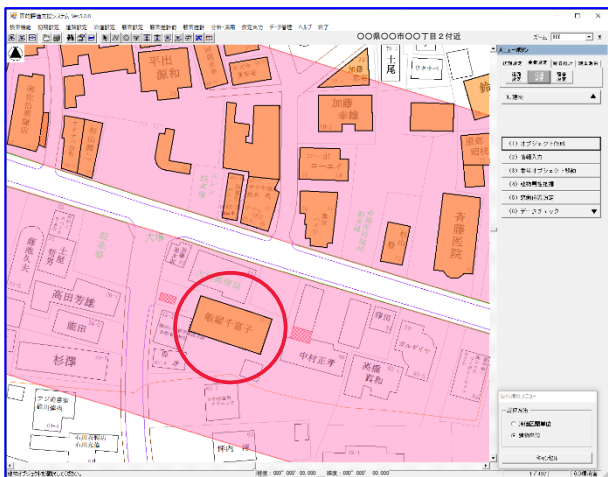
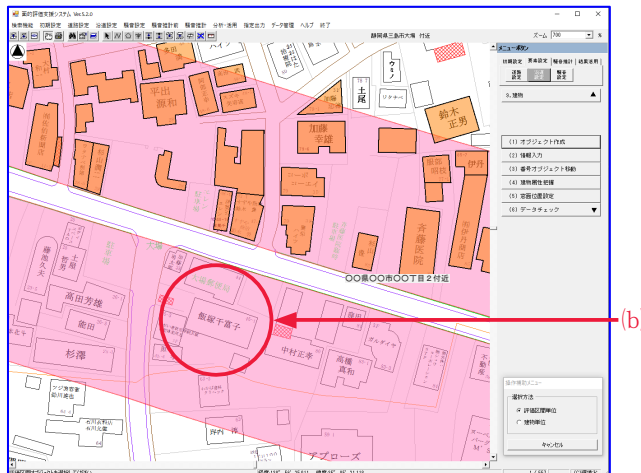
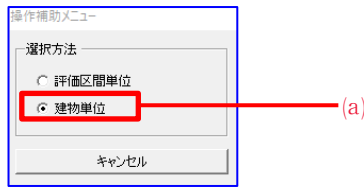
注意

- ・ 2.5m以下の建物は、建物とみなさないため、削除してください。
- ・ 地図の入れ替えにより、建物情報を更新する場合は、建物オブジェクトを削除し、建物オブジェクト作成から再度実行してください。

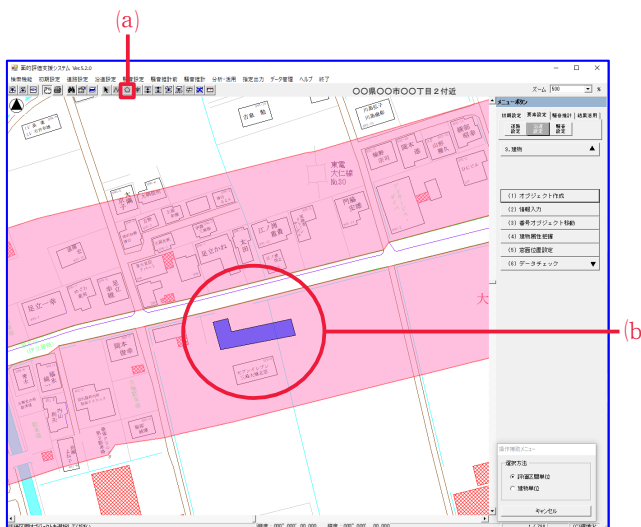
注意

- ・ 建物オブジェクトの自動生成ができない場合
建物オブジェクトの形状が電子地図より取得出来ないため、使用されている電子地図に建物形状が登録されているか確認してください。
※動作環境設定で対応地図の確認をして下さい。

□ 自動作成 (建物単位)



□ 手動作成



Menu [沿道設定] - [9. 建物] - [(1) オブジェクト作成]




→ [操作補助メニュー] が表示されます。

(a) [建物単位] を選択します。


(b) 地図画像の建物をクリックします。

→ 建物オブジェクトが作成されます。

注意

建物オブジェクトが自動作成できない場合には多角形ツール  を使用し、手動で作成してください。


注意

建物オブジェクトを削除する場合は、 で削除する建物オブジェクトを選択し、右クリックでショートカットメニューを表示、[削除] を選択します。

建物オブジェクトを削除すると、同時に建物情報がすべて削除されます。

備考

電子地図より取得した建物オブジェクトの分割は電子地図の種類に関係なく可能です。

(a)  を選択します。

(b) 建物の形に合わせ、多角形オブジェクトを作成します。

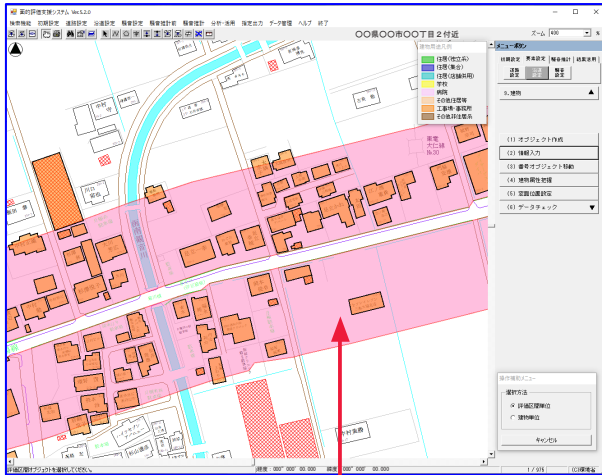
→ 建物オブジェクトが作成されます。

(2) 情報入力

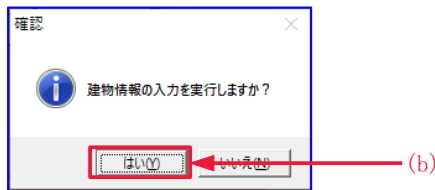
評価区間単位、建物単位で建物情報を入力します。

自動入力では建物番号が自動連番で振られ、建物用途が初期設定（[IV-1-1 3 建物用途]）に従って振り分けられます。手動入力で建物情報を変更することもできます。

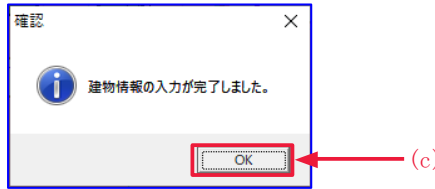
□ 自動入力（評価区間単位の場合）



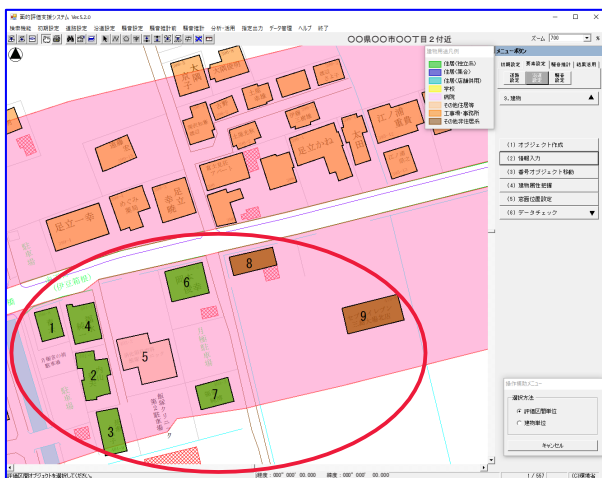
(a)



(b)



(c)



Menu [沿道設定] - [9. 建物] - [(2) 情報入力]

[評価区間検索]

(a) 道路に面する地域オブジェクトをクリックします。

➡ [確認] 画面が表示されます。

(b) [はい] をクリックします。

➡ 建物情報が入力されます。建物番号が自動連番で振られ、建物オブジェクトの色が変わります。

(c) [OK] をクリックします。

備考

[建物構造] のデフォルトは「未調査」です。状況に応じて手動入力にて変更してください。また、[1 階あたりの建物高さ] は [初期設定] - [1 2. 建物階数高さ] でデフォルトを設定することができます。

備考

情報入力後の表示色は、初期設定 [IV-1-1 9 建物状況] で設定した色です。

(d) 次の評価区間に移動し、(a)~(c)を繰り返します。

備考

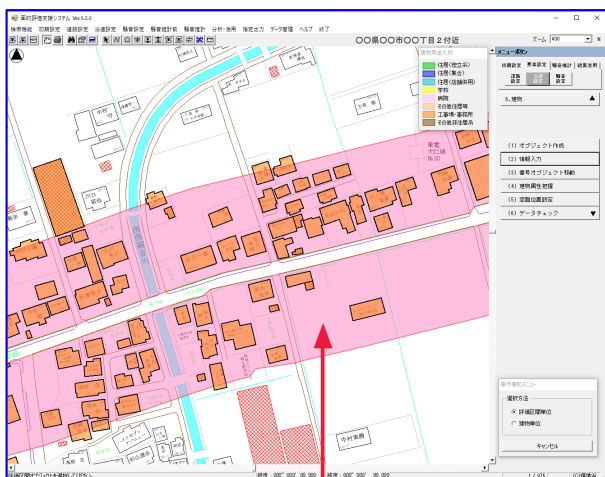
背景の地図に Zmap Town II を使用している場合、建物上での右クリックショートカットメニュー [別記情報表示] を選択することにより、[別記情報] を表示することができます。※その他の地図においても、使用している背景地図に別記情報が含まれていればシステムで表示できます。

注意

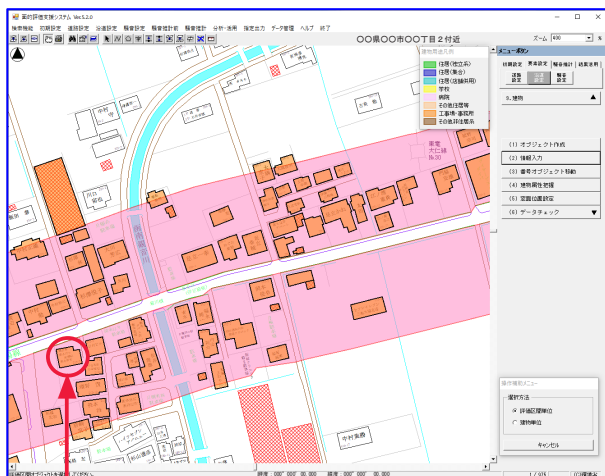
自動入力により設定された建物用途は、実際の建物用途と異なる場合があります。自動入力後、必ず建物用途の確認を行ってください。

建物用途が異なっている場合は、手動入力により修正してください。また、必要に応じて初期設定 [IV-1-1 3 建物用途] でキーワードの設定を行ってください。

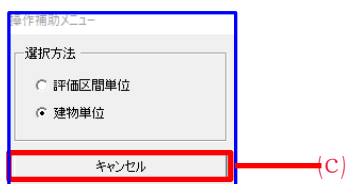
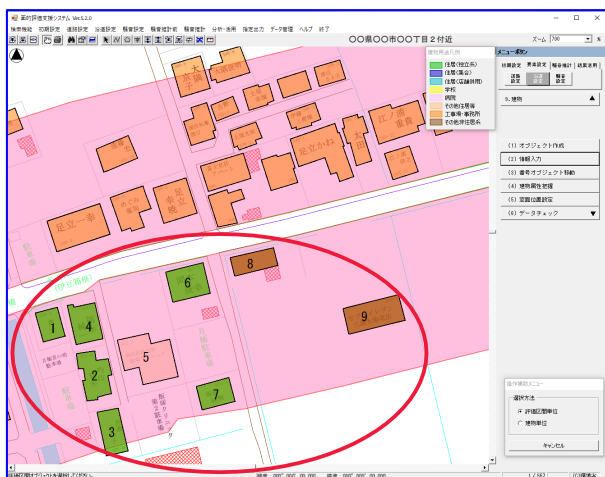
□□ 自動入力（建物単位の場合）



(a)



(b)



(c)

Menu [沿道設定] - [9. 建物] - [(2) 情報入力]

[評価区間検索]

- (a) 道路に面する地域オブジェクトをクリックします。
- (b) 建物オブジェクトを1軒ずつクリックします。(同じ評価区間内の建物は(a)で評価区間選択がされているので、2軒目からは建物のクリックだけです。)
 - ➡ 建物情報が入力されます。建物番号が自動連番で振られ、建物オブジェクトの色が変わります。
- (c) 1つの評価区間を終えたら [操作補助メニュー] の **キャンセル** をクリックします。
 - ➡ 評価区間の選択が解除されます。
- (d) 次の評価区間に移動し、(a)~(c)を繰り返します。

備考

[建物構造]のデフォルトは「未調査」です。状況に応じて手動入力にて変更してください。また、[1階あたりの建物高さ]は[初期設定] - [12. 建物階数高さ]でデフォルトを設定することができます。

備考

情報入力後の表示色は、初期設定 [IV-1-19 建物状況] で設定した色です。

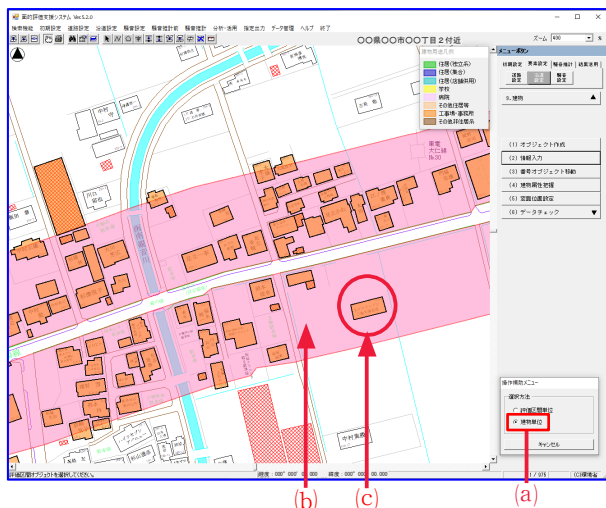
注意

非住居系建物も推計に必要なため、必ず建物情報を入力します。

注意

自動入力により設定された建物用途は、実際の建物用途と異なる場合があります。自動入力後、必ず建物用途の確認を行ってください。
建物用途が異なっている場合は、手動入力により修正してください。また、必要に応じて初期設定 [IV-1-13 建物用途] でキーワードの設定を行ってください。

□ 手動入力



- (a) 建物単位をクリックします。
- (b) 評価区間オブジェクトをクリックします。
- (c) 建物オブジェクト上にカーソルを置き、右クリックし、ショートカットメニューより [手動設定] を選択します。
→ [建物情報入力] 画面が表示されます。
- (d) 該当する項目を入力します。

point

メインウィンドウに表示されている住宅地図の建物名称を参考に情報を入力します。

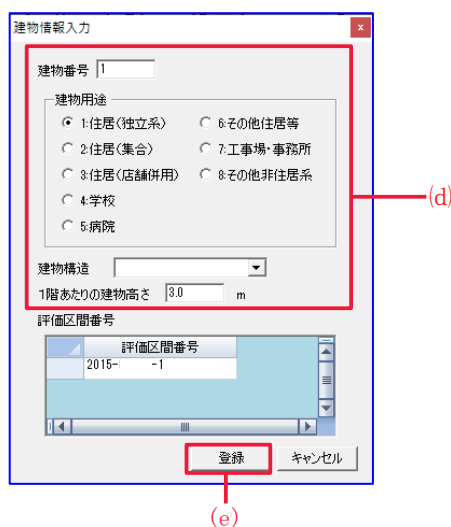
備考

【評価区間番号】にはその建物が属する評価区間の番号が表示されます。

備考

【建物構造】のデフォルトは「未調査」です。状況に応じて変更してください。また、【1階あたりの建物高さ】は【初期設定】-【12. 建物階数高さ】でデフォルトを設定することができます。また、この時に建物情報、建物階数高さを変更することもできます。

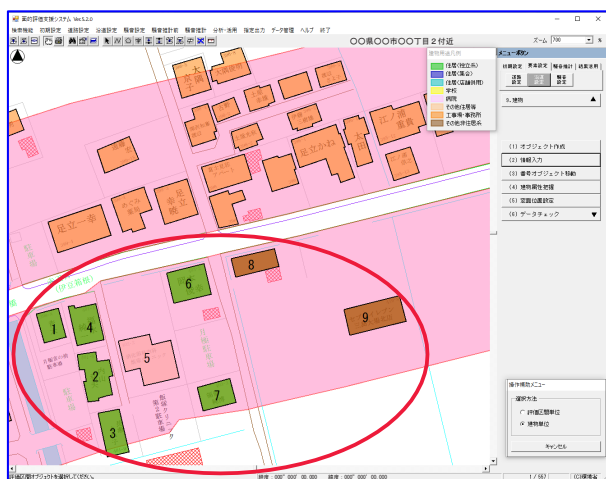
※「1階あたりの建物の高さ」は、表示が0.0mの場合でも、デフォルト値の3.0mが登録されます。



- (e) **登録** をクリックします。
→ 建物用途が登録されます。建物番号が自動連番でふられ、建物オブジェクトの色が変わります。

備考

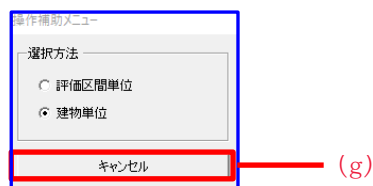
情報入力後の表示色は、【初期設定】-【19. 建物状況】で設定した色です。



- (f) 1軒ずつ(b)~(e)の操作を繰り返します。(同じ評価区間の建物は(a)で評価区間が選択されているので、2軒目からは建物のクリックだけです。)
- (g) 1つの評価区間を終えたら【操作補助メニュー】の **キャンセル** をクリックします。
- (h) 次の評価区間に移動し、(a)~(f)を繰り返します。

注意

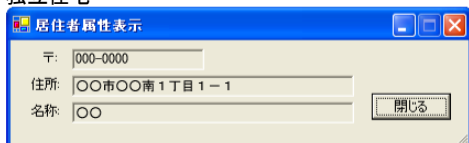
集合住宅のデータ（階数ごとの住戸数など）を編集する場合は【(4) 建物属性把握処理】にて行います。建物オブジェクト上にカーソルを置き、右クリックショートカットメニューの【データ編集】を選択すると【路線別建物状況整理表 修正】画面が表示されるので、建物情報を編集してください。



備考

□ 居住者属性表示

・独立住宅

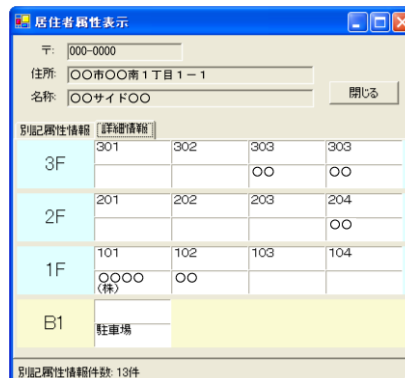


・集合住宅（別記属性情報）



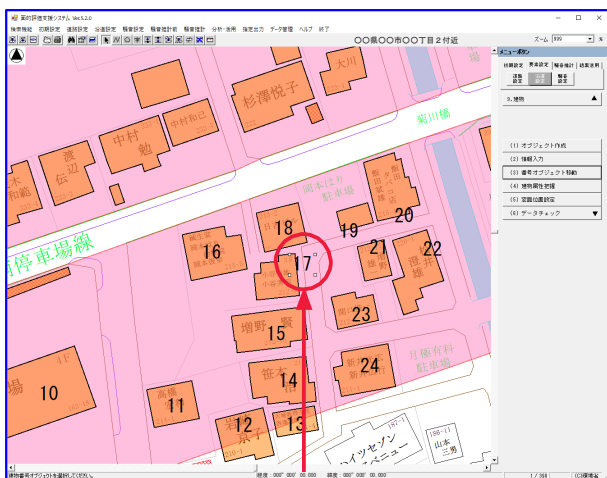
背景の地図に「Zmap TOWN II」を使用している場合、建物上での右クリックショートカットメニュー「別記情報表示」を選択することにより、「別記情報」を表示することができます。※その他の地図においても、使用している背景地図に別記情報が含まれていればシステムで表示できます。

・独立住宅（詳細情報）



(3) 番号オブジェクト移動

建物番号オブジェクトを見やすい位置に移動します。

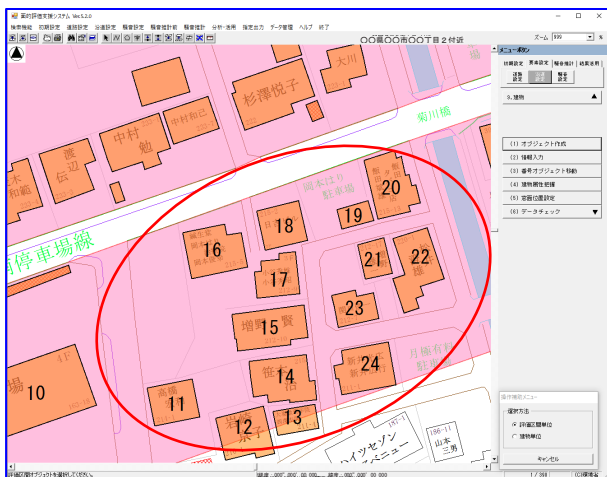


(a)

Menu [浴道設定] - [9. 建物] - [(3) 番号オブジェクト移動]

[評価区間検索]

- (a) 建物番号オブジェクトを選択します。
- (b) 右クリックでショートカットメニューを表示し、[移動]を選択します。

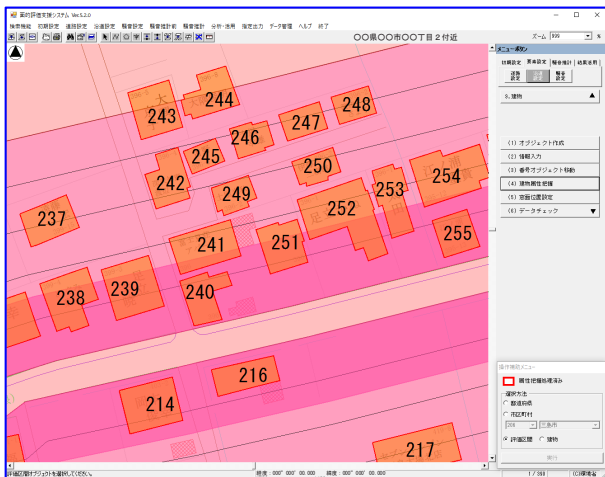
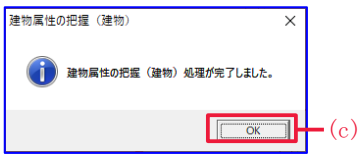
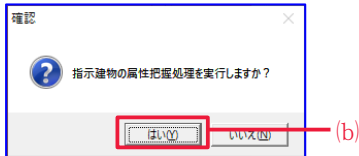
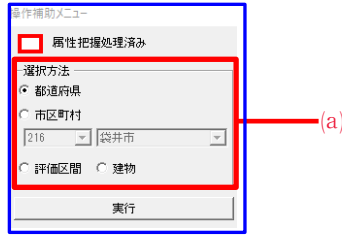


(c) 番号の見やすい位置でクリックします。

⇒ 番号オブジェクトが移動されます。

(4) 建物属性把握処理

範囲を指定し、建物の立地面積・用途・構造・階数・都市計画用途地域・環境基準類型指定地域を自動取得します。選択方法は都道府県単位・市区町村単位・評価区間単位・建物単位とします。



[Menu] [沿道設定] - [9. 建物] - [(4) 建物属性把握処理]

⇒ [操作補助メニュー] が表示されます。

(a) [選択方法] を指定します。

point

選択方法の指定による操作

都道府県： [都道府県] を選択し、[実行] をクリックします。
 市区町村： [市区町村] を選択し、市区町村コードまたは市区町村名を入力し、[実行] をクリックします。
 評価区間： [評価区間] を選択し、評価区間オブジェクトをクリックします。
 建物： [建物] を選択し、建物オブジェクトをクリックします。

注意

評価区間単位の処理では、上り側・下り側同時に行われます。

⇒ [確認] 画面が表示されます。

(b) [はい] をクリックします。

⇒ 建物属性が把握され、建物オブジェクトの枠の色が変わり、[建物属性の把握 (建物)] 画面が表示されます。

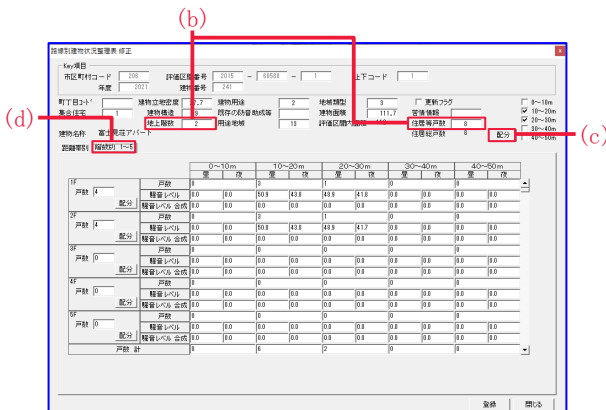
(c) [OK] をクリックします。

注意

- ① 手動にて作成した集合住宅の建物オブジェクトには、下記にならない、[路線別建物状況整理表 修正] 画面にて住居戸数を入力します。
- ② 属性把握のデフォルト階数別戸数と、配分の実行結果が異なる場合があります。その理由は、デフォルト戸数は電子地図より取得した戸数 (評価対象外 (道路に面する地域外) の戸数も含む) であり、該当の集合住宅が評価対象外にまたがった場合には評価対象内の戸数のみを配分しているためです。

□ データ編集

集合住宅における各階の住居戸数を登録します。



(a) 建物属性把握処理後、建物オブジェクト上にカーソルを置き、右クリックにてショートカットメニューを表示し、[データ編集] を選択します。

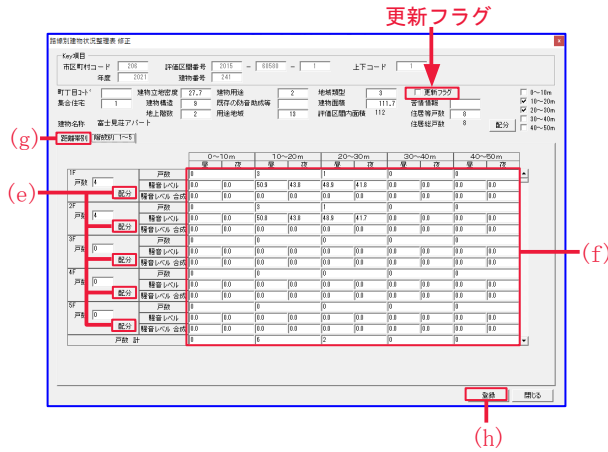
⇒ [路線別建物状況整理表 修正] 画面が表示されます。

(b) 該当する項目を入力します。

(c) [配分] をクリックします。

(d) [階数別 1~5] のタブをクリックします。

⇒ 表示が切り替わります。



- (e) 階数ごとの[配分]をクリックします。
 - ➡ 一覧に配分されます。
- (f) 一覧にて配分を調整します。
- (g) 同様に[距離帯別]のタブをクリックして切り替え、配分を調整します。
- (h) [登録]をクリックします。
 - ➡ 各階の住居戸数が登録されます。

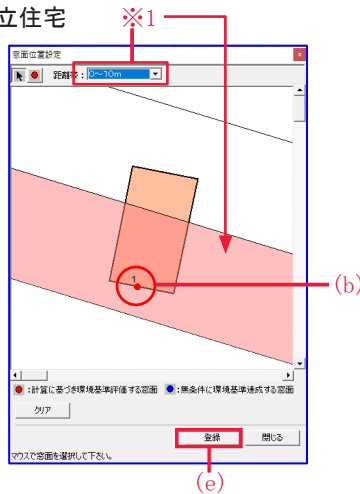
point

[更新フラグ]にチェックを入れて登録すると、建物属性把握処理を再度行ったときに更新されません。

(5) 窓面位置設定

推計を行う窓面の位置を設定します。窓面位置は建物枠上に住居戸数に応じて設定します。必要に応じて変更してください。窓面位置の自動設定は「別冊 背後地騒音推計編」を参照して下さい。

□ 独立住宅



[Menu] [沿道設定] - [9. 建物] - [(5) 窓面位置設定]

[評価区間検索]

- (a) 建物オブジェクトをクリックします。
 - ➡ [窓面位置設定] 画面が表示されます。

備考

※1 住居が属する距離帯を表示します。該当する距離帯は赤く表示されます。詳細は[路線別建物状況整理表] ([(4) 建物属性把握処理] 参照) で設定します。

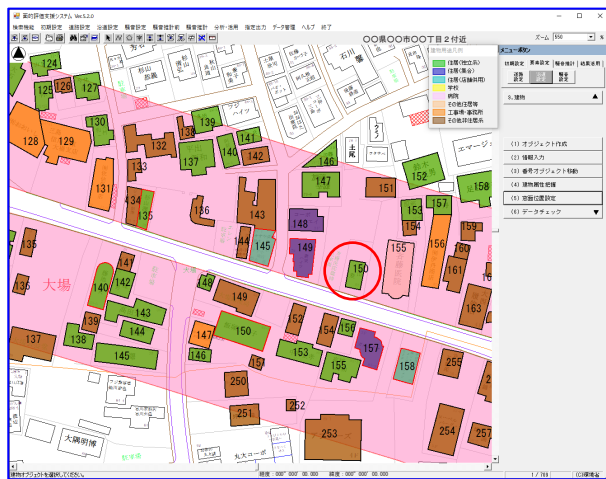
- (b) ● をクリックします。
- (c) 右クリックショートカットメニューの[移動]を選択します。
- (d) 設定する窓面の位置をクリックします。
 - ➡ 窓面位置が移動されます。

point

窓面位置が[無条件に環境基準達成する窓面]の場合には、マウスで窓面位置を選択し、右クリックによるショートカットメニューの[無条件に達成]を選択します。窓面位置が青色●に変わります。

注意

[クリア]をクリックすると表示されている窓面位置が全て削除されます。追加する場合は●を選択し、設定する窓面の位置をクリックします。



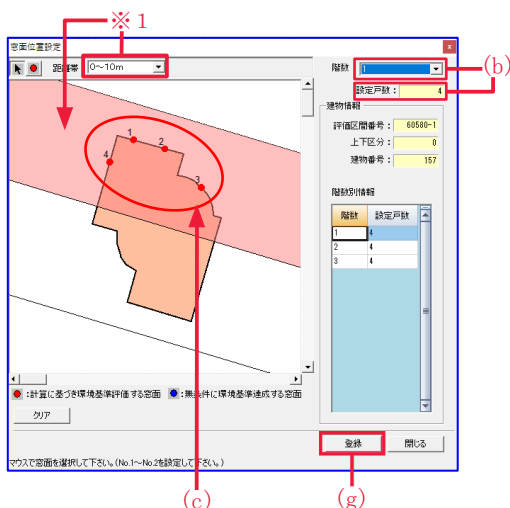
備考

背景の地図に「Zmap TOWN II」を使用している場合、建物上での右クリックショートカットメニュー[別記情報表示]を選択することにより、別記情報を表示することができます。

※その他の地図においても、使用している背景地図に別記情報が含まれていればシステムで表示できます。

- (e) [登録]をクリックします。
 - ➡ 窓面位置が設定され、建物オブジェクトの枠の色が変わります。

□ 集合住宅



Menu [沿道設定] - [9. 建物] - [(5) 窓面位置設定]

[評価区間検索]

(a) 建物オブジェクトをクリックします。

⇒ [窓面位置設定] 画面が表示されます。

備考

※1 住居が属する距離帯を表示します。該当する距離帯は赤く表示されます。詳細は [路線別建物状況整理表] ([(4) 建物属性把握処理] 参照) で設定します。

(b) 階数を指定します。

⇒ 指定した階の住居戸数が表示され、図に住居戸数分の窓面位置が表示されます。

(c) ● (窓面位置) をクリックします。

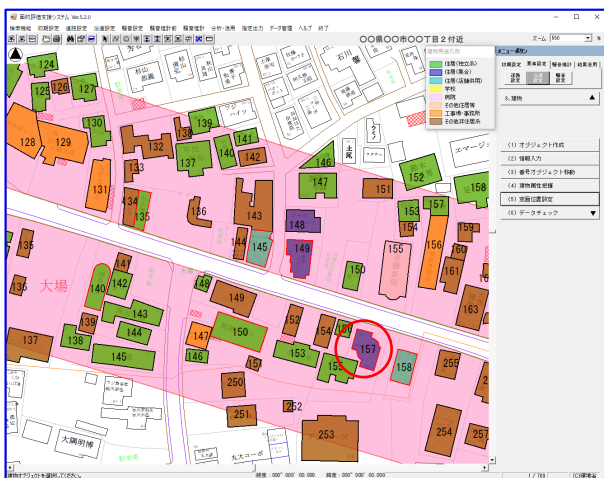
(d) 右クリックショートカットメニューの [移動] を選択します。

(e) 設定する窓面の位置をクリックします。

⇒ 窓面位置が移動されます。

備考

窓面位置は階ごとの住居戸数分設定することができます。窓面位置が複数の場合、対象となる道路に近い方から順に自動で連番が振られます。



備考

背景の地図に「Zmap TOWN II」を使用している場合、建物上での右クリックショートカットメニュー [別記情報表示] を選択することにより、別記情報を表示することができます。※その他の地図においても、使用している背景地図に別記情報が含まれていればシステムで表示できます。

point

窓面位置が [無条件に環境基準達成する窓面] の場合には、マウスで窓面位置を選択し、右クリックによるショートカットメニューの [無条件に達成] を選択します。窓面位置が青色●に変わります。

注意

[クリア] をクリックすると表示されている窓面位置が全て削除されます。追加する場合は ● を選択し、設定する窓面の位置をクリックします。

(f) 階数を切り替えて(c)~(e)を繰り返します。

(g) [登録] をクリックします。

⇒ 窓面位置が設定され、建物オブジェクトの枠の色が変わります。

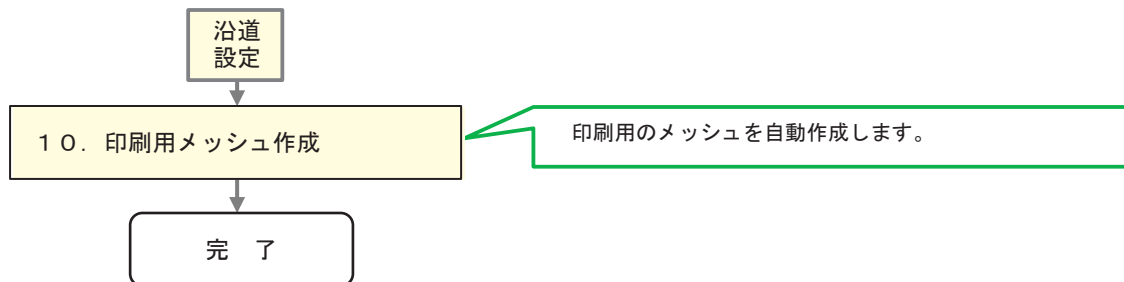
注意

窓面位置を設定した場合は、建物配分を手動で入力してください。

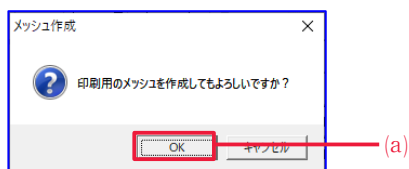
3-10 印刷用メッシュ作成

- 1 概要
印刷用のメッシュを作成します。

- 2 作業フロー



- 3 手順

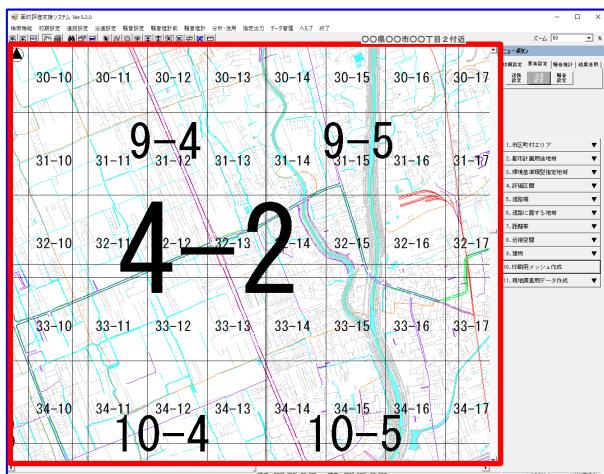


Menu [沿道設定] - [10. 印刷用メッシュ作成]

➡ [メッシュ作成] 画面が表示されます。

(a) をクリックします。

➡ 印刷用のメッシュが作成されます。



備考

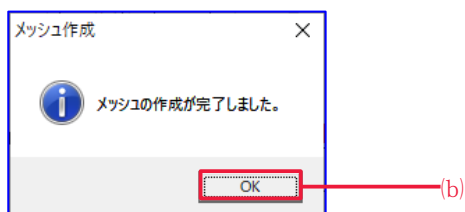
作成するメッシュのスケールは、1/1500、1/5000、1/12500、1/25000、1/50000、1/500000 です。

備考

メッセージバーに処理状況が表示されます。

備考

処理中に をクリックすると処理をキャンセルすることができます。



➡ [メッシュ作成] 確認画面が表示されます。

(b) をクリックします。

注意

市区町村エリアが作成されていないと、メッシュが作成されません。ZmapTown2 のみの場合、手で市区町村エリアを作成してください。

※データベースの制限により、作成ができない場合があります。その場合、環境省へお問い合わせ下さい。

3-1-1 現地調査用データ作成

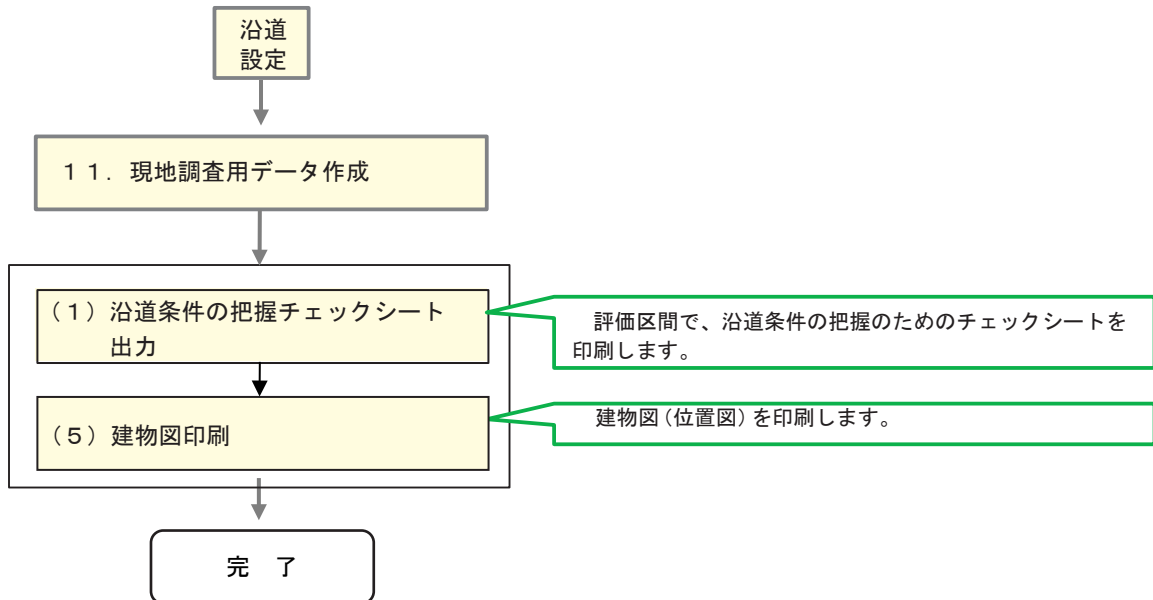
1 概要

沿道建物の現地調査用データ(建物チェックシート・建物図)を作成します。

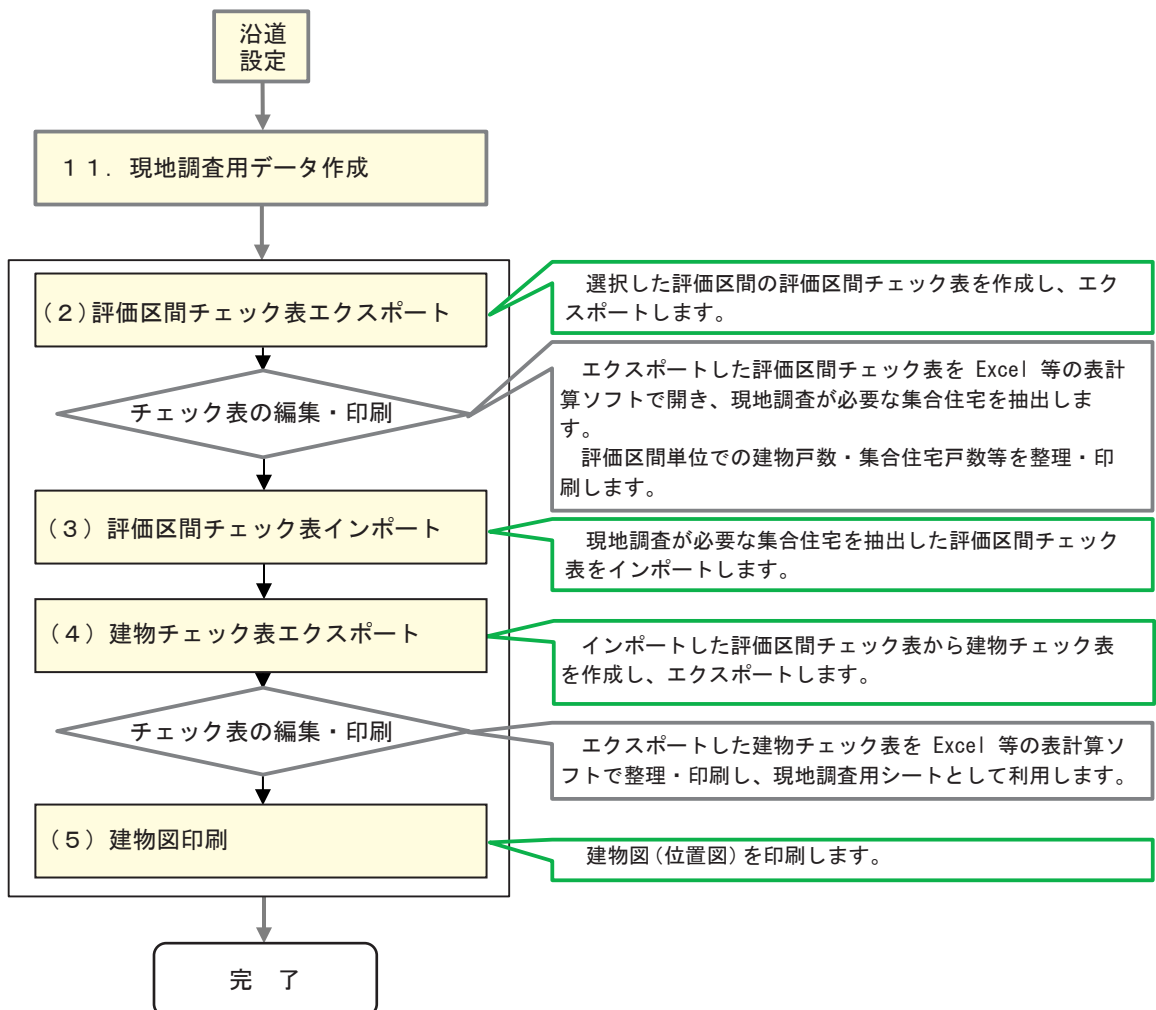
主に、住宅地図などに不足している建物情報(階数、戸数)を補足調査するために必要です。

2 作業フロー

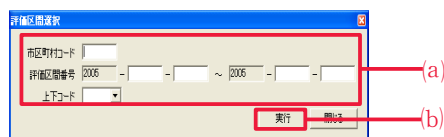
- 沿道状況把握のためのチェックシートを印刷する場合



- 集合住宅の建物属性把握のためのチェックシートを出力する場合



(2) 評価区間チェック表エクスポート



[Menu] [沿道設定] - [1 1. 現地調査用データ作成]
- [(2) 評価区間チェック表エクスポート]

⇒ [評価区間チェック表エクスポート] 画面が表示されます。

(a) 市区町村コード等各項目を入力します。



備考

[評価区間選択] 画面の詳細

全評価区間：全ての項目を未入力で実行
評価区間：道路交通センサ区間番号を入力し実行
細分化した評価区間：全ての項目を入力し実行

(b) [実行] をクリックします。

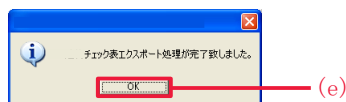
⇒ [名前を付けて保存] 画面が表示されます。

(c) エクスポートするファイル名を入力し、ファイル形式を CSV 形式にします。

(d) [保存] をクリックします。

⇒ [評価区間チェック表エクスポート] 画面が表示されます。

(e) [OK] をクリックします。



(f) (d)で保存したファイルを Excel で開きます。

(g) 「2階以上の集合住宅割合」「2戸数以上の集合住宅割合」の数値が小数の評価区間の「チェックフラグ」を0から1に修正します。

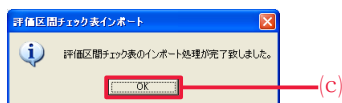
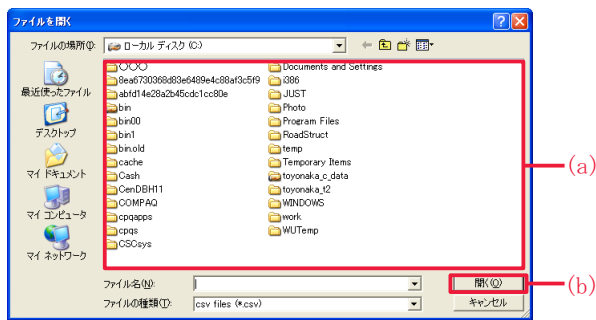
(h) [名前をつけて保存] をします。

市区町村コード	年度	調査単位区間番号	区間分割番号	上下コード	市町村名	建物種別	集合住宅種別	集合住宅割合	2F以上集合住宅種別	2F以上集合住宅割合	2戸以上集合住宅種別	2戸以上集合住宅割合	チェックフラグ
1													
2	00000	2002	1001	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	00000	2002	1001	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
4	00000	2002	1001	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0.875
5	00000	2002	1001	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
6	00000	2002	1002	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
7	00000	2002	4002	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18													
19													
20													
21													
22													
23													
24													

備考

[チェックフラグ] を1に修正した評価区間のデータが [(4) 建物チェック表エクスポート] で出力されます。

(3) 評価区間チェック表インポート



Menu [沿道設定] - [1 1. 現地調査用データ作成]

- [(3) 評価区間チェック表インポート]

⇒ [ファイルを開く] 画面が表示されます。

(a) [(2) 評価区間チェック表エクスポート] で保存したファイル名を選択します。

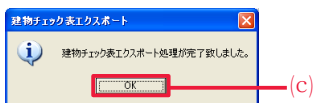
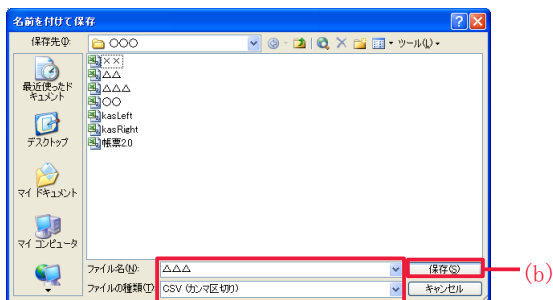
(b) [開く] をクリックします。

⇒ [評価区間チェック表インポート] 画面が表示されます。

(c) [OK] をクリックします。

⇒ 評価区間チェック表がインポートされます。

(4) 建物チェック表エクスポート



Menu [沿道設定] - [1 1. 現地調査用データ作成]

- [(4) 建物チェック表エクスポート]

⇒ [名前を付けて保存] 画面が表示されます。

(a) エクスポートするファイル名を入力し、ファイル形式を CSV 形式にします。

(b) [保存] をクリックします。

⇒ ファイルが保存され、[建物チェック表エクスポート] 画面が表示されます。

(c) [OK] をクリックします。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
	市町村名	調査単位区間番号	調査期	上下	街区番号	建物番号	建物名称	階数	階数(入力用)	住居数	住居数2F	住居数3F	住居数4F	住居数5F	住居数6F
1															
2	〇〇市〇〇	00000	1062	1	0	1	56 アパート〇〇	3			5				
3	〇〇市〇〇	00000	1062	1	1	1	31 アパート〇〇〇	1			3				
4	〇〇市〇〇町	00000	1063	1	0	2	8 〇〇ビル	5			0				
5	〇〇市〇〇町	00000	1063	2	0	1	32 〇〇ビル	2			8				
6	〇〇市〇〇町	00000	1063	2	1	2	46 マンション〇〇	1			2				
7	〇〇市〇〇町	00000	1064	1	0	2	11 〇〇ビル	4			0				
8	〇〇市〇〇	00000	1064	1	1	3	24 〇〇マンション	3			7				
9	〇〇市〇〇	00000	1064	3	0	1	13 〇〇マンション	6			2				
10	〇〇市〇〇	00000	1064	3	1	2	27 〇〇マンション	7			2				
11	〇〇市〇〇	00000	1064	5	1	1	16 〇〇ビル	2			0				
12	〇〇市〇〇	00000	1065	1	0	2	2 〇〇ビル	4			1				
13	〇〇市〇〇	00000	1065	1	1	2	17 マンション〇〇	4			2				
14	〇〇市〇〇	00000	1065	3	0	1	9 〇〇ビル	2			5				
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															

(d) 保存したファイルを Excel で開きます。

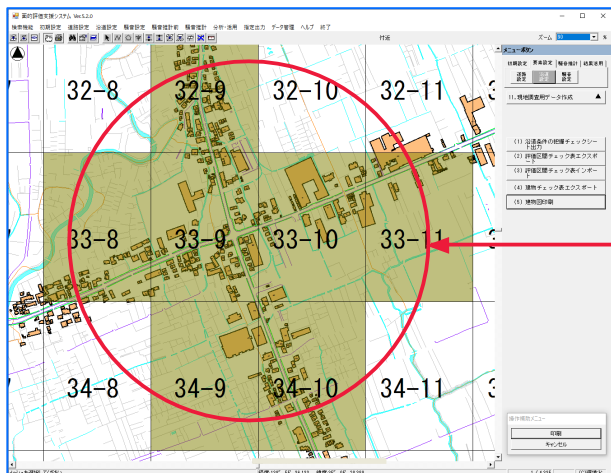
(e) 見やすいように編集します。

(f) [印刷] をします。

備考

建物チェック表は、集合住宅の現地調査のため利用するため、評価区間チェック出力確認(チェック)→インポートの手順が必要です。

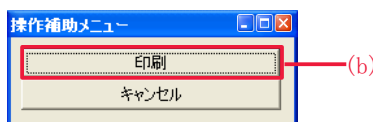
(5) 建物図印刷



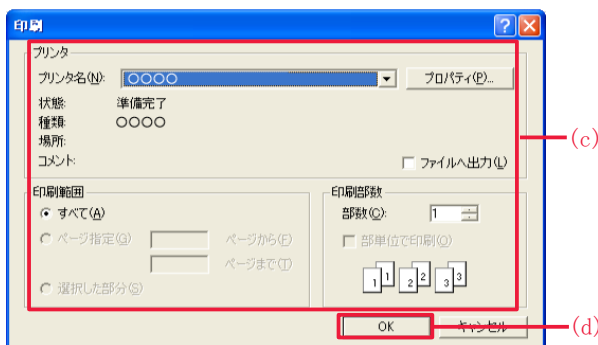
Menu [沿道設定] - [1 1. 現地調査用データ作成]
- [(5) 建物図印刷]

- ⇒ [建物図印刷] 画面が表示されます。
- (a) 印刷する範囲のメッシュを選択します。
- ⇒ 選択したメッシュの色が変わります。

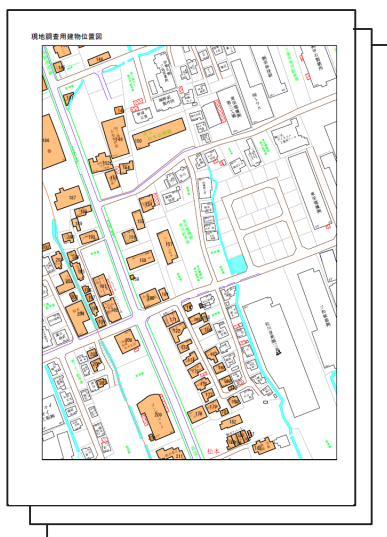
備考
選択した順番に印刷されます。



- (b) [印刷] をクリックします。
- ⇒ [印刷ダイアログ] 画面が表示されます。



- (c) 項目を設定します。
- (d) [OK] をクリックします。
- ⇒ 建物図が印刷されます。



注意

現地調査後に建物情報を修正するには、[(4) 建物属性把握処理]にて建物オブジェクト上にカーソルを置き右クリックでショートカットメニュー [データ編集] を選択すると [路線別建物状況整理表 修正] 画面が表示されるので、建物情報を編集してください。

[更新フラグ] にチェックを入れて登録すると、建物属性把握処理を再度行ったときに更新されません。

また、建物オブジェクトがない場合には [(1) オブジェクト作成] を参照し、手動作成し、上記にならって情報を入力してください。

4. 騒音設定

騒音推計を行うための騒音測定要素を設定します。

騒音測定地点位置、騒音測定データ、測定対象道路、横断面を設定します。

1 要素設定と推奨画面ズーム

表 4-1 要素設定と推奨画面ズーム

項目			ズーム (%)
4-1	騒音測定地点	(1) 騒音測定地点	1,000
		(2) 断面設定	-
4-2	騒音測定データ	(1) データ入力	150
		(2) データ一覧表示	-

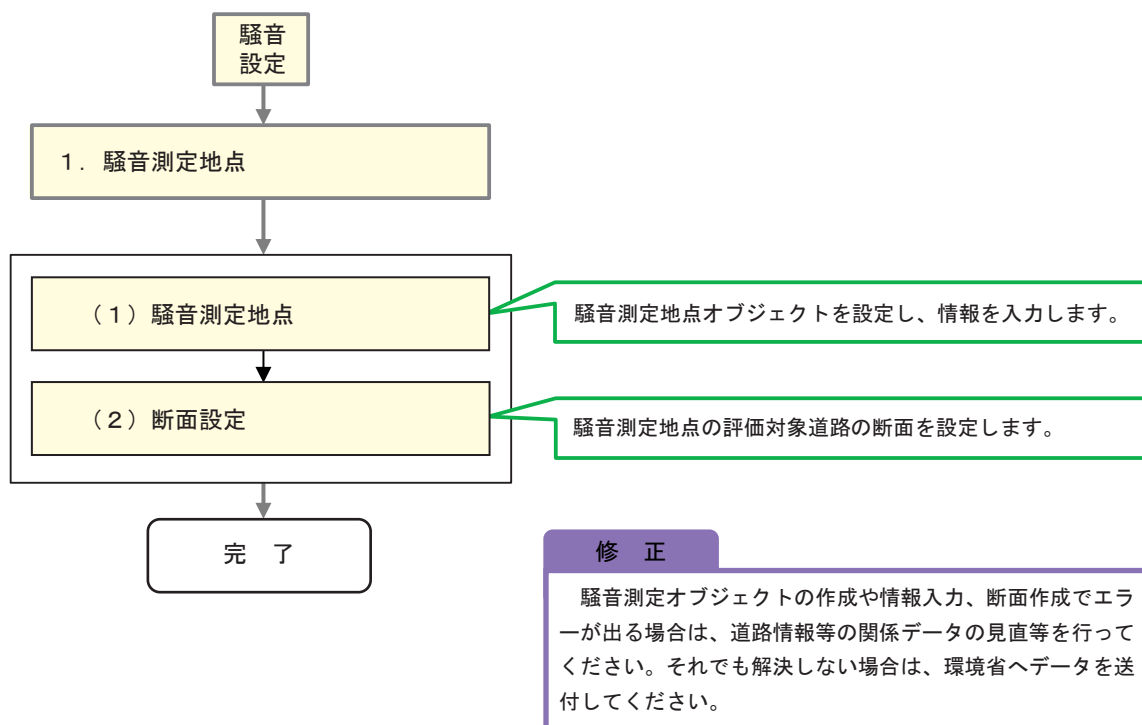
画面の解像度を 1024 × 768 (XGA) と想定しています。

4-1 騒音測定地点

1 概要

騒音測定地点を設定します。騒音測定地点オブジェクトを作成し、情報を入力します。

2 作業フロー



3 手順

(1) 騒音測定地点

騒音測定地点オブジェクトを作成し、騒音測定地点情報を入力します。

Menu [騒音設定] - [1. 騒音測定地点] - [(1) 騒音測定地点]

[住所検索]

(a) 騒音測定地点を作成する位置をクリックします。

→ [騒音測定地点] 設定画面が表示されます

point

騒音測定地点オブジェクトが評価区間内に入る位置に設定します。また、道路に面する地域オブジェクトと重なっている部分を選択してください。

(b) 該当する項目を入力します。

注意

[定点・準定点]には「定点●」「準定点○」「例外的実測○」があります。プルダウンから正しく選択してください。

備考

システム内では一連番号はユニークである必要があります。また、[枝番]は、同一評価区間内に騒音測定地点オブジェクトを複数作成するときに、連番を入力します。同一番号で入力すると[登録エラー]画面が表示されます。1から登録できます。

(c) [選択] をクリックします。

→ [評価対象道路選択] 画面が表示されます。

(d) 該当する評価対象道路を選択します。

(e) [選択] をクリックします。

→ [騒音測定地点] 画面の [測定対象道路] に情報が入力されます。

備考

[測定対象道路] は直接入力することもできます。


(f) [登録] をクリックします。

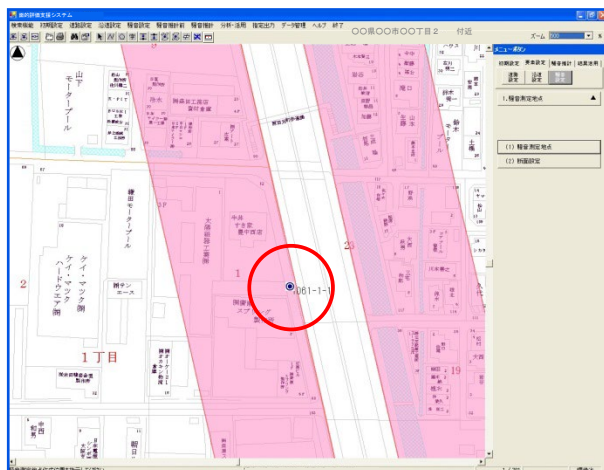
→ 騒音測定地点オブジェクトが設定され、情報が入力されます。

👁️ 騒音測定地点が正確な位置にあるか詳細図（騒音測定地点の平面図・断面図）で確認します。

(g) 位置が正確でない場合は選択ツールでオブジェクトを選択後、右クリックのショートカットメニューから移動を選択し、正確な位置に移動します。

修正

騒音測定地点オブジェクトの削除は、 を使用し、調査地点を選択後、右ボタンをクリックし、表示されたメニューから削除を選択します。



(2) 断面設定

騒音測定地点ごとに道路の横断面を設定します。

横断面の作成手順は [IV-2-2 標準断面] と同様ですが [(2) 路線選定] の際、騒音測定地点の属する 評価対象道路・評価区間の標準断面 (上位データ) を取込むことができます。

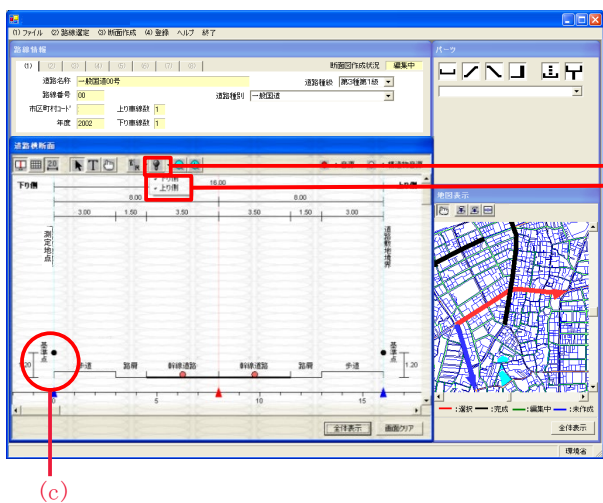
Menu [騒音設定] - [1. 騒音測定地点] - [(2) 断面設定]

参考・例

[IV-2-2 標準断面] を参照してください。

□ 測定地点

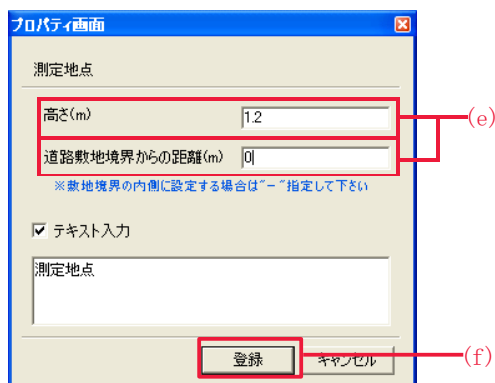
測定地点 (マイクロホン位置) を道路敷地境界上に設定します。



- (a) (▼) をクリックします。
⇒ プルダウンメニューが表示されます。
- (b) 設定位置を選択します。(チェックを付けます)
⇒ 測定地点が表示されます。
- (c) 測定地点●をクリックします。
⇒ □が表示されます。
- (d) 右クリックでショートカットメニューを表示し、[プロパティ] を選択します。
⇒ [プロパティ] 画面が表示されます。
- (e) [高さ] [道路敷地境界からの距離] を入力します。

備考

測定地点を道路敷地境界の内側の設定するときは [道路敷地境界からの距離] に- (マイナス) の値を入力します。逆に、外側に設定するときは+ (プラス) の値を設定してください。



- (f) をクリックします。
⇒ 測定地点が設定されます。

注意

測定地点は騒音測定時のマイクロホン位置を示します。騒音測定地点の断面 ([IV-4-1 (2) 断面設定]) にのみ設定します。

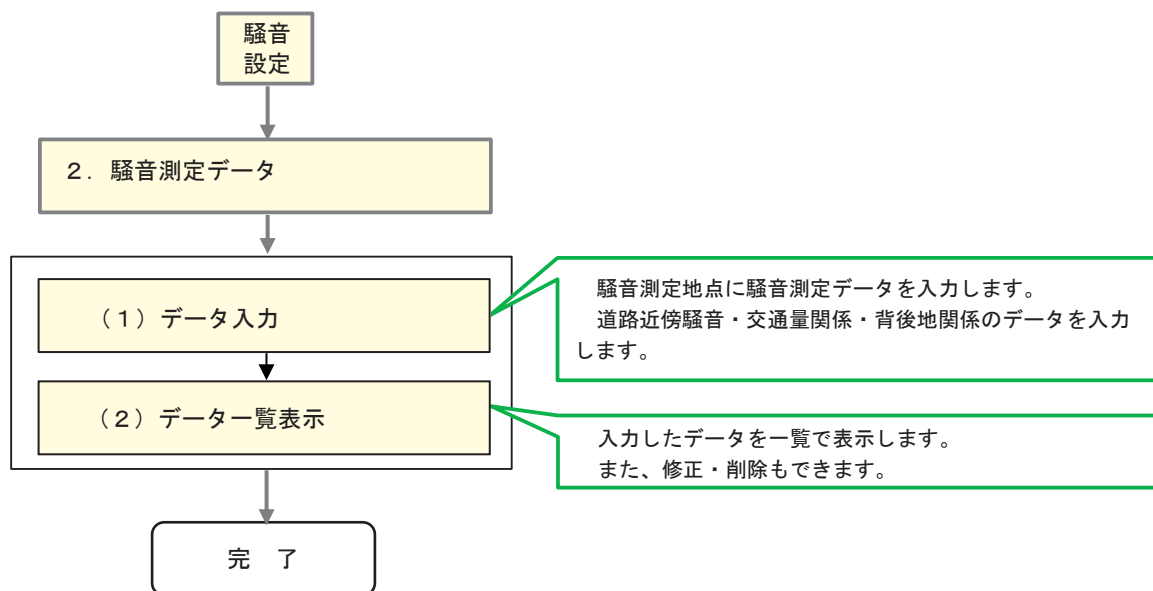
4-2 騒音測定データ

1 概要

騒音測定地点に騒音測定データ（道路近傍騒音、交通量関係、背後地関係）を設定します。

また、[結果活用]-[データ管理]-[1. 入力・出力・印刷の管理]-[(5) 騒音測定データ整理表]のインポート機能によりインポートし、自動で登録することもできます。詳細は [IV - 9 - 1 入力・出力・印刷の管理] を参照してください。

2 作業フロー



修正

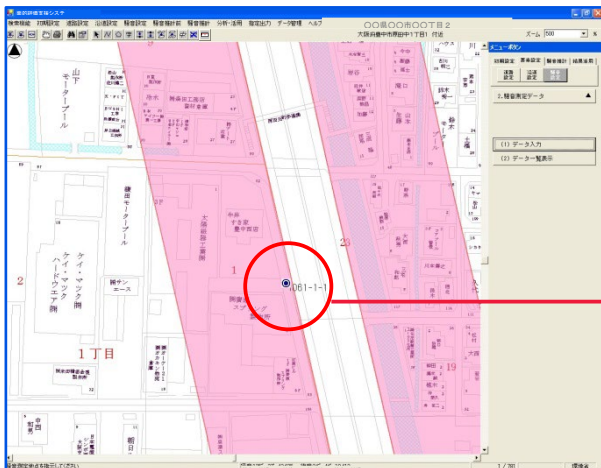
騒音測定データの入力でエラーが出る場合は、関係データやオブジェクトの見直しを行ってください。それでも解決しない場合は、環境省へデータを送付してください。

3 手順

(1) データ入力

[IV-4-1 騒音測定地点] で設定した騒音測定地点オブジェクトに騒音測定データを入力・変更します。
また、[結果活用] - [データ管理] - [1. 入力・出力・印刷の管理] - [(5) 騒音測定データ整理表] のインポート機能によりインポートし、自動で登録することもできます。

□ 新規・変更



注意
インポートをすると既存のデータは全て削除されますので、データを追加する場合は先にエクスポートなどして全てのデータを揃えてからインポートをしてください。

Menu [騒音設定]-[2. 騒音測定データ]-[(1) データ入力]

[地図検索]

(a) データ入力する騒音測定地点オブジェクトをクリックします。

⇒ [騒音測定地点データ] 画面が表示されます。

(b) [自動取得] をクリックします。

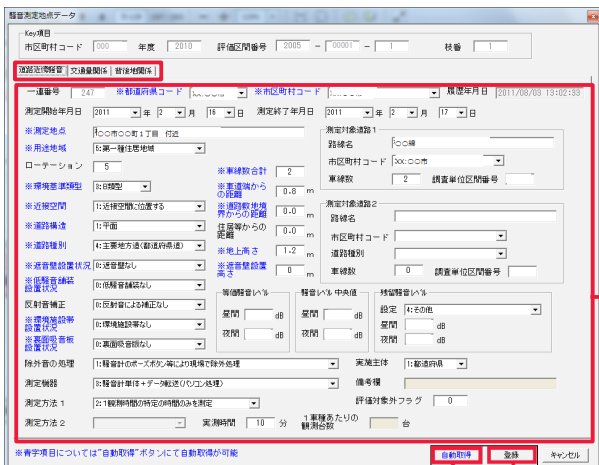
⇒ 青字の項目が自動取得されます。

(c) [道路近傍騒音] [交通量関係] [背後地関係] それぞれタブを切り替えて該当する項目を入力します。

(d) [登録] をクリックします。

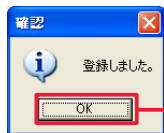
⇒ 騒音測定データが入力され、[確認] 画面が表示されます。

(e) [OK] をクリックします。



(b) (d)

注意
騒音レベルは、整数で入力して下さい。



(e)

備考

ローテーションとは、当該測定地点について、何年毎に測定しているかを示すものです。

「騒音規制法第 18 条の規定に基づく自動車騒音の状況の常時監視に係る事務の処理基準について」（平成 23 年 9 月 14 日 環水大自発第 110914001 号）および自動車騒音常時監視結果の報告要領を参照ください。

備考

車道端とは、車道と歩道（路側帯）の区別があるところでは車道側の歩道端としているため、路側帯の幅を含みます。

(2) データ一覧表示

騒音測定地点データを一覧表示し、修正、削除、データのインポート、エクスポートをします。

□ 修正

Menu [騒音設定] - [2. 騒音測定データ] - [(2) データ一覧表示]

⇒ [騒音測定データ整理表] 画面が表示されます。

(a) 修正するデータの条件を入力します。

(b) **検索**をクリックします。

⇒ 検索されたデータの一覧が表示されます。

(c) 修正するデータを選択します。

(d) **修正**をクリックします。

⇒ [騒音測定地点データ] 画面が表示されます。

(e) 該当する項目を修正します。

(f) **登録**をクリックします。

⇒ [騒音測定データ整理表] 画面が表示され、修正

したデータが一覧表示されます。

登録したデータを確認します。

備考

大型車の測定のないものは、大型Ⅱに -1 を入れてください。

注意

観測時刻は、「0:00~23:59」の範囲で入力してください。

修正

誤って入力した測定データは、(d)の **削除** をクリックし削除できます。

4-3 データチェック

1 概要

騒音測定地点データのチェックを行います。

詳細は、[IV-6-1 データチェック] を参照してください。

参考・例

「騒音測定データ整理表」のエラーチェックで「二輪車のデータが入力されていません」等のエラーが出ることがありますが、測定結果が0台の場合は問題ありませんのでエラーは無視してください。



5. 騒音推計前

騒音基準位置の設定、騒音測定データの設定、基準点騒音レベル・残留騒音レベルの設定をし、騒音推計の諸元とします。またデータ照査および諸元の確認の為に、道路近傍騒音レベル、残留騒音レベル、騒音観測・非観測区間区分の表示用レイヤを作成します。

1 要素設定と推奨画面ズーム

表 5-1 要素設定と推奨画面ズーム

項目			ズーム (%)
5-1	騒音基準位置	(1) 騒音基準位置設定	1,000
		(2) 騒音測定データ選択	1,000

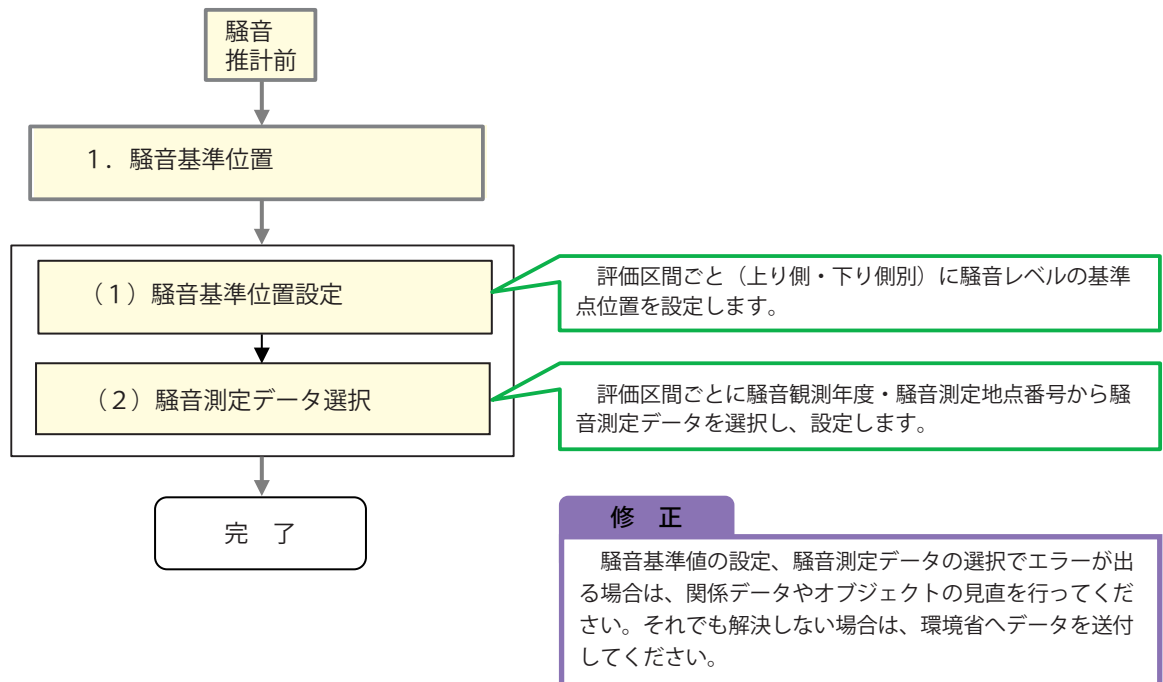
画面の解像度を 1024 × 768 (XGA) と想定しています。

5-1 騒音基準位置

1 概要

騒音推計を行う為に評価区間ごとに騒音基準位置（騒音基準点位置オブジェクト）の設定および騒音測定データを選択し、設定します。

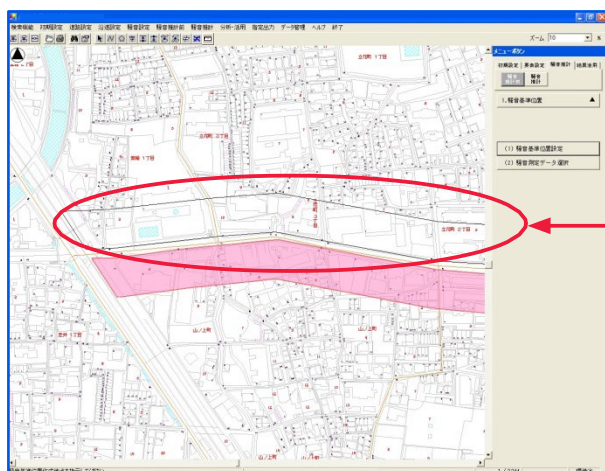
2 作業フロー



3 手順

(1) 騒音基準位置設定

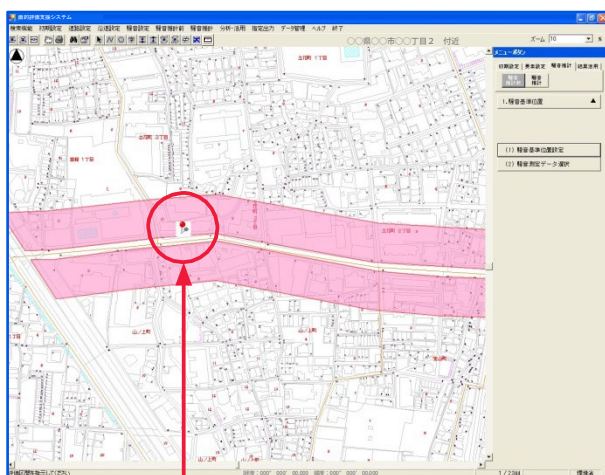
評価区間ごとに騒音基準位置の設定（騒音基準位置オブジェクトの作成）をします。



Menu [騒音推計前] - [1. 騒音基準位置] - [(1) 騒音基準位置設定]

[評価区間検索]

- (a) 評価区間オブジェクトをクリックします。
 ➔ 評価区間オブジェクトが中抜き表示されます。



- (b) 基準点位置でクリックします。
 ➔ 騒音基準位置オブジェクトが作成されます。

備考

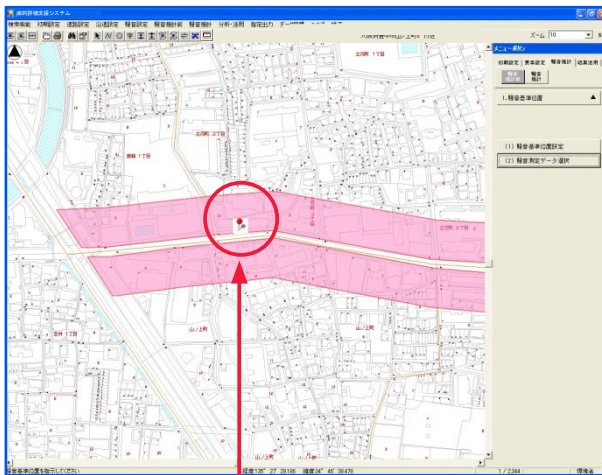
騒音基準位置は上り側・下り側別に設定します。

備考

騒音発生強度の把握の方法が4（交通量が僅少の事由により、環境基準値以下と決定する方法）の評価区間において、設定は不要です（基準点高さのデフォルト値は1.2mです）。

(2) 騒音測定データ選択

評価区間ごとに騒音観測年度・騒音測定地点番号から騒音測定データを選択し、設定します。



(a)

Menu [騒音推計前] - [1. 騒音基準位置] - [(2) 騒音測定データ選択]

[評価区間検索]

(a) 基準位置（騒音基準位置オブジェクト）をクリックします。

⇒ [騒音測定データ選択] 画面が表示されます。

備考

基準点の高さを設定できます。

(b) **選択** をクリックします。

⇒ [騒音測定データ選択] 画面が表示されます。

(c) 選択する騒音測定データの検索条件を入力します。

(d) **検索** をクリックします。

⇒ 該当の騒音測定データが一覧表示されます。

(e) 騒音測定データを選択します。

(f) **選択** をクリックします。

(g) **登録** をクリックします。

⇒ 騒音測定データが設定されます。

観測年月日時刻	年度	一連番号	市区町村コード	評価区間番号	騒音	測定地点	昼間	夜間
2006/11/27 20:10:49	2005	1	000	2005-101-1	1	〇〇線〇〇南〇〇	72	68

備考

騒音測定データは、上り側と下り側に設定し、それぞれ同年度のデータにします。年度が異なる場合、警告メッセージが表示されますので、設定内容を確認してください。

注意

基準点位置は騒音発生強度の把握の方法4（交通量が僅少の事由により、環境基準値以下と決定する方法）を除く全ての区間に設定してください。

また、騒音基準位置において騒音測定データの選択は騒音発生強度の把握の方法1及び2の区間については必ず選択を行ってください。

注意

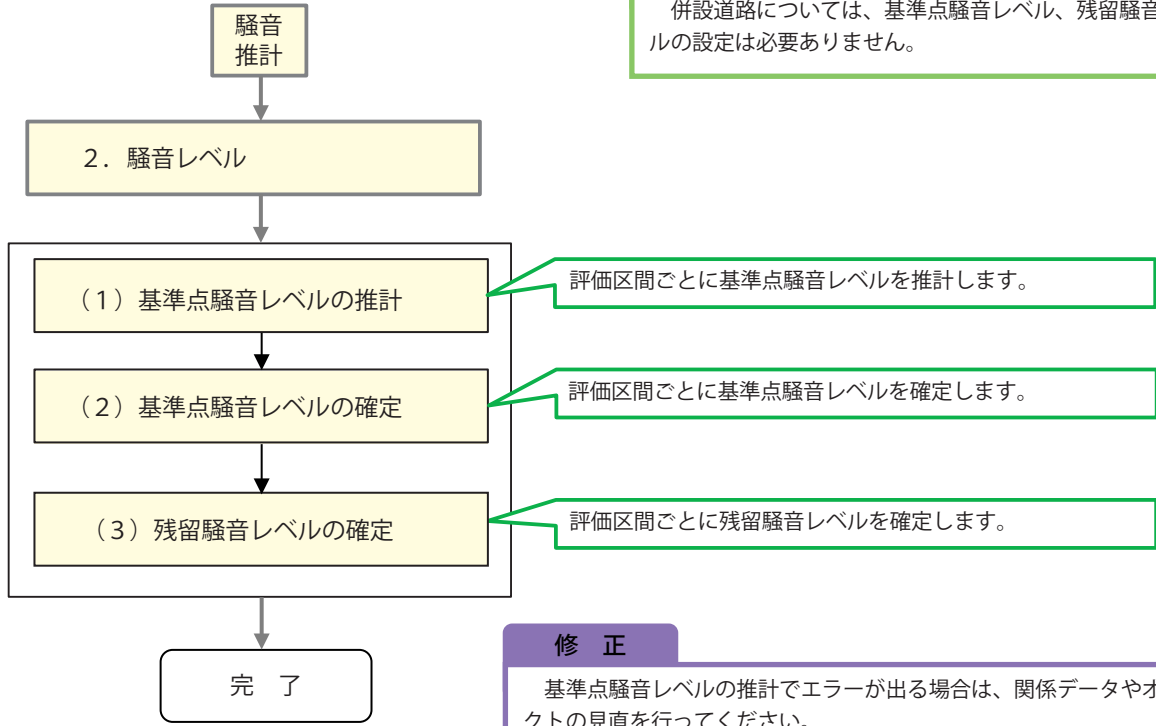
騒音基準点位置の騒音測定データの選択は、新たに騒音測定データを登録した地点とそれに関する全ての騒音基準点位置で行う必要があります。

5-2 騒音レベル

1 概要

推計の諸元とする基準点騒音レベル、残留騒音レベルを確定します。

2 作業フロー



備考

併設道路については、基準点騒音レベル、残留騒音レベルの設定は必要ありません。

修正

基準点騒音レベルの推計でエラーが出る場合は、関係データやオブジェクトの見直しを行ってください。
 また、基準点騒音レベル推計ログ（work フォルダ内の（基準点騒音レベル推計ログ_Th*.log））を確認してください。
 ログにて「**を確認してください」と出力されている項目（**）について、エラー対象評価区間の設定内容を確認・修正してください。それでも解決しない場合は、環境省へデータを送付してください。

3 手順

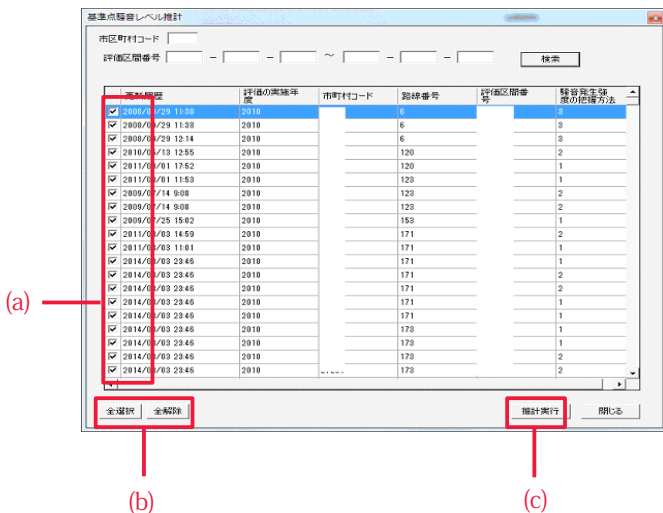
(1) 基準点騒音レベルの推計

基準点騒音レベルを推計します。

Menu [騒音推計前] - [2. 騒音レベル] - [(1) 基準点騒音レベルの推計]

➡ [基準点騒音レベルの推計] 画面が表示されます。

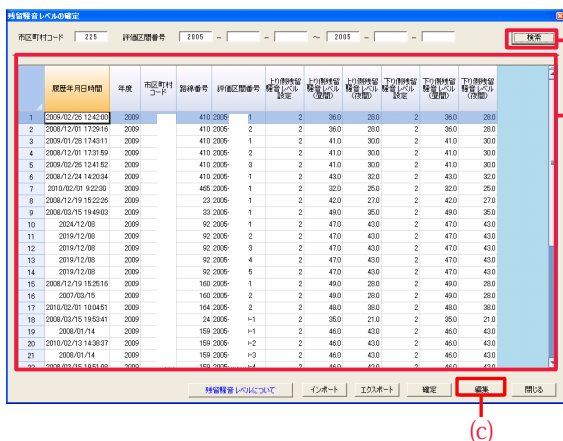
- (a) 基準点騒音推計を実施する評価区間をチェックします。
- (b) 一括で選択または解除します。
- (c) 選択された評価区間の基準点騒音レベル推計を実行します。



(2) 基準点騒音レベルの確定

推計の諸元となる基準点騒音レベルを評価区間の上り側・下り側別に設定します。

実測値がある評価区間は通常構造や対策が同じとみなし実測のない側も同じ値を自動で設定します。道路状況や対策状況等に応じて修正してください。



(a) Menu [騒音推計前] - [2. 騒音レベル] - [(2) 基準点騒音レベルの確定]

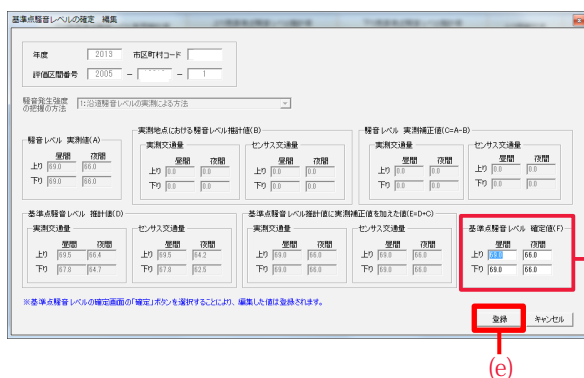
⇒ [基準点騒音レベルの確定] 画面が表示されます。

(a) [検索] をクリックします。

⇒ 全ての評価区間が表示されます。

備考

基準点騒音レベル確定値が未設定の場合、騒音観測区間については実測値を確定値として上り側・下り側ともに設定します。

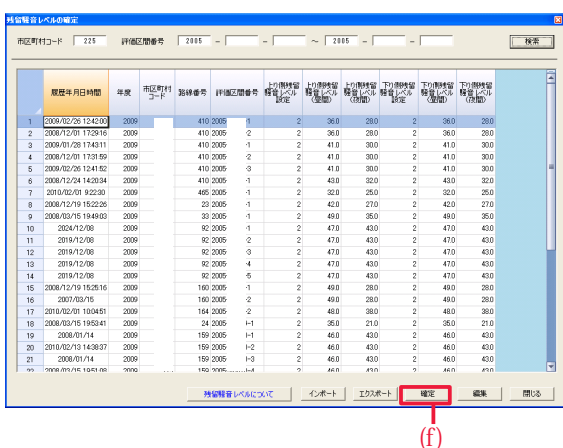


注意

基準点騒音レベル実測補正值（実測地点における騒音レベル実測値と実測地点における騒音レベル推計値の差）が閾値を超えると確定値が赤字表示されます。確定値が閾値を超える場合、必要に応じて適正值に修正してください。なお、閾値は初期設定で設定します。

注意

センサ情報が未設定の場合、推計が計算されません。センサ情報を設定し、評価区間の情報入力を再設定後に再度推計処理を行ってください。



(b) 確定値を編集する評価区間を選択します。

(c) [編集] をクリックします。

⇒ [基準点騒音レベルの確定 編集] 画面が表示されます。

(d) [基準点騒音レベル 確定値] の値を必要に応じて修正します。

(e) [登録] をクリックします。

⇒ 基準点騒音レベルの確定値が登録されます。

(f) 全ての編集を終えたら[確定] をクリックします。

参考・例

[エクスポート] の手順は [IV-9-1 (1) 道路データ整理表] を参照してください。

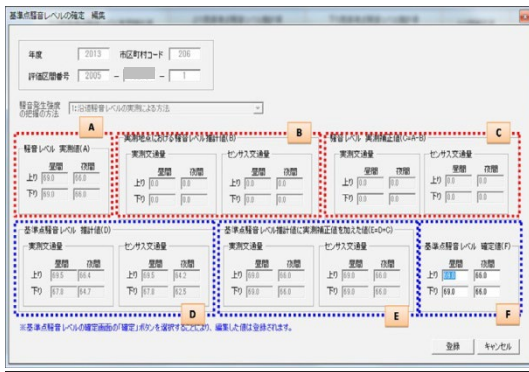
[インポート] の手順は [IV-9-1 (2) 道路交通センサデータ整理表] を参照してください。

注意

基準点確定値は自動的にセンサ交通量から実測地点での推計値を算出し、実測値と推計値の差から補正值を求め、その補正值を準用地点での推計値に足し、確定値を求めています。このため、実測地点での推計値と実測値が大きく異なる場合があります。

このような場合は、適切な値を確定値に入力してください。

参考・例



騒音レベル 実測値 (A)

【観測区間】

実測値が表示されている

【非観測区間】

準用元の観測区間の実測値が表示されている

実測地点における騒音レベル推計値 (B)

【観測区間】

観測区間の断面における実測交通量 (左側)、センサス交通量 (右側) を用いて計算した実測地点の推計結果が表示されている

【非観測区間】

準用元の観測区間の断面における実測交通量 (左側)、センサス交通量 (右側) を用いて計算した実測地点の推計結果が表示されている

騒音レベル実測補正值 (C)

【観測区間】・【非観測区間】とも共通

騒音レベル 実測値 (A) - 実測地点における騒音レベル推計値 (B) が表示されている

基準点騒音レベル推計値 (D)

【観測区間】・【非観測区間】とも共通

対象とする区間の断面における実測交通量 (左側)、センサス交通量 (右側) を用いて計算した基準点の推計結果が表示されている

基準点騒音レベル推計値に実測補正值を加えた値 (E)

【観測区間】・【非観測区間】とも共通

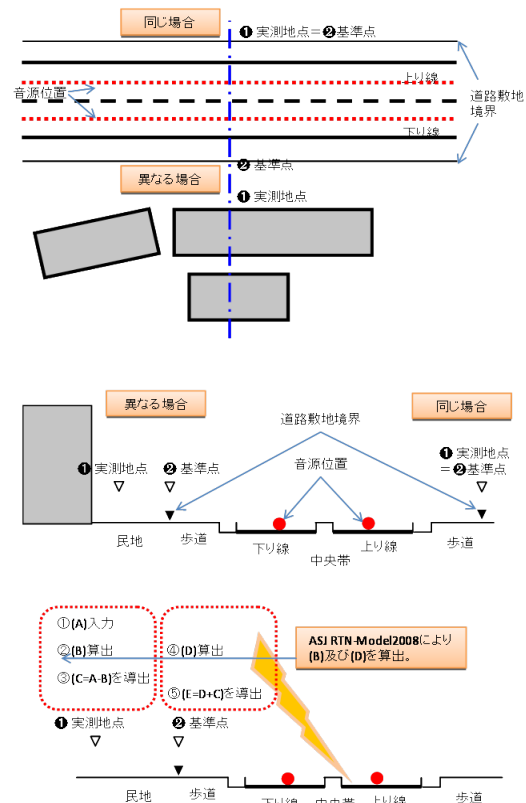
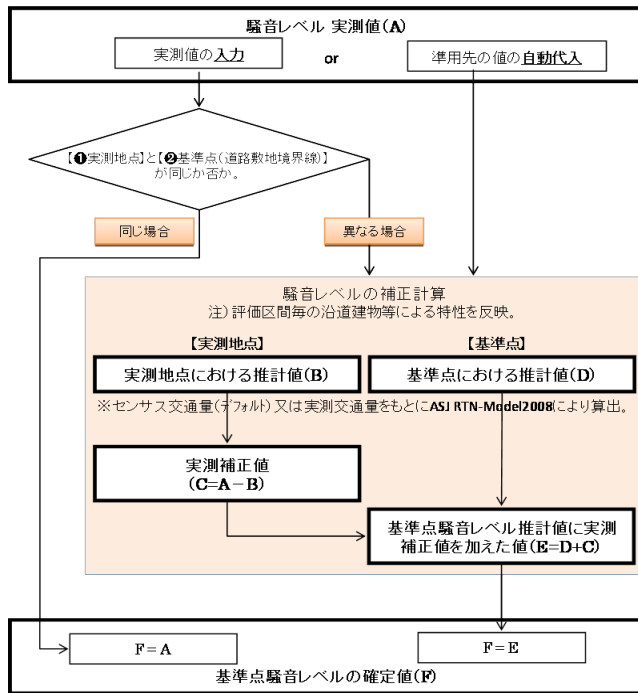
基準点騒音レベル 推計値 (ASJ RTN-Model 2018) (D) + 騒音レベル 実測補正值 (C) が表示されている

基準点騒音レベル 確定値 (F)

【観測区間】・【非観測区間】とも共通

基準点騒音レベル推計値に実測補正值を加えた値 (E) のセンサス交通量を用いた結果が初期表示される

※ 24 時間実測交通量の測定により、実測交通量の方がより適当な場合は、実測交通量欄の値を手入力で入力してください



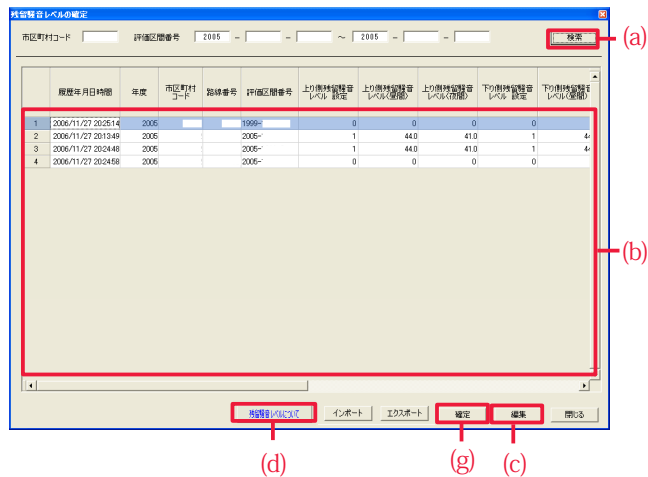
(3) 残留騒音レベルの確定

評価区間ごとに上り側・下り側別の残留騒音レベルを設定します。

実測値がある評価区間については評価区間の両側が同一の環境基準類型指定地域であり、建物の立地状況などが同じとみなした場合には実測値を両側に自動設定します。環境基準類型指定地域が上り側・下り側で違っている場合にも片側の実測値を自動設定します。

実測が無い評価区間については初期設定（[IV-1-1-4 環境基準類型指定地域毎の残留騒音設定]）にて設定した値を自動設定します。

必要に応じて修正してください。



Menu [騒音推計前] - [2. 騒音レベル] - [(3) 残留騒音レベルの確定]

→ [残留騒音レベルの確定] 画面が表示されます。

(a) [検索] をクリックします。

→ 全ての評価区間が表示されます。

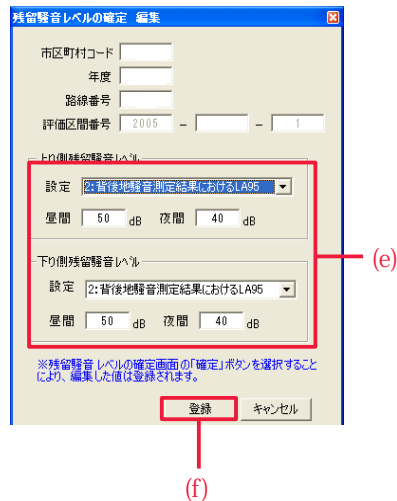
(b) 編集する評価区間を選択します。

(c) [編集] をクリックします。

→ [残留騒音レベルの確定 編集] 画面が表示されます。

(d) [残留騒音レベルについて] をクリックします。

→ [残留騒音レベルについて] 画面が表示されます。



(e) 該当する項目を編集します。実測値のある評価区間については上り側・下り側共に同じ値を設定しています。実測値のない評価区間については初期設定([IV-1-1-4 環境基準類型指定地域毎の残留騒音設定]) で設定した値を設定しています。必要に応じて修正してください。

(f) [登録] をクリックします。

→ 編集したデータが登録されます。

(g) 編集を終えたら、[確定] をクリックします。

→ 残留騒音レベルの確定値が設定されます。

参考・例

[エクスポート] の手順は [IV-9-1 (1) 道路データ整理表] を参照してください。

[インポート] の手順は [IV-9-1 (2) 道路交通センサデータ整理表] を参照してください。

注意

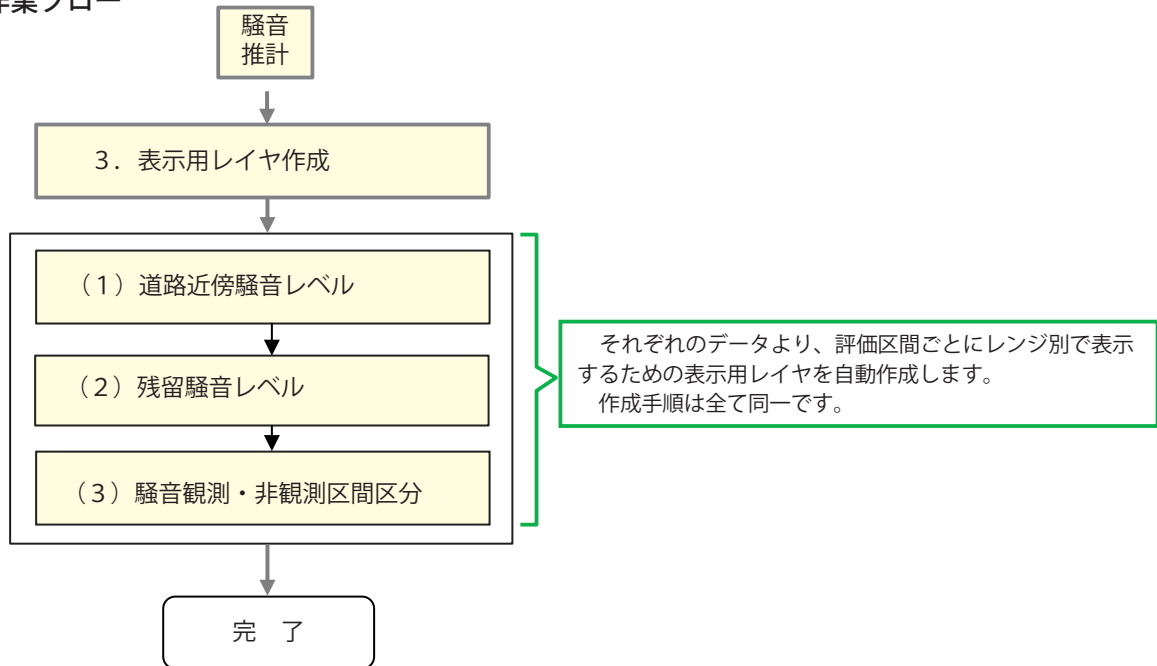
システムでは基準点騒音レベルより残留騒音レベルの方が高い場合にエラーを返す仕様です。該当区間の基準点騒音レベル及び残量騒音レベルを確認し、修正してください。

5-3 表示用レイヤ作成

1 概要

評価区間ごとの道路近傍騒音レベル、残留騒音レベル、騒音観測・非観測区間区分のレイヤを作成します。

2 作業フロー



3 手順

(1) 道路近傍騒音レベル

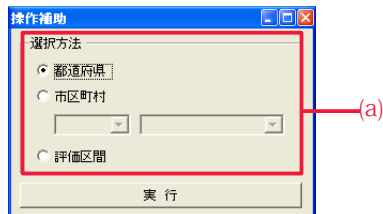
それぞれのデータより評価区間ごとにレンジ別で表示するための表示用レイヤを自動作成します。

選択方法は、都道府県・市区町村・評価区間単位です。

[Menu] [騒音推計前] - [3. 表示用レイヤ作成] - [(1) 道路近傍騒音レベル]

⇒ [操作補助メニュー] が表示されます。

(a) [選択方法] を選択します。



point

選択方法の指定による操作

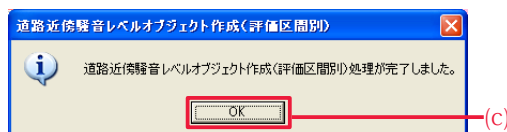
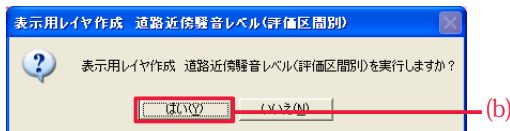
都道府県： [都道府県] を選択し、[実行] をクリックします。
 市区町村： [市区町村] を選択し、市区町村コードまたは市区町村名を入力し、[実行] をクリックします。
 評価区間： [評価区間] を選択し、評価区間オブジェクトをクリックします。

⇒ [表示用レイヤ作成] 画面が表示されます。

(b) [はい] をクリックします。

⇒ 表示用レイヤが作成され、[道路近傍騒音レベルオブジェクト作成] 画面が表示されます。

(c) [OK] をクリックします。



参考・例

表示用レイヤ作成は全て同じ手順です。[(1) 道路近傍騒音レベル] の作成手順を参考に他の表示用レイヤを作成してください。

6. 騒音推計

データチェックを行い、沿道情報およびデータ照査・諸元の確認後に、要素設定情報、基準点騒音レベル、残留騒音レベルから推計を実施します。

また、常時監視フォーマット、騒音推計結果の分析に必要な騒音暴露状況等のレイヤーを作成します。

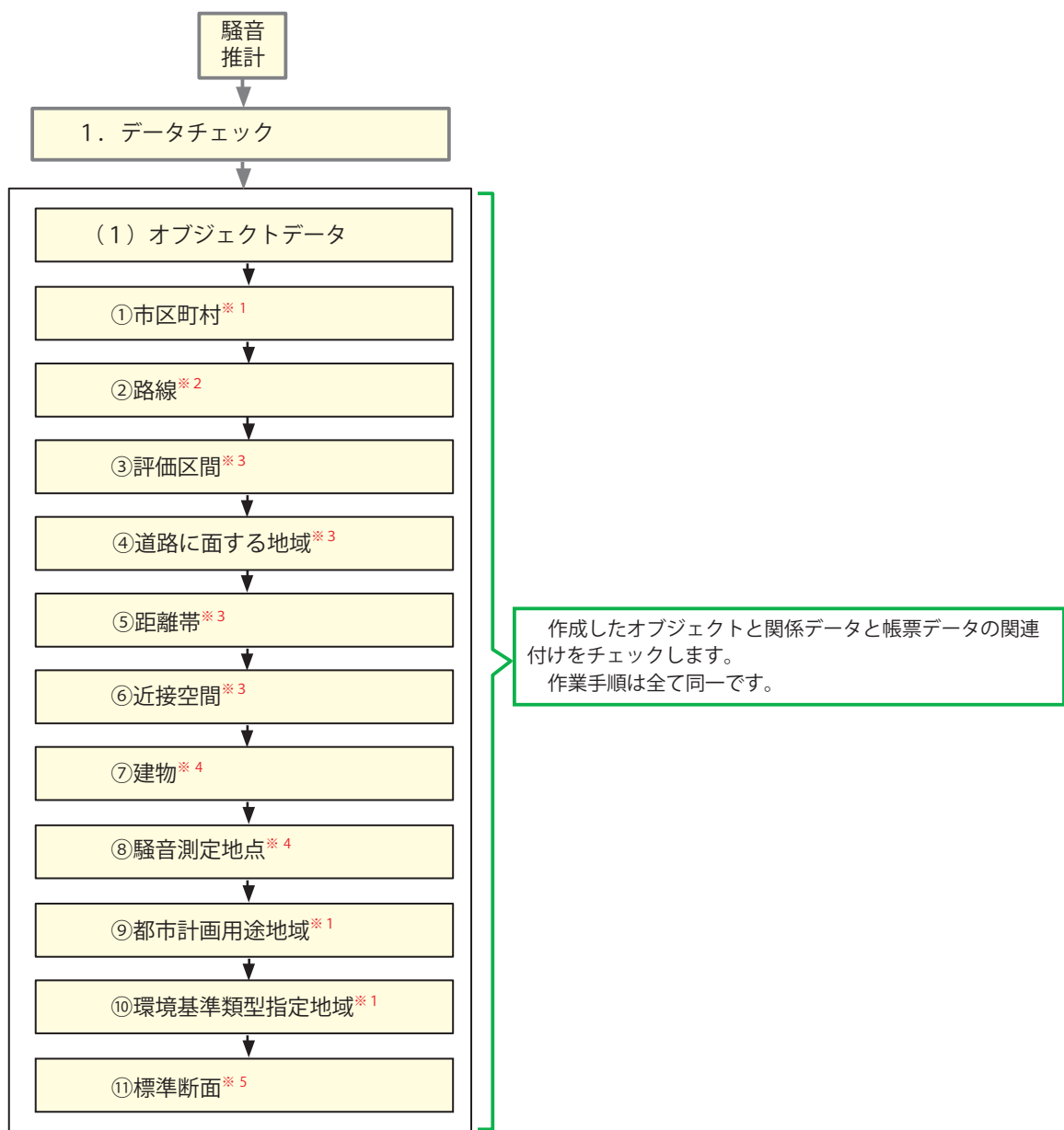
6-1 データチェック

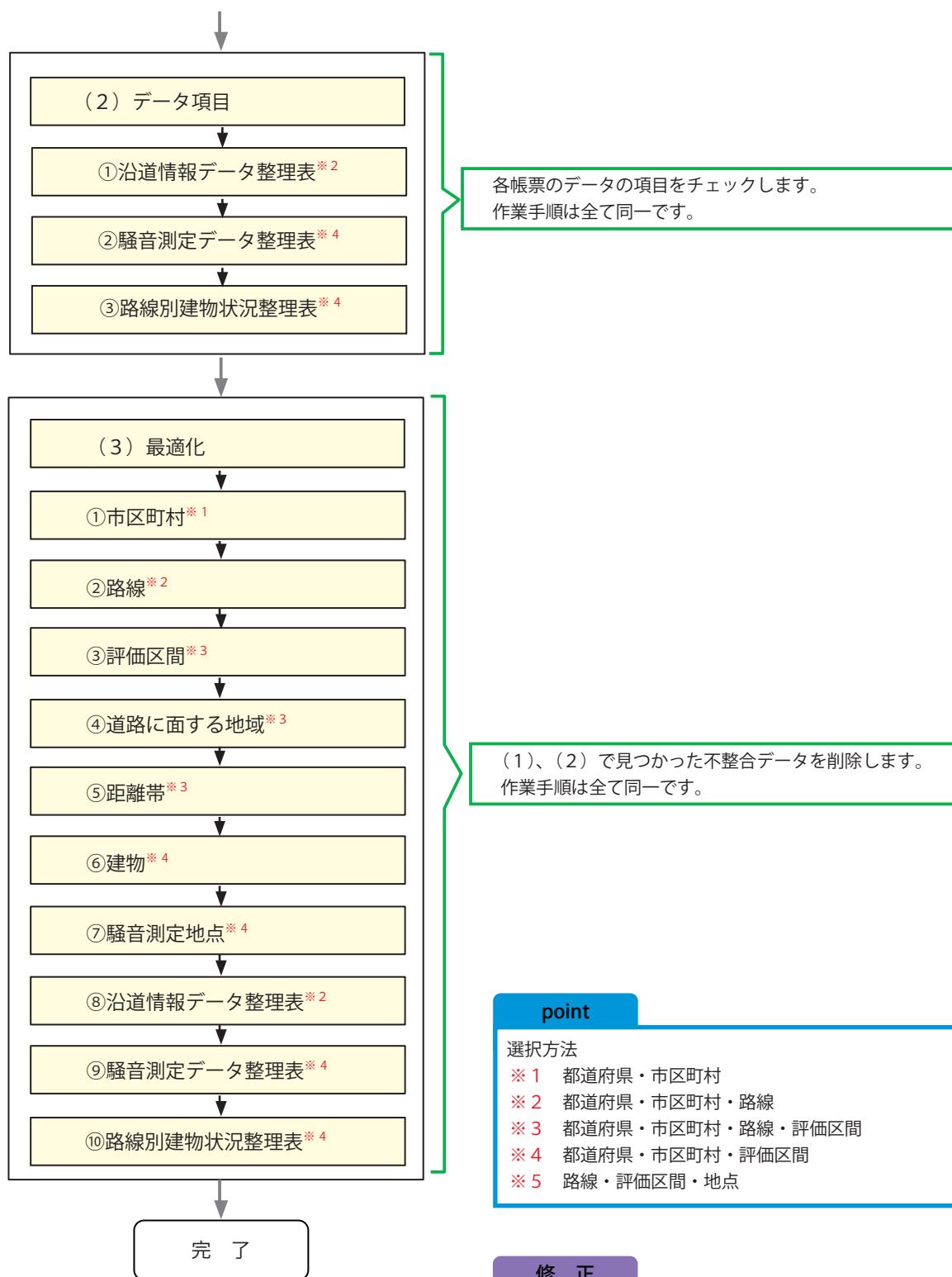
1 概要

推計前に、要素設定にて設定したデータのチェックをします。

各項目ごとにそれぞれのオブジェクト、関係データ、帳票データの関連づけをチェック、また各種帳票データにおける無効なデータの有無などをエラーとして出力します。エラーの種類ごとにエラーコードが割り当てられています。エラーメッセージ一覧より原因及び現象を確認し、それに基づく修正を行います。

2 作業フロー





3 手順

(1) オブジェクトデータ

項目ごとにオブジェクト、関係データ、帳票データの関連づけをチェックします。

データチェック後、エラーがある場合は、各種エラーメッセージをもとに各データの修正をします。

データ修正後、再度データチェックをしエラーが無ければデータチェック完了です。

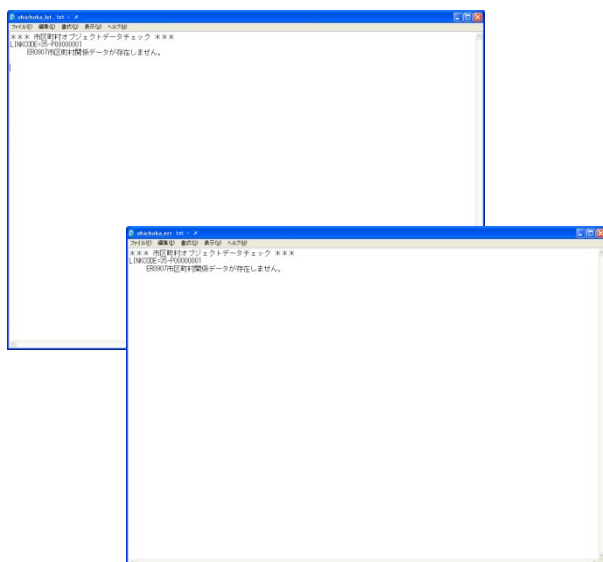
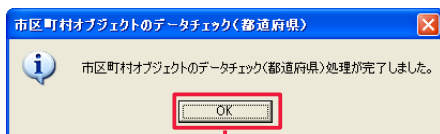
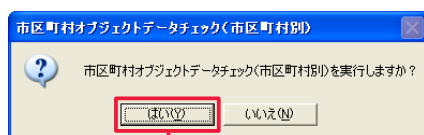
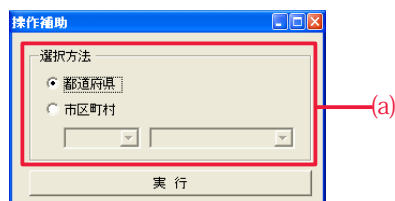
① 市区町村

市区町村オブジェクトのデータチェックをします。

Menu [騒音推計] - [1. データチェック] - [(1) オブジェクトデータ] - [①市区町村]

➡ [操作補助メニュー] が表示されます。

(a) [選択方法] を選択します。



point

選択方法の指定による操作

都道府県： [都道府県] を選択し、[実行] をクリックします。

市区町村： [市区町村] を選択し、市区町村コードまたは市区町村名を入力し、[実行] をクリックします。

路線： [路線] を選択し、道路平面線形オブジェクトをクリックします。

評価区間： [評価区間] を選択し、評価区間オブジェクトをクリックします。

地点： [地点] を選択し、騒音測定地点オブジェクトをクリックします。

➡ [市区町村オブジェクトデータチェック] 確認画面が表示されます。

(b) [はい] をクリックします。

➡ データチェック処理が行われ、[市区町村オブジェクトデータチェック] 完了画面が表示されます。

備考

処理中に [キャンセル] をクリックすると処理をキャンセルすることができます。

(c) [OK] をクリックします。

➡ 終了すると、別ウインドウにて

[shichokadata_lst.txt] と [shichokadata_err.txt] が表示されます。

修正

エラーメッセージはデータチェック後、テキストファイル形式で保存されます。

保存場所…作業用フォルダ¥Check

エラーの修正を行う際、 [V エラーメッセージ] の一覧とあわせて参照して下さい。

備考

オブジェクトデータのチェックは、更新したデータは実施してください。

参考・例

データチェックの手順は全て同じ手順です。[①市区町村] の手順を参考に他のデータチェックを行ってください。

(2) データ項目

各種帳票ごとに無効なデータの有無などをチェックします。

データチェック後、エラーがある場合は、各種エラーメッセージをもとに各データの修正をします。

データ修正後、再度データチェックをしエラーが無ければデータチェック完了です。

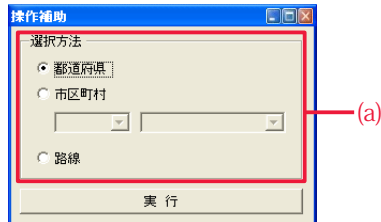
① 沿道情報データ整理表

沿道情報データのデータチェックをします。

Menu [騒音推計] - [1. データチェック] - [(2)データ項目] - [①沿道情報データ整理表]

→ [操作補助メニュー] が表示されます。

(a) [選択方法] を選択します。



point

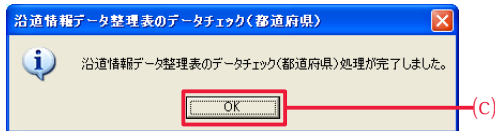
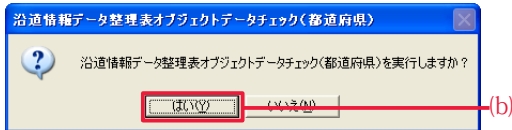
選択方法の指定による操作

都道府県： [都道府県] を選択し、[実行] をクリックします。
 市区町村： [市区町村] を選択し、市区町村コードまたは市区町村名を入力し、[実行] をクリックします。
 路線： [路線] を選択し、道路平面線形オブジェクトをクリックします。

確認画面が表示されます。

(b) [はい] をクリックします。

→ データチェック処理が行われ、[沿道データ整理表オブジェクトデータチェック] 完了画面が表示されます。

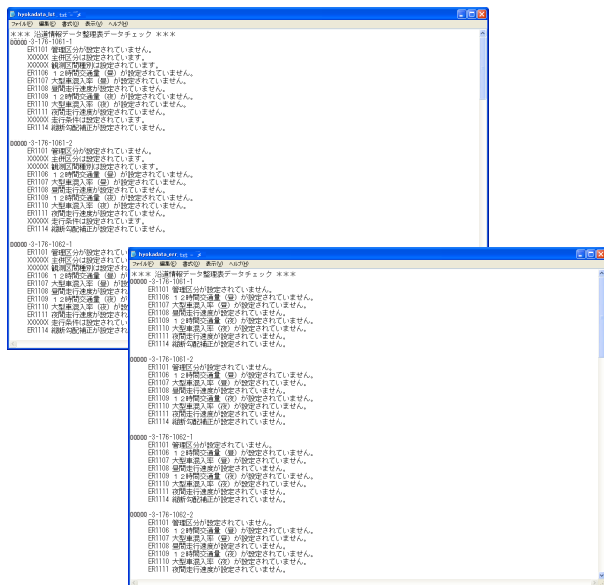


備考

処理中に [キャンセル] をクリックすると処理をキャンセルすることができます。

(c) [OK] をクリックします。

→ 終了すると、別ウィンドウにて [dhyokadata.lst] と [dhyokadata_err.txt] が表示されます。



参考・例

データチェックの手順は全て同じ手順です。[①沿道情報データ整理表]の手順を参考に他のデータチェックを行ってください。

備考

データ項目のチェックは、更新したデータは実施してください。

修正

エラーメッセージはデータチェック後、テキストファイル形式で保存されます。

保存場所…作業用フォルダ¥Check

エラーの修正を行う際、[V エラーメッセージ] の一覧とあわせて参照して下さい。

修正

「ERROR 縦断勾配補正が設定されていません。」は、縦断勾配が"0"で登録されているため、データを確認後に問題なければ無視してください。

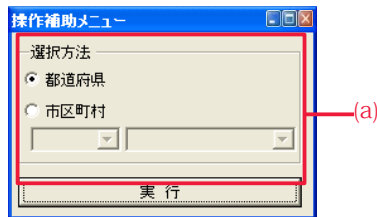
「ERROR 定点・準定点が設定されていません。」は、測定地点データに不整合が起こっているため、騒音測定地点、騒音測定データを再設定してください。

(3) 最適化

項目ごとに (1)、(2) で見つかった不整合データを削除します。

① 市区町村

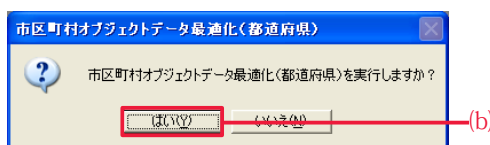
市区町村オブジェクトデータの最適化をします。



Menu [騒音推計] - [1. データチェック] - [(3) 最適化] - [①市区町村]

⇒ [操作補助メニュー] が表示されます。

(a) [選択方法] を選択します。



point

選択方法の指定による操作

都道府県： [都道府県] を選択し、[実行] をクリックします。

市区町村： [市区町村] を選択し、市区町村コードまたは市区町村名を入力し、[実行] をクリックします。

路線： [路線] を選択し、道路平面線形オブジェクトをクリックします。

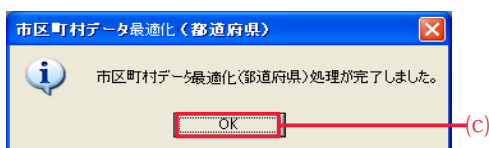
評価区間： [評価区間] を選択し、評価区間オブジェクトをクリックします。

⇒ [市区町村オブジェクトデータ最適化] 確認画面が表示されます。

(b) [はい] をクリックします。

⇒ 最適化処理が行われ、[市区町村データ最適化] 完了画面が表示されます。

(c) [OK] をクリックします。



参考・例

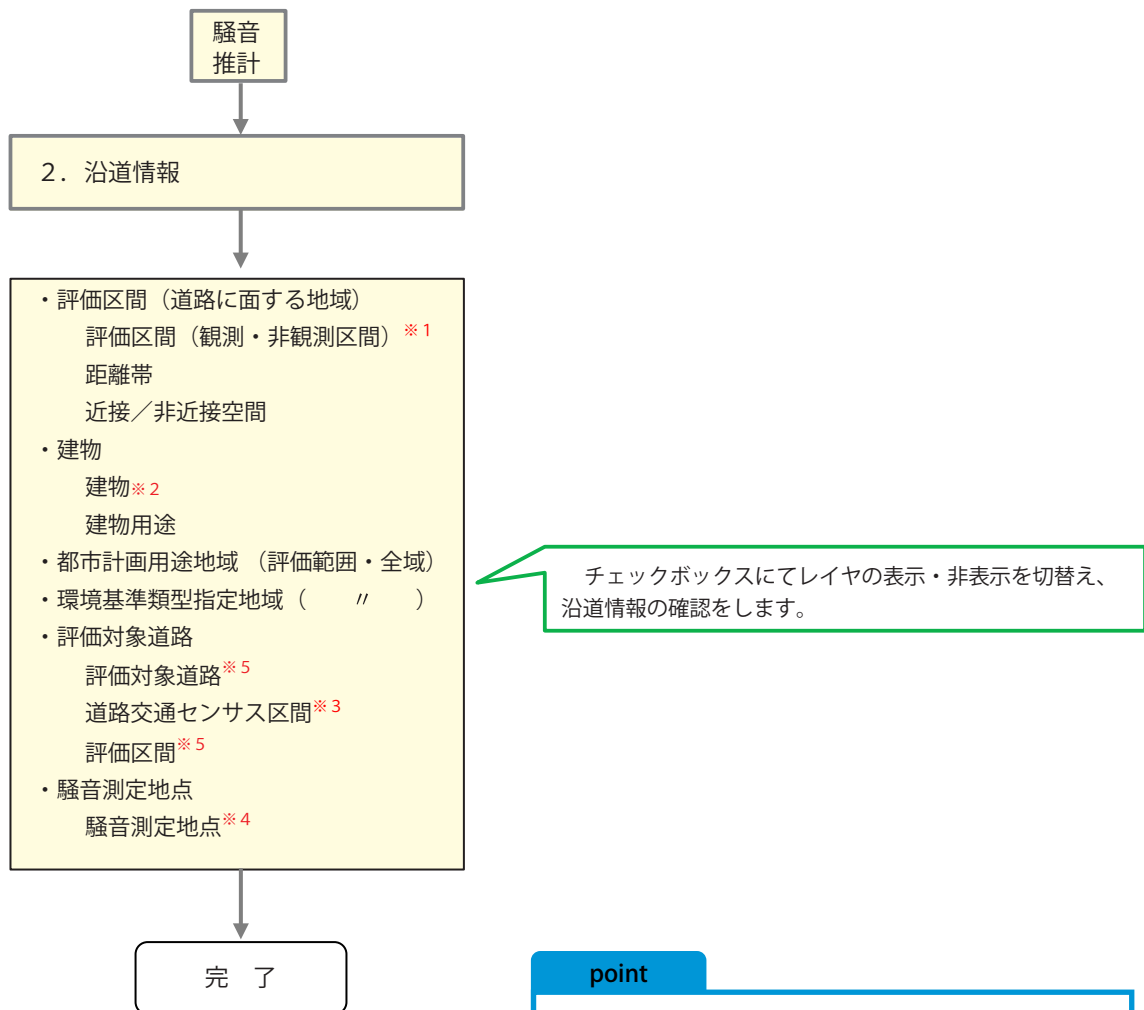
最適化の手順は全て同じ手順です。[①市区町村] の手順を参考に他の最適化を行ってください。

6-2 沿道情報

1 概要

[要素設定]にて設定した情報を元に作成したレイヤをメインウィンドウに表示します。各項目を切替えることで単独、または複数のレイヤを重ねて表示することができます。また、画面上で表示されるオブジェクトを選択すると該当する情報を表示します。

2 作業フロー



point

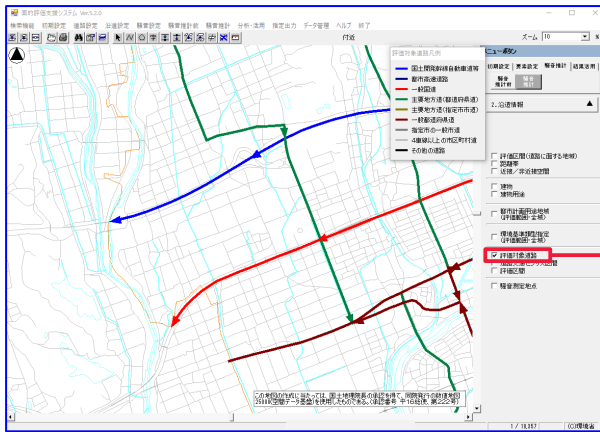
オブジェクトを選択すると表示されるデータ

- ※1 自動車騒音常時監視結果報告
- ※2 路線別建物状況整理表
- ※3 道路交通センサスデータ整理表
- ※4 騒音測定データ整理表
- ※5 標準断面パーツパラメータ

備考

重ねて表示できるレイヤとできないレイヤがあります。

3 手順



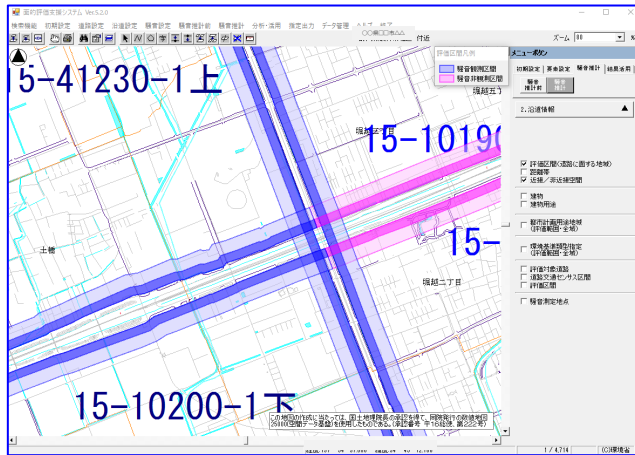
Menu [騒音推計] - [2. 沿道情報]

(a) チェックボックスをクリックします。

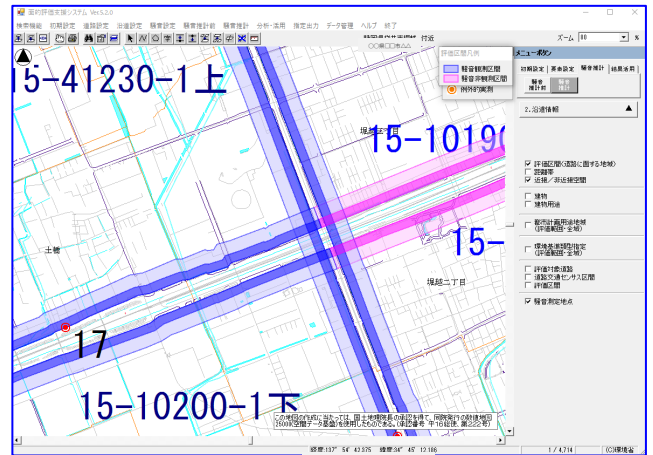
→ チェックしたレイヤが表示されます。(例 評価対象道路)

沿道情報の表示例

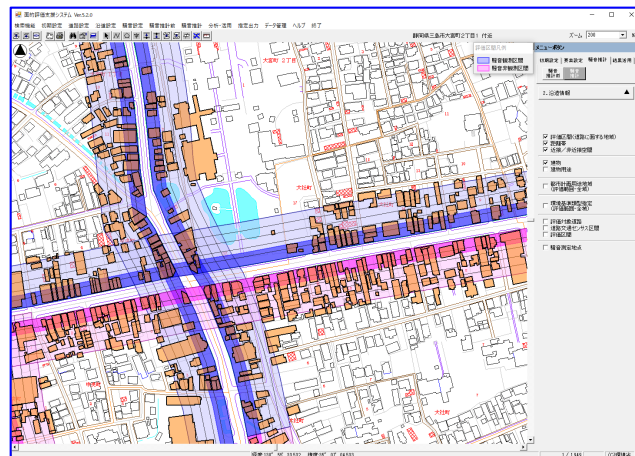
・評価区間（道路に面する地域）の表示例（評価区間（観測・非観測区間）、近接/非近接空間）



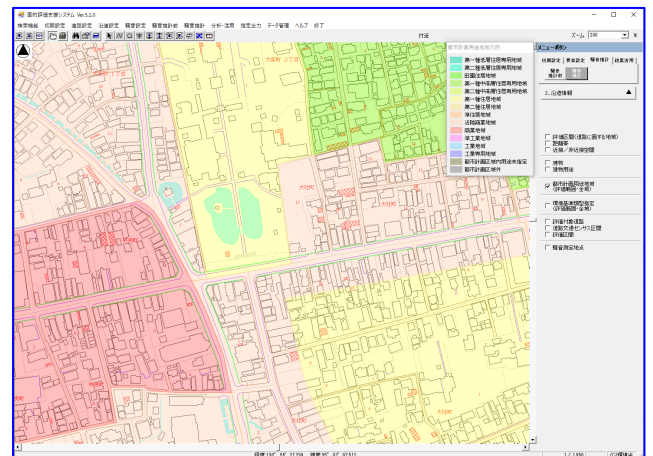
・騒音測定地点の表示例（評価区間（観測・非観測区間）定点・準定点・例外的実測）



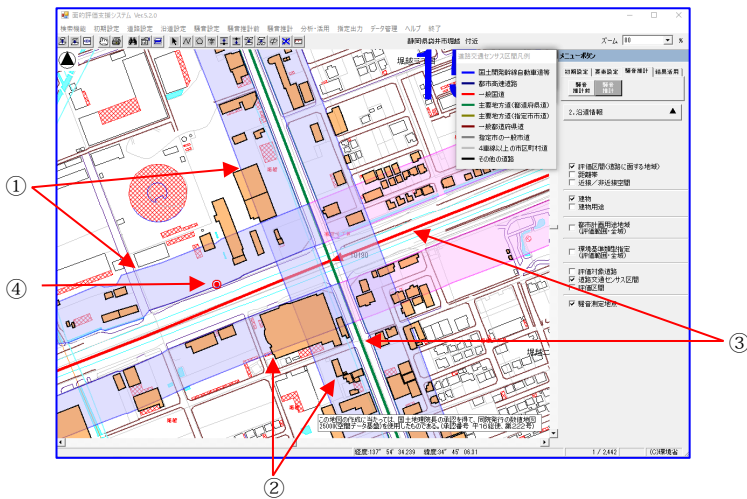
・建物の表示例（評価区間（観測・非観測区間）、距離帯、近接/非近接空間・建物（全体））



・都市計画用途地域の表示例（都市計画用途地域（評価範囲・全体））



□ 各種整理表の表示



① 沿道情報データ整理表・自動車騒音常時監視結果報告

評価区間オブジェクトを選択すると、自動車騒音常時監視結果報告（様式1-1 環境基準達成状況の評価結果詳細）が表示されます。

沿道情報データ整理表										
道路種別コード	XXX	高規格幹線道路	道路種別	4	主要地方道(普通国道)					
道路番号	2002	評価区間番号	0000-00000000							
主要区分	0	主要道路	車線数	上り	2	下り	2			
騒音区間種別	0	騒音区間	評価の高規格	2000						
騒音発生強度の把握の方法	0	沿道騒音レベルの算出による方法								
交通量情報	道路交通レベル		平日自動車通車3時間交通量	11800	台	指定最高速度	50.0	km/h		
			平日12時間大型車進入量	121	台					
	※交通量測定結果1		騒音測定区間番号	自動車騒音3時間交通量	65					
			平均走行速度	km/h	12時間大型車進入量	65				
※交通量測定結果2		平均走行速度	km/h	12時間大型車進入量	65					
※交通量の測定結果より算出された										
走行条件	1	非定常	騒音区間補正	上り	0.0	下り	0.0	下り	0.0	
基準の騒音レベル	種別値	上り(昼)	71.7	dB	上り(夜)	68.7	dB	下り(昼)	71.0	dB
	実測値	上り(昼)	71.0	dB	上り(夜)	68.0	dB	下り(昼)	71.0	dB
	指定値	上り(昼)	72.1	dB	上り(夜)	69.1	dB	下り(昼)	71.1	dB
特殊騒音レベル	上り	設定	1	昼	45.0	dB	夜	38.0	dB	
	下り	設定	1	昼	45.0	dB	夜	38.0	dB	
騒音発生区間の有無										
自動騒音常時監視結果報告表										

自動車騒音常時監視結果報告(様式1-1 環境基準達成状況の評価結果詳細)									
道路種別コード	XXX	高規格幹線道路	道路番号	2002	一連番号	000	評価区間番号	00000	
騒音区間種別	1	騒音区間	評価の高規格	2000					
騒音発生強度の把握の方法	1	沿道騒音レベルの算出による方法							
評価対象区間①									
道路名	〇〇橋								
道路種別	1	干渉	道路幅員(m)	0	橋脚数	環境基準到達	0	沿道騒音レベル	0
セクタ番号	指定	2000	高規格幹線道路	3000	道路番号	00000			
評価対象区間②									
道路名									
道路種別									
セクタ番号									
車線数(上り)	4	評価区間の長さ	0.7	km	区間数	4	区間長さ	15	km
評価区間の名称(住所)									
〇〇橋〇〇〇〇〇〇〇〇									
道路区間種別	騒音測定区間番号	3000	評価区間番号	00000	測定方法				
騒音測定区間	毎測騒音レベル	昼間	71.1	dB	夜間	68.1	dB		
特殊騒音レベル	設定	1	昼間	45.0	dB				
騒音評価結果									
評価区間種別	外周(昼間)平均	昼間(夜間)基準値以下	昼間(夜間)基準値以下	夜間(昼間)基準値以下	昼間(夜間)基準値超過				
区間数	45	45	0	0	0				
区間長さ	170	20	0	0	150				
区間数	45	26	0	0	19				
区間長さ	424	26	0	0	398				
区間数	0	0	0	0	0				
区間長さ	0	0	0	0	0				
自動騒音常時監視結果報告表									

② 建物

建物オブジェクトを選択すると、路線別建物状況整理表が表示されます。

・独立住宅

市区町村コード		000	評価区間番号		2015-00000-3	上下区分		1	下9
町丁目コード	建物番号	137	距離帯	40~50m	立地密度(%)	0.0	K		
距離帯	5	20~30m	建物構造	9	未調査	地上階数	2		
建物用途	1	住居(独立系)	既存の防音構造等						
用途地域	5	第一種住居地域	環境基準類型	3	B類型				
近接空間判定コード	0	非近接空間	近接空間住居戸数	0	非近接空間住居戸数	1			
住居等戸数	1	建物面積	124.1 m ²	騒音レベル	昼間: 47 dB	夜間: 40 dB			
評価区間番号		上下区分	建物番号	距離帯					
交差道路における建物番号1									
交差道路における建物番号2									

・集合住宅

建物が複数の距離帯に属している場合、距離帯別のタブ [0~10m]・[10m~20m]・[20m~30m]・[30m~40m]・[40m~50m] を切替えて該当する距離帯別の建物情報を表示します。

建物が2階以上の場合、[上階数へ]・[下階数へ] ボタンで階数別の情報を切り替えて表示します。

同じ階に複数の住居がある場合、[次へ]・[前へ] ボタンで戸別の情報を切り替えて表示します。

市区町村コード		000	評価区間番号		2015-00000-3	上下区分		0	上9
町丁目コード	建物番号	114	距離帯	30~40m	立地密度(%)	0.0	K		
距離帯	4	20~30m	建物構造	9	未調査	地上階数	2		
建物用途	2	住居(集合)	既存の防音構造等						
用途地域	5	第一種住居地域	環境基準類型	3	B類型				
近接空間判定コード	0	非近接空間	近接空間住居戸数	0	非近接空間住居戸数	6			
住居等戸数	1	建物面積	169.9 m ²	騒音レベル	昼間: 48 dB	夜間: 40 dB			
距離帯別									
近接空間住居戸数		0	非近接空間住居戸数		0				
1 階									
距離帯	4	30~40m	近接空間判定コード	0	非近接空間				
用途地域	5	第一種住居地域	環境基準類型	3	B類型				
住居等戸数	0	建物面積	騒音レベル	昼間: 48 dB	夜間: 40 dB				

・交差道路

評価区間が交差する箇所の建物のデータは [交差道路1]・[交差道路2] ボタンで切替えて該当する2箇所の情報を表示します。

市区町村コード		000	評価区間番号		2015-00000-3	上下区分		1	下9
町丁目コード	建物番号	141	距離帯	20~30m	立地密度(%)	0.0	K		
距離帯	3	0~10m	建物構造	9	未調査	地上階数	2		
建物用途	1	住居(独立系)	既存の防音構造等						
用途地域	5	第一種住居地域	環境基準類型	3	B類型				
近接空間判定コード	0	非近接空間	近接空間住居戸数	0	非近接空間住居戸数	1			
住居等戸数	1	建物面積	103.9 m ²	騒音レベル	昼間: 65 dB	夜間: 59 dB			
評価区間番号		上下区分	建物番号	距離帯					
交差道路における建物番号1	22216 40980 5	0	上9	13	1	0~10m			
交差道路における建物番号2									

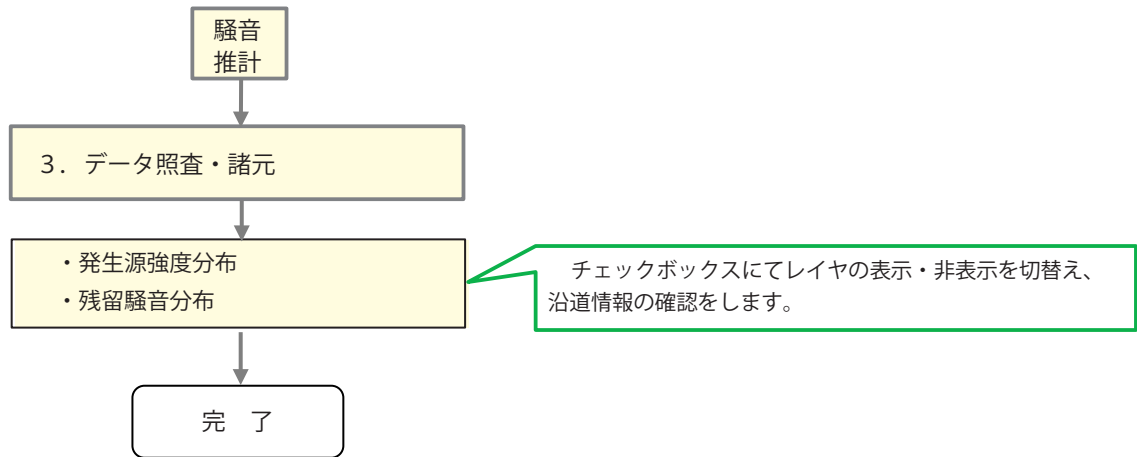
市区町村コード		000	評価区間番号		2015-00000-3	上下区分		0	上9
町丁目コード	建物番号	13	距離帯	0~10m	立地密度(%)	0.0	K		
距離帯	1	0~10m	建物構造	9	未調査	地上階数	2		
建物用途	1	住居(独立系)	既存の防音構造等						
用途地域	5	第一種住居地域	環境基準類型	3	B類型				
近接空間判定コード	1	近接空間	近接空間住居戸数	1	非近接空間住居戸数	0			
住居等戸数	1	建物面積	103.9 m ²	騒音レベル	昼間: 65 dB	夜間: 59 dB			
評価区間番号		上下区分	建物番号	距離帯					
交差道路における建物番号1	22216 62888 3	1	下9	141	3	20~30m			
交差道路における建物番号2									

6-3 データ照査・諸元

1 概要

騒音レベルの分布を表示し沿道状況を確認します。

2 作業フロー

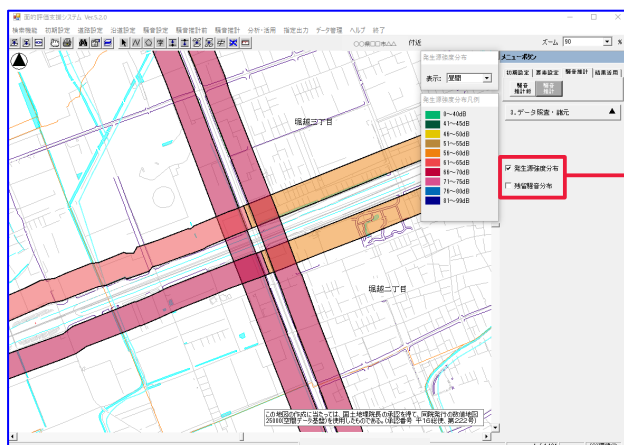


備考

重ねて表示できるレイヤとできないレイヤがあります。

3 手順

・発生源強度分布



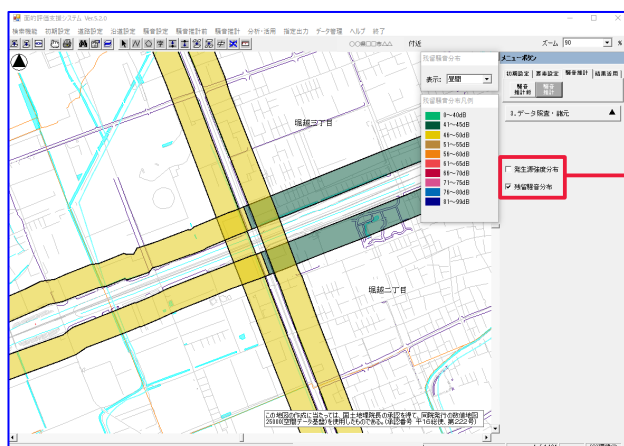
Menu [騒音推計] - [3. データ照査・諸元]

(a) チェックボックスをクリックします。

➡ チェックした項目が表示されます。

(a)

・残留騒音分布



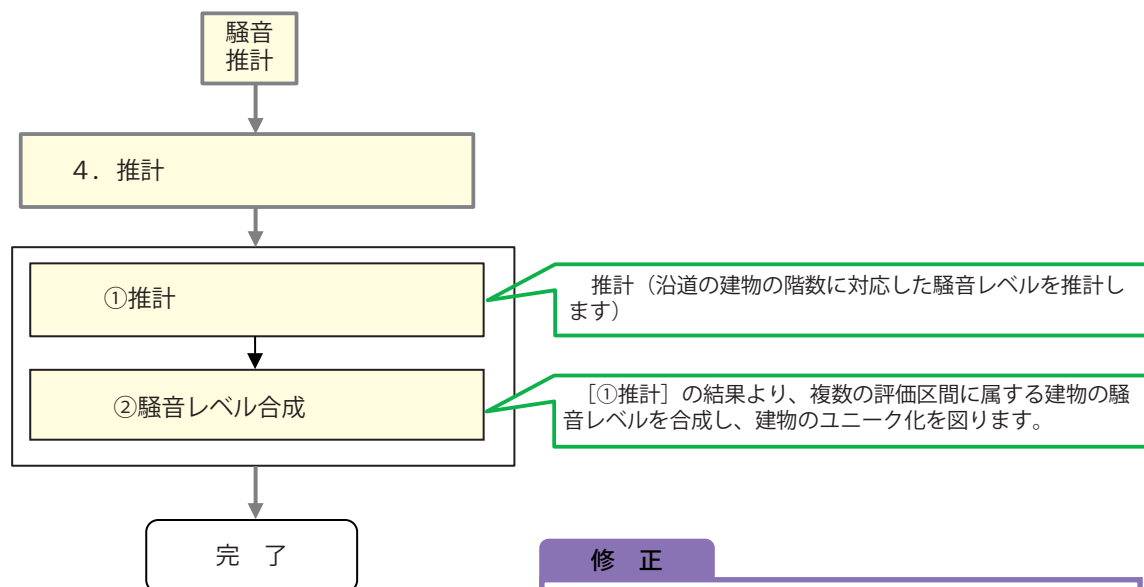
(a)

6-4 推計

1 概要

初期設定（[IV-1-15 背後地騒音推計式]）で設定した背後地騒音推計式に基づいて建物ごとの距離帯別騒音レベルの推計をします。

2 作業フロー



修正

推計処理でエラーが出る場合は、関係データやオブジェクトの見直しを行ってください。それでも解決しない場合は、環境省へデータを送付してください。

備考

センサス交通量は昼 12 時間（7～19 時）/夜 12 時間（19～7 時）、環境基準は昼（6～22 時）/夜（22～6 時）ですが、当システムはセンサス交通量を次のように分けています。

- ①昼間交通量 = 昼間交通量 + (夜間交通量 × 1 / 3)
- ②夜間交通量 = 夜間交通量 × 2 / 3

備考

本システムは、沿道（民地側）の起伏は推計結果には影響しません。（建物の地上高さは、騒音基準位置の基準点高さと同じ値が設定されます）。

3 手順

(1) 推計

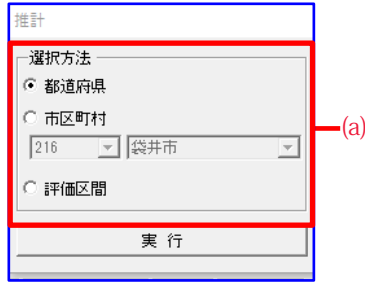
①推計

距離帯別騒音レベルを推計し、路線別建物状況整理表に登録します。

Menu [騒音推計] - [4. 推計の実施] - [①推計の実施]

→ [操作補助メニュー] が表示されます。

(a) [選択方法] を選択します。

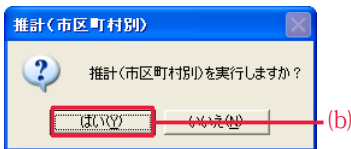


point

選択方法の指定による操作
 都道府県： [都道府県] を選択し、[実行] をクリックします。
 市区町村： [市区町村] を選択し、市区町村コードまたは市区町村名を入力し、[実行] をクリックします。
 路線： [路線] を選択し、道路平面線形オブジェクトをクリックします。
 評価区間： [評価区間] を選択し、評価区間オブジェクトをクリックします。（上り側・下り側別）

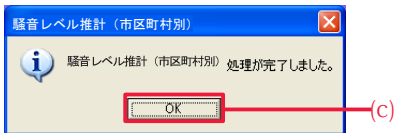
→ [推計] 確認画面が表示されます。

(b) [はい] をクリックします。



→推計処理が行われ、推計結果が路線別建物状況整理表に登録されます。[騒音レベル推計] 画面が表示されます。

(c) [OK] をクリックします。

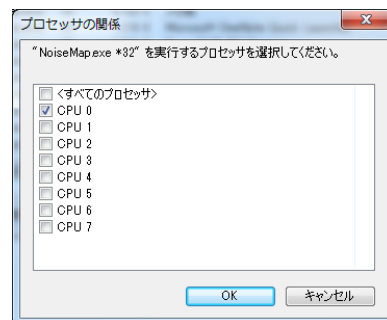
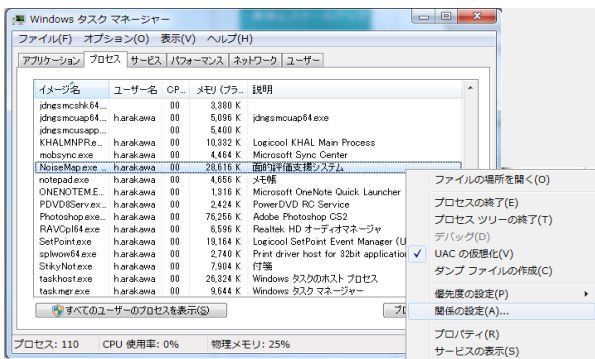


注意

- 推計中に「データベースに接続できません。」とエラーが出る場合は、使用しているパソコンのCPU数と建物数の関係から発生していると考えられますので、以下の作業を行ってください。
 - 評価区間単位で推計して見て下さい。
 - それでもダメな場合は、以下の手順を参考に、パソコンのCPUコア数を1つにして実施して下さい。

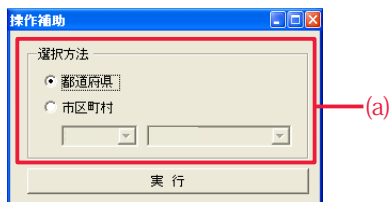
【CPUの使用コア数の変更方法】

- ①「Ctrl + Alt + Del」キーを押し、タスクマネージャーを開く。
- ②リストの中から、「面的評価支援システム」を選択し、右クリックし、表示されたリストから「関係の設定」を選択する。
- ③「プロセッサの関係」が開きますので、実行するプロセッサ1つにチェックを入れて下さい。



② 騒音レベル合成

複数の評価区間に属する建物について、推計で算出された推計結果を合成し、合成後の騒音レベルを路線別建物状況整理表に登録します。



Menu [騒音推計] - [4. 推計の実施] - [②騒音レベル合成]

➡ [操作補助メニュー] が表示されます。

(a) [選択方法] を選択します。

point

選択方法の指定による操作

都道府県：[都道府県]を選択し、[実行]をクリックします。

市区町村：[市区町村]を選択し、市区町村コードまたは市区町村名を入力し、[実行]をクリックします。

➡ 確認画面が表示されます。

(b) [はい] をクリックします。

➡ [交差道路確認] 画面が表示されます。

(c) [はい] をクリックします。

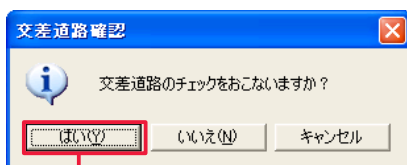
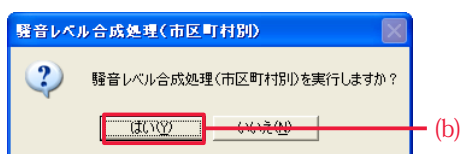
・ [はい]：交差道路の確認処理後、騒音レベルの合成処理が行われます。

・ [いいえ]：交差道路確認処理をせず、騒音レベルの合成処理が行われます。

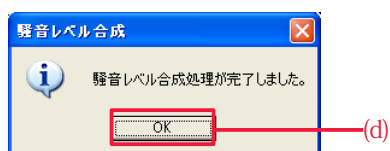
・ [キャンセル]：騒音レベルの合成処理を中止します。

➡ 交差道路の確認処理後、騒音レベルの合成処理が行われます。合成結果が路線別建物状況整理表に登録されます。[騒音レベル合成] 完了画面が表示されます。

(d) [OK] をクリックします。



(c)



(d)

6-5 常時監視フォーマット作成

1 概要

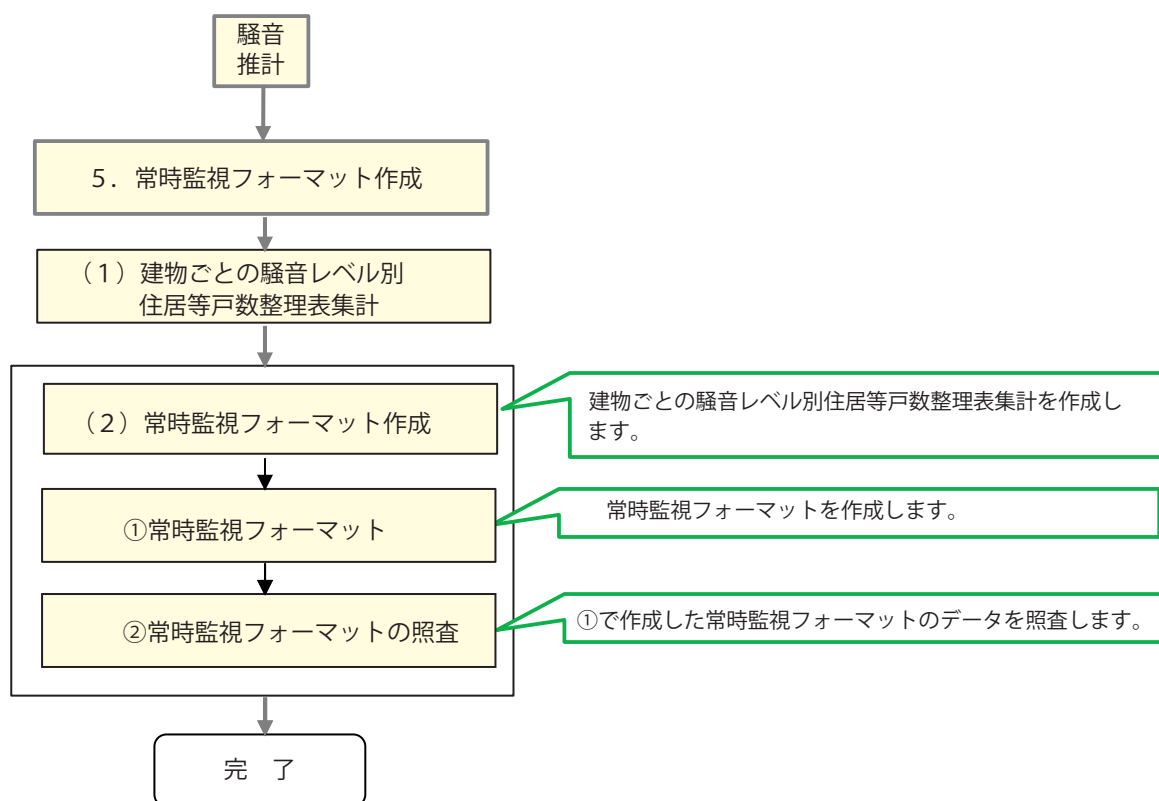
建物ごとの騒音レベル別住居等戸数整理表^{*1}を集計します。

また、常時監視フォーマット^{*2}を作成し、データの照査をします。

備考

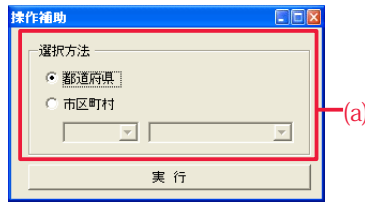
- ※1 評価マニュアルII. 地域評価編（道路に面する地域）
（平成12年4月環境庁）表2-11
- ※2 騒音規制法に基づく、自動車騒音常時監視結果報告要領の様式

2 作業フロー



③ 手順

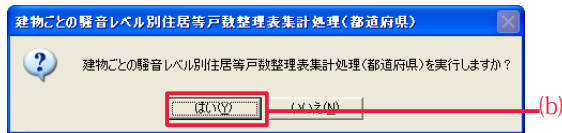
(1) 建物ごとの騒音レベル別住居等戸数整理表集計



[Menu] [騒音推計] - [5. 常時監視フォーマット作成]
- [(1) 建物ごとの騒音レベル別住居等戸数整理表集計]

→ [操作補助メニュー] が表示されます。

(a) [選択方法] を選択します。



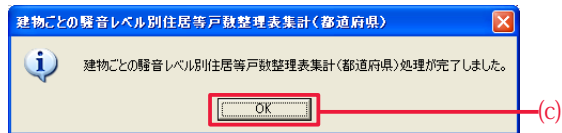
point
選択方法の指定による操作
都道府県：[都道府県] を選択し、[実行] をクリックします。
市区町村：[市区町村] を選択し、市区町村コードまたは市区町村名を入力し、[実行] をクリックします。

→ [建物ごとの騒音レベル別住居等戸数整理表集計処理] 画面が表示されます。

(b) [はい] をクリックします。

→ 集計処理が行われ、路線別建物状況整理表が作成されます。[建物ごとの騒音レベル別住居等戸数整理表集計] 完了画面が表示されます。

(c) [OK] をクリックします。



(2) 常時監視フォーマット作成

注意

様式 1-2 複数評価区間で重複計上の戸数再掲（評価重複再掲）について、3 重複以上の街区の戸数の集計は、正常に計算されません。

参考・例

[(2) 常時監視フォーマット作成] は (1) と同じ手順です。
(1) の手順を参考に作成してください。
また、[②常時監視フォーマットの照査] については [IV-6-1 データチェック] を参照してください。

修正

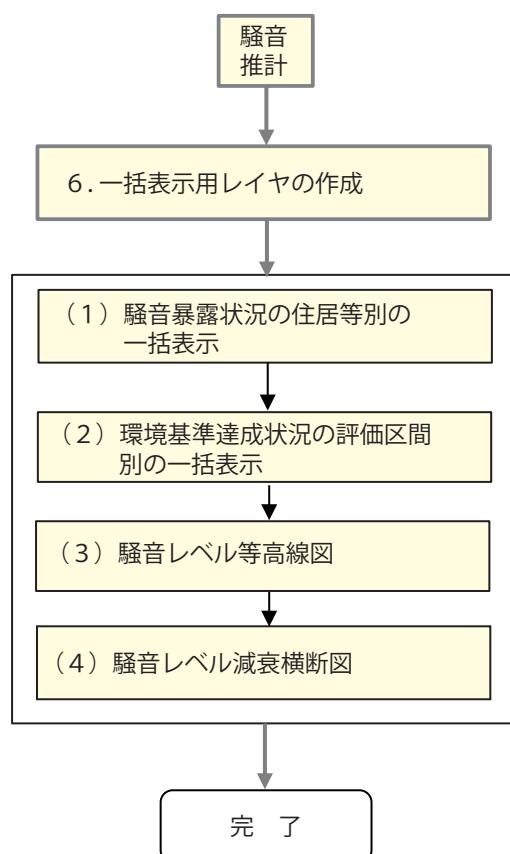
- ① 常時監視フォーマット作成を行うとエラーが発生する場合、一部の騒音基準位置に測定データが選択されていない可能性があります。全ての騒音基準位置に測定データを選択してください。または、基準年度が正しく設定されていないか、沿道情報データ整理表の道路種別が正しく設定されていないため、基準年度と沿道情報データ整理表の道路種別をご確認ください。
- ② 常時監視フォーマットの照査エラーで下記のようなエラーが出る場合は、関係データの確認をして下さい。また、基準年度の変更に伴い、沿道データの変更がされていない可能性があります。建物属性把握を実行してください。
 - ・騒音測定箇所番号が設定されていません（道路近傍騒音）
 - ・推計方法が設定されていません（道路近傍騒音）
 - ・等価騒音レベル（昼間）が設定されていません（道路近傍騒音）
 - ・等価騒音レベル（夜間）が設定されていません（道路近傍騒音）
 - ・昼間が設定されていません（残留騒音レベル）
 - ・夜間が設定されていません（残留騒音レベル）
- ③ 常時監視フォーマットの照査エラー（交通量関係）で、「騒音測定反対側二輪が設定されていません。」等は、システムではエラーが示す測定地点の交通量が"0"で入力されていても、0なのか未入力なのか判定できないため確認の意味を含めてエラー表示としています。入力値が"0"で問題なければ、エラー内容は無視してください。

6-6 一括表示用レイヤの作成

1 概要

推計結果を基に騒音暴露状況・環境基準達成状況・騒音レベル等高線図・減衰横断図などの一括表示用レイヤを作成します。

2 作業フロー



備考

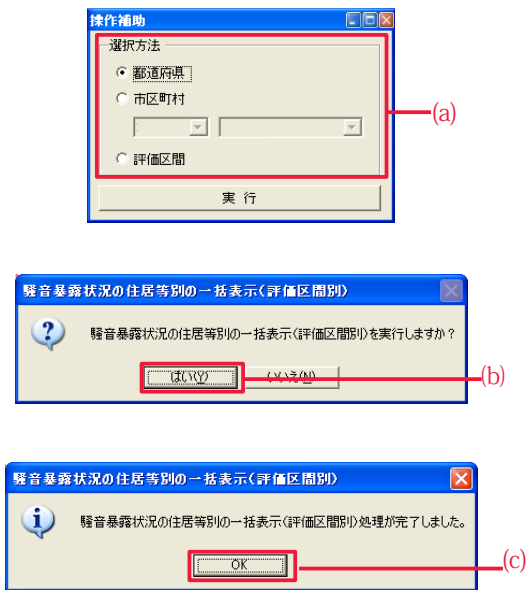
それぞれ一括表示用レイヤを作成します。作成手順は全て同一です。

修正

「騒音暴露状況の住居等別の一括表示」の作業でエラーが出る場合、データベースにおいて、リンクコードの不整合が発生している可能性があります。環境省へお問い合わせ下さい。

3 手順

(1) 騒音暴露状況の住居等別の一括表示



Menu [騒音推計] - [6.一括表示用レイヤの作成]
- [(1) 騒音暴露状況の住居等別の一括表示]
→ [操作補助メニュー] が表示されます。

(a) [選択方法] を選択します。

point

選択方法の指定による操作

都道府県： [都道府県] を選択し、[実行] をクリックします。

市区町村： [市区町村] を選択し、市区町村コードまたは市区町村名を入力し、[実行] をクリックします。

評価区間： [評価区間] を選択し、評価区間オブジェクトをクリックします。(上り側・下り側別)

→ [騒音暴露状況の住居等別の一括表示] 確認画面が表示されます。

(b) [はい] をクリックします。

→ 一括表示用レイヤが作成されます。[騒音暴露状況の住居等別の一括表示] 完了画面が表示されます。

(c) [OK] をクリックします。

→ 一括表示用レイヤが作成されます。

参考・例

[6.一括表示用レイヤの作成] は全て同じ手順です。[(1) 騒音暴露状況の住居等別の一括表示] の作成手順を参考に他の一括表示用レイヤを作成してください。

備考

作成した一括表示用レイヤは、[IV-7. 分析・活用] で確認することができます。

修正

いくつかの建物において評価結果(推定値)が2個表示されてしまう場合、「騒音暴露状況の住居等別の一括表示」において「都道府県」をチェックし、再度作成を行ってください。



7. 分析・活用

騒音推計結果を基に騒音暴露状況・環境基準達成状況を表示集計します。また騒音レベル等高線図・減衰横断面図を表示し、分析をします。その集計結果を一覧表示し印刷またはエクスポートします。

参考・例

システムには建物の騒音暴露状況、評価区間ごとの達成状況、騒音レベル等高線、騒音レベル減衰横断面図を表示する機能があります。その機能を活用して、基準点騒音レベル値や建物の立地状況から推察して評価結果を検証ください。

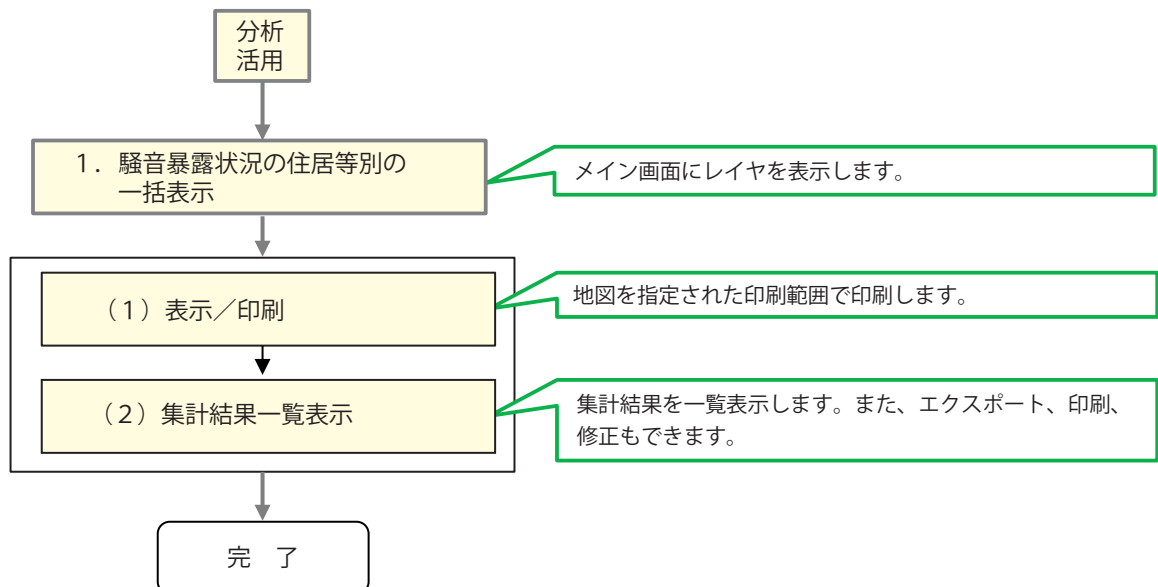
7-1 騒音暴露状況の住居等別の一括表示

1 概要

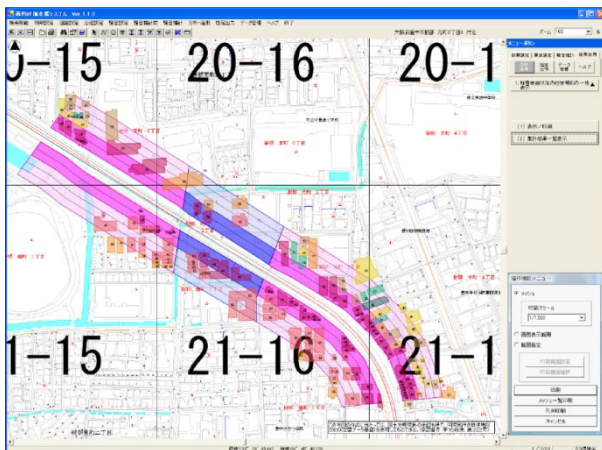
昼間・夜間別の騒音レベルレンジ別に、個別の住居等の騒音暴露状況のレイヤ（[IV-6-6 一括表示用レイヤ作成]にて作成）を表示・印刷・エクスポートします。

レベルレンジは「初期設定」にて最大11段階で任意に設定できます。

2 作業フロー



3 手順



Menu [分析活用] - [1. 騒音暴露状況の住居等別の一括表示]

➡ レイヤが表示されます。

備考

騒音レベルの色分けは、「初期設定」 - [18. 建物状況]で設定した色です。

参考・例

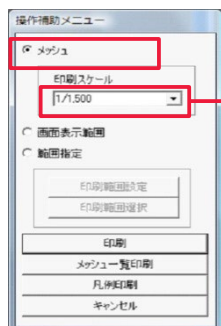
- 推計結果が騒音測定の実測値を超える場合
 - 道路に遮音壁がある場合や平面構造以外の場合、実測点では音源から回折された音が伝播され、音源と建物の位置の関係によっては音が建物へ回折無しに伝播する等の場合があります。従って、音の回折効果によっては建物の騒音レベルが実測値を超えることがあります。

(1) 表示／印刷

昼間・夜間別の騒音レベルレンジ別に、個別の住居等の騒音暴露状況のレイヤを表示・印刷します。

印刷は、[メッシュ印刷]、[画面表示範囲印刷]、[範囲指定印刷]の中から選択します。

□ メッシュ印刷



Menu [分析活用] - [1. 騒音暴露状況の住居等別の一括表示] - [(1) 表示／印刷]

→ [操作補助メニュー] が表示されます。

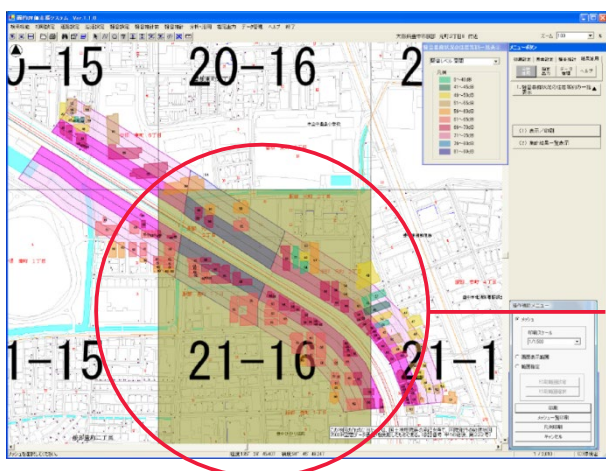
→ [メッシュ] を選択します。

→ メッシュレイヤが表示されます。

(a) 印刷スケールを選択します。

備考

メッシュの縮尺は、[1/500,000]・[1/50,000]・[1/25,000]・[1/12,500]・[1/5,000]・[1/1,500]から選択できます。

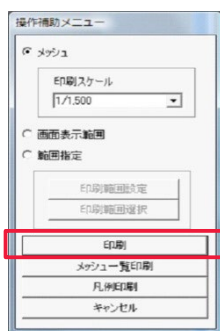


(b) 印刷する範囲のメッシュを選択します。

→ 選択したメッシュの色が変わります。

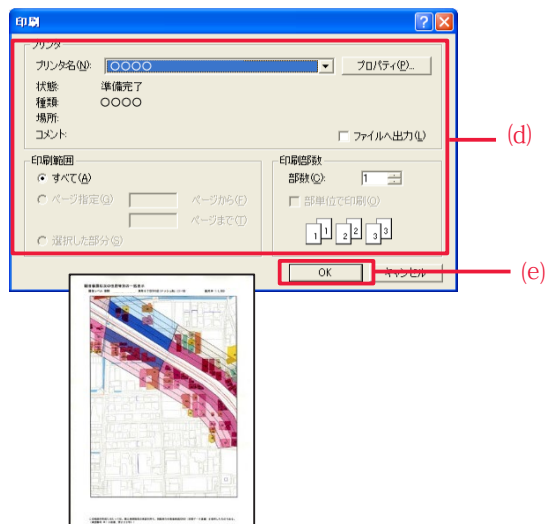
備考

選択した順番に印刷されます。



(c) **印刷** をクリックします。

→ [印刷] 画面が表示されます。

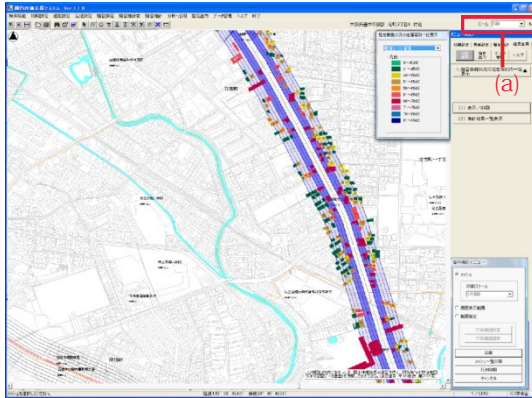
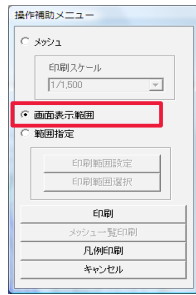


(d) 項目を設定します。

(e) **OK** をクリックします。

→ 図が印刷されます。

□ 画面表示範囲印刷



Menu [分析活用] - [1. 騒音暴露状況の住居等別の一括表示] - [(1) 表示/印刷]

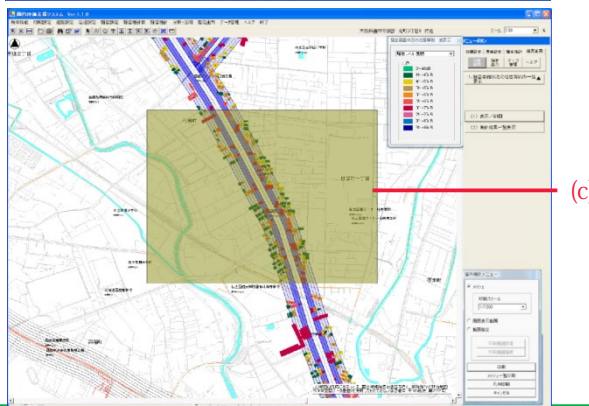
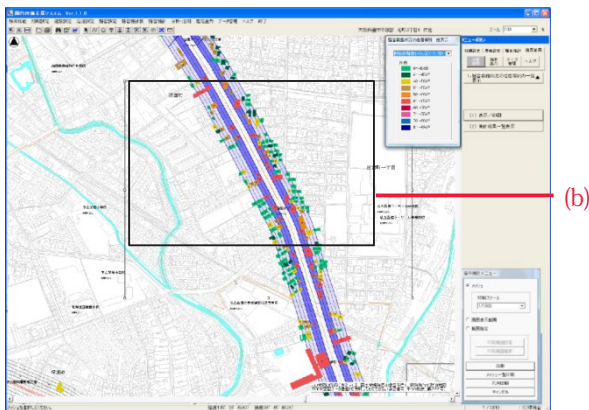
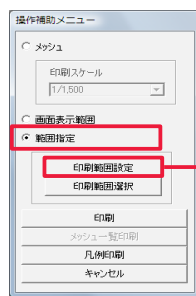
- ➔ [操作補助メニュー] が表示されます。
- ➔ [画面表示範囲] を選択します。

(a) メイン画面のズームで、印刷スケールを選択します。

参考・例

印刷の方法は、[メッシュ印刷] の(c)~(e)と同一です。

□ 範囲指定印刷



Menu [分析活用] - [1. 騒音暴露状況の住居等別の一括表示] - [(1) 表示/印刷]

- ➔ [操作補助メニュー] が表示されます。
- ➔ [範囲指定] を選択します。
- ➔ 印刷範囲レイヤが表示されます。

(a) [印刷範囲設定] を選択します。

- ➔ 印刷範囲作成モードに切り替わります。

(b) 印刷範囲の左上、右下を地図上でクリックし、印刷範囲を指定します。

- ➔ [印刷範囲] が作成されます。

(c) 作成した印刷範囲を選択します。

- ➔ 選択した印刷範囲の色が変わります。

備考

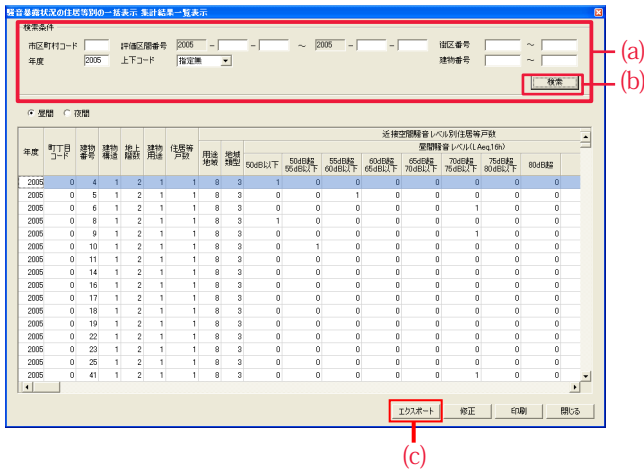
選択した順番に印刷されます。

参考・例

印刷の方法は、[メッシュ印刷] の(c)~(e)と同一です。

(2) 集計結果一覧表示

□ エクスポート



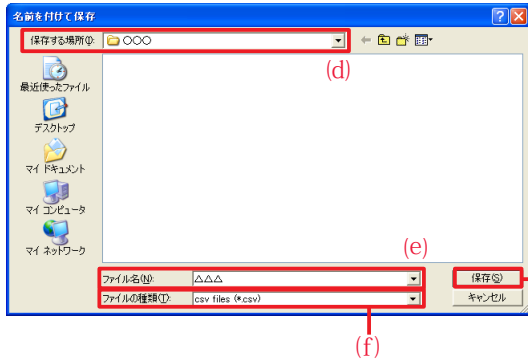
Menu [分析活用] - [1. 騒音暴露状況の住居等別の一括表示] - [(2) 集計結果一覧表示]

⇒ [騒音暴露状況の住居等別の一括表示 集計結果一覧表示] 画面が表示されます。

(a) エクスポートするデータの条件を入力します。

point

全件の集計結果を表示する場合は、条件入力せずに検索をクリックします。



(b) 検索 をクリックします。

⇒ 検索されたデータの一覧が表示されます。

(c) エクスポート をクリックします。

⇒ [名前を付けて保存] 画面が表示されます。

(d) 保存する場所を選択します。

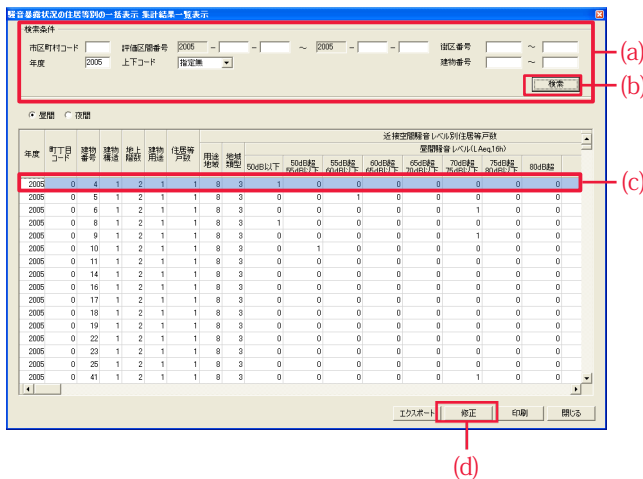
(e) ファイル名を入力します。

(f) ファイルの種類を選択します。

(g) 保存 をクリックします。

⇒ データがエクスポートされます。

□ 修正



Menu [分析活用] - [1. 騒音暴露状況の住居等別の一括表示] - [(2) 集計結果一覧表示]

⇒ [騒音暴露状況の住居等別の一括表示集計結果一覧表示] 画面が表示されます。

(a) 修正するデータの条件を入力します。

(b) 検索 をクリックします。

⇒ 検索されたデータの一覧が表示されます。

(c) 修正するデータを選択します。

(d) 修正 をクリックします。

⇒ [建物ごとの騒音レベル別住居等個数整理表 修正] 画面が表示されます。

(e) 該当する項目を修正します。

(f) 登録 をクリックします。

⇒ データが修正されます。

□ 印刷

検索

印刷

年度	町丁目	建物番号	用途	用途区分	用途種別	近接空間騒音レベル別住居等戸数										
						50dB以下	50dB超	55dB以下	55dB超	60dB以下	60dB超	70dB以下	70dB超	80dB以下	80dB超	
2005	0	4	1	2	1	1	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0
2005	0	5	1	2	1	1	8	3	0	0	1	0	0	0	0	0
2005	0	6	1	2	1	1	8	3	0	0	0	0	0	0	1	0
2005	0	8	1	2	1	1	8	3	1	0	0	0	0	0	0	0
2005	0	9	1	2	1	1	8	3	0	0	0	0	0	0	1	0
2005	0	10	1	2	1	1	8	3	0	0	1	0	0	0	0	0
2005	0	11	1	2	1	1	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0
2005	0	14	1	2	1	1	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0
2005	0	16	1	2	1	1	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0
2005	0	17	1	2	1	1	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0
2005	0	18	1	2	1	1	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0
2005	0	19	1	2	1	1	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0
2005	0	22	1	2	1	1	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0
2005	0	23	1	2	1	1	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0
2005	0	25	1	2	1	1	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0
2005	0	41	1	2	1	1	8	3	0	0	0	0	0	0	1	0

Menu [分析活用] - [1. 騒音暴露状況の住居等別の一括表示] - [(2) 集計結果一覧表示]

⇒ [騒音暴露状況の住居等別の一括表示 集計結果一覧表示] 画面が表示されます。

(a) 印刷するデータの条件を入力します。

point
全件の集計結果を表示する場合は、条件入力せず検索をクリックします。

(b) [検索] をクリックします。

⇒ 検索されたデータの一覧が表示されます。

(c) [印刷] をクリックします。

⇒ [印刷] 画面が表示されます。

プリンタ名: ○○○○

状態: 準備完了

種類: ○○○○

場所:

コメント:

印刷範囲: すべて(A) ページ指定(B) 選択した部分(C)

印刷部数: 部数(D): 1

部単位で印刷(E):

OK

(d) 項目を設定します。

(e) [OK] をクリックします。

⇒ 一覧が印刷されます。

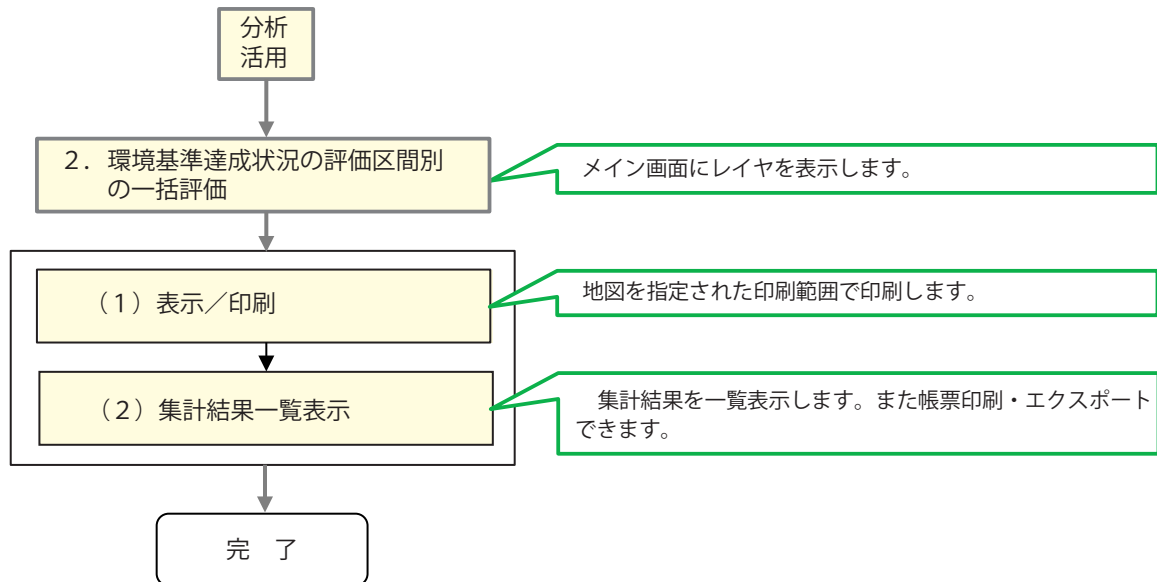
7-2 環境基準達成状況の評価区間別の一括評価

1 概要

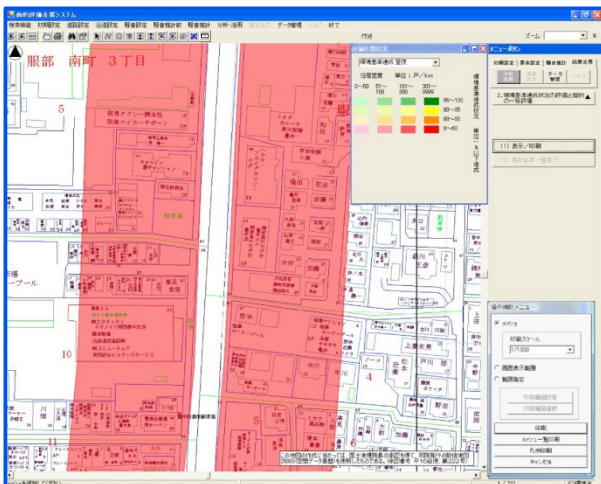
昼間・夜間別、騒音レベルレンジ別に、評価区間の環境基準達成状況のレイヤ（[IV-6-6 一括表示用レイヤ作成]にて作成）を表示・印刷・エクスポートします。

レベルレンジは[初期設定]にて最大 11 段階で任意に設定できます。

2 作業フロー



3 手順



Menu [分析活用] - [2. 環境基準達成状況の評価区間別の一括評価]

➔ レイヤが表示されます。

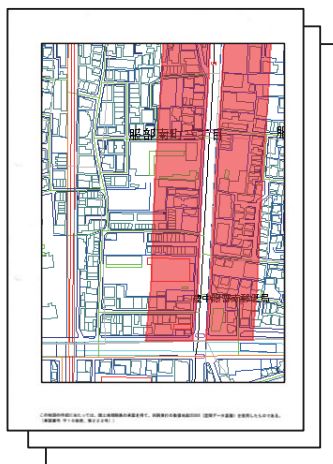
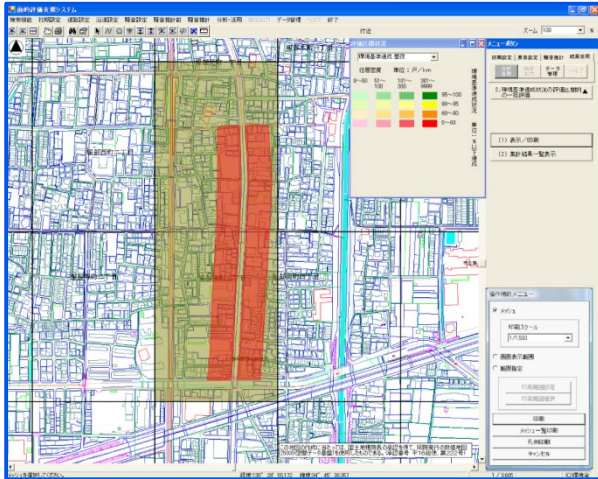
備考

騒音レベルの色分けは、[初期設定] - [17. 評価区間状況] で設定した色です。

注意

住居密度が凡例の範囲内に収まっていない場合、何も表示されない、色分けがされないなど、一括評価が正常に表示されないことがあります。その場合、「IV-1-17 初期設定（評価区間状況）」を参照の上、レンジを修正し、一括表示用レイヤの作成を再度実行してください。

(1) 表示/印刷



Menu [分析活用] - [2. 環境基準達成状況の評価区間別の一括評価] - [(1) 表示/印刷]

参考・例

印刷・エクスポートの手順は [IV-7-1 騒音暴露状況の住居等別の一括表示] を参照して下さい。

(2) 集計結果一覧表示

集計結果一覧表示										
検索条件										
市区町村コード	評価区間番号		年度							
	2020 - - - -		2020 - - - -							
市区町村コード	年度	評価区間番号	達成状況 (%)	集計						
				85%以下	86%超 89%以下	89%超 93%以下	93%超	95%超	95%超	95%超
216	2020	2022-000-1	100					○		
216	2020	2022-000-2	100					○		
216	2020	2022-000-3	100					○		
216	2020	2022-000-4	100					○		
216	2020	2022-000-5	100					○		
216	2020	2022-000-6	100					○		
216	2020	2022-000-7	100					○		
216	2020	2022-000-8	100					○		
合計			0	0	0	0	0	0	0	0

Menu [分析活用] - [2. 環境基準達成状況の評価区間別の一括評価] - [(2) 集計結果一覧表示]

参考・例

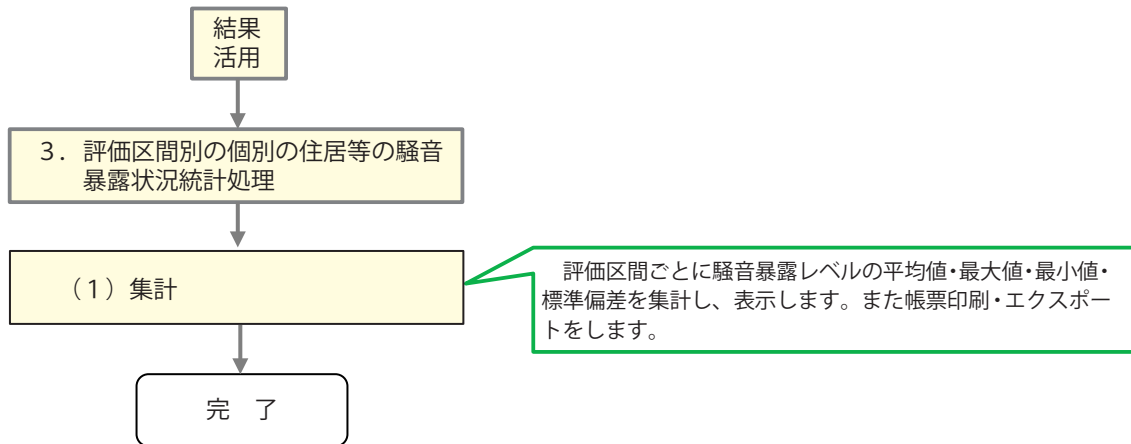
印刷・エクスポートの手順は [IV-7-1 騒音暴露状況の住居等別の一括表示] を参照して下さい。

7-3 評価区間別の個別の住居等の騒音暴露状況統計処理

1 概要

任意に指定した範囲にある評価区間別に、戸別の住居等の騒音暴露レベルの平均値・最大値・最小値・標準偏差を表示します。その集計結果を一覧表示し印刷またはエクスポートします。

2 作業フロー



3 手順

(1) 集計

市区町村コード	年度	評価区間番号	戸数	昼間				夜間			
				平均値	最大値	最小値	標準偏差	平均値	最大値	最小値	標準偏差
1	003	20052005-0001-1	77	53.95	72.00	44.54	9.52	50.30	69.00	41.43	9.52
2	000	20052005-0001-2	37	53.11	72.00	44.34	9.98	49.50	69.00	41.27	8.98
3	000	20052005-0001-3	196	60.87	75.30	51.28	5.86	57.18	71.60	47.72	5.86

Menu [分析活用] - [3. 評価区間別の個別の住居等の騒音暴露状況統計処理] - [(1) 集計]

⇒ [評価区間別の個別の住居等の騒音暴露状況統計処理] 画面が表示されます。

(a) 該当する評価区間の条件を入力します。

(b) [検索] をクリックします。

⇒ 集計結果が表示されます。

参考・例

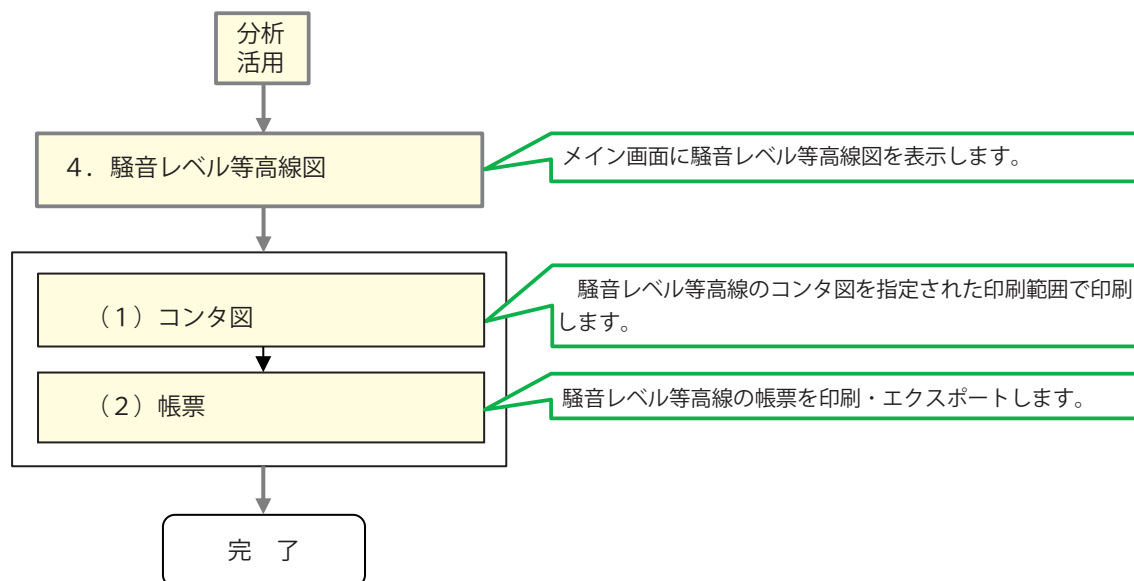
印刷・エクスポートの手順は [IV-7-1 騒音暴露状況の住居等別の一括表示] を参照して下さい。

7-4 騒音レベル等高線図

1 概要

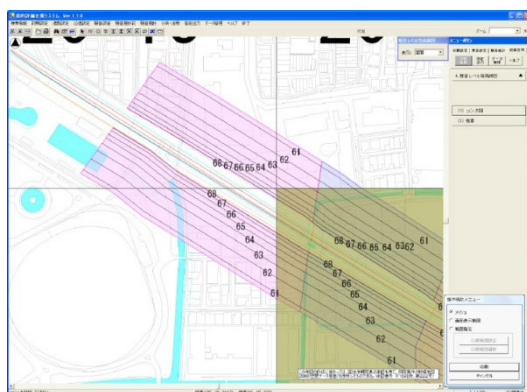
道路に面する地域における、騒音レベル帯の等高線図を表示・印刷・エクスポートします。

2 作業フロー



3 手順

(1) コンタ図

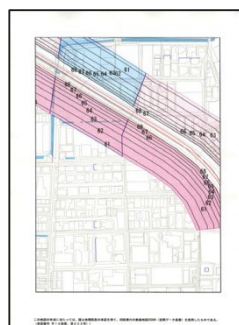
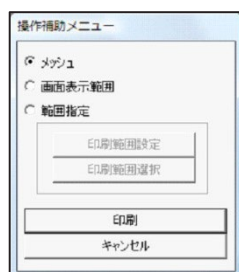


Menu [分析活用] - [4. 騒音レベル等高線図] - [(1) コンタ図]

⇒ [騒音レベル等高線図] が表示されます。

参考・例

印刷の手順は [IV-7-1 騒音暴露状況の住居等別の一括表示] を参照して下さい。



(2) 帳票

年度	市区町村コード	路線番号	評価区間番号	12ヶ月連続 区間	大型輸送入庫 区間	走行速度 区間	走行条件
2006/11/27 202514	2005	000	00.2005-000-1	51447	16995	6.7	6.7 600 600 0
2006/11/27 201349	2005	000	00.2005-000-1	59374	21264	16.6	16.6 500 500 0
2006/11/27 202448	2005	000	00.2005-000-2	59374	21264	16.6	16.6 500 500 0
2006/11/27 202458	2005	000	00.2005-000-3	59374	21264	16.6	16.6 500 500 0

Menu [分析活用] - [4. 騒音レベル等高線図] - [(2) 帳票]

参考・例

印刷・エクスポートの手順は [IV-7-1 騒音暴露状況の住居等別の一括表示] を参照して下さい。

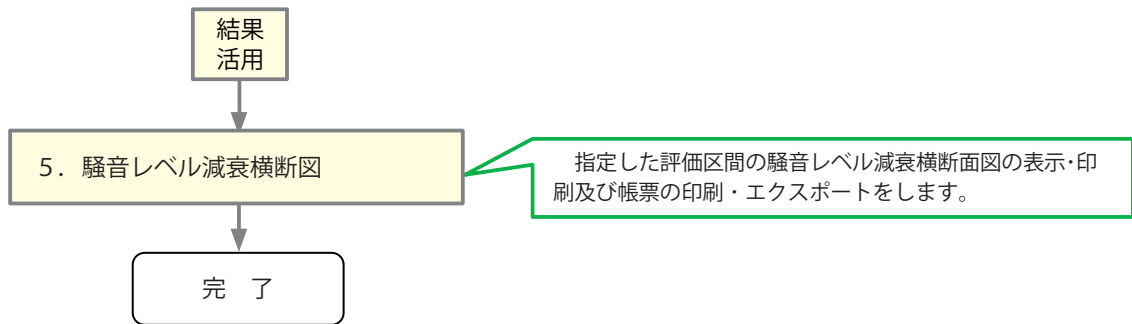
市区町村	路線番号	評価区間番号	騒音	高層
2005	000	00.2005-000-1	51447	16995
2005	000	00.2005-000-1	59374	21264
2005	000	00.2005-000-2	59374	21264
2005	000	00.2005-000-3	59374	21264

7-5 騒音レベル減衰横断面図

1 概要

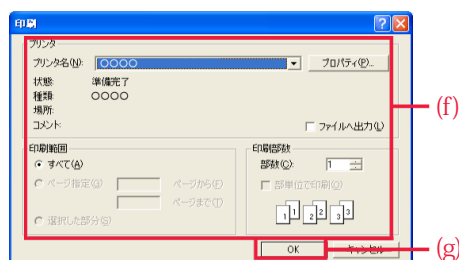
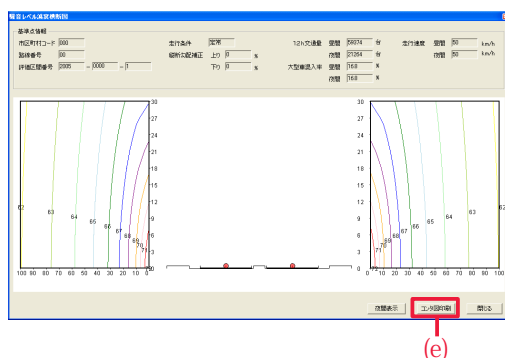
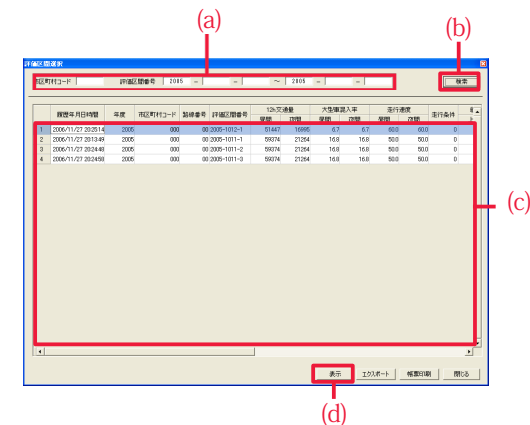
評価区間ごとに設定した横断面に基づいた騒音レベル減衰横断面図を表示・印刷・エクスポートします。

2 作業フロー



3 手順

□ コンタ図の表示・印刷



Menu [分析活用] - [5. 騒音レベル減衰横断面図]

⇒ [評価区間選択] 画面が表示されます。

(a) 該当する評価区間の条件を入力します。

(b) **検索** クリックします。

⇒ 検索されたデータの一覧が表示されます。

(c) 該当する評価区間を選択します。

(d) **表示** クリックします。

⇒ [騒音レベル減衰横断面図] 画面が表示されます。

(e) **コンタ図印刷** をクリックします。

⇒ [印刷] 画面が表示されます。

備考

夜間表示 により、表示を夜間に切り替え、表示・印刷することもできます。

(f) 項目を設定します。

(g) **OK** クリックします。

⇒ 図が印刷されます。

□ 帳票の印刷・エクスポート

年度	市区町村コード	路線番号	評価区間番号	12h交通量	大型車進入率	走行速度	走行条件
2006/11/27 202514	2005	000	00/2006-0001/1	51447	16995	67	67
2006/11/27 201949	2005	000	00/2006-0001/1	59374	21264	16.8	16.8
2006/11/27 202448	2005	000	00/2006-0001/2	59374	21264	16.8	16.8
2006/11/27 202458	2005	000	00/2006-0001/3	59374	21264	16.8	16.8

Menu [分析活用] - [5. 騒音レベル減衰横断図]

⇒ [騒音レベル減衰横断図] 画面が表示されます。

参考・例

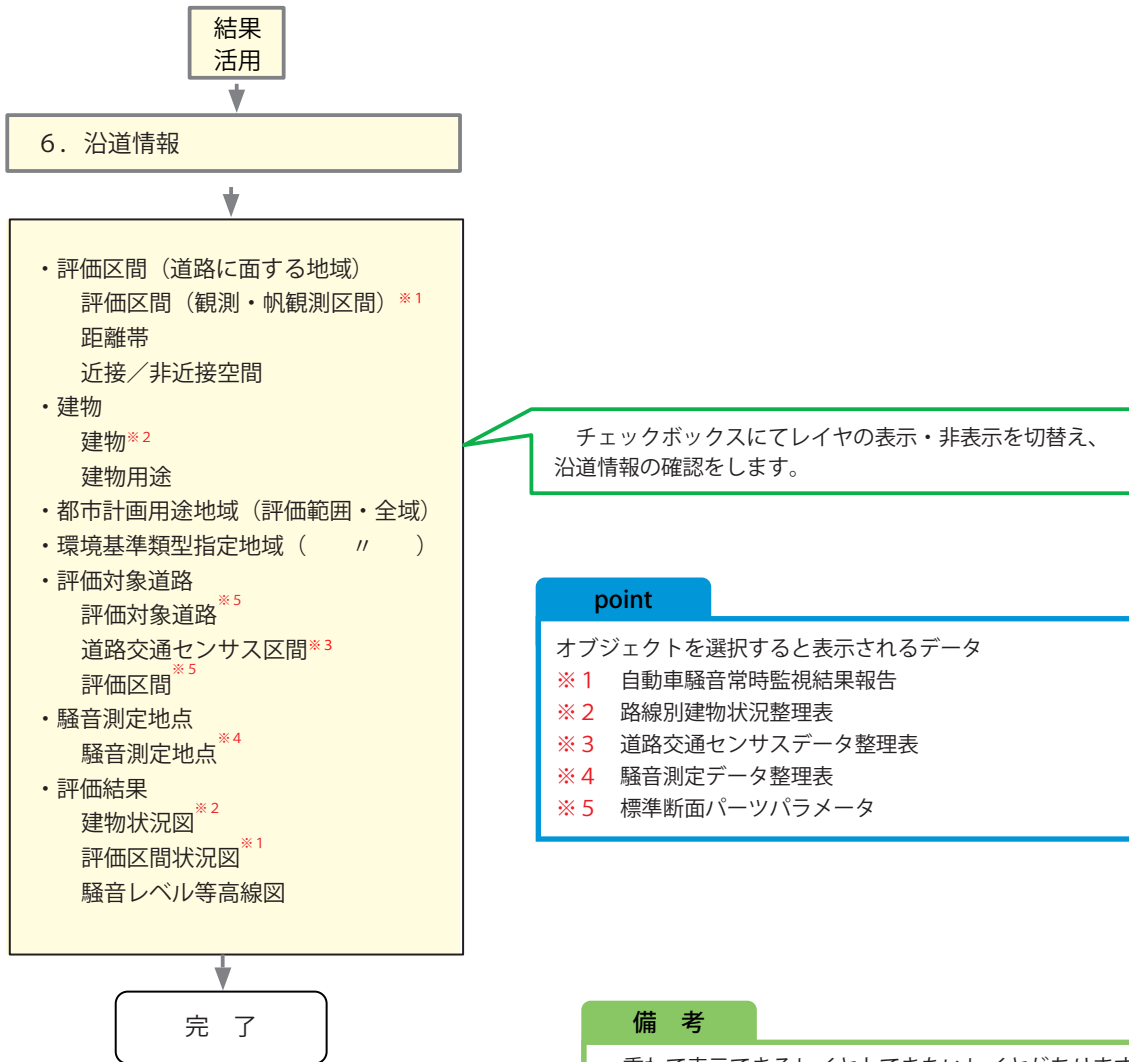
印刷・エクスポートの手順は [IV-7-1 騒音暴露状況の住居等別の一括表示] を参照して下さい。

7-6 沿道情報

1 概要

[要素設定] 及び [騒音推計] にて設定した情報を元に作成したレイヤをメインウィンドウに表示します。各項目を切替えることで単独、または複数のレイヤを重ねて表示することができます。また、画面上で表示されるオブジェクトを選択すると該当する情報を表示します。

2 作業フロー



備考

重ねて表示できるレイヤとできないレイヤがあります。

8. 指定出力

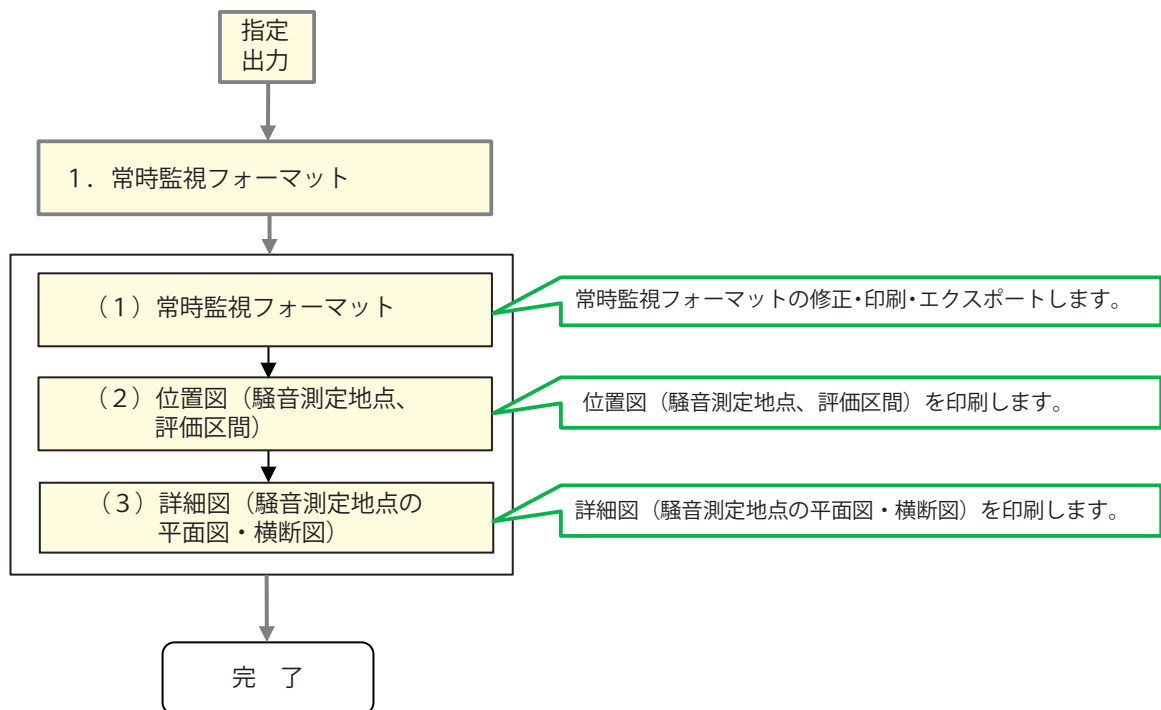
自動車騒音常時監視結果の報告に必要な帳票、図面、地図情報を出力します。

8-1 常時監視フォーマット

1 概要

自動車騒音常時監視結果報告のうち、帳票データ及び図面を出力します。

2 作業フロー



備考

・システムでは、住居等の建物戸数の把握の方法を見直した経緯があります。そのため、システムのバージョンアップにより住居等の建物戸数の把握の方法が異なります。そのため、バージョンの違うシステムで属性把握を行うと、過年度と戸数が変わる場合があります。

Ver1.1.11 → Ver1.1.12

（交差街区内の集合住宅の集計処理を修正したことによる） Ver1.1.12 → Ver2.0.0

（発生強度4における近接・非近接空間ごとの建物戸数を自動取得する機能を追加したことによる）

Ver2.1.0 → Ver3.0.0

（GISエンジンを更新したことにより、建物属性把握処理を修正したことによる）

Ver3.0.0 → Ver3.1.0

（建物情報を自動で取得する機能を追加したことによる）

Ver3.1.0 → Ver3.1.1

（建物属性把握処理の不具合を修正したことによる）

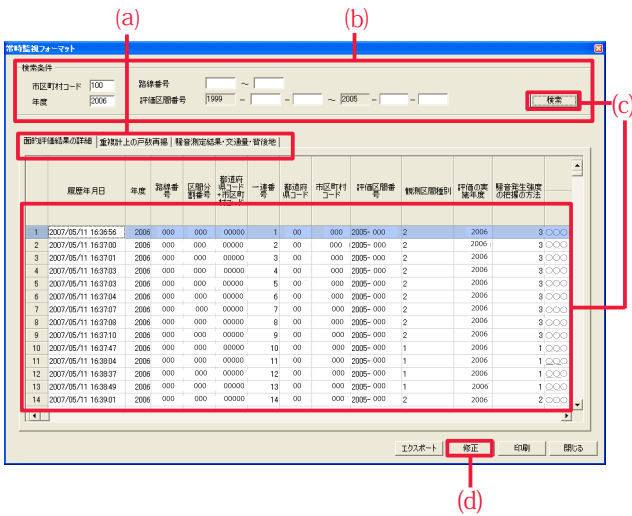
Ver3.1.1 → Ver3.2.0

（その他道路に対する集計方法の変更したことによる）

3 手順

(1) 常時監視フォーマット

修正



Menu [指定出力] - [1. 常時監視フォーマット] - [(1) 常時監視フォーマット]

→ [常時監視フォーマット] の管理画面が表示されます。

(a) タブを切り替えて、修正するデータの様式を表示します。

(b) 修正するデータの条件を入力します。

(c) 検索をクリックします。

→ 検索されたデータの一覧が表示されます。

(d) 修正をクリックします。



→ [自動車騒音の常時監視結果報告 (様式-1)] 画面が表示されます。

(e) データを修正します。

(f) 登録をクリックします。

→ データが修正されます。

□ 印刷

検索条件

市区町村コード: [] 路線番号: [] ~ []
 年度: [2006] 評価区画番号: [1999] ~ [2006]

検索

面的評価結果の詳細 | 重複計上の戸数再掲 | 騒音測定結果:交通量-背後地

原簿年月日	年度	路線番号	区画分類番号	道路沿道コード 市区町村コード	一連番号	道路沿道 間コード	市区町村 コード	評価区画番号	騒音区画種別	評価の業 種年度	騒音発生強度 の把握の方法			
1	2007/05/11	163656	2006	000	000	000000	1	00	000	2006-000	2	2006	3	○○○
2	2007/05/11	163700	2006	000	000	000000	2	00	000	2006-000	2	2006	3	○○○
3	2007/05/11	163701	2006	000	000	000000	3	00	000	2006-000	2	2006	3	○○○
4	2007/05/11	163703	2006	000	000	000000	4	00	000	2006-000	2	2006	3	○○○
5	2007/05/11	163703	2006	000	000	000000	5	00	000	2006-000	2	2006	3	○○○
6	2007/05/11	163704	2006	000	000	000000	6	00	000	2006-000	2	2006	3	○○○
7	2007/05/11	163707	2006	000	000	000000	7	00	000	2006-000	2	2006	3	○○○
8	2007/05/11	163708	2006	000	000	000000	8	00	000	2006-000	2	2006	2	○○○
9	2007/05/11	163710	2006	000	000	000000	9	00	000	2006-000	2	2006	3	○○○
10	2007/05/11	163747	2006	000	000	000000	10	00	000	2006-000	1	2006	1	○○○
11	2007/05/11	163804	2006	000	000	000000	11	00	000	2006-000	1	2006	1	○○○
12	2007/05/11	163837	2006	000	000	000000	12	00	000	2006-000	1	2006	1	○○○
13	2007/05/11	163849	2006	000	000	000000	13	00	000	2006-000	1	2006	1	○○○
14	2007/05/11	163901	2006	000	000	000000	14	00	000	2006-000	2	2006	2	○○○

エクスポート 修正 印刷 閉じる

Menu [指定出力] - [1. 常時監視フォーマット] -
 [(1) 常時監視フォーマット]

⇒ [常時監視フォーマット] の管理画面が表示されます。

(a) タブを切り替えて、印刷するデータの様式を表示します。

(b) 印刷するデータの条件を入力します。

(c) 検索をクリックします。

⇒ 検索されたデータの一覧が表示されます。

(d) 印刷をクリックします。

⇒ [常時監視フォーマット 帳票出力] の画面が表示されます。

(e) 印刷する様式を選択します。

印刷する帳票を選択してください

様式-1-1 面的評価結果の詳細

様式-1-2 重複計上の戸数再掲

様式-2-1 騒音測定結果(道路近傍騒音)

様式-2-2 騒音測定結果(交通量関係)

様式-2-3 騒音測定結果(背後地騒音)

様式-3-1 面的評価結果の総括表(道路種別)

様式-3-2 面的評価結果の総括表(市区町村別)

印刷 キャンセル

(f) 印刷をクリックします。

⇒ [印刷] 画面が表示されます。

(g) 項目を設定します。

プリンタ

プリンタ名(N): [○○○○] プロパティ(P)...

状態: 準備完了

種類: ○○○○

場所:

コメント: ファイルへ出力(L)

印刷範囲

すべて(A)

ページ指定(Q) ページから(F) ページまで(T)

選択した部分(S)

印刷部数

部数(Q): [1]

部単位で印刷(Q)

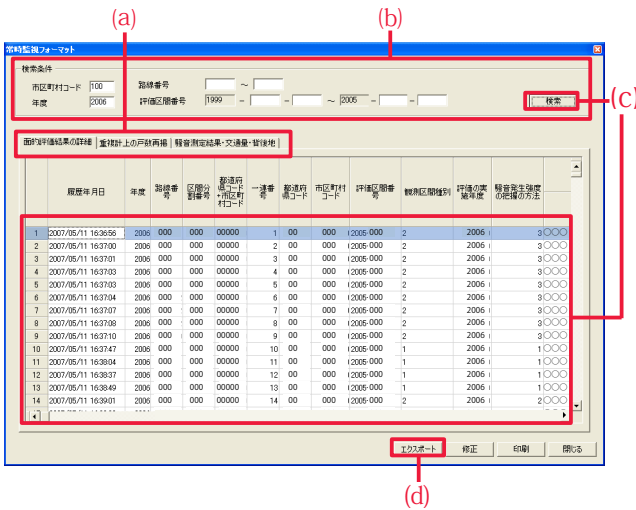
1 2 3

OK キャンセル

(h) OKをクリックします。

⇒ [常時監視フォーマット] が印刷されます。

□ エクスポート



Menu [指定出力] - [1. 常時監視フォーマット] - [(1) 常時監視フォーマット]

→ [常時監視フォーマット] の管理画面が表示されます。

(a) タブを切り替えて、エクスポートするデータの様式を表示します。

(b) エクスポートするデータの条件を入力します。

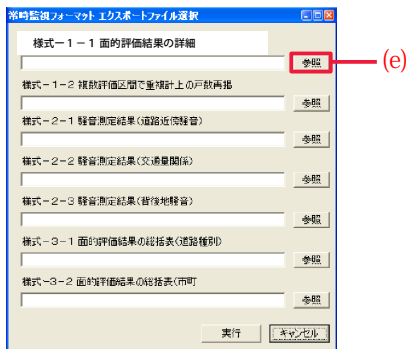
(c) **検索** クリックします。

→ 検索されたデータの一覧が表示されます。

(d) **エクスポート** クリックします。

→ [エクスポートファイル選択] 画面が表示されます。

(e) **参照** クリックします。



→ [名前を付けて保存] 画面が表示されます。

(f) 保存する場所を選択します。

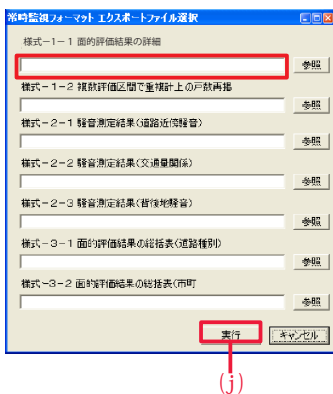
(g) ファイル名を入力します。

(h) ファイルの種類を選択します。

(i) **保存** をクリックします。

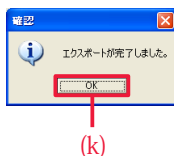
→ [エクスポートファイル選択] 画面が表示されます。

👁️ エクスポートファイルを確認します。



(j) **実行** クリックします。

→ [確認] 画面が表示されます。



(k) **OK** をクリックします。

修正

- ① 常時監視フォーマット出力において測定地点データの一部が出力されない場合
 - ・測定地点データの登録後、常時監視フォーマットの再作成処理が行われていないため、常時監視フォーマット作成を再度行ってください。
- ② 様式 1-1 に出力されない区間がある。または、表示させたくない区間がある場合
 - ・該当評価区間の沿道情報データ整理表と、騒音測定データ整理表の評価対象外フラグを表示させたい場合は"0"、表示させたくない場合は"1"に修正してください。
- ③ 建物は存在するのに、常時監視フォーマットの下記項目に"0"が入っている場合
 - ・該当区間の属性把握処理が実行されていないため、再度建物の属性把握を行ってください。
- ④ 交差していない評価区間が表示されたり、1行しか表示されなかったり、戸数に負の値が入っている場合。
 - ・建物データに不整合なデータが存在し、重複区間で建物用途が異なる建物が存在するため、建物データを修正してください。
- ⑤ 常時監視フォーマットを作成したがデータが登録されない評価区間がある場合
 - ・センサデータと評価区間データの道路種別が異なっているため、道路平面線形要素、センサ区間、評価区間の情報入力で修正してください。
- ⑥ 様式 2-1 において、測定年月日など違うデータがある場合
 - ・基準年度を該当の年度に設定し、騒音測定データを修正してください。
- ⑦ 一部の評価区間の常時監視フォーマットが作成できない場合
 - ・道路種別が正しく設定されていないため、正しい道路種別を設定ください。
- ⑧ 一部の評価区間で、実際には重複されていない区間なのに、様式 1-2 にデータが出力される。また、逆に重複区間が出力されない場合
 - ・建物情報が異なる街区で重複しているため、重複して情報入力されている建物の情報のどちらか一方を削除してください。
- ⑨ 様式 1-2 の重複計上の建物戸数がマイナスになる場合
 - ・交差道路の片側の評価区間情報がないため、評価区間情報入力を再度正しく登録を行ってください。
- ⑩ 常時監視フォーマットを作成後、データを確認すると、戸数が合わない場合
 - ・路線別建物状況整理表に不整合のデータがあるため、不整合なデータを削除してください。

point

- ① 路線別建物状況整理表には、評価区間ごとに住居系と非住居系の建物が全て登録されています。
- ② 様式 3-1 は「道路種別」別で、戸数を計上しているおり、重複している建物戸数が重複掲載されます。また、様式 3-2 は重複している建物戸数を掲載していないため、様式 3-1 と 3-2 の全体戸数が違います。

備考

様式 2-1 の用途地域コードは、報告用コードに変換しているため、設定時と違います。

備考

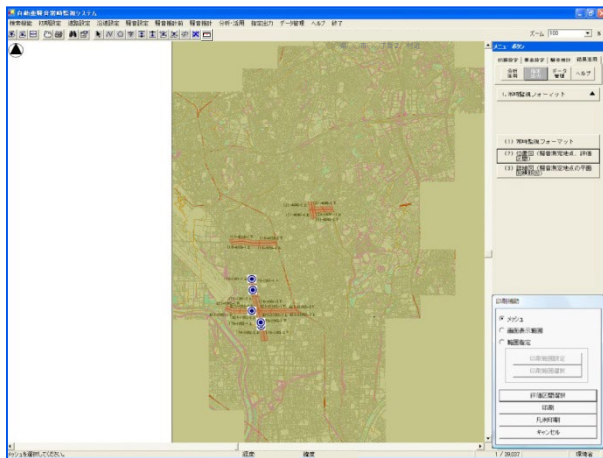
指定出力とデータ管理の常時監視フォーマットは同じものです。

参考・例

推計の結果は条件によって、騒音レベルが実測値を超える場合、非近接空間においても環境基準値を超過する場合があります。

(2) 位置図 (騒音測定地点、評価区間)

□ 位置図 (騒音測定地点、評価区間) の印刷



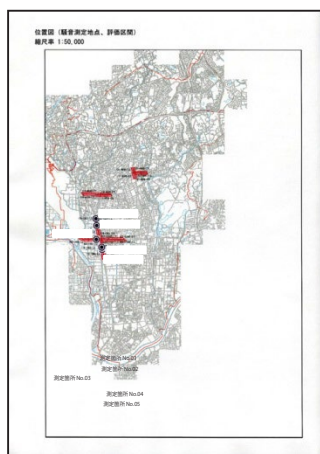
[Menu]指定出力 - [1. 常時監視フォーマット] -
[(2) 位置図 (騒音測定地点、評価区間)]

参考・例

印刷の手順は [IV-7-1 騒音暴露状況の住居等別の
一括表示] を参照して下さい。

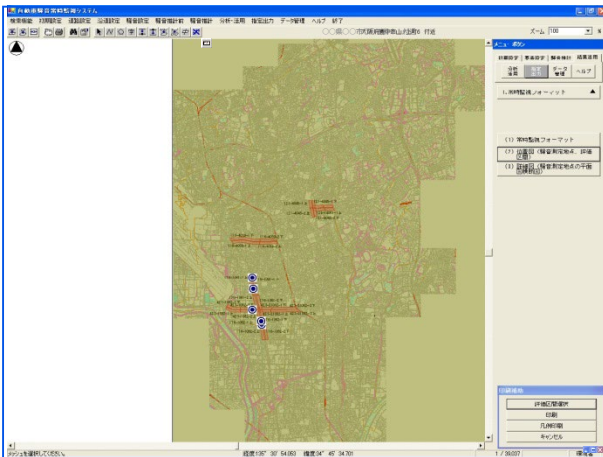
point

画面に評価区間の場所が表示されない場合、印刷補助の
[評価区間選択] をクリックし、該当する評価区間を選択
します。選択した評価区間の場所が表示されます。



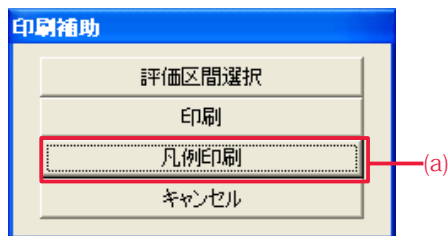
□ 凡例の印刷

位置図（騒音測定地点、評価区間）の凡例を印刷します。

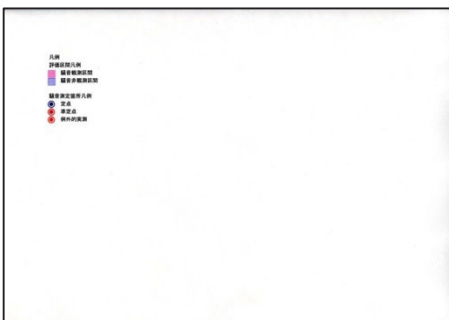
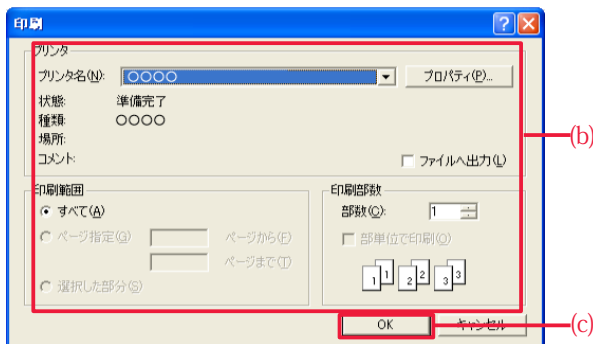


- Menu** [指定出力] - [1. 常時監視フォーマット] - [(2) 位置図 (騒音測定地点、評価区間)]
 → [位置図 (騒音測定地点、評価区間)] の出力画面が表示されます。

- (a) **凡例印刷** をクリックします。
 → [印刷] 画面が表示されます。



- (b) 項目を設定します。
 (c) **OK** をクリックします。
 → 凡例が印刷されます。



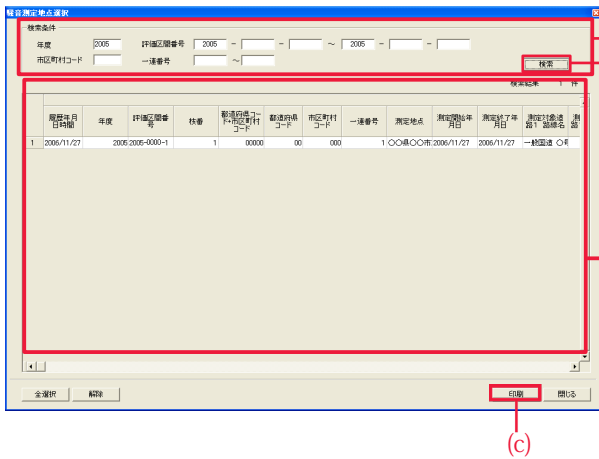
修正

評価区間番号・騒音測定箇所番号の位置を修正できます。

評価区間番号： IV-3-6-(1) オブジェクト作成
 騒音測定箇所番号： IV-4-1-(1) 騒音測定地点

(3) 詳細図 (騒音測定地点の平面図・横断面図)

印刷



Menu [指定出力] - [1. 常時監視フォーマット] - [(3) 詳細図 (騒音測定地点の平面図・横断面図)]

➔ [常時監視フォーマット (3) 詳細図 (騒音測定地点の平面図・横断面図)] の管理画面が表示されます。

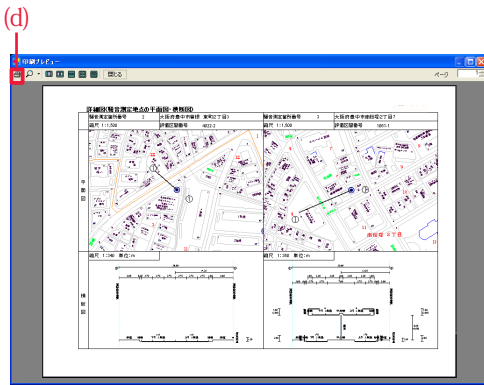
(a) 印刷するデータの条件を入力します。

(b) をクリックします。

➔ 検索されたデータの一覧が表示されます。

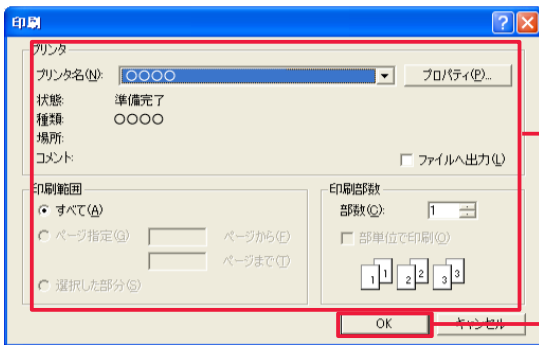
(c) 印刷したい地点を選択した後、 をクリックします。

➔ 印刷プレビューが表示されます。



(d) をクリックします。

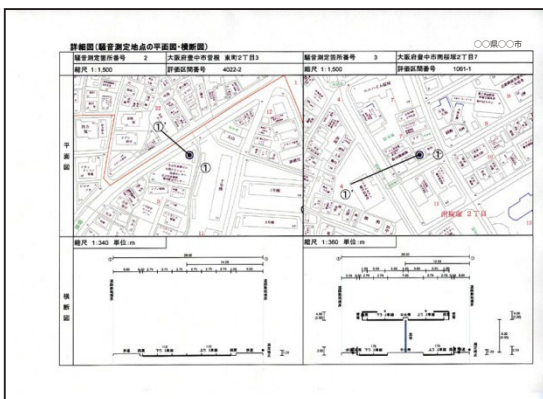
➔ [印刷] 画面が表示されます。



(e) 項目を設定します。

(f) をクリックします。

➔ 詳細図が印刷されます



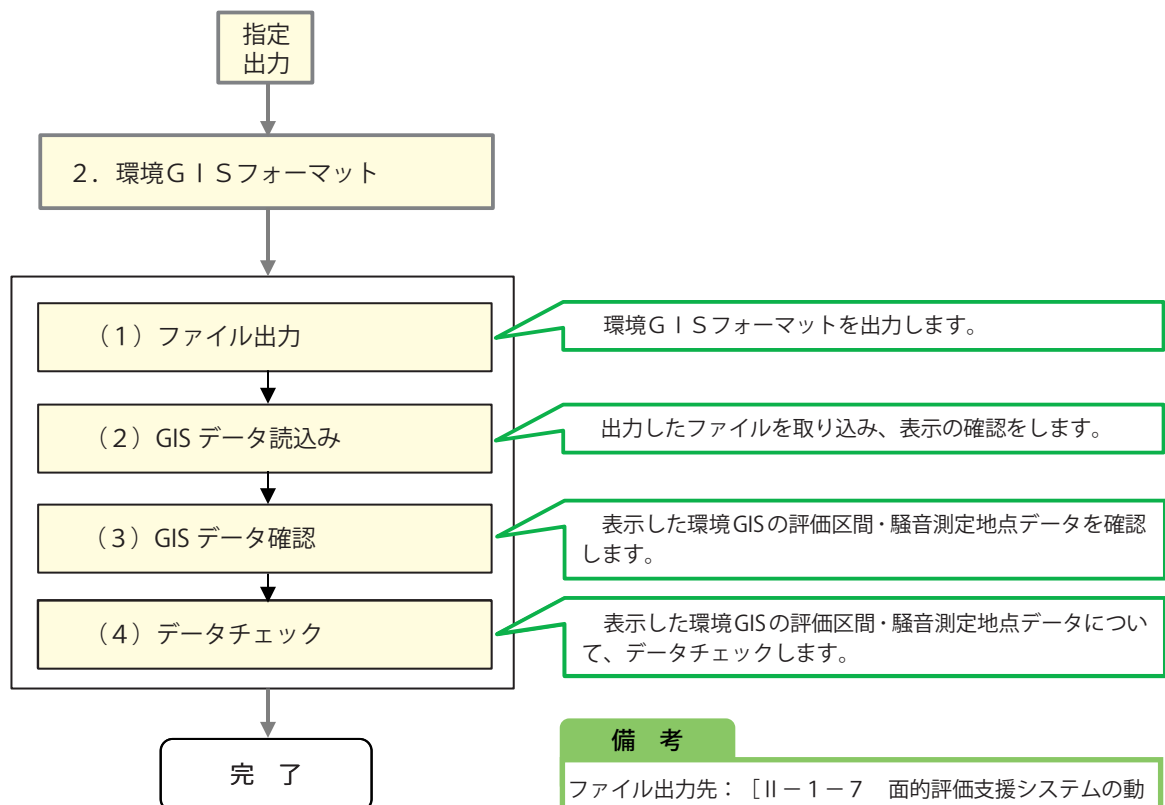
8-2 環境GISフォーマット

1 概要

自動車騒音常時監視結果報告のうち、地理情報（評価区間及び騒音発生強度の把握の地点）に関するファイルを出力します。

このデータは自動車騒音常時監視結果の経年データとして蓄積されるとともに、「国立環境研究所 環境情報センター」が提供するインターネットのホームページ「環境GIS」において公開されます。

2 作業フロー



備考

ファイル出力先：〔II-1-7 面的評価支援システムの動作環境の設定〕で指示した作業用フォルダ内の「gis」フォルダ（デフォルトは「C：Work ¥gis」です）

出力ファイル：souon △△△△□□○○○.dbf、
 souon △△△△□□○○○.shp、
 souon △△△△□□○○○.shx、
 hyoka □□○○○.dbf、
 hyoka □□○○○.shp、
 hyoka □□○○○.shx

の計6種（△△△△は測定年度、□□は都道府県コード、○○○は市区町村コード）

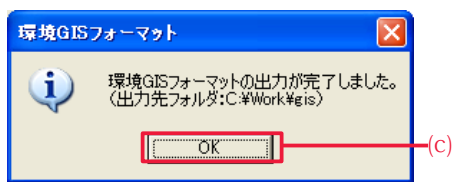
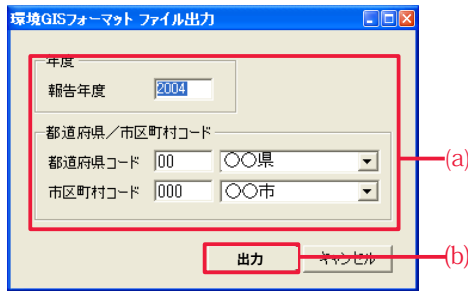
修正

報告年度を変更して、GISデータが出力されない場合、変更した年度の情報が作成されていない可能性があります。

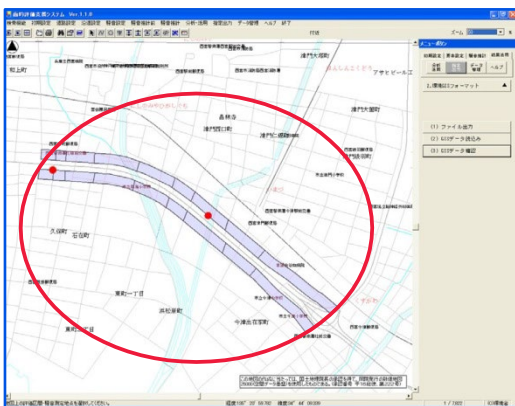
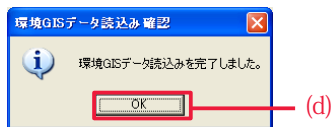
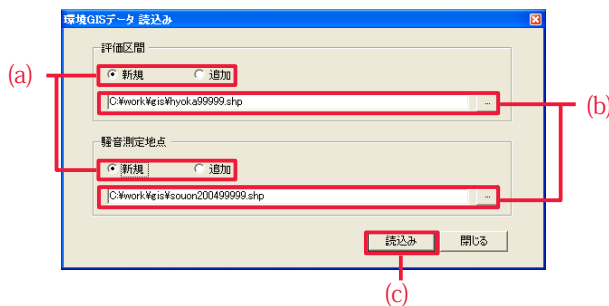
評価区間、騒音測定地点の情報入力での再登録と基準点の騒音測定データ選択を行ってください。

3 手順

(1) ファイル出力



(2) GIS データ読み込み



Menu [指定出力]－[2. 環境 GIS フォーマット]－[(1) ファイル出力]

⇒ [環境 GIS フォーマットファイル出力] 画面が表示されます。

(a) 該当する項目を入力します。

備考

都道府県コードのみの入力ですべての都道府県内全域のデータを出力し、さらに市区町村コードを入力すると市区町村内に限ったデータを出力します。

(b) [出力] をクリックします。

⇒ GIS フォーマットのファイルが出力され、[環境 GIS フォーマット] 画面が表示されます。

(c) [OK] をクリックします。

備考

出力先フォルダは [II-1-7 面的評価支援システムの動作環境の設定] で指示した作業用フォルダ内の「gis」フォルダ（デフォルトは「C:\Work ¥gis」）です。

Menu [指定出力]－[2. 環境 GIS フォーマット]－[(2) GIS データ読み込み]

⇒ [環境 GIS データ読み込み] 画面が表示されます。

(a) 「新規」または「追加」を選択します。

備考

2つ目以降のファイルの読み込みを行う場合、以下の通りです。

- ・「新規」を選択した場合、すでに読み込まれているファイルは破棄され、指定したファイルが新規に読み込まれます。
- ・「追加」を選択した場合、すでに読み込まれているファイルは保持され、指定したファイルが追加として読み込まれます。

(b) 読み込むファイル名を入力、または [...] をクリックしてファイルを選択します。

(c) [読み込み] をクリックします。

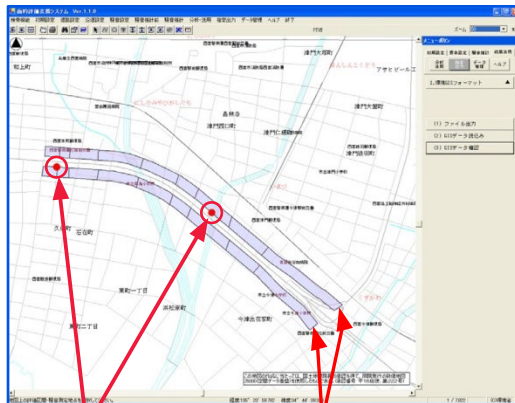
⇒ GIS フォーマットのファイルが読み込まれ、[環境 GIS データ読み込み 確認] 画面が表示されます。

(d) [OK] をクリックします。

⇒ 環境 GIS の評価区間・騒音測定地点が表示されます。

👁️ 環境 GIS の評価区間・騒音測定地点の表示を確認します。

(3) GIS データ確認



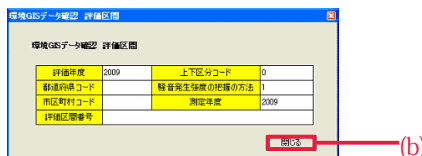
騒音測定地点 (a) 評価区間

Menu [指定出力] - [2. 環境 GIS フォーマット] - [(3) GIS データ確認]

(a) 環境 GIS の評価区間または騒音測定地点をクリックします。

⇒ [環境 GIS データ確認○○○] 画面が表示されます。(○○○はクリックした環境 GIS ポリゴンの名称(評価区間または騒音測定地点)です。)

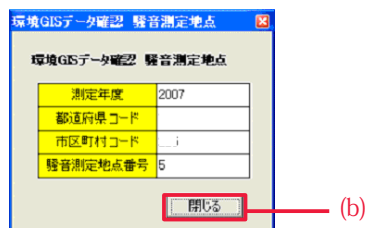
・ 評価区間



👁 データを確認します。

(b) [閉じる]をクリックします。

・ 騒音測定地点



(4) データチェック



(a)

Menu [指定出力] - [2. 環境 GIS フォーマット] - [(4) データチェック]

(a) [はい(Y)]をクリックします。

⇒ データチェックを開始します。

備考

常時監視フォーマットと環境 GIS において、各々出力している評価区間及び騒音測定点が一貫しているかデータチェックを行います。



9. データ管理

各種整理表を表9-1に示します。

各整理表において・エクスポート・検索・新規登録・修正登録・削除・印刷などのデータ管理をします。

また、過年度データを基準年度のデータに移行し、活用します。

表9-1 整理表一覧

名 称	備 考
①道路データ整理表	
②道路交通センサデータ整理表	
③沿道情報データ整理表	
④建物データ整理表	
⑤騒音測定データ整理表	
⑥路線別建物状況整理表	
⑦建物ごとの騒音レベル別住居等戸数整理表	
⑧常時監視フォーマット	位置図（騒音測定地点、評価区間）、詳細図（騒音測定地点の平面図・横断図）は印刷のみ。

9-1 入力・出力・印刷の管理

1 概要

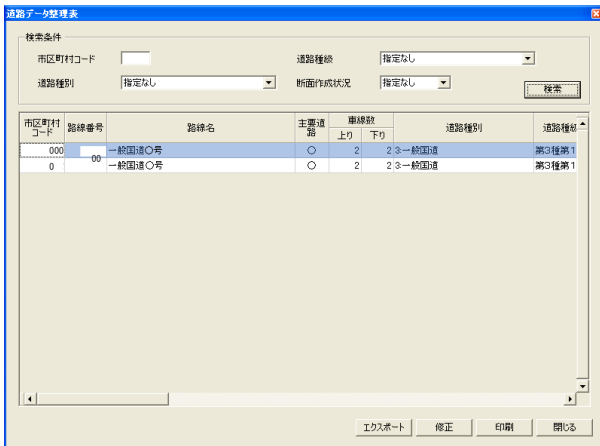
各整理表の入力・出力・印刷の管理をします。

2 手順

(1) 道路データ整理表

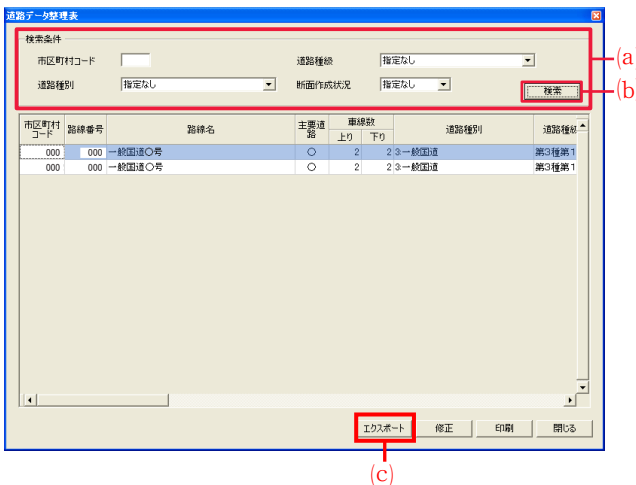
備考

インポートする前に全データをエクスポートする必要はありません。また、インポートするファイルには、新規データのみ保存してください。



Menu [データ管理] - [1. 入力・出力・印刷の管理]
- [(1) 道路データ整理表]

□ エクスポート



Menu [データ管理] - [1. 入力・出力・印刷の管理]
- [(1) 道路データ整理表]

⇒ 一覧表示画面が表示されます。

(a) エクスポートするデータの条件を入力します。

point

全件のデータを表示する場合は、条件入力をせずに検索をクリックします。

(b) **検索** をクリックします。

⇒ 検索されたデータの一覧が表示されます。

(c) **エクスポート** をクリックします。

⇒ [名前を付けて保存] 画面が表示されます。

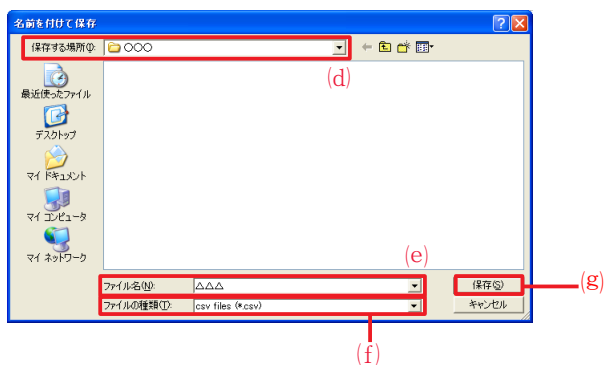
(d) 保存する場所を選択します。

(e) ファイル名を入力します。

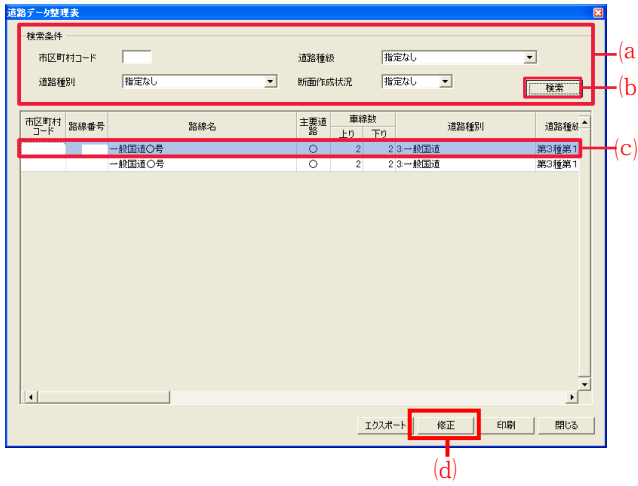
(f) ファイルの種類を選択します。

(g) **保存** をクリックします。

⇒ データがエクスポートされます。



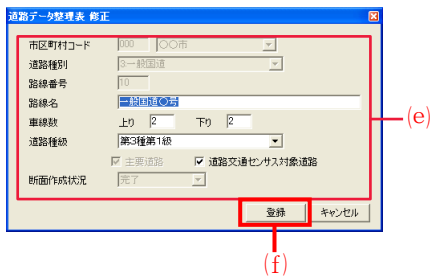
□ 修正



Menu [データ管理] - [1. 入力・出力・印刷の管理]
 - [(1) 道路データ整理表]
 ⇒ [道路データ整理表] の管理画面が表示されます。

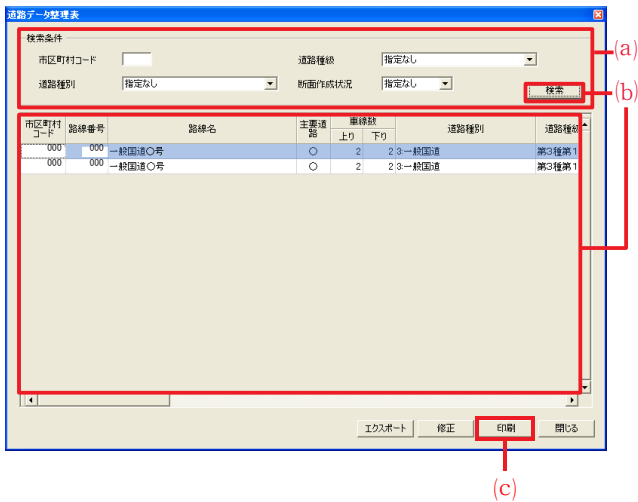
- (a) 修正するデータの条件を入力します。
- (b) **検索** をクリックします。
 ⇒ 検索されたデータの一覧が表示されます。
- (c) 修正するデータを選択します。

(d) **修正** をクリックします。
 ⇒ [道路データ整理表 修正] の設定画面が表示されます。



- (e) 修正をします。
- (f) **登録** をクリックします。
 ⇒ データが修正されます。

□ 印刷



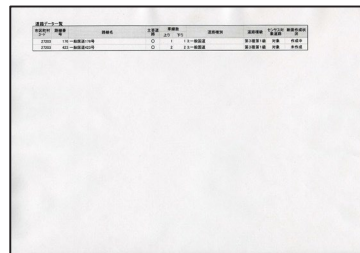
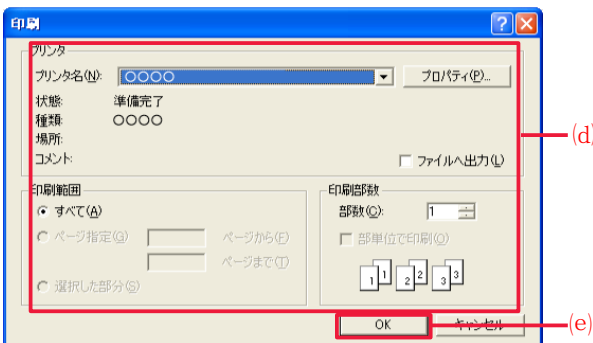
Menu [データ管理] - [1. 入力・出力・印刷の管理]
 - [(1) 道路データ整理表]

⇒ [道路データ整理表] 画面が表示されます。
 (a) 印刷するデータの条件を入力します。

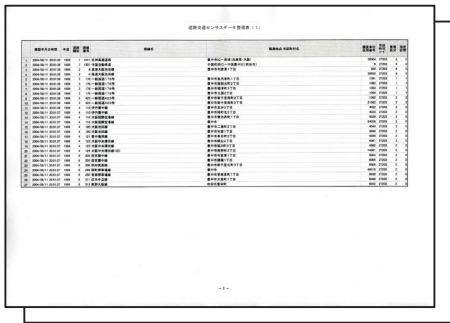
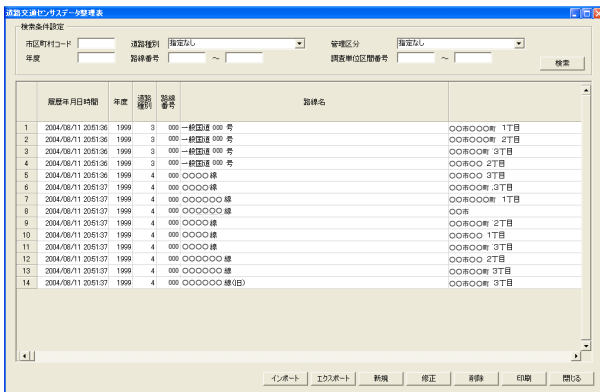
point
 全件のデータを表示する場合は、条件入力をせずに検索をクリックします。

- (b) **検索** をクリックします。
 ⇒ 検索されたデータの一覧が表示されます。
- (c) **印刷** をクリックします。
 ⇒ [印刷] 画面が表示されます。

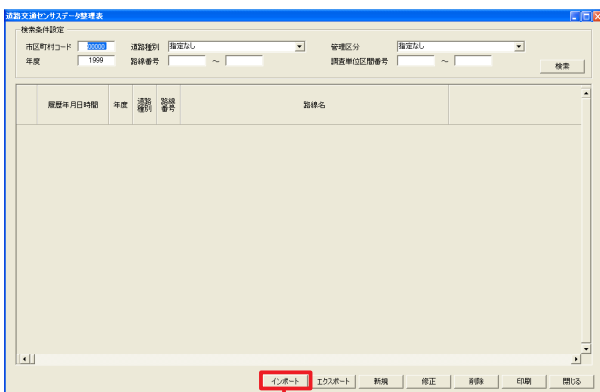
(d) 項目を設定します。
 (e) **OK** をクリックします。
 ⇒ 一覧が印刷されます。



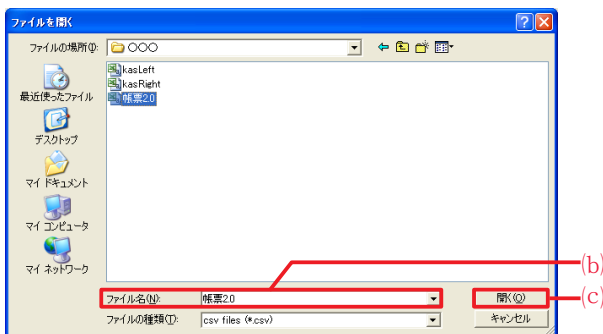
(2) 道路交通センサデータ整理表



□ インポート



(a)

(a) **インポート** をクリックします。

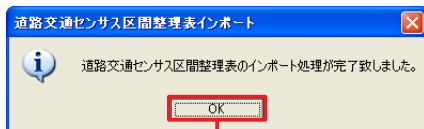
⇒ [ファイルを開く] 画面が表示されます。

(b) インポートするファイルを選択します。

(c) **開く** をクリックします。

⇒ ファイルがインポートされます。

⇒ [道路交通センサ区間整理表インポート] 確認画面が表示されます。

(d) **OK** をクリックします。

(d)

Menu [データ管理] - [1. 入力・出力・印刷の管理]

- [(2) 道路交通センサデータ整理表]

注意

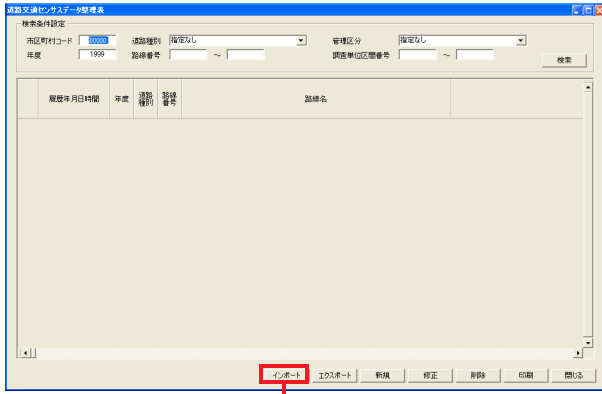
インポートをすると既存のデータにキー項目が同じデータがある場合は削除されます。

Menu [データ管理] - [1. 入力・出力・印刷の管理]

- [(2) 道路交通センサデータ整理表]

⇒ [道路交通センサデータ整理表] 画面が表示されます。

□ 新規



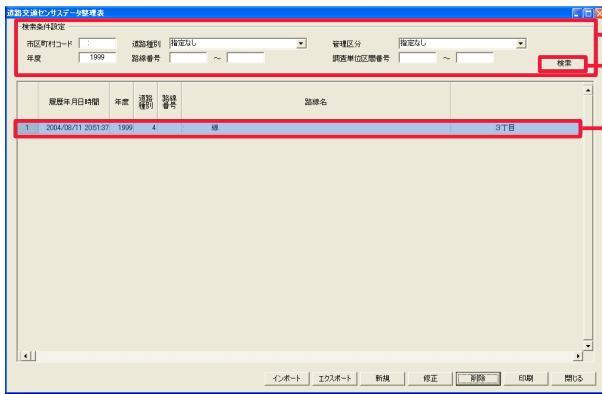
(a)



(b)

(c)

□ 削除



(a)

(b)

(c)

Menu [データ管理] - [1. 入力・出力・印刷の管理]
- [(2) 道路交通センサデータ整理表]

⇒ [道路交通センサデータ整理表] の管理画面が表示されます。

(a) **新規** をクリックします。

⇒ [道路交通センサデータ整理表] の設定画面が表示されます。

(b) データを入力します。

(c) **登録** をクリックします。

⇒ データが登録されます。

Menu [データ管理] - [1. 入力・出力・印刷の管理]
- [(2) 道路交通センサデータ整理表]

⇒ [道路交通センサデータ整理表] の管理画面が表示されます。

(a) 削除するデータの条件を入力します。

(b) **検索** をクリックします。

⇒ 検索されたデータの一覧が表示されます。

(c) **削除** をクリックします。

⇒ データが削除されます。

参考・例

[エクスポート]・[修正]・[印刷] の手順は [IV-9-1 (1) 道路データ整理表] を参照してください。

(3) 沿道情報データ整理表

Menu [データ管理] - [1. 入力・出力・印刷の管理]
- [(3) 沿道情報データ整理表]

参考・例
[エクスポート]・[修正]・[印刷]の手順は[IV-9-1 (1) 道路データ整理表]を参照してください。

(4) 建物データ整理表

Menu [データ管理] - [1. 入力・出力・印刷の管理]
- [(4) 建物データ整理表]

参考・例
[エクスポート]・[修正]・[印刷]の手順は[IV-9-1 (1) 道路データ整理表]を参照してください。

(5) 騒音測定データ整理表

Menu [データ管理] - [1. 入力・出力・印刷の管理]
- [(5) 騒音測定データ整理表]

参考・例

[エクスポート]・[印刷]の手順は [IV-8-1 (1) 常時監視フォーマット] - [印刷]・[ファイル出力]を参照してください。
[インポート]の手順は [IV-9-1 (2) 道路交通センサデータ整理表]を参照してください。
[修正]の手順は [IV-9-1 (1) 道路データ整理表]を参照してください。

注意

インポートをすると既存のデータは全て削除されますので、データを追加する場合は先にエクスポートなどして全てのデータを揃えてからインポートをしてください。

(6) 路線別建物状況整理表

Menu [データ管理] - [1. 入力・出力・印刷の管理]
- [(6) 路線別建物状況整理表]

参考・例

[エクスポート]・[修正]・[印刷]の手順は [IV-9-1 (1) 道路データ整理表]を参照してください。

・印刷 (縦)

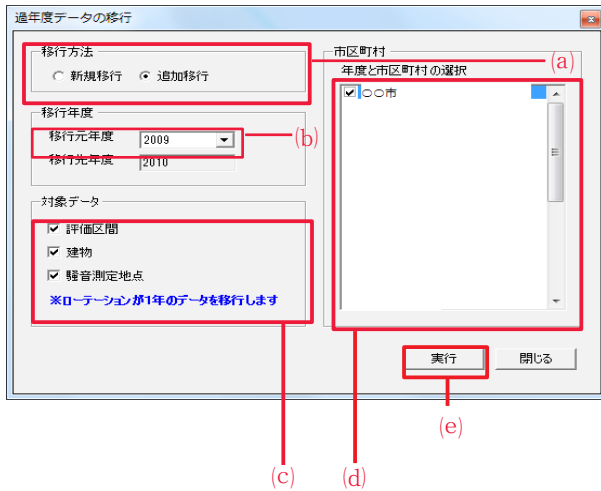
・印刷 (横)

9-2 過年度データの移行

1 概要

過年度データを基準年度のデータに移行します。

2 手順



[Menu] [データ管理] - [2. 過年度データの移行]

➡ 過年度データの移行画面が表示されます。

(a) 移行方法を選択します。

point

新規移行：基準年度のデータを全て削除し、移行元年度のデータから新規作成します。

追加移行：移行元年度のデータを、基準年度のデータに結合します。

(b) 移行元年度を選択します。

(c) 対象データを選択します。

備考

基本的に、対象データは全て選択してください。

備考

騒音測定地点データは、ローテーションが1年のデータを移行します。

(d) 過年度データを移行する市区町村を選択します。

(e) [実行] をクリックします。

➡ 過年度データが移行されます。

注意

過年度移行は当該年度データを入力する前に、原則新規移行で行います。

追加移行を行うに当たっては「当該年度の評価区間と交差しないこと」の条件があり、当該年度の評価区間と交差する場合には追加移行は出来ません。

注意

使用する面的評価支援システムのバージョンにより、対応するシステム用データベースのバージョンが違います。

バージョンアップツールを使用して、バージョンアップを行ってください。

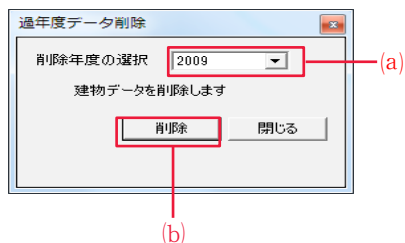
9-3 データ削除

1 概要

不要データをします。

2 手順

(1) 過年度データ削除



Menu [データ管理] - [3. データ削除] - [(1) 過年度データ削除]

- (a) 削除する年度を選択します。
- (b) 指定した年度の建物データを削除します。
建物オブジェクトは残ります。

注意

データベースの容量が大きくなった場合に、過年度のデータを削除し容量を小さくするのに使用します。
但し、前年度データの削除は行ってはいけません。

(2) データ一括削除



Menu [データ管理] - [3. データ削除] - [(2) データ一括削除]

- (a) 削除する市町村を選択します
- (b) 選択した市区町村に関する建物オブジェクト及び関連データを削除します。
- (c) 選択した市区町村に関するオブジェクト及び関連データを全て削除します。

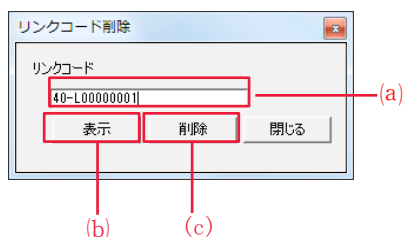
point

データ一括削除機能は、以下のような場合に使用します。

- ・電子地図を入れ替える場合
- ・都道府県のデータを対象自治体データにする場合

※他市の準用データ（騒音データ）は削除されません。

(3) リンクコード削除



Menu [データ管理] - [3. データ削除] - [(3) リンクコード削除]

- (a) リンクコードを入力します。
- (b) 入力されたリンクコードに該当するオブジェクトへ地図移動します。
- (c) 入力されたリンクコードのオブジェクトを削除します。

注意

不要なオブジェクトの削除に使用します。
削除の時は必ず表示ボタンで対象オブジェクトを表示させ、評価に必要なオブジェクトでないことを確認の上、削除してください。なお、「削除したオブジェクトは元に戻せません」ので注意してください。



V その他

1. 用語集

面的評価支援システムで使用する用語について下表に示します。

表1-1 用語集

用語	意味
オブジェクト	面的評価を行うために設定する要素を、形と色で表したものです。
レイヤ	オブジェクトを描画する、仮想的な透明シートで、これを何枚も重ねたり取り替えたりして、画像に要素を追加したり変化を加えたりすることができます。
ユーザーレイヤ	ユーザーが地図上にオブジェクトを描画できるレイヤです。
ショートカットメニュー	クリックした対象物に合わせて、よく使うと思われるコマンドだけを集めたメニューのことです。対象物を選択し、右クリックをすることで表示します。
リンクコード	地図やユーザーレイヤの図形を認識するためのユニークなコードです。
インポート	他のアプリケーションソフトで作成したファイルを読み込み、データを変換して利用できるようにすることです。
エクスポート	他のアプリケーションソフトの形式でファイルを保存することです。

2. エラーメッセージ

以下の表に各オブジェクトごとのエラーメッセージと対応方法を示します。

□ 市区町村

表 2-1 市区町村のエラーメッセージ

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
ER0901	市区町村関係データの shicho_lc に市区町村オブジェクトのリンクコードが設定されていない。(空白)	該当する市区町村のオブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-1
ER0902	市区町村関係データの shicho_lc に登録されている市区町村オブジェクトのリンクコードが不正なコードになっている。	該当する市区町村のオブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-1
ER0903	市区町村関係データの shicho_lc に登録されている市区町村オブジェクトのリンクコードが何らかの理由で削除されている。	該当する市区町村のオブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-1
ER0904	市区町村関係データの shicho_nm_lc に市区町村名称オブジェクトのリンクコードが設定されていない。(空白)	該当する市区町村のオブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-1
ER0905	市区町村関係データの shicho_nm_lc に登録されている市区町村名称オブジェクトのリンクコードが不正なコードになっている。	該当する市区町村のオブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-1
ER0906	市区町村関係データの shicho_nm_lc に登録されている市区町村名称オブジェクトのリンクコードが何らかの理由で削除されている。	該当する市区町村のオブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-1
ER0907	市区町村オブジェクトに関係データ(情報)が登録されていない。	該当する市区町村オブジェクトに情報入力をする。又は不要なオブジェクトなら削除する。	IV-3-1
ER0908	市区町村名称のリンクコードが重複している。	該当する市区町村のオブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-1
ER0909	市区町村名称オブジェクトのリンクコードが重複している。	該当する市区町村のオブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-1
ER0910	対応する市区町村名称オブジェクトが存在しない。	市区町村オブジェクトデータの最適化を実行する。	IV-3-1

□ 路線

表 2-2 路線のエラーメッセージ

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
ER0110	道路交通センサス区間関係データが存在しません。	該当するセンサス区間オブジェクトを削除しデータの最適化を実行後、再設定する。	IV-2-3
ER0111	道路交通センサス区間オブジェクトのリンクコードが重複しています。	該当するセンサス区間オブジェクトを削除しデータの最適化を実行後、再設定する。	IV-2-3
ER0112	道路交通センサス区間番号オブジェクトのリンクコードが重複しています。	該当するセンサス区間オブジェクトを削除しデータの最適化を実行後、再設定する。	IV-2-3
ER0113	登録されている道路平面線形関係データが存在しません。	該当する道路平面線形の情報入力を行う。	IV-2-1
ER0114	sen_lc に道路交通センサス区間オブジェクトのリンクコードが設定されていません。	該当するセンサス区間オブジェクトを削除しデータの最適化を実行後、再設定する。	IV-2-3
ER0115	sen_lc に登録されている道路交通センサス区間オブジェクトのリンクコードが不正です。	該当するセンサス区間オブジェクトを削除しデータの最適化を実行後、再設定する。	IV-2-3
ER0116	sen_lc に登録されている道路交通センサス区間オブジェクトが存在しません。	該当するデータの最適化を実行後、再設定する。	IV-2-3
ER0117	対応する道路交通センサス区間オブジェクトが存在しません。	データの最適化を実行後、該当するセンサス区間オブジェクトを再設定する。	IV-2-3
ER1001	路線関係データの doro_lc に路線オブジェクトのリンクコードが設定されていない。(空白)	該当する道路平面線形オブジェクトを削除して再設定する。	IV-2-1
ER1002	路線関係データの doro_lc に登録されている路線オブジェクトのリンクコードが不正なコードになっている。	該当する道路平面線形オブジェクトを削除して再設定する。	IV-2-1
ER1003	路線関係データの doro_lc に登録されている路線関係オブジェクトのリンクコードが何らかの理由で削除されている。	該当する道路平面線形オブジェクトを削除して再設定する。	IV-2-1

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
ER1004	道路平面線形オブジェクトに関係データ（情報）が登録されていない。	該当する道路平面線形オブジェクトに情報入力をする。又は不要なオブジェクトなら削除する。	IV-2-1
ER1005	道路平面線形オブジェクトのリンクコードが重複している。	該当する道路平面線形オブジェクトを削除して再設定する。	IV-2-1
KA1006	標準断面が作成されていない。（要確認）	標準断面を作成する。	IV-2-2
ER1007	対応する道路平面線形オブジェクトが存在しない。	道路平面線形オブジェクトデータの最適化を実行する。	IV-2-4

□ 評価区間

表2-3 評価区間のエラーメッセージ

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
ER0101	評価区間線形関係データが存在しません。	該当する評価区間線形オブジェクトの情報入力を行う。	IV-3-4
ER0102	評価区間オブジェクトのリンクコードが重複しています。	該当する評価区間線形オブジェクトを削除しデータの最適化を実行後、再設定する。	IV-3-4
ER0103	hyoka_lc に評価区間線形オブジェクトのリンクコードが設定されていません。	該当する評価区間線形オブジェクトを削除しデータの最適化を実行後、再設定する。	IV-3-4
ER0104	hyoka_lc に登録されている評価区間線形オブジェクトのリンクコードが不正です。	該当する評価区間線形オブジェクトを削除しデータの最適化を実行後、再設定する。	IV-3-4
ER0105	hyoka_lc に登録されている評価区間線形オブジェクトが存在しません。	データの最適化を実行後、評価区間線形オブジェクトを再設定する。	IV-3-4
ER0106	対応する評価区間オブジェクトが存在しません。	データの最適化を実行後、評価区間線形オブジェクトを再設定する。	IV-3-4
ER0107	沿道情報データ整理表が存在しません。	評価区間情報を再設定する。	IV-3-4
ER1131	対応する評価区間オブジェクトが存在しません。	データの最適化を実行後、評価区間線形オブジェクトを再設定する。	IV-3-4
ER0201	評価区間関係データの hyoka_lc に評価区間オブジェクトのリンクコードが設定されていない。（空白）	該当する評価区間オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-6
ER0202	評価区間関係データの hyoka_lc に登録されている評価区間オブジェクトのリンクコードが不正なコードになっている。	該当する評価区間オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-6
ER0203	評価区間関係データの hyoka_lc に登録されている評価区間オブジェクトのリンクコードが何らかの理由で削除されている。	該当する評価区間オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-6
ER0204	評価区間関係データの kin_lc に近接空間オブジェクトのリンクコードが設定されていない。（空白）	該当する評価区間の近接空間オブジェクトを設定する。	IV-3-8
ER0205	評価区間関係データの kin_lc に登録されている近接空間オブジェクトのリンクコードが不正なコードになっている。	該当する評価区間の近接空間オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-8
ER0206	評価区間関係データの kin_lc に登録されている近接空間オブジェクトのリンクコードが何らかの理由で削除されている。	該当する評価区間の近接空間オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-8
ER0207	評価区間関係データの k10_lc に距離帯（0～10m）オブジェクトのリンクコードが設定されていない。（空白）	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを設定する。評価区間の形により評価区間にその距離帯が存在しない場合にはそのままとする。	IV-3-7
ER0208	評価区間関係データの k10_lc に登録されている距離帯（0～10m）オブジェクトのリンクコードが不正なコードになっている。	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-7
ER0209	評価区間関係データの k10_lc に登録されている距離帯（0～10m）オブジェクトのリンクコードが何らかの理由で削除されている。	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-7
ER0210	評価区間関係データの k20_lc に距離帯（10～20m）オブジェクトのリンクコードが設定されていない。（空白）	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを設定する。評価区間の形により評価区間にその距離帯が存在しない場合にはそのままとする。	IV-3-7
ER0211	評価区間関係データの k20_lc に登録されている距離帯（10～20m）オブジェクトのリンクコードが不正なコードになっている。	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-7
ER0212	評価区間関係データの k20_lc に登録されている距離帯（10～20m）オブジェクトのリンクコードが何らかの理由で削除されている。	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-7

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
ER0213	評価区間関係データのk30_lcに距離帯（20～30m）オブジェクトのリンクコードが設定されていない。（空白）	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを設定する。評価区間の形により評価区間にその距離帯が存在しない場合にはそのままとする。	IV-3-7
ER0214	評価区間関係データのk30_lcに登録されている距離帯（20～30m）オブジェクトのリンクコードが不正なコードになっている。	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-7
ER0215	評価区間関係データのk30_lcに登録されている距離帯（20～30m）オブジェクトのリンクコードが何らかの理由で削除されている。	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-7
ER0216	評価区間関係データのk40_lcに距離帯（30～40m）オブジェクトのリンクコードが設定されていない。（空白）	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを設定する。評価区間の形により評価区間にその距離帯が存在しない場合にはそのままとする。	IV-3-7
ER0217	評価区間関係データのk40_lcに登録されている距離帯（30～40m）オブジェクトのリンクコードが不正なコードになっている。	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-7
ER0218	評価区間関係データのk40_lcに登録されている距離帯（30～40m）オブジェクトのリンクコードが何らかの理由で削除されている。	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-7
ER0219	評価区間関係データのk50_lcに距離帯（40～50m）オブジェクトのリンクコードが設定されていない。（空白）	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを設定する。評価区間の形により評価区間にその距離帯が存在しない場合にはそのままとする。	IV-3-7
ER0220	評価区間関係データのk50_lcに登録されている距離帯（40～50m）オブジェクトのリンクコードが不正なコードになっている。	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-7
ER0221	評価区間関係データのk50_lcに登録されている距離帯（40～50m）オブジェクトのリンクコードが何らかの理由で削除されている。	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-7
ER0222	評価区間関係データのhyoka_no_lcに評価区間オブジェクトのリンクコードが設定されていない。（空白）	該当する評価区間オブジェクトの情報を再登録する。	IV-3-6
ER0223	評価区間関係データのhyoka_no_lcに登録されている評価区間オブジェクトのリンクコードが不正なコードになっている。	該当する評価区間オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-6
ER0224	評価区間関係データのhyoka_no_lcに登録されているリンクコードの評価区間番号オブジェクトが何らかの理由で削除されている。	該当する評価区間オブジェクトの情報を再登録する。	IV-3-6
ER0225	評価区間関係データのdorotan_lcに道路端オブジェクトのリンクコードが設定されていない。（空白）	該当する評価区間の道路端オブジェクトの情報を入力する。	IV-3-5
ER0226	評価区間関係データのdorotan_lcに登録されている道路端オブジェクトのリンクコードが不正なコードになっている。	該当する評価区間の道路端オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-5
ER0227	評価区間関係データのdorotan_lcに登録されている道路端オブジェクトのリンクコードが何らかの理由で削除されている。	該当する評価区間の道路端オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-5
ER0228	評価区間オブジェクトに関係データ（情報）が登録されていない。	該当する評価区間オブジェクトに情報を入力する。又は不要なオブジェクトなら削除する。	IV-3-6
ER0230	評価区間関係データのセンサ番号と管理区分が一致する道路交通センサ区間関係データが存在しない。	該当する沿道情報データ整理表、評価区間関係データ、道路交通センサ区間関係データをチェックし、道路交通センサオブジェクトを再設定する。	IV-3-6 IV-9-1
ER0231	評価区間関係データのセンサ番号と管理区分が一致する道路交通センサ区間整理表が存在しない。	該当する沿道情報データ整理表、評価区間関係データ、道路交通センサ区間整理表をチェックし、道路交通センサオブジェクトを再設定する。	IV-3-6 IV-9-1
ER0232	評価区間の起点に住所が登録されていない。	該当する道路端オブジェクトの形状と道路端のリンクコードをチェックし、正しければ評価区間の区間延長取得を実行する。正しい状態で計算したのに起点の住所が入らない時には、評価区間の起点の位置に住宅地図の住所データが存在せず、自動では入らないので関係データの起点に直接住所を入力する。	IV-3-5 IV-3-4
ER0233	評価区間の終点に住所が登録されていない。	該当する道路端オブジェクトの形状と道路端のリンクコードをチェックし、正しければ評価区間の区間延長取得を実行する。正しい状態で計算したのに終点の住所が入らない時には、評価区間の終点の位置に住宅地図の住所データが存在せず、自動では入らないので関係データの終点に直接住所を入力する。	IV-3-5 IV-3-4

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
ER0234	評価区間の区間延長が設定されていない。(区間延長が0)	該当の道路端オブジェクトの形状と道路端のリンクコードをチェックし、正しければ区間延長取得を実行する。	IV-3-4
ER0236	評価区間に属している建物(評価区間番号、上下コードが一致する建物関係データ)が存在しない。	該当する評価区間の情報と建物の情報をチェックし、建物オブジェクトを再設定する。	IV-3-6 IV-3-9
ER0237	評価区間の道路種別(環境省報告)が6で車線数が4車線未満なのに評価区間に近接空間が定義されている。	該当する沿道情報データ整理表の道路種別(環境省報告)、車線数をチェックし沿道情報データ整理表の入力ミスであればデータを修正する。データが正しければ近接空間を削除する。	IV-9-1 IV-3-8
ER0238	評価区間の沿道情報データ整理表の車線数に対する近接空間オブジェクトの距離(15m or 20m)を作成ミスしている。	該当する沿道情報データ整理表の車線数をチェックし、車線数が間違えていれば車線数を修正する。車線数が正しければ近接空間オブジェクトの距離を修正する。	IV-9-1 IV-3-8
ER0239	評価区間関係データの kin_lc に登録されている近接空間オブジェクトはこの評価区間内のオブジェクトではない。	該当する評価区間の近接空間オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-8
ER0240	評価区間関係データの k10_lc に登録されている距離帯(0~10m)オブジェクトはこの評価区間内のオブジェクトではない。	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-7
ER0241	評価区間関係データの k20_lc に登録されている距離帯(10~20m)オブジェクトはこの評価区間内のオブジェクトではない。	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-7
ER0242	評価区間関係データの k30_lc に登録されている距離帯(20~30m)オブジェクトはこの評価区間内のオブジェクトではない。	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-7
ER0243	評価区間関係データの k40_lc に登録されている距離帯(30~40m)オブジェクトはこの評価区間内のオブジェクトではない。	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-7
ER0244	評価区間関係データの k50_lc に登録されている距離帯(40~50m)オブジェクトはこの評価区間内のオブジェクトではない。	該当する評価区間の距離帯オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-7
ER0245	評価区間番号のリンクコードが重複している。	該当する評価区間オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-6
ER0246	評価区間関係データの soonb_lc に騒音基準位置オブジェクトのリンクコードが設定されていない。(空白)	該当する評価区間の騒音基準位置オブジェクトを削除して再設定する。	IV-5-1
ER0247	評価区間関係データの soonb_lc に登録されている騒音基準位置オブジェクトのリンクコードが不正なコードになっている。	該当する評価区間の騒音基準位置オブジェクトを削除して再設定する。	IV-5-1
ER0248	評価区間関係データの soonb_lc に登録されているリンクコードの騒音基準位置オブジェクトが何らかの理由で削除されている。	該当する評価区間の騒音基準位置オブジェクトの情報を再登録する。	IV-5-1
ER0249	騒音基準位置オブジェクトのリンクコードが重複している。	該当する評価区間の騒音基準位置オブジェクトの情報を再登録する。	IV-5-1
ER0250	騒音基準位置オブジェクトが設定されていない。	該当する評価区間の騒音基準位置オブジェクトの情報を登録する。	IV-5-1
ER0251	登録されている評価区間線形関係データが存在しない。	該当する道路に面する地域を削除し、再設定する。	IV-3-6
ER0252	道路端情報が正しく設定されていない。	道路端オブジェクトの修正、情報入力を行う。	IV-3-5
ER0253	対応する距離帯オブジェクトが存在しない。	距離帯オブジェクトの最適化を実行する。	IV-3-6
ER0255	対応する建物オブジェクトが存在しない。	建物オブジェクトの最適化を実行する。	IV-3-9
ER0256	対応する道路に面する地域オブジェクトが存在しません。	該当する道路に面する地域オブジェクトを再設定する。	IV-3-6

□ 建物

表2-4 建物のエラーメッセージ

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
ER0401	建物関係データの tate_lc に建物オブジェクトのリンクコードが設定されていない。(空白)	該当する建物オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-9
ER0402	建物関係データの tate_lc に登録されている建物オブジェクトのリンクコードが不正なコードになっている。	該当する建物オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-9
ER0403	建物関係データの tate_lc に登録されている建物オブジェクトのリンクコードが何らかの理由で削除されている。	該当する建物オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-9
ER0404	建物関係データの tate_no_lc に建物オブジェクトのリンクコードが設定されていない。(空白)	該当する建物の情報を再登録する。	IV-3-9
ER0405	建物関係データの tate_no_lc に登録されている建物オブジェクトのリンクコードが不正なコードになっている。	該当する建物オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-9
ER0406	建物関係データの tate_no_lc に登録されているリンクコードの建物番号オブジェクトが何らかの理由で削除されている。	該当する建物の情報を再登録する。	IV-3-9
ER0407	建物が属している評価区間(評価区間番号、上下コードが一致する評価区間関係データ)が存在しない。	該当する建物オブジェクトを削除して再設定する。	IV-3-9
ER0409	建物オブジェクトに関係データ(情報)が登録されていない。	該当する建物オブジェクトに情報入力をする。又は不要なオブジェクトなら削除する。	IV-3-9
ER0410	建物の路線別建物状況整理表(帳票2)のデータが存在しない。	該当する建物の建物属性の把握を実施する。	IV-3-9
ER0411	建物がどの用途地域にも属していない。	該当する建物オブジェクト上に用途地域オブジェクトを作成する。	IV-3-2
ER0412	建物がどの環境基準類型にも属していない。	該当する建物オブジェクト上に環境基準類型オブジェクトを作成する。	IV-3-3

□ 騒音測定地点

表2-5 騒音測定地点のエラーメッセージ

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
ER0501	騒音測定地点関係データの soon_lc に騒音測定地点オブジェクトのリンクコードが設定されていない。(空白)	該当する騒音測定地点オブジェクトを削除して再設定する。	IV-4-1
ER0502	騒音測定地点関係データの soon_lc に登録されている騒音測定地点オブジェクトのリンクコードが不正なコードになっている。	該当する騒音測定地点オブジェクトを削除して再設定する。	IV-4-1
ER0503	騒音関係データの soon_lc に登録されている騒音測定地点オブジェクトのリンクコードが何らかの理由で削除されている。	該当する騒音測定地点オブジェクトを削除して再設定する。	IV-4-1
ER0504	騒音測定地点オブジェクトに関係データ(情報)が登録されていない。	該当する騒音測定地点オブジェクトに情報入力をする。又は不要なオブジェクトなら削除する。	IV-4-1
ER0505	騒音測定地点に対応した騒音測定データ整理表が存在しない。	該当する騒音測定地点の騒音測定データ整理表及び騒音測定地点関係データをチェックし、騒音測定地点オブジェクトを再設定する。	IV-9-1 IV-4-1
ER0506	対応する騒音測定地点オブジェクトが存在しない。	騒音測定地点オブジェクトデータの最適化を実行する。	IV-4-3
ER0507	騒音測定地点オブジェクトのリンクコードが重複している。	該当する騒音測定地点オブジェクトを削除して再設定する。	IV-4-1
ER0508	騒音測定地点番号オブジェクトのリンクコードが重複している。	該当する騒音測定地点オブジェクトを削除して再設定する。	IV-4-1
ER0509	登録されている評価区間線形関係データが存在しない。	該当する騒音測定地点オブジェクトを削除して再設定する。	IV-4-1

□ 都市計画用途地域

表 2-6 都市計画用途地域のエラーメッセージ

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
KA0601	都市計画用途地域オブジェクト同士が重なっている部分がある。(要確認)	オブジェクトを分割・削除等で修正して重ならないようにする。	IV-3-2

□ 環境基準類型指定地域

表 2-7 環境基準類型指定地域のエラーメッセージ

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
KA0701	環境基準類型指定オブジェクト同士が重なっている部分がある。(要確認)	オブジェクトを分割・削除等で修正して重ならないようにする。	IV-3-3

□ 標準断面

表 2-8 標準断面のエラーメッセージ

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
ER0801	断面が作成されていない。	路線、評価区間あるいは騒音測定地点の道路断面を作成する。	IV-2-2 IV-3-4 IV-4-1
ER0802	断面が作成中。	路線、評価区間あるいは騒音測定地点の道路断面を作成する。	IV-2-2 IV-3-4 IV-4-1
ER0803	関連付けされていない路線が存在する。	該当する断面を見直し、路線の関連付けを行う。	IV-2-2 IV-3-4 IV-4-1

□ 沿道情報データ整理表

表 2-9 沿道情報データ整理表のエラーメッセージ

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
ER1101	沿道情報データ整理表の管理区分が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の管理区分を正しい値に修正する。	IV-2-3 IV-2-3 IV-9-1
ER1102	沿道情報データ整理表の主併区分が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の主併区分を正しい値に修正する。	IV-3-4 IV-9-1
ER1103	沿道情報データ整理表の主併区分に 0、1、2 以外が設定されている。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の主併区分を正しい値に修正する。	IV-3-4 IV-9-1
ER1104	沿道情報データ整理表の観測区間種別が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の観測区間種別を正しい値に修正する。	IV-3-4 IV-9-1
ER1105	沿道情報データ整理表の観測区間種別に 0、1、2 以外が設定されている。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の観測区間種別を正しい値に修正する。	IV-3-4 IV-9-1
ER1106	沿道情報データ整理表の 1 2 時間交通量 (昼) が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の 1 2 時間交通量 (昼) を正しい値に修正する。	IV-3-4 IV-9-1
ER1107	沿道情報データ整理表の大型車混入率 (昼) が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の大型車混入率 (昼) を正しい値に修正する。	IV-3-4 IV-9-1
ER1108	沿道情報データ整理表の走行速度 (昼) が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の走行速度 (昼) を正しい値に修正する。	IV-3-4 IV-9-1
ER1109	沿道情報データ整理表の 1 2 時間交通量 (夜) が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の 1 2 時間交通量 (夜) を正しい値に修正する。	IV-3-4 IV-9-1
ER1110	沿道情報データ整理表の大型車混入率 (夜) が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の大型車混入率 (夜) を正しい値に修正する。	IV-3-4 IV-9-1

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
ER1111	沿道情報データ整理表の走行速度（夜）が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の走行速度（夜）を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1112	沿道情報データ整理表の走行条件が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の走行条件を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1113	沿道情報データ整理表の走行条件に0、1、2以外が設定されている。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の走行条件を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1114	沿道情報データ整理表の上り側縦断勾配補正が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の上り側縦断勾配補正を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1115	沿道情報データ整理表の下り側縦断勾配補正が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の下り側縦断勾配補正を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1116	沿道情報データ整理表の評価の実施年度が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の評価の実施年度を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1117	沿道情報データ整理表の騒音発生強度の把握の方法が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の騒音発生強度の把握の方法を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1118	沿道情報データ整理表の騒音発生強度の把握の方法に0、1、2、3以外が設定されている。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の騒音発生強度の把握の方法を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1119	沿道情報データ整理表の上り側基準点騒音レベル確定値（昼間）が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の上り側基準点騒音レベル確定値（昼間）を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1120	沿道情報データ整理表の上り側基準点騒音レベル確定値（夜間）が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の上り側基準点騒音レベル確定値（夜間）を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1121	沿道情報データ整理表の下り側基準点騒音レベル確定値（昼間）が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の下り側基準点騒音レベル確定値（昼間）を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1122	沿道情報データ整理表の下り側基準点騒音レベル確定値（夜間）が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の下り側基準点騒音レベル確定値（夜間）を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1123	沿道情報データ整理表の上り側残留騒音レベル設定値が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の上り側残留騒音レベル設定値を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1124	沿道情報データ整理表の上り側残留騒音レベル設定値に0、1、2以外が設定されている。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の上り側残留騒音レベル設定値を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1125	沿道情報データ整理表の上り側残留騒音レベル（昼間）が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の上り側残留騒音レベル（昼間）を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1126	沿道情報データ整理表の上り側残留騒音レベル（夜間）が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の上り側残留騒音レベル（夜間）を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1127	沿道情報データ整理表の下り側残留騒音レベル設定値が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の下り側残留騒音レベル設定値を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1128	沿道情報データ整理表の下り側残留騒音レベル設定値に0、1、2以外が設定されている。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の下り側残留騒音レベル設定値を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1129	沿道情報データ整理表の下り側残留騒音レベル（昼間）が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の下り側残留騒音レベル（昼間）を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1
ER1130	沿道情報データ整理表の下り側残留騒音レベル（夜間）が設定されていない。	沿道情報データ整理表のデータ管理にて該当の沿道情報データ整理表の下り側残留騒音レベル（夜間）を正しい値に修正する。	Ⅳ-3-4 Ⅳ-9-1

□ 騒音測定データ整理表

表 2-10 騒音測定データ整理表のエラーメッセージ

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
ER1201	騒音測定データ整理表に対して騒音測定地点の地点オブジェクトデータが存在しない。	該当する騒音測定データ整理表と騒音測定地点の関係データをチェックし、騒音測定地点オブジェクトを再設定する。	IV-4-1 IV-9-1
KA1202	騒音測定データ整理表に対して交通量データが存在しない。(要確認)	騒音測定データ整理表のデータ管理にて交通量データがあれば入力する。	IV-4-2 IV-9-1
KA1203	騒音測定データ整理表に対して背後地データが存在しない。(要確認)	騒音測定データ整理表のデータ管理にて背後地データがあれば入力する。	IV-4-2 IV-9-1
ER1204	騒音測定データ整理表の騒音測定箇所番号の値が入力されていない。	騒音測定データ整理表のデータ管理にて騒音測定箇所番号の値を正しい値に修正する。	IV-4-2 IV-9-1
ER1205	騒音測定データ整理表の道路種別(環境省報告)の値が入力されていない。	騒音測定データ整理表のデータ管理にて道路種別(環境省報告)の値を正しい値に修正する。	IV-4-2 IV-9-1
ER1206	騒音測定データ整理表の道路種別(環境省報告)の値が1~6以外になっている。	騒音測定データ整理表のデータ管理にて道路種別(環境省報告)の値を正しい値に修正する。	IV-4-2 IV-9-1
ER1207	騒音測定データ整理表の定点・準定点の値が入力されていない。	騒音測定データ整理表のデータ管理にて定点・準定点の値を正しい値に修正する。	IV-4-2 IV-9-1
ER1208	騒音測定データ整理表の定点・準定点の値が0、1、2、3以外になっている。	騒音測定データ整理表のデータ管理にて定点・準定点の値を正しい値に修正する。	IV-4-2 IV-9-1
ER1209	騒音測定データ整理表のローテーションの値が入力されていない。	騒音測定データ整理表のデータ管理にてローテーションの値を正しい値に修正する。	IV-4-2 IV-9-1
ER1210	騒音測定データ整理表のローテーションの値が1~10またはX以外になっている。	騒音測定データ整理表のデータ管理にてローテーションの値を正しい値に修正する。	IV-4-2 IV-9-1
ER1211	対応する騒音測定地点オブジェクトが存在しない。	騒音測定データ整理表の最適化を実行する。	IV-4-3 IV-6-1
ER1212	対応する騒音測定データ整理表が存在しない。	騒音測定データ整理表の最適化を実行する。	IV-4-3 IV-6-1
ER1213	対応する騒音測定データ整理表が存在しない。	騒音測定データ整理表の最適化を実行する。	IV-4-3 IV-6-1

□ GIS データ

表 2-1-1 GIS データのエラーメッセージ

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
ER1301	評価区間 GIS に存在し、常時監視フォーマットに存在しない。	沿道情報データ整理表にて当該区間の評価対象外フラグを 1 にしてサイド GIS データを作成する。	Ⅳ-8-2 Ⅳ-9-1
ER1302	騒音発生強度の把握方法が設定されていない。	沿道情報データ整理表にて当該区間の騒音発生強度を正しく設定し、常時監視フォーマット以降の作業をおこなう。	Ⅳ-8-2 Ⅳ-9-1
ER1303	騒音発生強度の把握方法について、評価区間 GIS と常時監視フォーマットが一致していない。	再度、常時監視フォーマット以降の作業をおこなう。	Ⅳ-8-1
ER1304	騒音測定年度が設定されていない。	騒音基準位置の騒音測定データ選択で確認し、正しく設定し、基準点推計以降の作業をおこなう。	Ⅳ-4-2 Ⅳ-5-1
ER1305	測定年度について、評価区間 GIS と常時監視フォーマットが一致していない。	再度、常時監視フォーマット以降の作業をおこなう。	Ⅳ-8-1
ER1311	常時監視フォーマットに存在し、評価区間 GIS に存在しない。	再度、常時監視フォーマット以降の作業をおこなう。	Ⅳ-8-1
ER1321	騒音測定地点 GIS に存在し、常時監視フォーマットに存在しない。	当該年度に過年度データを入力したか、過年度の地点を誤って登録しているため、誤った測定データを削除する。	Ⅳ-4-2 Ⅳ-5-1
ER1322	常時監視フォーマットに存在し、騒音測定地点 GIS に存在しない。	再度、常時監視フォーマット以降の作業をおこなう。	Ⅳ-8-1

□ 路線別建物状況整理表

表 2-1-2 路線別建物状況整理表のエラーメッセージ

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
ER2301	路線別建物状況整理表の該当の建物の環境基準類型指定の値が 1～4 以外になっている。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の環境基準類型指定をチェックして修正する。	Ⅳ-3-3 Ⅳ-3-10 Ⅳ-9-1
ER2302	路線別建物状況整理表の該当の建物の建物用途が併設道路側の建物の路線別建物状況整理表の建物用途と一致していない。	両方の建物の路線別建物状況整理表の建物用途をチェックして同じ建物用途になる様に修正する。	Ⅳ-3-10 Ⅳ-3-10 Ⅳ-9-1
ER2303	路線別建物状況整理表の該当の建物の住居戸数が併設道路側の建物の路線別建物状況整理表の住居戸数と一致していない。	両方の建物の路線別建物状況整理表の住居戸数をチェックして同じ住居戸数になる様に修正する。	Ⅳ-3-10 Ⅳ-3-10 Ⅳ-9-1
ER2304	路線別建物状況整理表の該当の建物の建物階数が併設道路側の建物の路線別建物状況整理表の建物階数と一致していない。	両方の建物の路線別建物状況整理表の建物階数をチェックして同じ建物階数になる様に修正する。	Ⅳ-3-10 Ⅳ-9-1
ER2305	路線別建物状況整理表の該当の建物の都市計画用途地域の値が 1～12、14 以外になっている。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の都市計画用途地域をチェックして修正する。	Ⅳ-3-2 Ⅳ-3-10 Ⅳ-9-1
ER2306	路線別建物状況整理表の該当の建物の建物用途が 1、2、3、4、9、11、12 以外になっている。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の建物用途をチェックして修正する。	Ⅳ-3-10 Ⅳ-3-10 Ⅳ-9-1
ER2307	路線別建物状況整理表の該当の建物の建物用途が集合住宅なのに集合フラグが 1 以外になっている。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の建物用途と集合フラグをチェックして修正する。	Ⅳ-3-10 Ⅳ-3-10 Ⅳ-9-1
ER2308	路線別建物状況整理表の該当の建物の建物用途が集合住宅以外なのに集合フラグが 1 になっている。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の建物用途と集合フラグをチェックして修正する。	Ⅳ-3-10 Ⅳ-3-10 Ⅳ-9-1
ER2309	路線別建物状況整理表の該当の建物の建物階数が空白になっている。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の建物階数を修正する。	Ⅳ-3-10 Ⅳ-3-10 Ⅳ-9-1
ER2310	路線別建物状況整理表の該当の建物の建物階数に 0 以下が入力されている。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の建物階数を修正する。	Ⅳ-3-10 Ⅳ-9-1
ER2311	路線別建物状況整理表の該当の建物の建物用途が独立住宅、併用住宅、学校・病院等なのに建物戸数に 1 以外が入力されている。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の建物用途と住居戸数をチェックして修正する。	Ⅳ-3-10 Ⅳ-3-10 Ⅳ-9-1
ER2312	路線別建物状況整理表の該当の建物の建物用途が非住居系なのに建物戸数が入力されている。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の建物用途と住居戸数をチェックして修正する。	Ⅳ-3-10 Ⅳ-3-10 Ⅳ-9-1

エラーコード	エラーの原因と現象	対応方法	修正参照項目
ER2313	路線別建物状況整理表の該当の建物の距離帯が近接空間と定義されているのに非近接空間の住居戸数に値が入っている。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の該当距離帯の近接空間フラグ、近接空間の住居戸数、非近接空間の住居戸数をチェックし修正する。	IV-3-10 IV-9-1
ER2314	路線別建物状況整理表の該当の建物の距離帯の住居戸数と近接空間の住居戸数が一致していない。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の該当距離帯の住居戸数、近接空間の住居戸数、非近接空間の住居戸数をチェックし修正する。	IV-3-10 IV-9-1
ER2315	路線別建物状況整理表の該当の建物の距離帯が非近接空間と定義されているのに近接空間の住居戸数に値が入っている。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の該当距離帯の近接空間フラグ、近接空間の住居戸数、非近接空間の住居戸数をチェックし修正する。	IV-3-10 IV-9-1
ER2316	路線別建物状況整理表の該当の建物の距離帯の住居戸数と非近接空間の住居戸数が一致していない。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の該当距離帯の住居戸数、近接空間の住居戸数、非近接空間の住居戸数をチェックし修正する。	IV-3-10 IV-9-1
ER2317	対応する建物オブジェクトが存在しない。	路線別建物状況整理表の最適化を実行する。	IV-3-10 IV-6-1
ER2318	路線別建物状況整理表と路線別建物状況整理表(詳細)の戸数が一致していない。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の階数別個数をチェックし修正する。	IV-3-10 IV-9-1
ER2319	路線別建物状況整理表の建物用途が交差道路に登録されている建物用途と一致していない。	該当する建物の情報を再登録する。また、路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の建物用途をチェックし修正する。	IV-3-10 IV-3-10 IV-9-1
ER2320	路線別建物状況整理表の建物階数が交差道路に登録されている建物階数と一致していない。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の階数をチェックし修正する。	IV-3-10 IV-9-1
ER2321	路線別建物状況整理表の用途地域が交差道路に登録されている用途地域と一致していない。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の用途地域をチェックし修正する。	IV-3-10 IV-9-1
ER2322	路線別建物状況整理表の地域類型が交差道路に登録されている地域類型と一致していない。	路線別建物状況整理表のデータ管理でその建物の地域類型をチェックし修正する。	IV-3-10 IV-9-1

備考

リンクコードを表示する場合は、メニューの各オブジェクト作成にて、該当のオブジェクトを選択し、右クリックによるショートカットメニューの「リンクコード表示」を選択します。

関係データを表示する場合は、メニューの各情報入力にて、該当のオブジェクト上にカーソルを置き、右クリックによるショートカットメニューの「関係データ表示」を選択します。

3. 建物振り分けキーワード

以下の表に建物用途自動設定のための、建物振り分けキーワードの一例を示します。

注 意

ここに示したキーワードは一例であり、必ずしも実際の建物用途と一致するとは限りません。

住居（集合）

1	アパート	2	コーポ	3	ハイツ	4	パレス
5	マンション	6	メゾン	7	寮	8	レジデンス
9	社宅	10	宿舍	11	荘	12	団地
13	棟						

住居（店舗併用）

1	駐在所						
---	-----	--	--	--	--	--	--

学校

1	小学校	2	中学校	3	高等学校	4	中等教育学校
5	大学	6	高等専門学校	7	盲学校	8	聾学校
9	養護学校	10	幼稚園				

病院

1	クリニック	2	医院	3	外科	4	眼科
5	産婦人科	6	歯科	7	小児科	8	内科
9	皮膚科	10	診療所	11	整骨院	12	接骨院
13	病院	14	老人ホーム				

工事場・事務所

1	(株)	2	(財)	3	(社)	4	(有)
5	営業所	6	株式会社	7	有限会社	8	公社
9	工場	10	財団法人	11	支社	12	支店
13	支部	14	事務局	15	事務所	16	社団法人
17	組合						

その他（非住居）

1	ガレージ	2	クリーニング	3	ショップ	4	スーパー
5	ストア	6	センター	7	ソーコ	8	ビル
9	ホール	10	ホテル	11	マート	12	マッサージ
13	ラーメン	14	稲荷	15	駅	16	会館
17	格納庫	18	観測所	19	鑑別所	20	給油所
21	教会	22	銀行	23	区役所	24	刑務所
25	警察	26	研修所	27	交換局	28	交番
29	公会堂	30	公民館	31	裁判所	32	市役所
33	指圧	34	児童館	35	旅館	36	自動車学校
37	社務所	38	車庫	39	集会施設	40	集会所
41	塾	42	出張所	43	消防署	44	神宮
45	神社	46	理容院	47	車庫	48	体育館
49	大使館	50	託児所	51	駐車場	52	庁
53	天満宮	54	天満社	55	店	56	郵便局
57	美容院	58	美容室	59	分団		

4. センサスの切り替え方法

以下に、旧年度センサスから新年度センサスへの切り替え方法を示します。

なお、ここでは例としてH22年度センサスからH27年度の交通センサスへの更新を示します。

(1) センサス番号の変更等の確認

H22年度センサスからH27年度の交通センサスへの更新時に、以下の項目を確認します。センサス番号等の確認は①～③の方法を用いて調べる事ができます。

<確認項目>

- ・センサス番号の変更の確認
- ・始点、終点位置の確認
- ・延長の確認

①センサス番号の変更の確認

面的評価支援システムにインポートするセンサスデータから、H22年度センサスに対応するH27センサス番号を確認します。

	C	D	E	F	G	H	I	J	AX	AY	AZ	BA	BB	BC	BD	BE	BF	BG	BH
	道路種別	路線番号	路線名	観測地点市区町村名	調査単位区間番号	都道府県市区町村	管理区分	施設区間	調査年度	前年度調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度	調査年度
1																			
2	1	1810	上津船白丸栗野南越	栗野南越	280	20201	4	0	19	190	27366	36312	0	0	0	0	0	0	0
3	1	1810	上津船白丸栗野南田	栗野南田	290	20201	4	0	21.2	200	18294	24971	0	0	0	0	0	0	0
4	1	1820	栗野南越中道分岐	栗野南越	530	20201	4	0	24.8	330	19058	27700	0	0	0	0	0	0	0
5	3	18	一般国道1号栗野南越	栗野南越	10100	20201	1	0	12.2	10000	36043	50100	0	0	0	0	0	0	0
6	3	18	一般国道1号栗野南越	栗野南越	10110	20201	1	0	11.5	10100	38678	52869	0	0	0	0	0	0	0
7	3	18	一般国道1号栗野南越	栗野南越	10120	20201	1	0	9.5	10110	46987	62493	0	0	0	0	0	0	0
8	3	18	一般国道1号栗野南越	栗野南越	10130	20201	1	0	8.8	10120	17677	24217	0	0	0	0	0	0	0
9	3	18	一般国道1号栗野南越	栗野南越	10140	20201	1	0	9.1	10130	17506	25769	0	0	0	0	0	0	0
10	3	18	一般国道1号栗野南越	栗野南越	10150	20201	1	0	9.7	10140	19664	27020	0	0	0	0	0	0	0
11	3	18	一般国道1号栗野南越	栗野南越	10160	20201	1	0	17.5	10150	18411	25581	0	0	0	0	0	0	0
12	3	18	一般国道1号栗野南越	栗野南越	10170	20201	1	0	14.4	10160	12978	18039	0	0	0	0	0	0	0
13	3	18	一般国道1号栗野南越	栗野南越	10180	20201	1	0	17	10170	6161	8021	0	0	0	0	0	0	0
14	3	19	一般国道1号栗野南越	栗野南越	11160	20201	1	0	22.8	10440	3427	4506	0	0	0	0	0	0	0
15	3	19	一般国道1号栗野南越	栗野南越	11170	20201	1	0	15.6	10450	6627	8981	0	0	0	0	0	0	0
16	3	19	一般国道1号栗野南越	栗野南越	11180	20201	1	0	15.6	10460	7962	10037	0	0	0	0	0	0	0
17	3	19	一般国道1号栗野南越	栗野南越	11190	20201	1	0	13.7	10470	13753	18016	0	0	0	0	0	0	0
18	3	19	一般国道1号栗野南越	栗野南越	11200	20201	1	0	13	10480	16275	22460	0	0	0	0	0	0	0

(a) G列：調査単位区間番号

H27年度センサス番号を表します。

(b) AY列：前年度調査単位区間番号

H22年度センサス番号を表します。

② センサス番号の変更の確認および起点、終点の確認

H27 年度センサスの起点、終点の確認は、「全国道路・街路交通情勢調査」の「箇所別基本表」より確認ができます。また、H22 年度センサスに対応する H27 センサス番号も確認できます。

The screenshot shows a spreadsheet with multiple columns. Three red arrows labeled (a), (b), and (c) point to specific columns. Column (a) is the 'Start/End' column, column (b) is the 'H27 Survey Unit Interval Number' column, and column (c) is the 'H22 Survey Unit Interval Number' column.

- (a) G-P 列：起点側、終点側
起点側と終点側の接続する路線名等が記載されています。
- (b) AD 列：平成 27 年度調査単位区間番号
H27 年度センサス番号を表します。
- (c) AV 列：平成 22 年度調査単位区間番号
H22 年度センサス番号を表します。

備考

「全国道路・街路交通情勢調査」の「箇所別基本表」は下記の URL より、入手できます。

H22 年度センサス
<https://www.mlit.go.jp/road/census/h22-1/>

H27 年度センサス
<https://www.mlit.go.jp/road/census/h27/>

③ 視覚的な方法によるセンサス番号の変更の確認

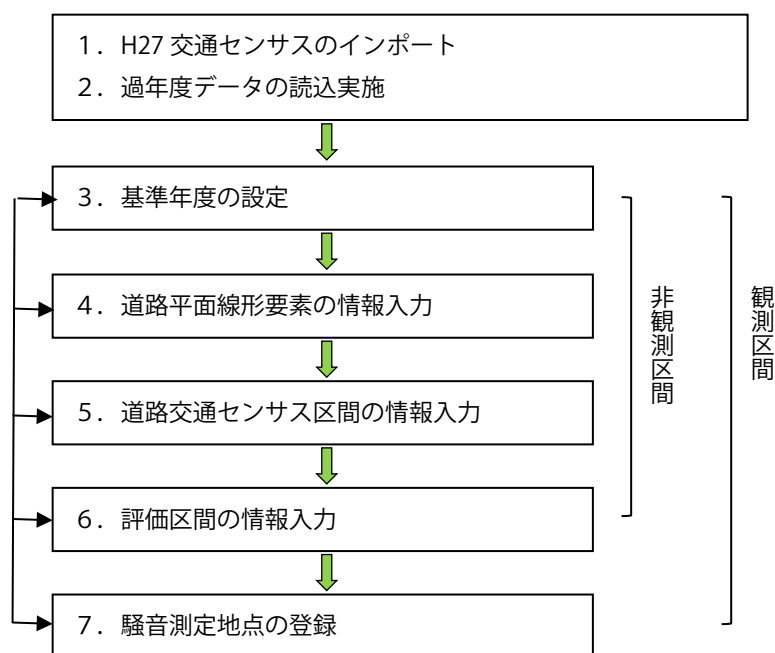
- H27 年度センサス附図（区間図）を入手し、視覚的に確認することが可能です。
附図の入手は、都道府県の土木関係部署等が作成しています。
- 「平成 27 年度道路交通センサス 一般交通量調査 DVD-ROM※」でも同様な情報が得られます。
※有償になります。

(2) システム操作

H27 年度センサスへの切替は、入力されている「全ての評価区間を更新する方法」と、「※当該年度のみ更新する方法」とがあります。

□ 操作フロー

下記のフローに従って、H27 年度センサスへの切替操作を行います。非観測区間は 1～6、観測区間は 1～7 の操作を行います。



注 意

※「当該年度のみ更新する方法」の場合、出力結果の表示について、注意が必要です。

更新前	更新後
2010 ●●●-1	2015 ○○○-1

更新した区間の出力の年度は **2010**→**2015**、番号は **●●●**→**○○○**に変わります。しかし、更新しない区間の番号は H22 年度センサスのままの番号ですが、年度は全て **2015** で出力されます。

平成 27 年度センサスを使用の場合は **2015** になります。

① H27 交通センサスのインポート

センサスデータのインポートは、操作マニュアル「IV-9-1 (2) 道路交通センサスデータ管理表」を参照してください。

② 過年度データの読込実施

過年度データの読込は、操作マニュアル「I-7 面的評価支援システムの動作環境設定」を参照してください。

③ 基準年度の設定

基準年度の設定は、観測区間と非観測区間とで異なります。システムの基本操作は操作マニュアルを参照してください。

基準年度

現在の処理対象

評価基準年度 2023 年度 [選択]

道路交通センサス調査年度 2015 年度 [詳細設定]

騒音データ測定年度 2023 年度

基準年度-新規

評価基準	道路交通センサス
2017	2015
2018	2015
2019	2015
2020	2015
2021	2015
2022	2015
2023	2015
米	

評価基準年度 [] 年度

道路交通センサス調査年度 [] 年度

騒音データ測定年度 [] 年度

[登録] [キャンセル]

[新規] [修正] [削除] [閉じる]

【2023 年度業務の場合】

■観測区間

- 1) 評価基準年度：騒音調査の実施年度
(昨年度の環境省報告様式 2-1 を参照する)
- 2) 道路交通センサス調査年度：2015 (H27 道路交通センサス)
- 3) 騒音データ測定年度：騒音調査の実施年度
(上記 1) と同じ年度)

基準年度

現在の処理対象

評価基準年度 2023 年度 [選択]

道路交通センサス調査年度 2015 年度 [詳細設定]

騒音データ測定年度 2023 年度

評価基準	道路交通センサス調査	騒音データ
2017	2015	2017
2018	2015	2018
2019	2015	2019
2020	2015	2020
2021	2015	2021
2022	2015	2022
2023	2015	2023
米		

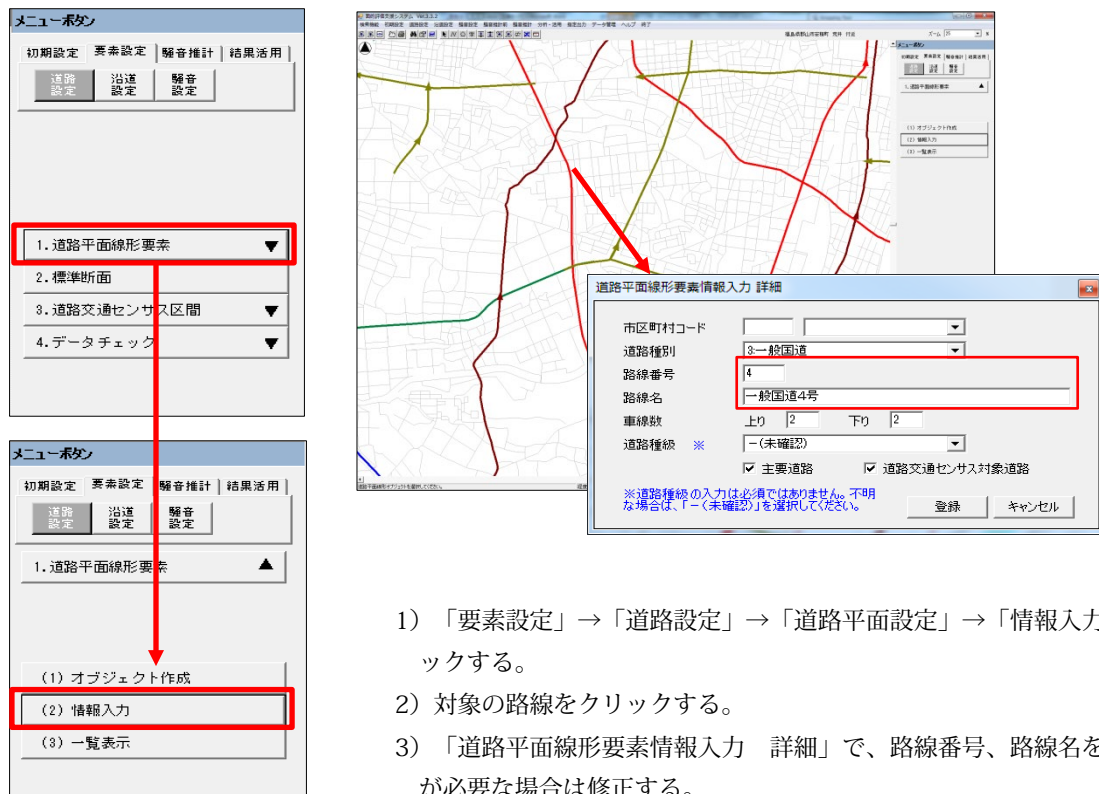
[新規] [修正] [削除] [閉じる]

■非観測区間

- (昨年度の環境省報告様式 1-1 騒音発生強度の把握を参照する)
- 1) 評価基準年度：2023
 - 2) 道路交通センサス調査年度：2015
 - 3) 騒音データ測定年度：2023

④ 道路平面線形要素の情報入力

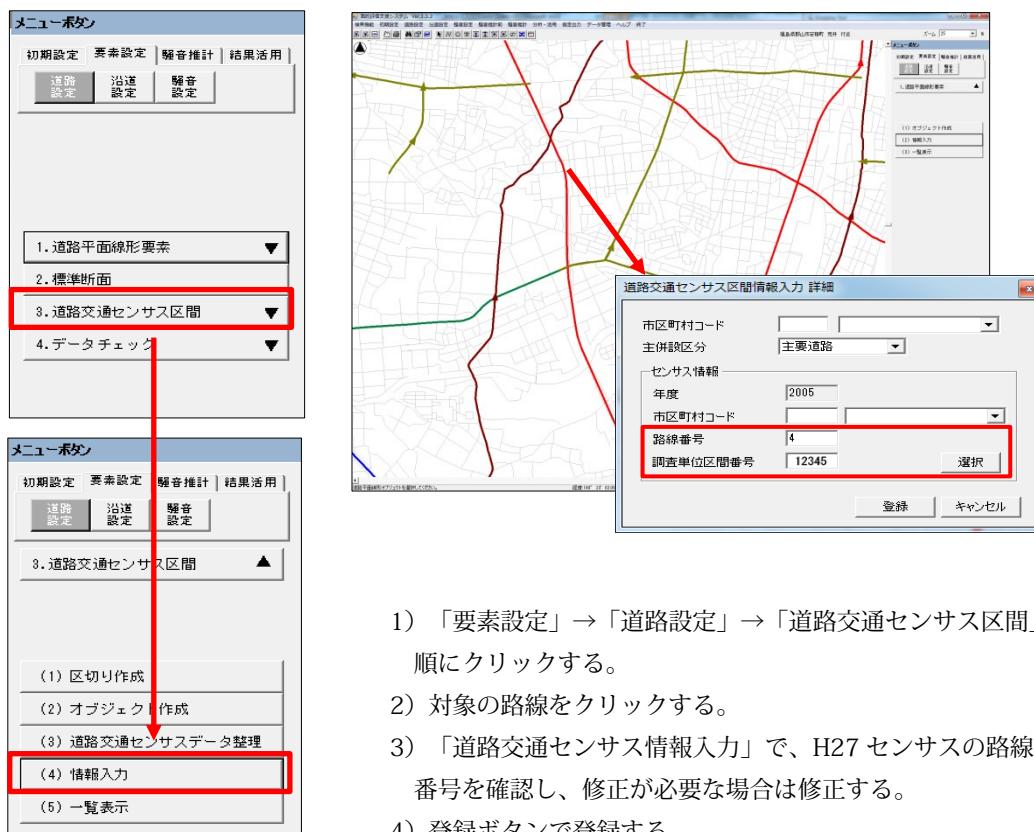
道路平面線形の情報入力を行います。システムの基本操作は操作マニュアルを参照してください。



- 1) 「要素設定」→「道路設定」→「道路平面設定」→「情報入力」を順にクリックする。
- 2) 対象の路線をクリックする。
- 3) 「道路平面線形要素情報入力 詳細」で、路線番号、路線名を確認し、修正が必要な場合は修正する。
- 4) 登録ボタンで登録する。

⑤ 道路交通センサス区間の情報入力

道路交通センサス区間の情報入力を行います。システムの基本操作は操作マニュアルを参照してください。



- 1) 「要素設定」→「道路設定」→「道路交通センサス区間」→「情報入力」を順にクリックする。
- 2) 対象の路線をクリックする。
- 3) 「道路交通センサス情報入力」で、H27 センサスの路線番号、調査単位区間番号を確認し、修正が必要な場合は修正する。
- 4) 登録ボタンで登録する。

⑥ 評価区間の情報入力

評価区間の情報入力を行います。システムの基本操作は操作マニュアルを参照してください。

1) 「要素設定」→「沿道設定」→「評価区間」→「情報入力」を順にクリックする。

2) 対象の路線をクリックする。

3) 「評価区間情報入力 詳細」で、H27 センサスの路線番号、評価単位区間番号を確認し、修正が必要な場合は修正する。

4) 登録ボタンで登録する。

⑦ 騒音測定地点の登録

騒音測定地点の登録を行います。システムの基本操作は操作マニュアルを参照してください。

1) 「要素設定」→「騒音設定」→「騒音測定地点」→「騒音測定地点」を順にクリックする。

2) 対象の地点をクリックする。

3) 「騒音測定地点」で、H27 センサスの路線確認し、修正が必要な場合は修正する。（下段は選択により修正）

4) 登録ボタンで登録する。

5. パソコンの入れ替え時の注意点

パソコンの入れ替えに伴う注意点を示します。

1. 旧パソコンから移動・保存しておくデータ類

①使用されていた面的評価支援システム用データ

MENTEKI_DATA フォルダ一式 (dorodb.mdb、UlayerR4dotNet.MDB)

②地図データ

map_data フォルダ一式 (地図データ)

③環境省よりダウンロードしたソフトウェア

面的評価支援システム、GIS エンジン (ActiveMap for .NET)、数値地図 25000 (空間データ基盤)

以上が、必要データ・ソフトウェアです。

注 意

必ず使用していた面的評価支援システム用データは、別途移動保管を行ってください。消失した場合は、過年度データがすべてなくなります。

2. 新パソコンでのセットアップ

マニュアルに沿って、ソフトのセットアップを行います。

① GIS エンジン (ActiveMap for .NET)

② 地図データ (map_data)

③ 面的評価支援システム

以上のソフトのセットアップが終わりましたら、保存していた MENTEKI_DATA フォルダごとパソコンのユーザ権限がある場所にコピーしてください。

上記の作業が終了したら、面的評価支援システムの動作環境設定でキャッシュ作成後、支援システムを立ち上げ、正常に作動していることを確認してください。

これで、移動・データ引継ぎは終了です。

備 考

地図データのインストールは、マニュアルの「1. セットアップ」を参照してください。

備 考

各地方公共団体は、面的評価支援システム、数値地図 25000 (空間データ基盤) および GIS エンジンの使用にあたっては、「政府共通NW/LGWA N 掲示板システム」内、「自動車騒音常時監視支援フォーラム」より申請書をダウンロードし、申請して下さい。

地方公共団体以外で使用される方は、下記 URL より申請書をダウンロードして、申請してください。

「https://www.env.go.jp/air/car/noise/const_mon/system.html」

注 意

既存データを同一 PC 内で当初と別の場所に保存した場合でも、システムデータのバージョンが違えば、システムデータのバージョンアップを行ってください。

6. システムのバージョンアップの方法

面的評価支援システムのバージョンアップの方法を示します。

□ 操作フロー

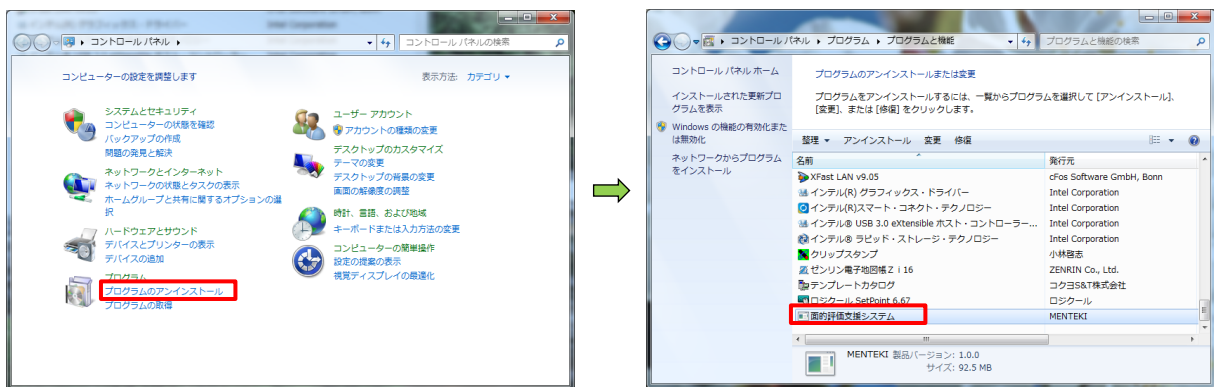
下記のフローに従って、新しい面的評価支援システムへバージョンアップを行います。

1. 古い面的評価支援システムのアンインストール



2. 新しい面的評価支援システムのインストール

1. 「コントロールパネル」→「プログラムのアンインストール」の順にクリックし、「面的評価支援システム」を選択しアンインストールを行う。



2. 新しいバージョンの面的評価支援システム※1のインストールは、操作マニュアル「Ⅱ-1-4 面的評価支援システムのセットアップ」を参照して下さい。
3. 既存データ※2の取り扱い

新しいシステムを使用するにあたり、システムデータのバージョンアップが必要になることが有ります。システムデータのバージョンとシステムデータのバージョンについては、下記 URL で関係を確認してください。

「https://www.env.go.jp/air/car/noise/const_mon/system_upgrade.html」

システムデータのバージョンが違う場合は、システムデータのバージョンアップを行ってください。

備考

※1 各地方公共団体は、面的評価支援システム、数値地図 25000（空間データ基盤）および GIS エンジンの使用にあたっては、「政府共通NW/LGWAN掲示板システム」内、「自動車騒音常時監視支援フォーラム」より申請書をダウンロードし、申請して下さい。地方公共団体以外で使用者の方は、下記 URL より申請書をダウンロードして、申請してください。

「https://www.env.go.jp/air/car/noise/const_mon/system.html」

注意

※2 既存データを同一 PC 内で当初と別の場所に保存した場合でも、システムデータのバージョンが違う場合は、システムデータのバージョンアップを行ってください。